

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第260集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡ⅩⅩⅡ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡第22次発掘調査報告書

2019.3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第260集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡ⅩⅩⅡ

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡第22次発掘調査報告書

2019.3

佐久市教育委員会

例 言

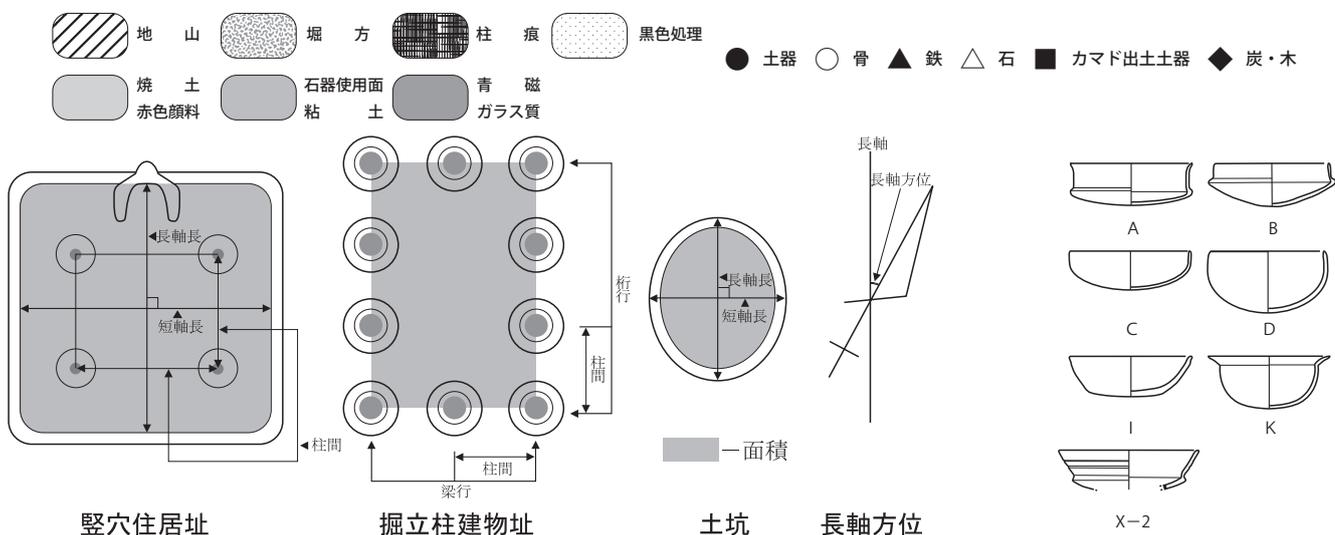
- 1 本書は佐久市が行う平成29年度都市公園整備事業（仮称）一本柳公園整備工事に伴う発掘調査報告書である。
- 2 調査原因者 佐久市（公園緑地課）
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 調査地点 佐久市岩村田字中一本柳2275-1番地外
- 5 遺跡名および期間と面積

遺跡名	西一本柳遺跡XXII
期 間	平成29年7月6日～平成31年3月31日
面 積	1,525㎡
- 6 調査担当者 小林真寿
- 7 本遺跡の委託業務は以下のとおりである。

基準点測量・設定	細萱知敬事務所
重機賃貸借業務	ミヤモリ株式会社サクスイ
仮設建物賃貸借業務	株式会社アクティオ佐久平営業所
- 8 本書に掲載した出土遺物については佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略記号は竪穴住居址-H、掘立柱建物址-F、土坑-D、竪穴建物址-Ta、古墳・周溝墓-OT、溝址-M、ピット-Pである。
- 2 挿図の縮尺は遺構 1/80、遺物は土器・石器 1/4、金属製品 1/2 を基本とする。それ以外のものは挿図中にスケールを記載した。
- 3 遺構の海拔標高は遺構毎に統一し、水系標高をスケール上に「標高」として記した。
- 4 土層の色調は1999年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
- 5 遺物挿図番号、遺物写真番号、遺物観察表番号は一致する。()は推定値、<>は残存値である。
- 6 測量座標は世界測地系を用い、調査区グリッドは公共座標の区割りに従い、間隔は4×4mに設定した。
- 7 遺構の計測値は図に示した部分の値である。
- 8 遺構計測表中の()は推定値、<>は残存値である。単位はmと㎡であり、その他は表中に記載した。
- 9 遺構深度は数値の範囲を示しているもの以外は最大値である。
- 10 住居址の形態は長軸長と短軸長の差が1割を超えたものを長方形とした。
- 11 住居址の軸は長軸長より計測し、正方形の場合はカマド側を長軸とする。



12 挿図中における網掛けは図のとおりである。

13 土師器坏は西山克己の分類に準拠している。形態・呼称は図のとおりである。

(1995年 シナノ(科野)の6世紀から7世紀代の土器様相—現時点の概略として— 東国土器研究 第4号の分類図を筆者が模式図化)

目 次

例言	
凡例	
目次	
第I章 発掘調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査日誌	2
第II章 遺跡の立地と環境	2
第1節 自然的環境	2
第2節 歴史的環境	4
第III章 調査の方法	4
第1節 調査の方法	4
第2節 基本層序	5
第3節 検出遺構・遺物の概要	5
第IV章 遺構と遺物	7
第1節 住居址	7
第2節 掘立柱建物址	36
第3節 古墳及び周溝墓	38
第4節 溝址	48
第5節 土坑	61
第6節 ピット	61
第7節 遺構外出土遺物	61
第V章 まとめ	69
第1節 弥生時代の環濠について	69
第2節 人形土器について	70
第3節 仮称「一本柳型壺」の提唱	71
第4節 頸部「T字文」施文甕について	72
第5節 石製模造品工房址について	72
写真図版	
報告書抄録	
奥付	

挿図目次

第1図	西一本柳遺跡X X IIの位置図	1	第38図	H 19号住居址(1)	41
第2図	周辺遺跡分布図	3	第39図	H 19号住居址(2)	42
第3図	基本層序模式図	5	第40図	H 19号住居址(3)	43
第4図	西一本柳遺跡X X IIグリット配置図	6	第41図	H 19号住居址(4)	44
第5図	H 1号住居址(1)	8	第42図	掘立柱建物址	45
第6図	H 1号住居址(2)	9	第43図	古墳(OT 1)(1)	46
第7図	H 2号住居址(1)	10	第44図	古墳(OT 1)(2)	47
第8図	H 2号住居址(2)	11	第45図	OT 2円形周溝墓	48
第9図	H 3号住居址	12	第46図	OT 3円形周溝墓	49
第10図	H 4号住居址(1)	13	第47図	OT 4円形周溝墓	50
第11図	H 4号住居址(2)	14	第48図	OT 5円形周溝墓	50
第12図	H 4号住居址(3)	15	第49図	M 1号溝址(1)	51
第13図	H 5号住居址	15	第50図	M 1号溝址(2)	52
第14図	H 6号住居址	16	第51図	M 2・4・8・10・11号溝址	53
第15図	H 7号住居址(1)	18	第52図	M 3号溝址	54
第16図	H 7号住居址(2)	19	第53図	M 5号溝址(1)	55
第17図	H 8号住居址(1)	20	第54図	M 5号溝址(2)	56
第18図	H 8号住居址(2)	21	第55図	M 6・7号溝址(1)	57
第19図	H 9号住居址(1)	22	第56図	M 6・7号溝址(2)	58
第20図	H 9号住居址(2)	23	第57図	M 9号溝址(1)	59
第21図	H 10号住居址(1)	24	第58図	M 9号溝址(2)	60
第22図	H 10号住居址(2)	25	第59図	土坑(1)	62
第23図	H 11号住居址(1)	26	第60図	土坑(2)	63
第24図	H 11号住居址(2)	27	第61図	土坑(3)	64
第25図	H 11号住居址(3)	28	第62図	ピット出土遺物	64
第26図	H 12号住居址(1)	29	第63図	ピット(1)	65
第27図	H 12号住居址(2)	30	第64図	ピット(2)	66
第28図	H 13号住居址	30	第65図	ピット(3)	67
第29図	H 14号住居址	31	第66図	ピット(4)	68
第30図	H 15号住居址(1)	32	第67図	遺構外出土遺物	69
第31図	H 15号住居址(2)	33	第68図	西一本柳遺跡周辺集落の様相	70
第32図	H 15号住居址(3)	34	第69図	北・東・西一本柳遺跡、西八日町遺跡、下信濃石遺跡出土人形土器	73
第33図	H 15号住居址(4)	35	第70図	仮称「一本柳型壺」集成図(1)	74
第34図	H 16号住居址(1)	37	第71図	仮称「一本柳型壺」集成図(2)	75
第35図	H 16号住居址(2)	38	第72図	西一本柳遺跡X IV・北一本柳遺跡III出土の頸部「T字文」施文壺	76
第36図	H 17号住居址	39	第73図	西一本柳遺跡X X II全体図	77
第37図	H 18号住居址	40			



H4号住居址から出土した壺の中には、満杯のベンガラが貯蔵されていた。

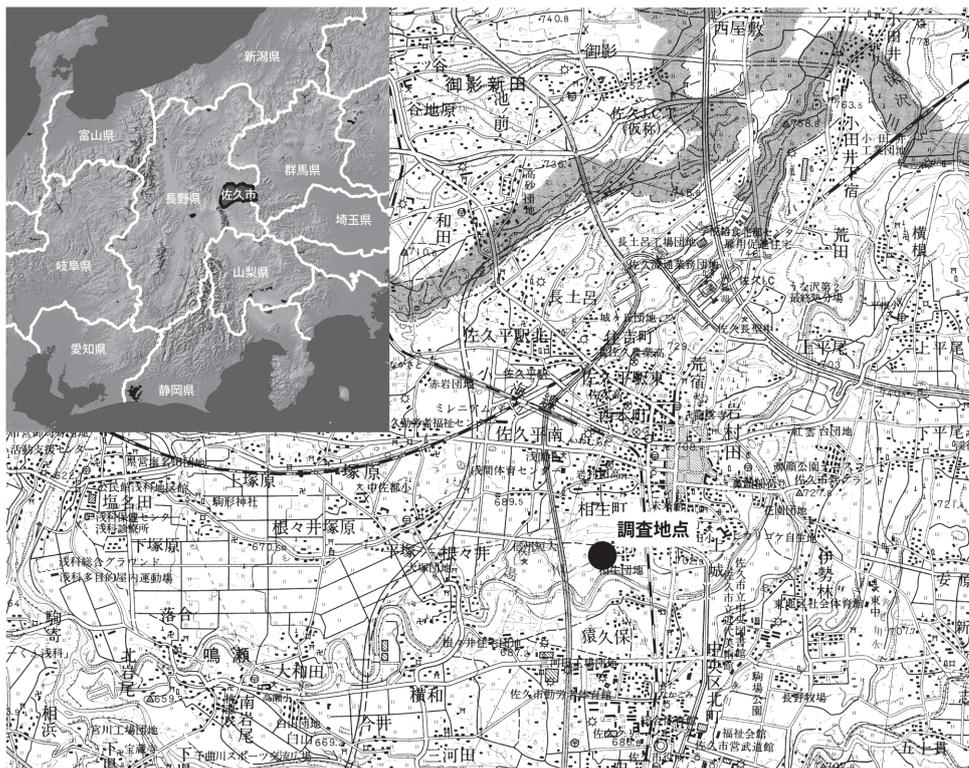
第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 調査に至る経緯

平成 29 年 3 月 13 日、佐久市公園緑地課より「平成 29 年度 都市公園整備事業（仮称）一本柳公園整備工事」に伴う文化財保護法第 94 条が佐久市教育委員会に通知された。開発予定地の周辺では、過去に多くの調査が実施されており、遺跡の存在が確認される場所であったため、試掘調査の必要はないと判断し、同年 3 月 16 日佐久市教育委員会は遺跡が破壊される部分について本調査を実施する旨の副申を長野県教育委員会に届出した。同年 3 月 24 日長野県教育委員会は記録保存を目的とする発掘調査を実施するよう佐久市教育委員会に通知した。これを受け、佐久市教育委員会は公園緑地課と協議を実施し発掘調査範囲の確定等を行い、7 月 6 日より発掘調査を開始した。

第 2 節 調査体制

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	榎澤晴樹
事務局	社会教育部 文化振興課	部 長	荻原幸一（平成 29 年度）青木 源（平成 30 年度）
	文化財調査係	課 長	小林義夫
		企 画 幹	小林登志朗（平成 29 年度）武者新一（平成 30 年度）
		係 長	大塚広樹（平成 29 年 9 月まで） 塩川宏幸（平成 29 年 10 月から）
		係	小林真寿 富沢一明 上原 学 久保浩一郎 岩下 琴（平成 30 年 6 月まで） 荻原義治（平成 30 年 7 月から）
		臨時職員	森泉かよ子
		調査担当者	小林真寿
		調査員	岩松茂年 大矢志穂 加藤ひろ美 小林喜久子 小林節子 堺 益子 里見理生 澤井智春



第 1 図 西一本柳遺跡 X X II の位置図 (1/50,000)

清水律子 田中ひさ子 羽毛田利明 花岡美津子
 細谷秀子 堀籠滋子 本田慶二 宮川真紀子
 柳沢孝子 柳澤千賀子 山口ひとみ 山田叔正
 油井満芳 依田三男

第3節 調査日誌

平成28年度

3月13日 佐久市(公園緑地課)より土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知。(文化財保護法94条第1項)
 3月16日 長野県教育委員会に副申。
 3月24日 長野県教育委員会より通知。

平成29年度

6月23日 仮設建物賃貸借業務契約(履行期間7月3日～9月29日)
 6月30日 基準点基準線設定業務契約(履行期間6月30日～9月29日)
 重機賃貸借業務契約(履行期間6月30日～9月29日)
 7月6日 仮設建物設置、重機による表土除去開始。(第1回掘削範囲)平行して遺構検出作業を開始。
 7月7日 重機による表土除去終了。
 7月11日 基準点基準線設定。(第1回掘削範囲)
 7月13日 遺構掘り下げに着手。
 7月18日 調査員を増員する。
 8月28日 第1回掘削範囲調査終了。
 第2回目の掘削範囲の表土除去開始。調査済み部分の一部を埋戻し駐車場等を整備する。
 8月29日 重機による表土除去終了。
 8月31日 基準点基準線設定。(第2回掘削範囲)
 9月29日 現場作業を終了し、室内作業に移行する。
 10月2日 佐久警察署長に埋蔵文化財の発見の届出。
 長野県教育委員会に発掘調査終了の報告。

平成30年度

3月31日 報告書を刊行し全ての作業を終了する。

第II章 遺跡の立地と環境

第1節 自然的環境

千曲川上流域の東西幅約6km、長さ約15kmの南北に長い菱形の平野部が佐久平であり、標高は660～740mを測る。行政区分的にはほぼ佐久市に属する。地形地質の成因的には二大別され、旧佐久市の中心部を東西に流れる滑津川を境に著しい差異が認められる。滑津川以南の佐久平は千曲川流域沖積層地帯で標高680m内外の平坦地で、千曲川とその支流の用水を活用した水田地帯である。滑津川以北は千曲川右岸にあたり、北部県境にそびえている浅間火山の堆積物分布地帯で標高700m内外と以南に比べ一段高台をなしている。浅間火山はわが国の火山としては最も新しい三重式成層火山で現在も活動を続けている。佐久平北部はその噴出物に覆われており、噴出物の南縁部は旧岩村田町・中込原にまで及んでいる。西一本柳遺跡は旧岩村田町の西南端湯川右岸沿に立地している。

西一本柳遺跡付近の地層の最下部層は浅間火山第一次黒斑火山の最活動期の山体を破壊した水蒸気爆発による塚原泥流が山麓南面一帯に流下して、平坦部千曲川沿岸で圧力を減じ溶岩熱泥流の内容物を散在堆積したものである。この塚原泥流は塚原部落・三岡駅付近まで流れ大小100ヶを超す残丘を作っている。これらの残丘は基盤整備以前は現在よりも多数存在しており、古墳や墓地に利用されている例も多い。

この塚原泥流の堆積上面は不規則な凹凸であったが、黒斑火山の長期に亘る火山活動の火山弾火山灰砂礫が厚く堆積し平準化した。佐久市北部の火山堆積物は全てこれに属し、第一軽石流(P₁)第二軽石流(P₂)の二期



重機による表土除去作業

に大別され小諸懐古園や鼻顔稻荷神社付近でその厚い堆積層を見ることが出来る。この軽石流の堆積時期は内部に含まれている自然木炭のC¹⁴の測定によって10,650 ± 250YBP 洪積期終期とされている。この堆積層は主として火山灰砂礫浮石によって構成されているため水の浸食に弱く、山麓緩傾斜地では水流洪水に浸食され、御代田・三岡付近では火山地域特有の「田切り地形」が見事に発達し、長土呂・小田井にまで及んでいる。

西一本柳遺跡付近は塚原泥流最終末端部分にあたり、その地表面の低所には地下水の湧出、雨水湧水の貯留等による湿地沼沢地も形成されており、若宮神社付近には沼沢状湿田が分布しており、古くから開拓された水田地帯であるといわれている。(1990 佐久埋蔵文化財センター調査報告書第22集 故白倉盛男先生の文書を一部割愛引用)

第2節 歴史的環境

西一本柳遺跡は岩村田遺跡群を構成する代表的な遺跡のひとつであるとともに、佐久市を代表する大規模弥生集落遺跡でもある。今回の調査地点は遺跡の北東端部にあたる。

周辺部では過去において数多くの調査が実施されてきた。その端緒は昭和43年宅地造成に伴い実施された東一本柳遺跡の調査であり、古墳時代後期の竪穴住居址5軒などが検出された。昭和46年には東一本柳古墳の調査が行われ、金銅製の豪華な馬具が発見されている。今回調査を実施した古墳も、東一本柳古墳と共に古墳群を形成する古墳のひとつであると考えられる。地域住民の話によればこの地域は昔「つか」と呼ばれていたこともあったようである。昭和47年には北一本柳遺跡が調査され、弥生時代の竪穴住居址7軒、平安時代の竪穴住居址10軒などが検出されている。平成3・4年度に行われた西一本柳遺跡の第1次調査では弥生時代中期後半の土偶形容器の頭部部分が発見されている。この資料は佐久市を代表する遺物のひとつとなっている。平成7・8年に行われた西一本柳遺跡の第3・4次の調査では東信濃で初めて弥生時代中期後半の石戈が2点発見された。平成18～21年にかけて行われた北一本柳遺跡の第3次調査では弥生時代後期の住居址から鉄剣や板状鉄斧2点が、西一本柳遺跡の14次調査では弥生時代中期後半の土偶形容器の頭頂部が出土している。今回の調査地点の東隣りでは、平成21～23年に東一本柳遺跡の第2次調査が実施され、弥生時代の円形周溝墓や環濠、古墳時代・中世の集落が検出され、弥生時代後期の人面付土器の腕、胴体、陽形土製品などが出土した。以上のことから東・北・西一本柳遺跡は、佐久地方の古代史上最も重要な遺跡のひとつと言える。

第三章 調査の方法

第1節 調査の方法

遺跡名・調査区

佐久市詳細分布図の遺跡に照らし合わせ、西一本柳遺跡XXIIとした。ローマ数字は調査回数である。

調査区を網羅するように、国家座標に沿って40×40mの区画を設定し、南よりローマ数字を付した。この40mの区画を北東隅を起点に4mの各グリットに100分割しグリット名とした。

遺跡略記号・遺構略記号

遺跡略記号は以下の決まりに従い付けられている。

- アルファベット3文字の先頭は旧大字のローマ字表記の頭文字である。 I = 岩村田
- アルファベット3文字の2番目は遺跡名のローマ字表記の頭文字である。 N = にし
- アルファベット3文字の3番目は遺跡名のローマ字表記の任意の文字である。 P = ぼん
- 末尾のローマ数字は発掘調査回数を表す。

遺構略記号は以下のとおりであり、佐久市共通である。

- H = 住居址 (竪穴住居址である。現在のところ佐久市内では明確な平地住居は確認されていない。)
- F = 掘立柱建物址
- D = 土坑 (陥穴、貯蔵穴等)
- P = ピット (柱状のものを建てたと思われる、多くは小径の掘り込み)
- M = 溝状遺構 (環濠、水路、道路、堀等)
- T a = 中世の竪穴建物址あるいは竪穴状遺構
- O T = 周溝墓・古墳

遺構調査

住居址は均等に4分割し、対面する2区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・炉・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。遺物は4分割した各区毎に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続するNoを付け3次元の記録を行い取り上げた。

土坑は長軸方向に沿って2分割し、土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は分割した区毎に東西南北の英語頭文字を付し取り上げた。

ピットも土坑と同様であるが、遺物は遺構Noで一括した。

溝址・周溝墓は短辺方向に任意の場所で区分し、土層を観察・記録した。遺物は区毎に取り上げた。

遺構外の遺物はグリット毎に取り上げた。

遺構測量

平面図・断面図ともにトータルステーションを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構君」により図化した。測量基準座標はグリット杭を用いた。

写真

現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによるRAW画質モードと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、データの状態で報告書に使用した。

遺構・遺物の整理等

遺構の図面修正は株式会社CUBICの「遺構君」により行った。

遺物洗浄は竹ブラシを用い手で行い、室内で自然乾燥させた。

注記は白色のポスターカラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。

遺物の接合はセメダインCを使用し、遺物復元の際の充当材はエポキシ樹脂XNR6504・XNH6504を用いた。

金属器については、バキュームシーラによるパックで現状保存した。

遺物実測は手取りと、デジタル一眼レフカメラで撮影した画像をAdobe社製「Photoshop」で補正した写真実測を併用して行った。

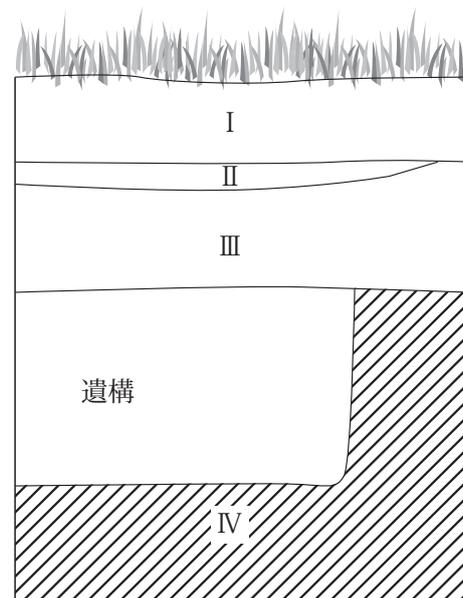
遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り収蔵庫に収納した。

報告書

文章はMS社製「ワード」で作成し、表についてはMS社製「エクセル」で作成した。また、遺物実測図はAdobe社製「Illustrator」によりデジタルトレースを行い、写真・拓本はAdobe社製「Photoshop」により補正加工を行った。これらのデータをAdobe社製「InDesign」でレイアウトし、印刷原稿を作成し、入稿した。

第2節 基本層序

基本層序は第3図のとおりである。IV層まで達するカクランが調査対象地全面に広がっている。調査範囲の南側は旧地形が下がっており、III・IV層間に黒色土層が堆積している。遺構検出面は4層上面か、前述した黒色土上面で行った。



第3図 基本層序模式図

- I－灰黄褐色土層（10YR4/2） 耕作土。
- II－黄褐色土層（10YR5/6） 部分的に堆積。
- III－灰黄褐色土層（10YR5/2） 遺構によってはこの堆積土中から掘り込まれていることが確認できた。
- IV－にぶい黄橙色土層（10YR7/4） 浅間火山第一軽石流（P₁）の堆積。

第3節 検出遺構・遺物の概要

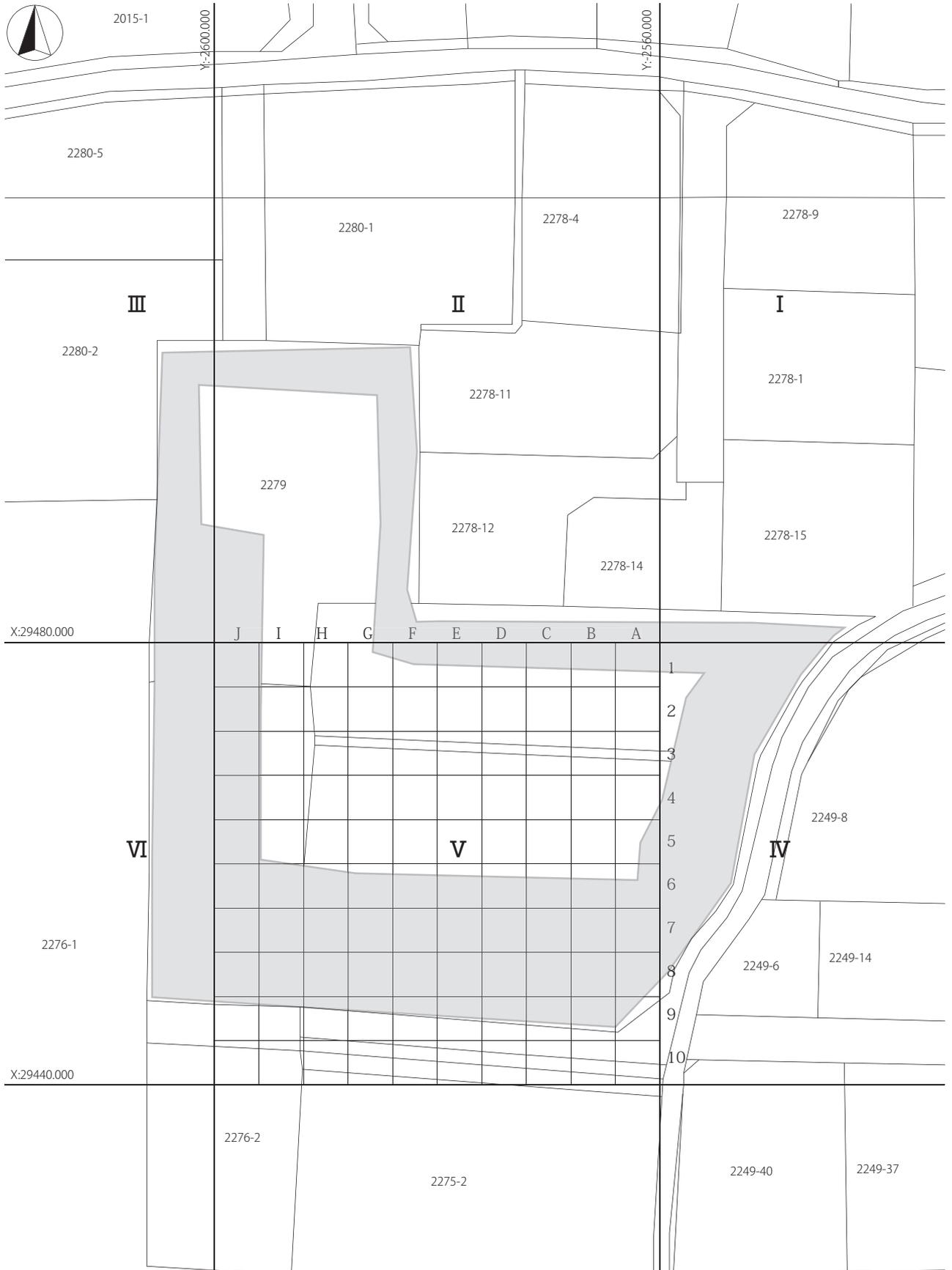
検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

検出遺構

- 竪穴住居址－19軒、掘立柱建物址－3棟、古墳－1基
- 周溝墓－4基、溝址－11条、土坑－23基、ピット－99基

出土遺物

弥生土器、土師器、須恵器、青磁、石器・石製品、鉄器、炭化材、人骨



第4図 西一本柳遺跡XXIIグリッド配置図 (1/500)

第Ⅳ章 遺構と遺物

第1節 住居址

H1号住居址（第5・6図）

I H 10 グリットで検出された。北方向に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。M3号溝址を切って構築されている。北壁にカマドを有する事を前提にすると、N-13°-Eに主軸が想定出来る。短軸長4.21 m、壁残高0.22 mの規模を有している。調査範囲にはカマドは存在しなかった。ピットは6基検出されたが、配置に規則性は認められない。壁下には東壁の一部を除き周溝が巡らされている。東壁の周溝を有さない部分に出入り口が存在したと思われる。床面上には炭化材・焼土を含む第2層が堆積しており、出土遺物の二次被熱も顕著なことから、本址は焼失住居と考えられる。また、第2層上部に堆積する第1層は人為埋土であり、焼失した住居の窪地を埋め戻したと思われる。

遺物は土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1～7）、高坏（8・9）、甕（10～14）、鉢（15）、壺（16・17）、甑（18）の器種が認められる。坏にはA（6）、C（3）、D（2・7）、K（4・5）の形態が存在する。高坏は坏の稜が形骸化した8と、脚端部が「L」字状に屈折して開く9が存在する。甕は小型のものが多く、口縁部が外反するものがほとんどであるが、12は受口である。鉢15は内面に黒色処理が施される。壺は「く」字状に口縁部が外反し、球胴である。甑は底部全体が開口する。石器・石製品は台石（19）、磨石（20）、敲石（21・22）、素材（23）が認められる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年（1995年 信州の6世紀・7世紀の土器様相―現時点の概略として―）の佐久平後期1期、富沢編年（1996年 佐久平における古墳時代の土器編年試案）の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

H2号住居址（第7・8図）

II A 10 グリットで検出された。北方向に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。M5号溝址を切って構築されている。北壁にカマドを有する事を前提にすると、N-0°-Eに主軸が想定出来る。短軸長6.54 m、壁残高0.59 mの規模を有する。調査範囲にはカマドは存在していない。南壁の中央部分には張り出しが認められ、貯蔵穴が構築されている。張り出し部分も含め、壁下には周溝が巡らされる。均等に4本が配置されるであろう主柱と想定されるP1とP2は、壁下の周溝から間仕切り溝が連結され、更に柱穴に被さるように南側に礎石が配置されていた。また、周溝内側の床面には小径のピットが等間隔に配置されており、壁立式竪穴住居址であった可能性が高い。床面上に堆積する第3層には炭化物が含まれていた。

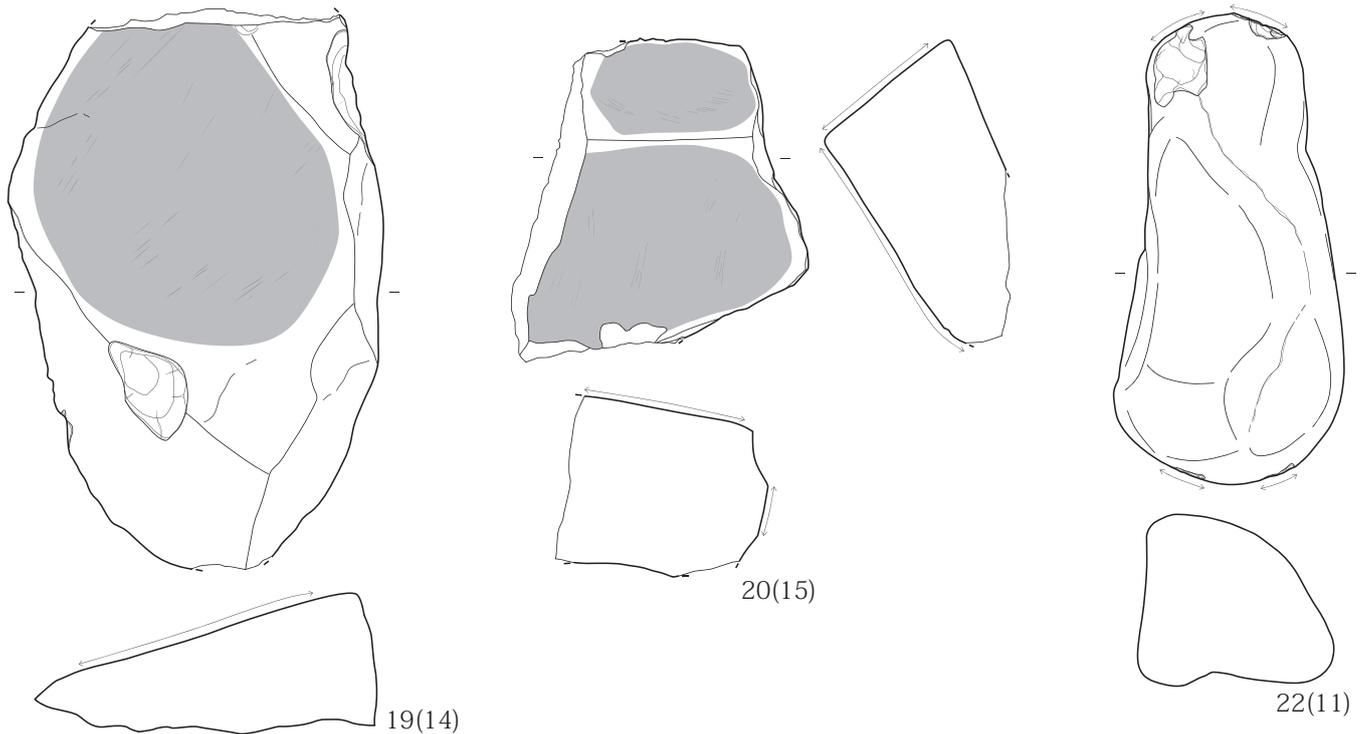
遺物は土師器、須恵器、石器・石製品、土製品、金属製品が出土している。土師器には坏（1～9）、高坏（10）、甕（13～17）、壺（18～21）、甑（23）の器種が認められる。坏にはA（1・2）、C（4・6）、E（3・7・8・9）、K（5）の形態が存在する。高坏（10）は坏部の稜が顕著である。カマド部分が調査されていないことに起因するのであろうが、甕は5点すべてが小型である。壺19は赤彩が施されている。甑は底部全体が開口する。須恵器は坏（11・12）と甕（22）が出土している。石器・石製品には台石（25）、打製石斧（26）、白玉（27）、管玉（28）の器種が認められる。土製品は丸玉（24）が、金属製品は器種・用途が不明な鉄塊（29）が認められる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

H3号住居址（第9図）

II F 7 グリットで検出された。東・西方向に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。D4号土坑に切られている。N-8°-Eに主軸をとり、長軸長5.16 m、壁残高0.49 mの規模を有する。北壁の中央部分と思われる位置に石芯を粘土で被覆したカマドが構築されている。対面する南壁には張り出しがあり、貯蔵穴が構築されているが、南壁中央ではなく西側にずれた位置に存在している。張り出し部分以外の壁下には周溝が巡る。主柱穴P3には間仕切り溝が連結している。検出された7基のピットの内、P1からP3は主柱穴でφ18cm前後の柱が確認できた。P5・P6は出入り口と考えられる。

遺物は土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1・2）、鉢（3）、甕（4・5）の器種が認められる。坏にはA（1）とK（2）の形態が存在する。鉢（3）は口縁部を欠損するため、形態は定かではないが、内面には黒色処理が施されている。甕は小型の4と大型の5が出土している。どちらも体部に最大径を有する。



第6図 H1号住居址(2)

石器・石製品は石製模造品の素材(6)、磨・敲石(7)が認められる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

H4号住居址(第10～12図)

VC1グリットで検出された。南方向に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。調査範囲内では他遺構との重複関係は有さない。推定ではあるが、N-5°-Eに主軸をとり、短軸長6.07m、壁残高0.79mの規模を有する。西壁下には周溝を有している。検出された6基のピットの内、P1・P2は出入口、P6・P7は支柱穴、P3・P4は壁柱穴である。本址は焼失住居であり、7・6層中には炭化材が多量に包含されていた。出土遺物はこれらの堆積層下から出土しており、当時の位置を保持している。

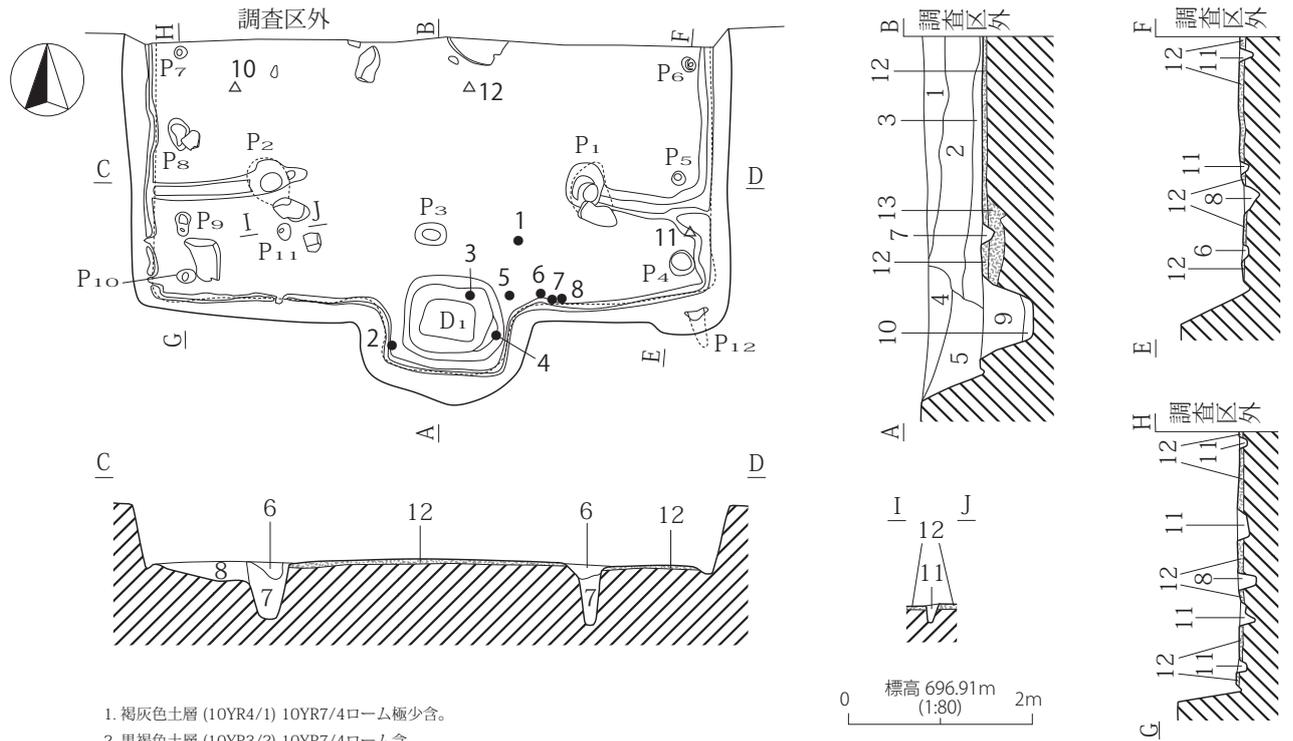
遺物は弥生土器、土製品、石器・石製品が出土している。弥生土器には鉢(1・2)、高坏(3・4)、甕(5～11)、壺(12・13)の器種が認められる。鉢は2点共に内外面に赤彩が施されている。高坏3は脚部が欠損した状態で使用されており、欠損面に再整形の痕跡が認められる。内外面赤彩で、坏部は碗状である。高坏4は小突起を有する鐙状の坏部で、脚も小型である。脚内を除き赤彩が施される。甕は頸部簾状文で口縁部と体部に波状文を施す5・8と、頸部簾状文は同様であるが口縁部と体部には横位の斜走文が施される7・9・10、頸部簾状文は持たず、口縁から体部に波状文が施される6が存在する。6を除き体部に最大径を有し、短い口縁部が強く外反する。壺は口縁部が受口の12と単口縁の13が存在する。外面は体部下端の稜まで、内面は口縁部に赤彩が施される。文様は櫛描の簾状文、あるいは直線文が頸部の括れ部分とその下に赤彩される無文帯を挟んで横位に巡らされている。受口の場合は口縁部に櫛描波状文が横位に巡る。土製品は14の土器片円盤が1点出土している。赤彩が施された壺の体部片を再利用したものである。石器・石製品4点は石材の相異はあるが、全て研磨に用いられたものである。

以上の出土遺物の特徴から、本址は小山岳夫の佐久地域弥生編年の後期IV期古に該当するものと思われる。

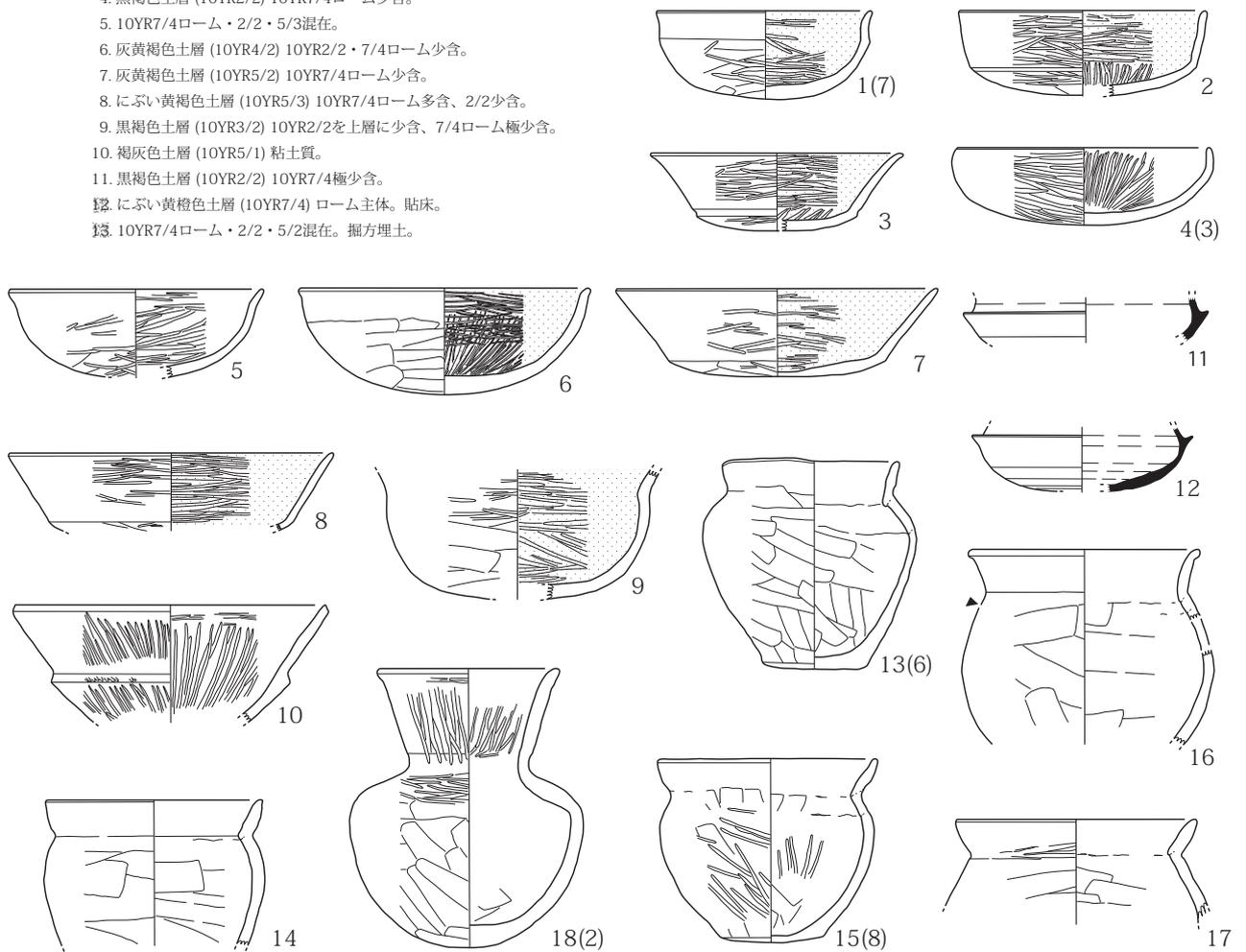
H5号住居址(第13図)

IF4グリットで検出された。M6・7号溝址を切る。北及び東方向の調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.37mの規模を有する。南壁中央と思われる部分に方形の張出貯蔵穴を持つ。張出部分には周溝が巡るが、それ以外の壁下には周溝は認められない。調査範囲内にはカマドやピットは存在しなかった。

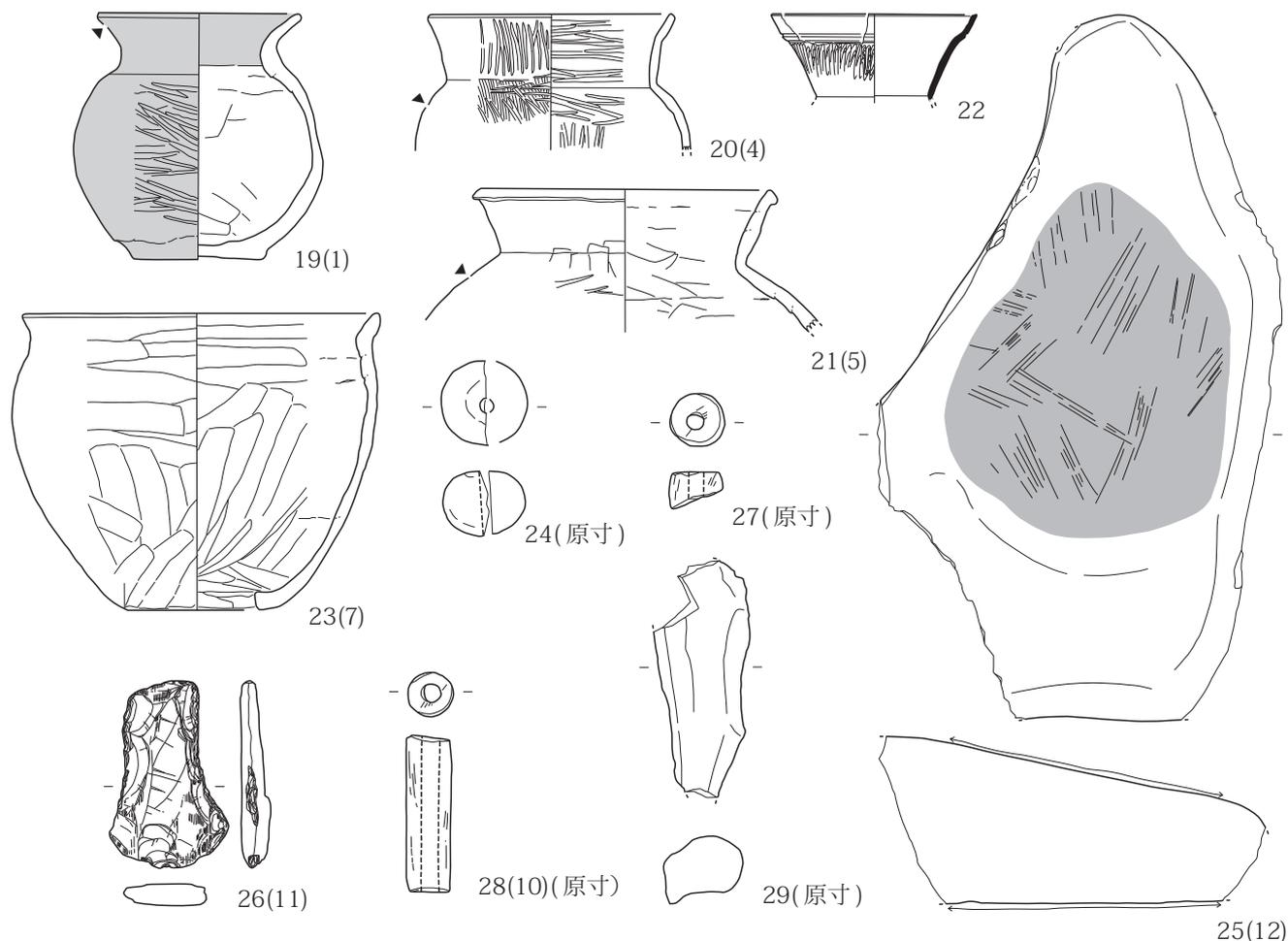
遺物は土師器、須恵質陶器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器には甕(1・2)、甑(3)の



1. 褐灰色土層 (10YR4/1) 10YR7/4ローム極少含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム含。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 炭化物少含、10YR7/4ローム極少含。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
5. 10YR7/4ローム・2/2・5/3混在。
6. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。
7. 灰黄褐色土層 (10YR5/2) 10YR7/4ローム少含。
8. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含、2/2少含。
9. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR2/2を上層に少含、7/4ローム極少含。
10. 褐灰色土層 (10YR5/1) 粘土質。
11. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4極少含。
12. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。貼床。
13. 10YR7/4ローム・2/2・5/2混在。掘方埋土。



第7図 H2号住居址(1)



第8図 H2号住居址(2)

器種が認められる。甕は2点共に内外面にハケメ調整が施され、内面はその後ナデ、外面はミガキやケズリが施されている。体部下半に最大径を有している。甌は中型で底部が開口するものである。須恵質陶器は中世の混入品で、櫛状工具による条線が放射状に付けられている。弥生土器も混入品であり、本来はM6・7に伴うものである。5は甕の口縁部片、6は壺の底部片である。石器・石製品は7の台石が1点出土している。2面に使用の痕跡が認められる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

H6号住居址(第14図)

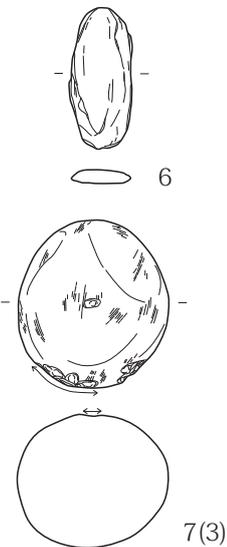
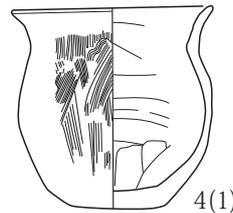
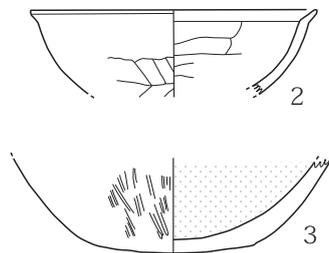
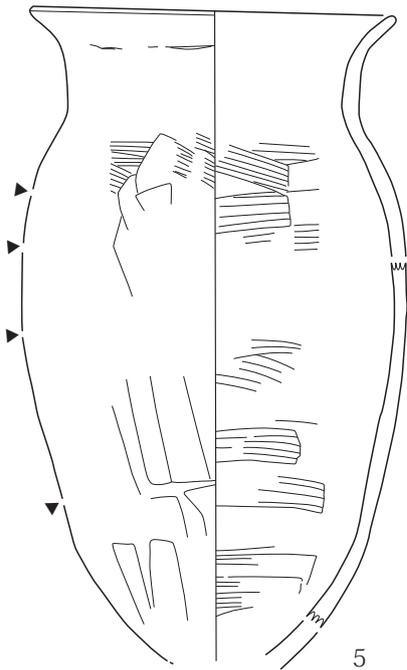
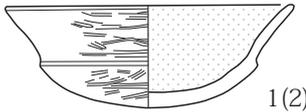
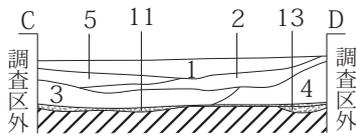
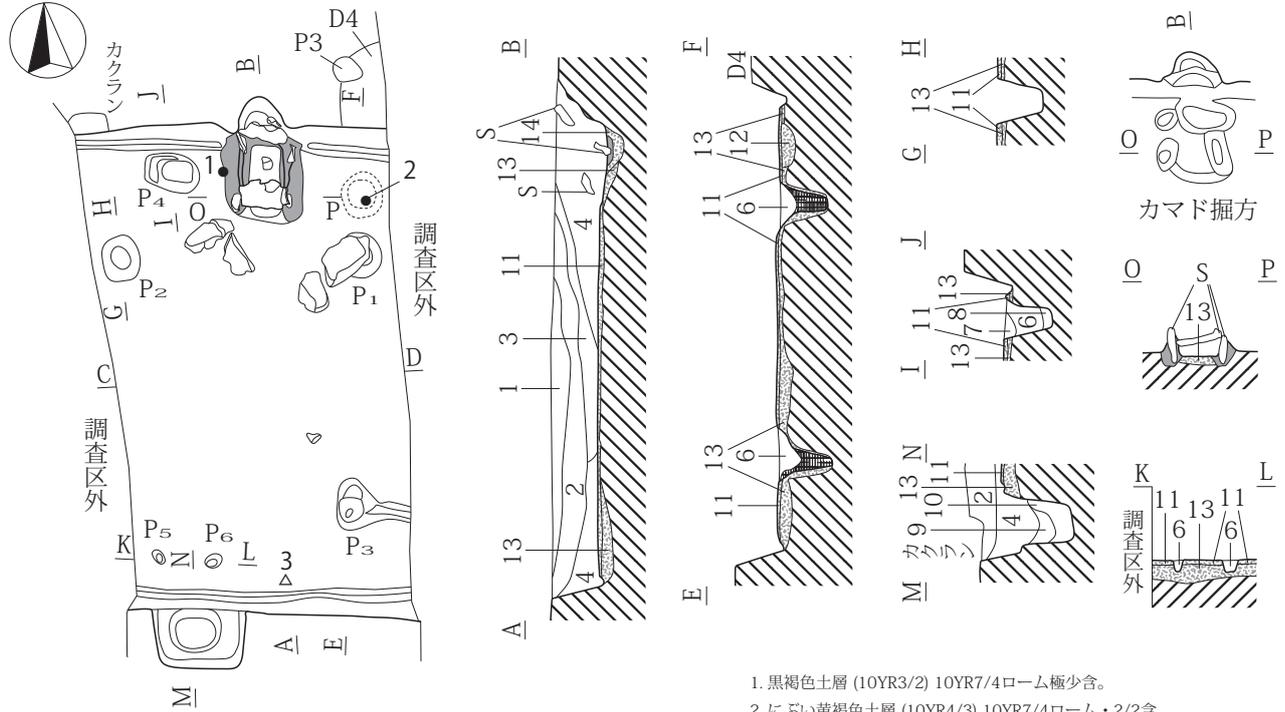
ⅡH4グリッドで検出された。D11・12・13号土坑に切られ、M6・7号溝址を切る。N-20°-Eに主軸をとり、長軸長3.5m、短軸長2.48m、壁残高0.49m、面積6.72㎡の規模を有する。北壁の中央やや西より部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築されており、かけ穴には4の甕が架けられ、1の坏が正位で蓋状に被せられていた。カマド西脇には貯蔵穴が構築され、この貯蔵穴部分を除く壁下には周溝が巡らされていた。床面上に検出された2基のピットは支柱穴である。床面直上には炭化物の堆積層が存在し、壁下に堆積する第4層中には焼土粒子が顕著であったことから、焼失した可能性が強いと思われる。

遺物は土師器と弥生土器、土製品が認められる。土師器には坏(1)、甕(2・3・4)、甌(5)の器種が認められる。坏はIの形態である。甕は2が台付甕、3が小型甕、4が長胴甕である。3点全てが外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施される。長胴甕の最大径は体部の中央付近にある。甌は大型で、底部が開口する。把手は持たない。内外ヘラミガキ調整である。弥生土器と土製品は2点共に混入品であり、本来はM6・7に伴うものである。6は内外赤彩の鉢、7は弥生の赤彩された壺の体部片を再利用した土器片円盤である。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

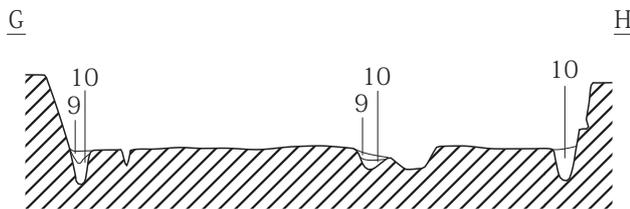
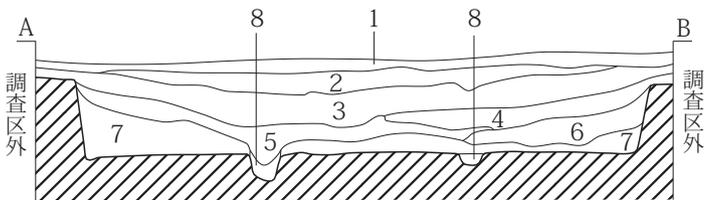
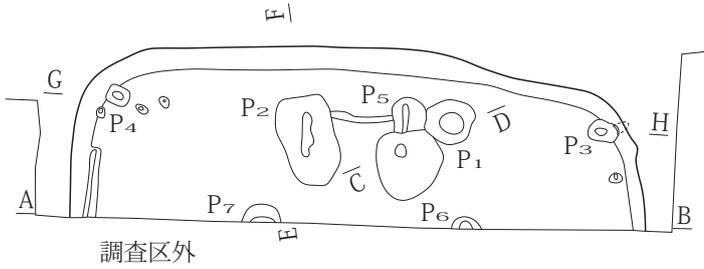
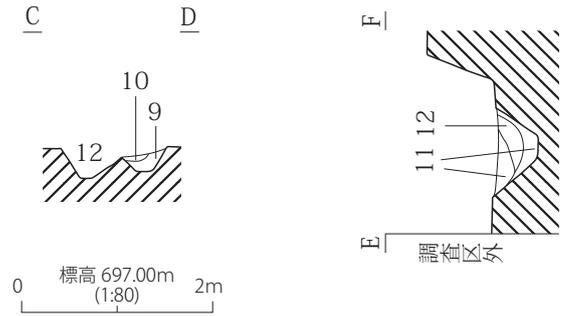
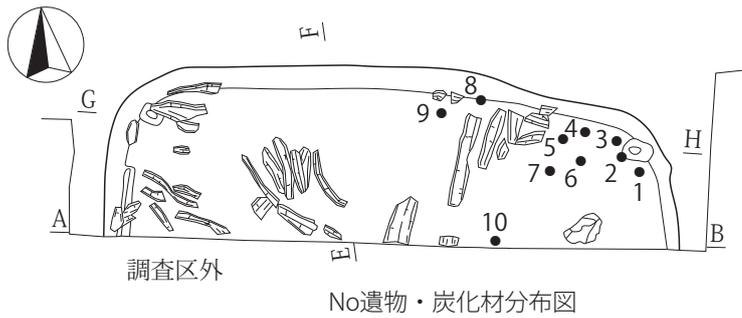
H 7号住居址 (第 15・16 図)

Ⅲ A 2 グリットで検出された。F 3号掘立柱建物址を切る。N-13°-Wに主軸をとり、長軸長 3.57 m、壁残高 0.39 mの規模を有する。北壁のほぼ中央と思われる部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築されている。

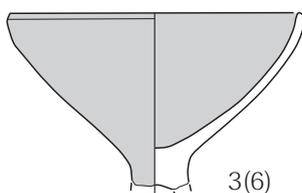
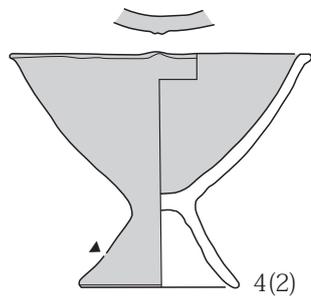
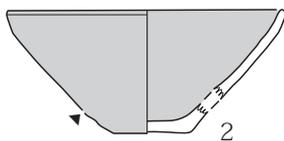
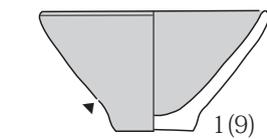
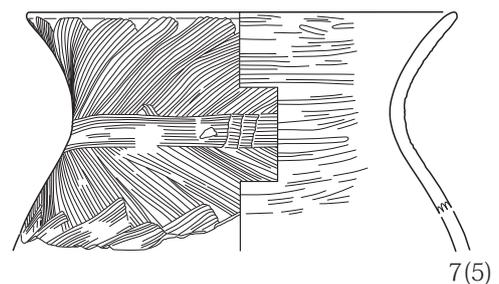
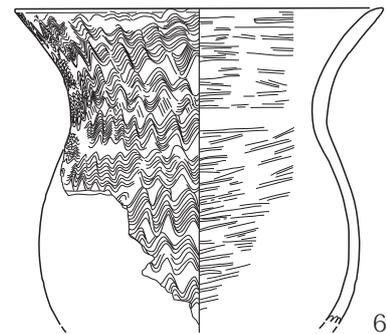
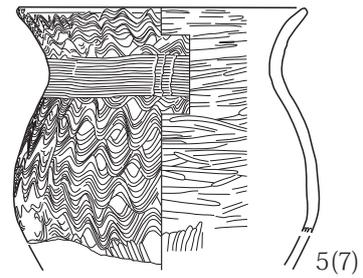


1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム極少含。
 2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・2/2含。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
 4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR2/2・7/4ローム含。
 5. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR4/4ローム含。
 6. 褐灰色土層 (10YR4/1) 10YR7/4ローム極少含。
 7. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/1極少含。
 8. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム主体、10YR2/2少含。
 9. 10YR7/4ローム・2/2混在。
 10. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2極少含。
- 様. 10YR7/4ローム・2/2混在。貼床。
 露. 黒褐色土層 (10YR3/1) 10YR7/4ローム含。
 露. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2極少含。掘方埋土。
 露. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム含。掘方埋土。
 ■ にぶい赤褐色土層 (2.5YR4/3) 粘土。
 ■ にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/1極少含。柱痕。

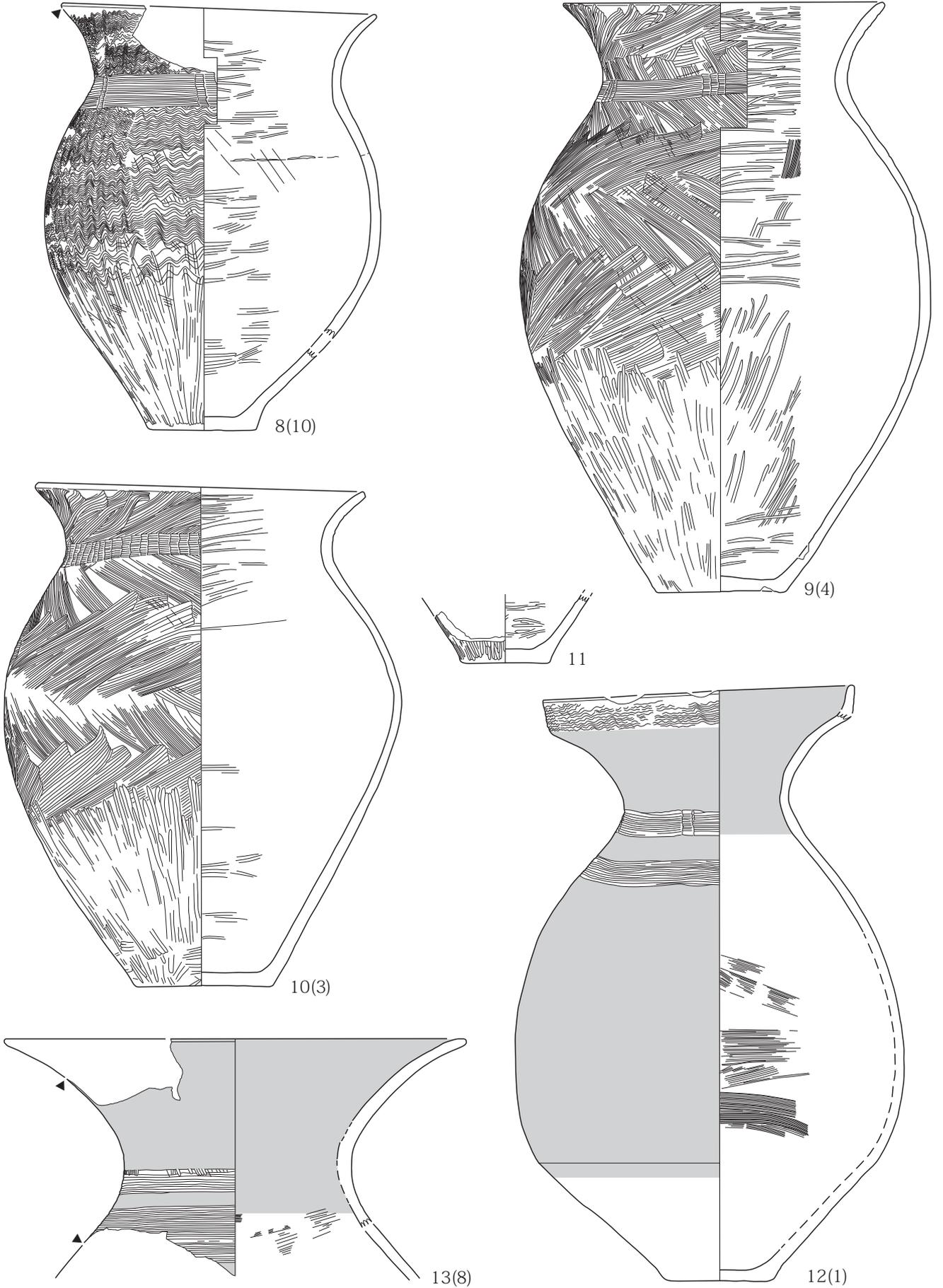
第9図 H 3号住居址



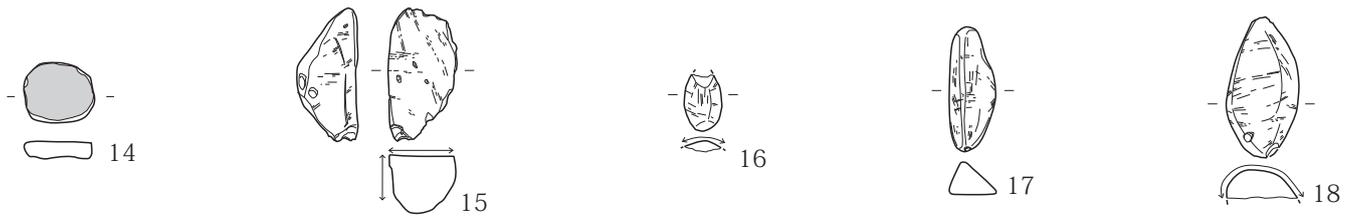
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 表土。
2. 褐灰色土層 (10YR5/1) 10YR7/4ローム少含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR5/2) 10YR2/2少含、7/4~7/6ローム含。
4. 10YR7/6ローム・2/2交互帯状堆積。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4~7/6ローム含。
6. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム主体、炭化物少含。
7. 6層中に多量に炭化物含。
8. にぶい黄橙色土層 (10YR6/3) 10YR7/4ローム多含。
9. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム少含。
10. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。
11. 炭化物の堆積。
12. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。



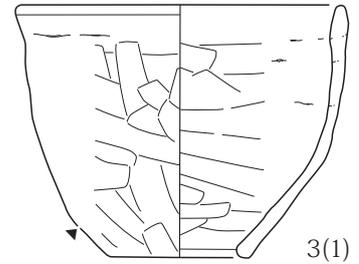
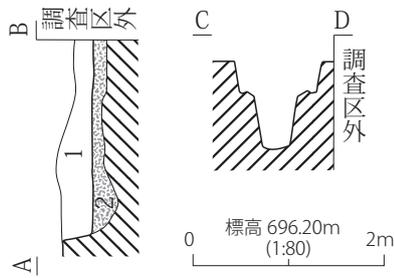
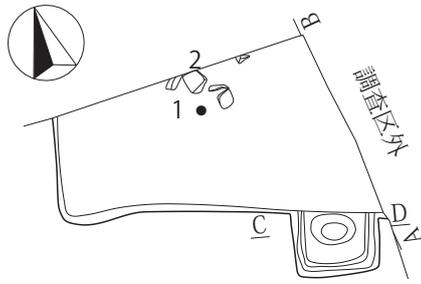
第10図 H4号住居址(1)



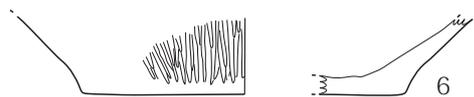
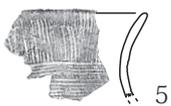
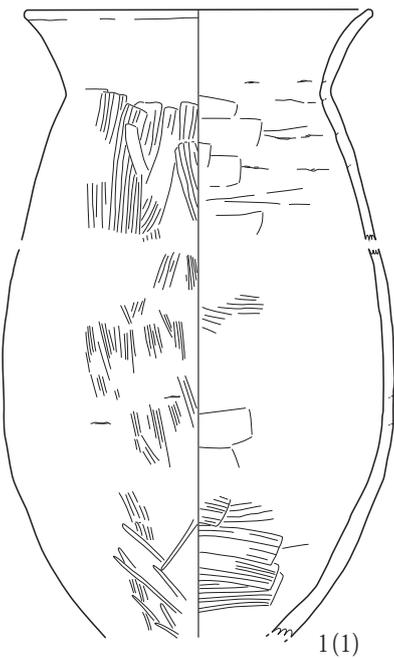
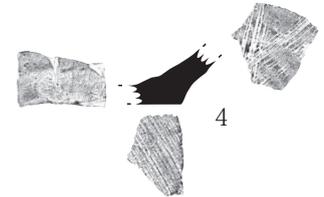
第11图 H4号住居址(2)



第12図 H4号住居址(3)



1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR2/2・7/4ローム少含。
 ② 10YR2/2・5/3・7/4の混在。掘方埋土。

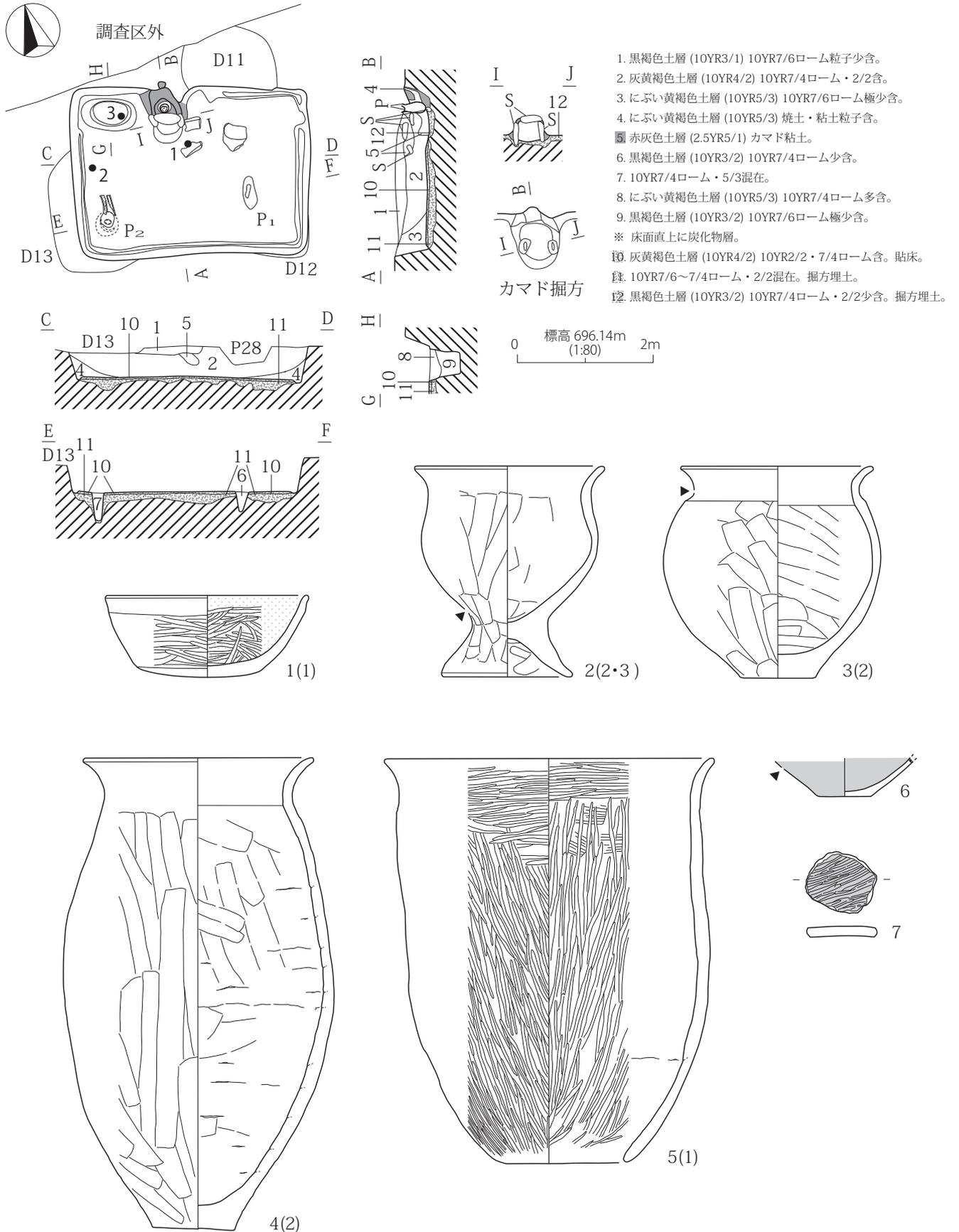


第13図 H5号住居址

調査範囲内の壁下には周溝が巡り、西壁中央や南よりの周溝の縁から間仕切溝が垂直に延びている。柱穴は存在しない。覆土内に含まれていた多量の礫は、最終堆積層である1層下面に位置しており、本址が埋没した後廃棄されたものと思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器には坏(1~3)、甕(4~13)の器種が認められる。坏にはB(1)、K(2)、X-2(3)の形態が存在する。2は底部に木葉痕が残されている。甕は4が台付、5・6が小型の他は長胴である。7・10・11は調整にハケメが認められるが、他は外面ケズリ、内面ナデを基本とする。最大径は体部ではなく、口縁部に有している。台付甕4は内面黒色処理が施されている。須恵器は14の壺が1

点出土している。破片であり、全容は不明である。肩部に引かれた、2条の平行沈線により作りだされた横位2段の文様帯に櫛描波状文が施されている。石器・石製品は15の台石、16・17の敲石が出土している。



第14図 H6号住居址

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期3期、富沢編年の古墳時代後期Ⅱ期に該当するものであり、6世紀中葉から後半の年代が考えられている。

H 8号住居址（第17・18図）

ⅢA 9グリットで検出された。H 9・H 12号住居址を切る。N-18°-Wに主軸をとり、長軸長4.65 m、短軸長4.03 m、壁残高0.53 m、面積13.37㎡の規模を有する。南東隅が張り出すため、平面形は台形状の隅丸長方形である。北壁の中央部分にカマドが構築されていたが、ほぼ掘方状態に破壊されていた。壁下には周溝が巡り、支柱穴は均等位置に4基が配置されている。φ16～20cm大の柱痕が確認できた。南壁下中央に検出されたP5・P6の2基のピットは出入口と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1～5）、手捏土器（6～10）、鉢（13）、甕（14・15）、壺（16）の器種が認められる。坏にはA（1）とC（2～5）の形態が存在し、C形態は北武蔵型の坏である。手捏土器は一括状態で出土した。白玉、有孔円板を含め、祭祀道具のセットとしてとらえられる資料であろう。鉢13は内外面にヘラミガキ調整が程される。15は小型の台付甕の脚部、甕14は長胴で、口縁部に最大径を有する。壺16は短い口縁部が弓なりに外反する球胴のものである。須恵器は高坏の脚11と、高盤の脚12が出土している。弥生土器は17の赤彩される蓋が1点出土した。混入品である。石器・石製品は混入品の黒曜石製の打製石鏃（18）、磨石（19）、敲石（20・21）、磨・敲石（22）、白玉（23～32）、有孔円板（33）が出土している。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期6期、富沢編年の古墳時代後期Ⅵ期に該当するものであり、7世紀後半の年代が考えられている。

H 9号住居址（第19・20図）

ⅢB 7グリットで検出された。H 8号住居址に切られる。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N-16°-Eに主軸をとり、長軸長5.08 m、壁残高0.43 mの規模を有する。カマドは北壁の中央と思われる部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。調査範囲内では壁下に周溝が巡り、P2と周溝をつなぐ、間仕切溝が存在した。検出されたピットの内、P1、P2は支柱穴であり、φ16cm大の柱痕が確認された。2・3・4層中には炭化物が包含されており、床面に接する2層は特に顕著であった。P1の東にはベンガラ散布が2ヵ所認められた。覆土中の礫は2層中に内包され、床面に近い位置から出土していることから、本址のカマド構築材と思われる。

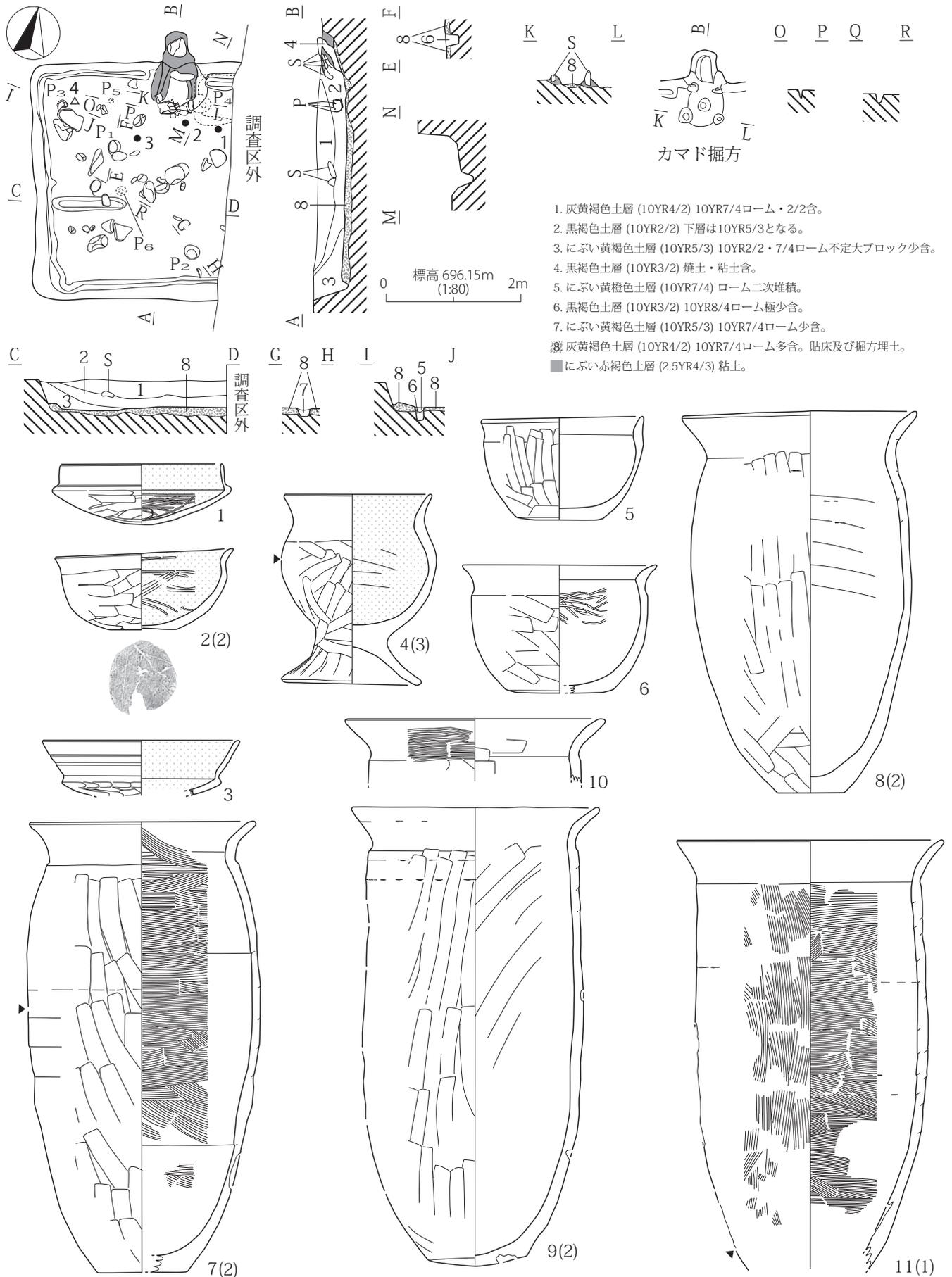
遺物は土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1）、鉢（2）、甕（3～5）、甑（6・7）の器種が認められる。坏はK形態のものが1点出土している。鉢は口縁部が円ではなく楕円に成形されており、「杓状」を呈する。外面ヘラケズリ、内面ナデ調整である。甕は体部に最大径を有する。外面ヘラケズリ、内面ナデ調整である。甑は2点共に大型で、底部が開く形態と思われる。7は把手付で、焼成前に破損した口縁部を補修した痕跡が残っていた。2点共に内外面ヘラミガキ調整が施されている。石器・石製品は磨・敲石が3点出土している。いずれも円礫を利用したものである。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期Ⅰ期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

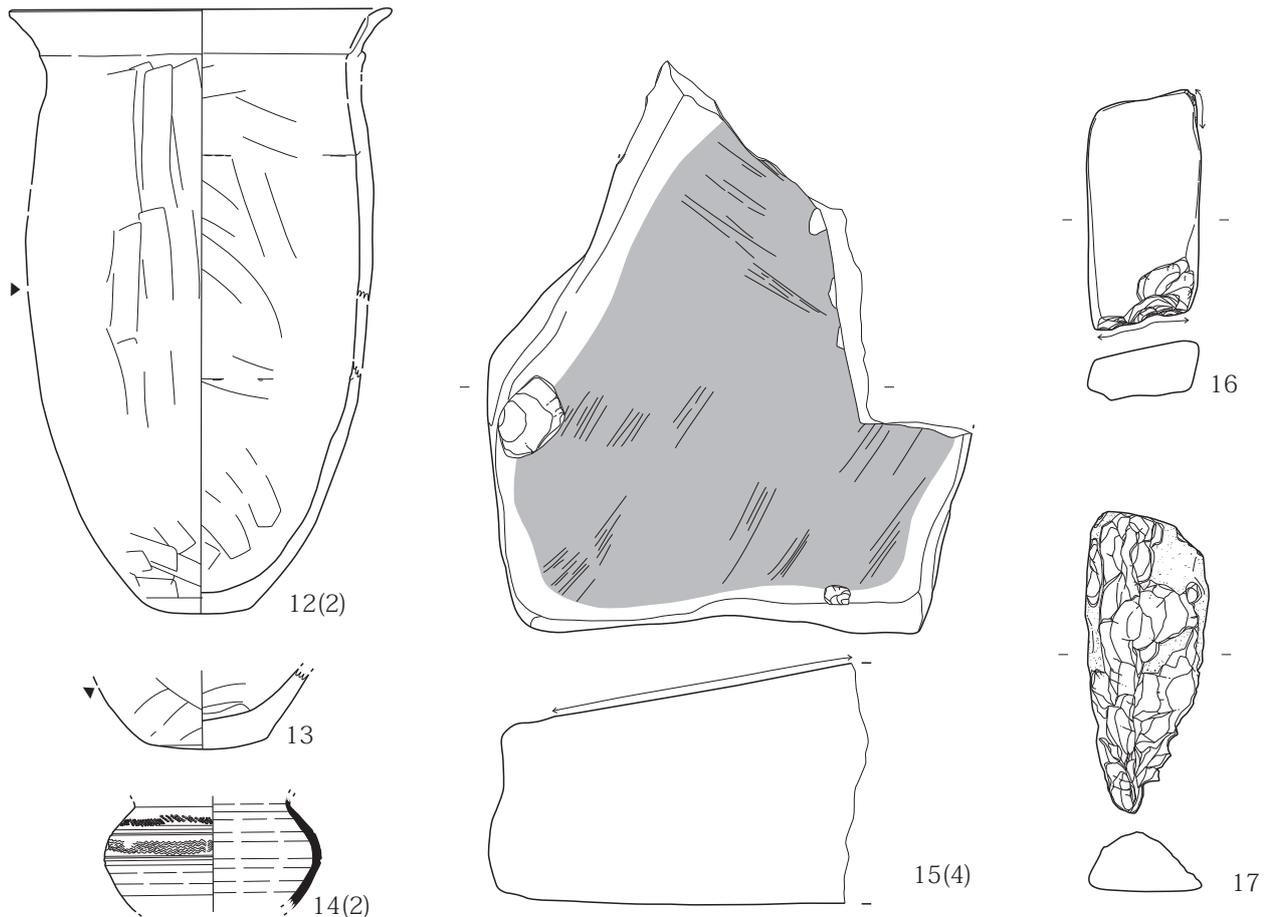
H 10号住居址（第21・22図）

ⅣB 2グリットで検出された。P 66に切られる。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N-29°-Wに主軸をとり、長軸長4.35 m、壁残高0.34 mの規模を有する。カマドは北壁の中央部分に構築されていることが調査区外の壁面土層で確認できた。調査範囲内では壁下に周溝が巡っている。南東隅の壁下には貯蔵穴が構築されていた。P1～P3は支柱穴であり、調査区外に存在するであろう1基を加えた4基が均等に配置されているものと思われる。P2に向かい周溝の東、南縁から間仕切溝が2条確認された。貯蔵穴に付随するものであろう。南壁下のP5～P8の4基のピットは出入口施設と思われる。覆土内の礫は2・3層中に内包されており、遺物もここに包含されていた。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1～6）、高坏（7～10）、甕（15～19）、壺（20）、甑（21）の器種が認められる。坏にはC（4）とK（1～3、5・6）の形態が存在する。高坏は坏部に稜が明瞭な8～10と、形骸化した7が存在する。脚端部は全てのもものが「L」字状に屈折して開く。甕は体部下端に稜を有し、最大径は体部に有する。長胴ではあるが、あまり長くはない。調整はハケメが多用される。壺は小型の広口形態で、内外面にヘラミガキ調整が施される。甑は底部片である。底部全体が開口してい



第15図 H7号住居址(1)



第16図 H7号住居址(2)

る。須恵器には坏(11~13)、坏蓋(14)、甕(22~24)の器種が認められる。24は底部に叩目が顕著である。弥生土器は後期の人面付土器の頭部片が出土している。群馬県「有馬遺跡」出土例と同様な形態と思われ、赤彩が施されている。混入品である。石器・石製品は磨石(26・27)と磨・敲石(28~31)、石製模造品の勾玉未成品(32)、石製模造品作成のための素材(33)が出土している。

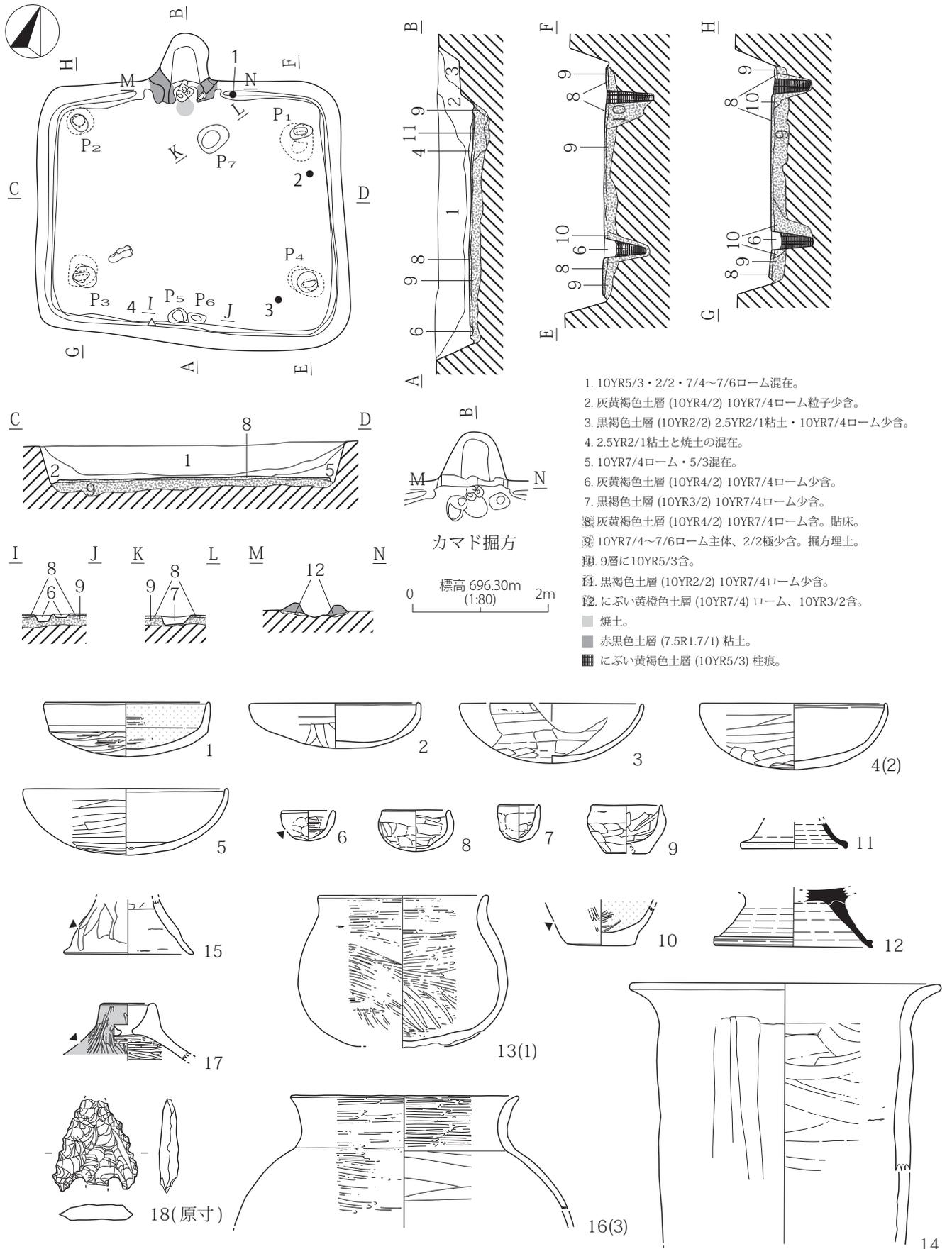
以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

H11号住居址(第23・24・25図)

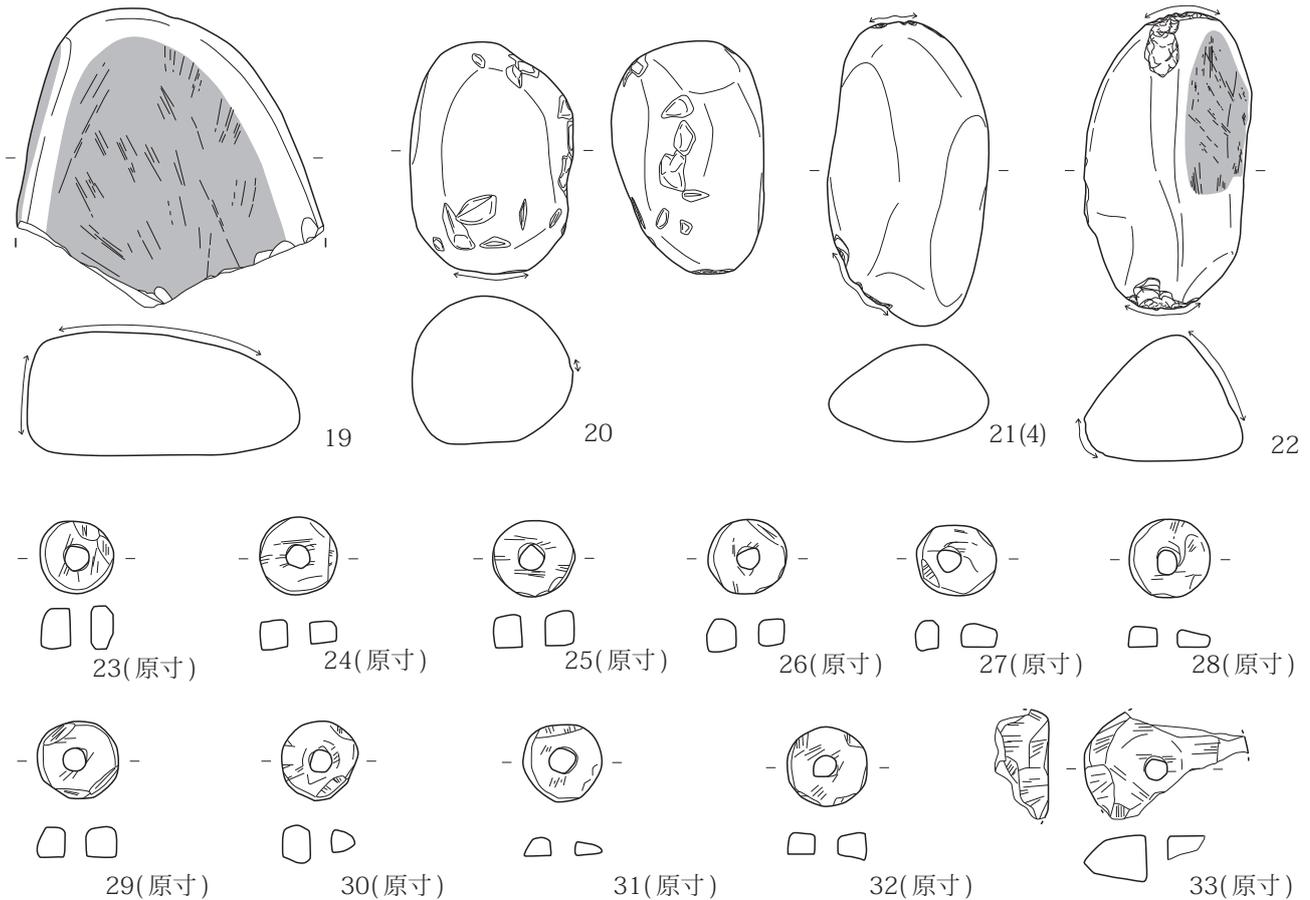
VJ4グリッドで検出された。M9号溝址を切る。N-210°-Wに主軸をとり、長軸長5.99m、短軸長4.17m、壁残高0.35m、面積21.55㎡の規模を有する。カマドは南壁の中央やや東寄りに構築されている。佐久市内の古代住居址のカマドは北カマドが普遍的であり、これに東カマドが少数存在し、平安時代末に東南隅カマドが出現する。西や南カマドは極めて少なく特異な存在である。カマドは石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド西脇には貯蔵穴が存在し、カマド部分と西南隅を除く壁下には周溝が巡る。貯蔵穴の西と北壁の北東隅寄りには周溝から垂直方向に延びる間仕切溝が存在する。ピットは掘方も含め14基検出されたが耕作によるカクランが著しく、支柱は判然としない。床面上からは滑石の微小チップや素材等が多数検出されており、本址は玉作工房址と思われる。

遺物は土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏(1~8)、高坏(9~11)、甕(12~18)、壺(19)、甑(20~22)の器種が認められる。坏にはC(7)とK(1~6、8)の形態が存在する。高坏は坏部の稜が不明瞭となり、脚端部の屈折も緩やかである。甕は大型(15・17・18)のものと小型(12~14)が認められる。15は壺に分類すべきかもしれない。有段口縁の名残のような直立した口縁形態で、球形の体部下半に最大径を有する。17・18は15に比べ長胴である。小型甕は広口の形態で、鉢としても良いのかもしれない。壺19は「小型丸底」である。甑は小型の20・21と大型の22が出土した。小型の2点は単孔、大型の22は底部全体が開口する。石器・石製品は磨・敲石(23)、編物石(24~39)、白玉(40~42)、白玉未成品(43~45)、勾玉

未成品(46)、有孔円盤か勾玉の未成品(47)、剣形模造品(48・49)、石製模造品の素材(50～53)が出土しており、白玉に特化した工房ではないことが伺われる。



第17図 H8号住居址(1)



第18図 H 8号住居址(2)

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

H 12号住居址(第26・27図)

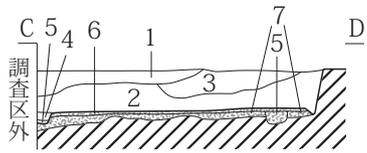
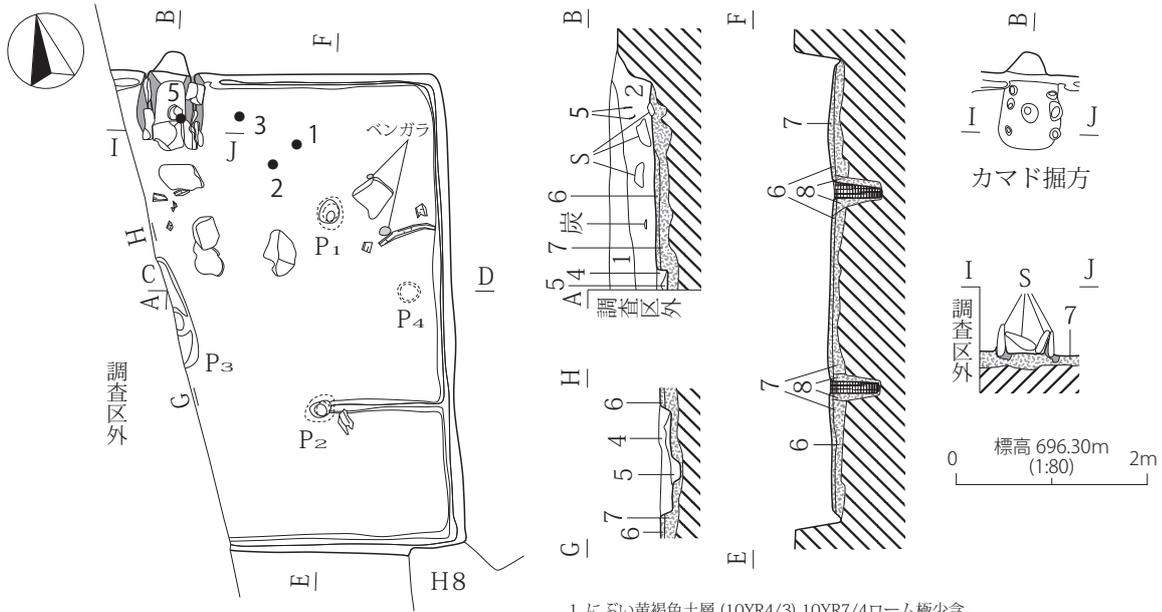
ⅢA 10グリットで検出された。H 8号住居址、M 8号溝址に切られ、M 5・9号溝址を切る。N-0°-Eに主軸をとり、長軸長5.24 m、短軸長4.91 m、壁残高0.52 m、面積19.97㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されている。カマド部分が突き出するため、住居の平面形は五角形を呈する。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、P1に向かい1本、東壁中央やや南に1本、南壁からP5に向かい1本の計3本の間仕切溝が存在する。9基検出されたピットの内、均等に配置されたP1～P4の4基が支柱穴であり、P6・P7の2基が出入口施設と思われる。覆土の2層以下には炭化物が含まれており、本址は焼失住居と考えられる。

遺物は土師器、石器・石製品、鉄製品が出土している。土師器には坏(1～5)、甕(6～8)、壺(9～11)、甑(12・13)の器種が認められる。坏にはA(2)、C(4)、D(1)、E(5)、X-2(3)の形態が存在する。甕は長胴で、体部下半に最大径を有する。調整はヘラケズリ調整が主体であるが、7は内面にハケメ調整が施される。壺は完形のものがなく、全容は不明である。甑は小型で単孔の12と大型で底部全体が開口する13が存在する。石器・石製品は玉類(14～19)と編物石(20)、磨石(21～23)の器種が存在する。玉類は坏(1)に内包され出土したものであり、一括のセットである。19が切小玉の他は白玉で、全て滑石製である。鉄製品は釘(24)が1点出土している。

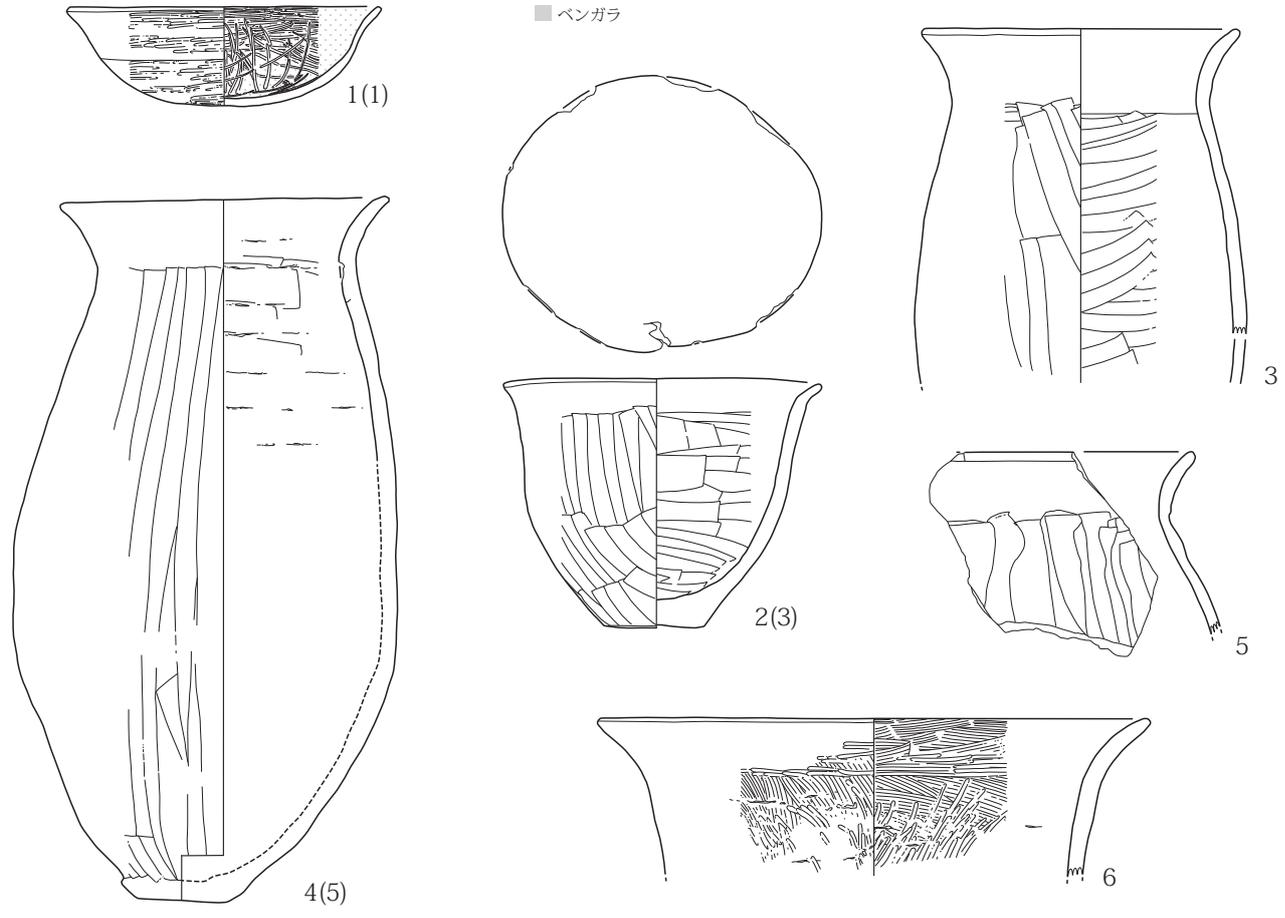
以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期2期、富沢編年の古墳時代後期II期に該当するものであり、6世紀前半から6世紀中葉の年代が考えられている。

H 13号住居址(第28図)

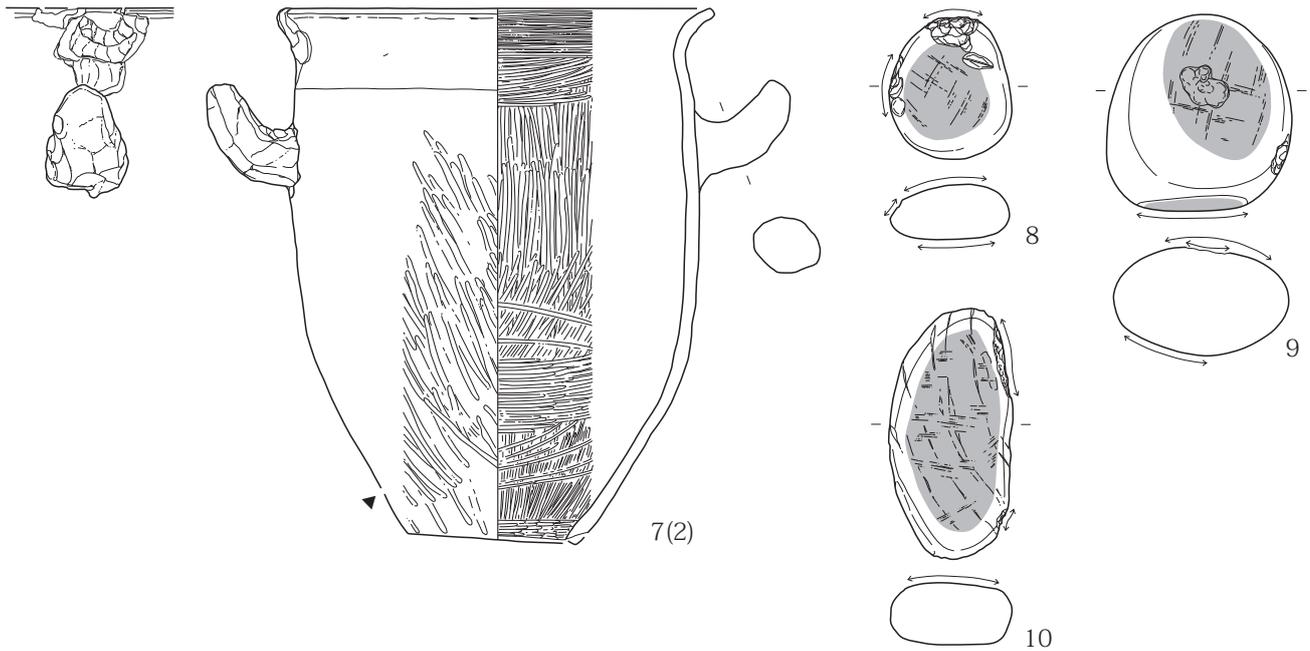
ⅣA 5グリットで検出された。西半部の大半がカクランにより消失していた。N-25°-Eに主軸をとり、長軸長3.61 m、短軸長3.22 m、壁残高0.18 mの規模を有する。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構



- 1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム極少含。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・炭化物多含。
- 3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 炭化物含。
- 4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・炭化物含。
- 5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR2/2・7/4ローム含。
 漆 10YR7/4ローム・2/2混在。貼床。
 漆 10YR7/4~7/6ローム主体、10YR2/2・5/3少含。掘方埋土。
- ※ にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4~7/6ローム多含。ピット覆土。
- にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 粘土。
- にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 柱痕。
- ベンガラ



第19図 H9号住居址(1)



第20図 H9号住居址(2)

築されているが、袖は所謂「地山削り出し」である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。ピットは6基検出されているが、支柱穴は見当たらない。P5・P6の2基は出入口施設と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、鉄器が出土している。土師器は甕の底部片であり、ヘラケズリ調整が施される。須恵器は壺の底部片で回転ヘラケズリが施される。弥生土器は、赤彩が施される高坏の脚片であるが混入品である。鉄器は木質が残る刀子が1点出土している。

以上の出土遺物から本址の時期を特定するのは困難であり、古墳時代後期という大枠で捉えておきたい。

H14号住居址(第29図)

VI8グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-0°-Eに主軸をとり、長軸長3.32m、壁残高0.52mの規模を有する。カマドは北壁中央東寄りに構築されているが、掘方状態に破壊されていた。周溝は有さない。1基検出されたピットは出入口施設と思われる。

遺物は土師器が出土している。坏(1~3)、壺(4・5)の器種が認められる。坏はC(1)、E(2・3)の形態が存在する。壺は4が底部片、5は内面ヘラミガキ、黒色処理が施される、壺の頸部と思われる。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期2期、富沢編年の古墳時代後期II期に該当するものであり、6世紀前半から6世紀中葉の年代が考えられている。

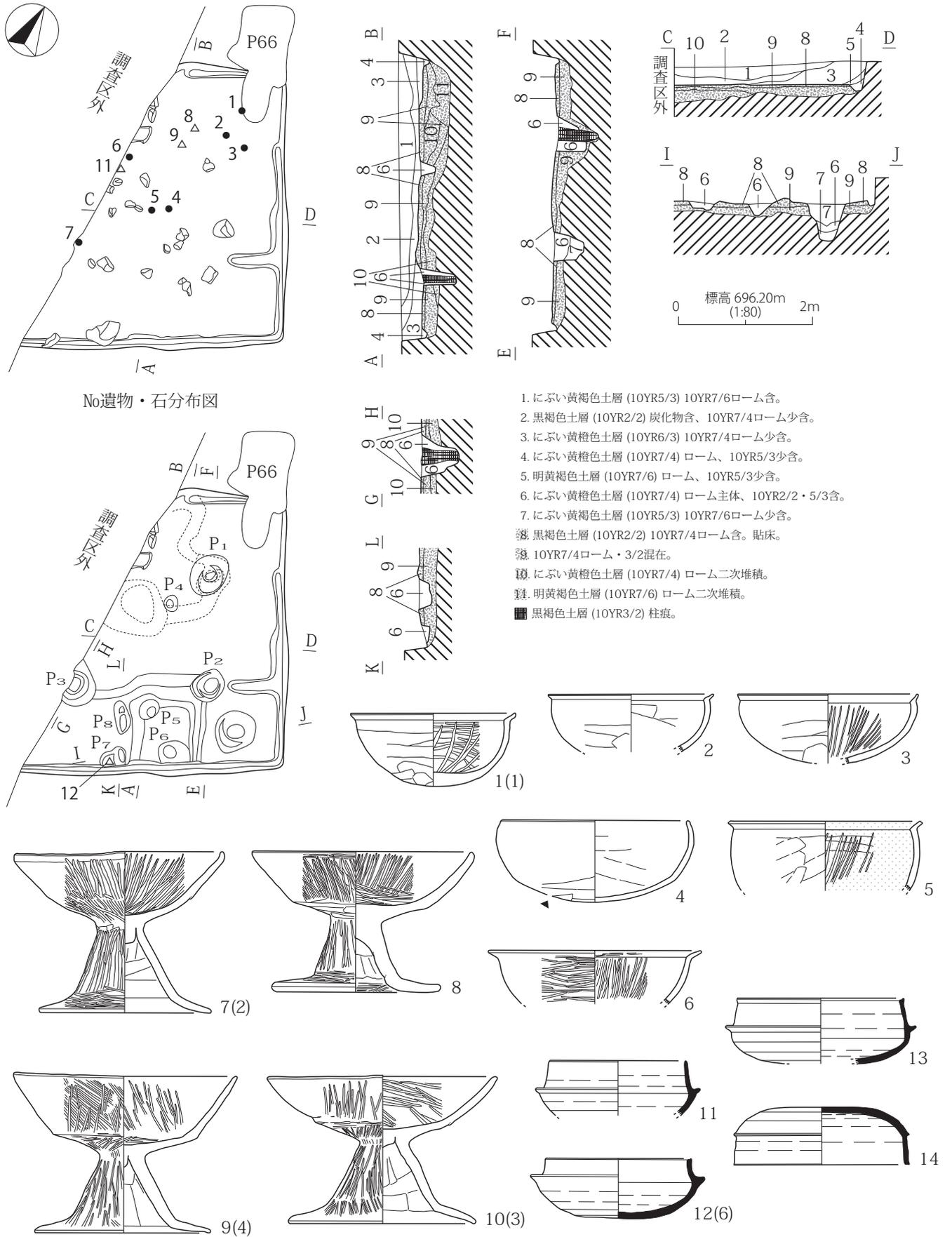
H15号住居址(第30~33図)

VI5グリットで検出された。M9号溝址を切り、カクランに切られる。N-55°-Wに主軸をとり、長軸長4.74m、短軸長3.91m、壁残高0.23mの規模を有する。東北隅がカクランにより消失しているため判然としないが、調査範囲にはカマドは存在しなかった。周溝は有さない。P1、P10の2基のピットが支柱穴である。H11号住居址と同様に、本址からも大量の滑石製の石製模造品や未成品、原石、剥片、チップが出土しており、玉作工房址と考えられる。P6は貯蔵穴と思われる。工作ピットと断定できるものは存在しない。

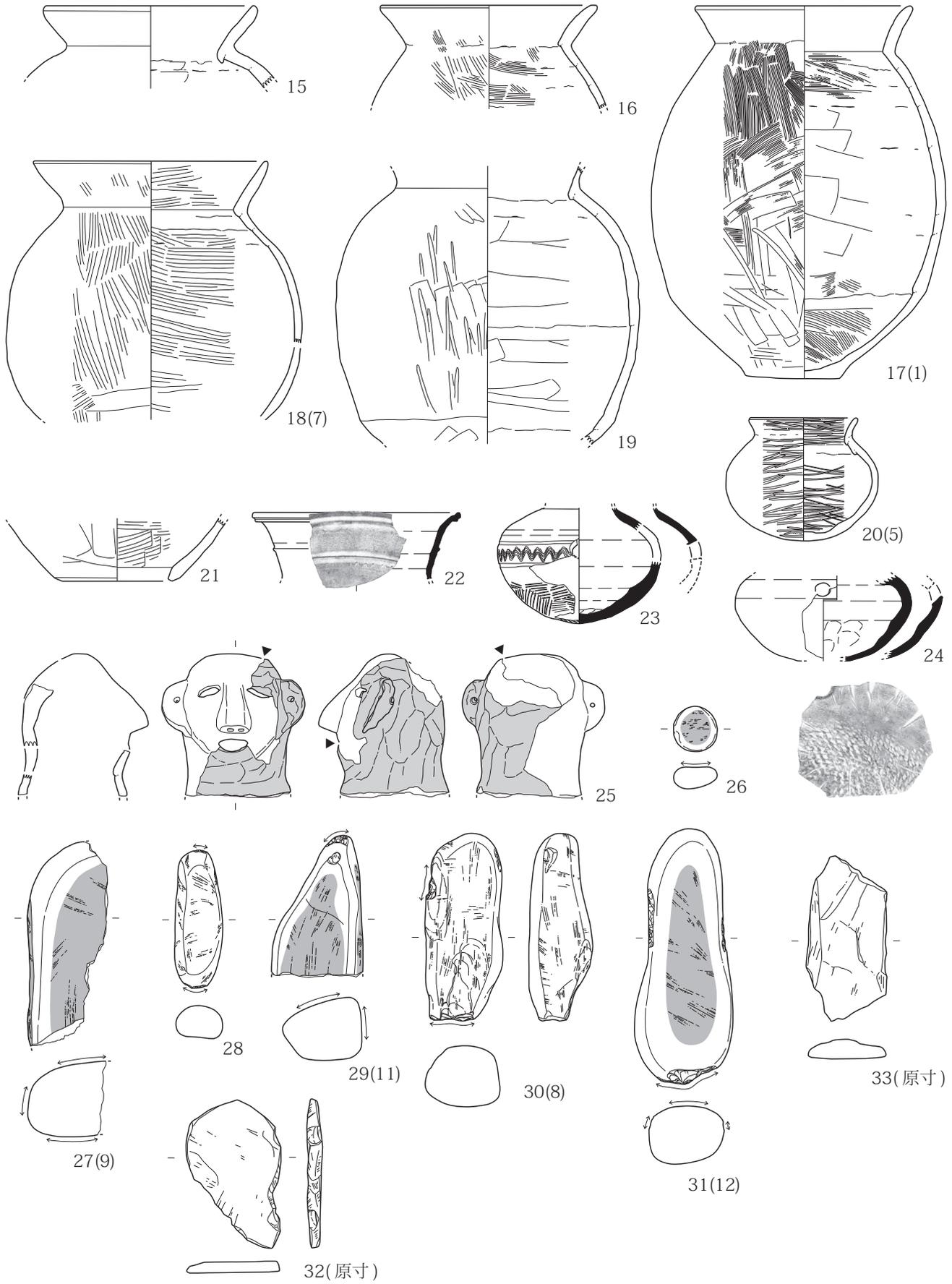
遺物は土師器、石器・石製品、鉄器が出土している。土師器には坏(1~4)、高坏(5)、甕(6)の器種が認められる。坏にはD(1)、K(2~4)の形態が存在する。高坏は坏部に稜を有している。甕は口唇部外面に凹線が周回する。石器・石製品は7の磨・敲石の他に多量の石製模造品(9・10)と白玉(11~68)及び、これらの未成品(69~448)や剥片、チップ、原石が出土している。鉄器は斧が1点出土している。滑石原石の打割に使用したものであろうか？

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

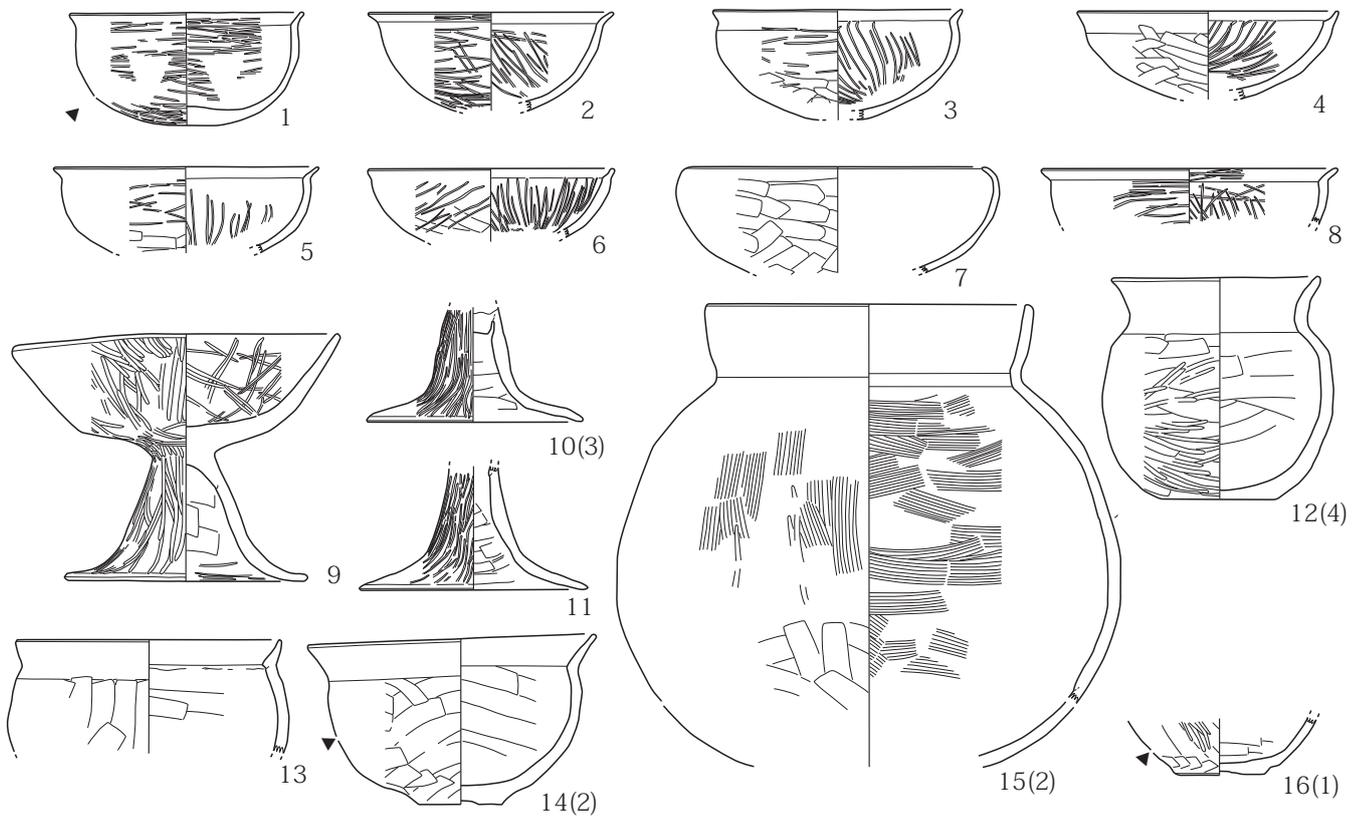
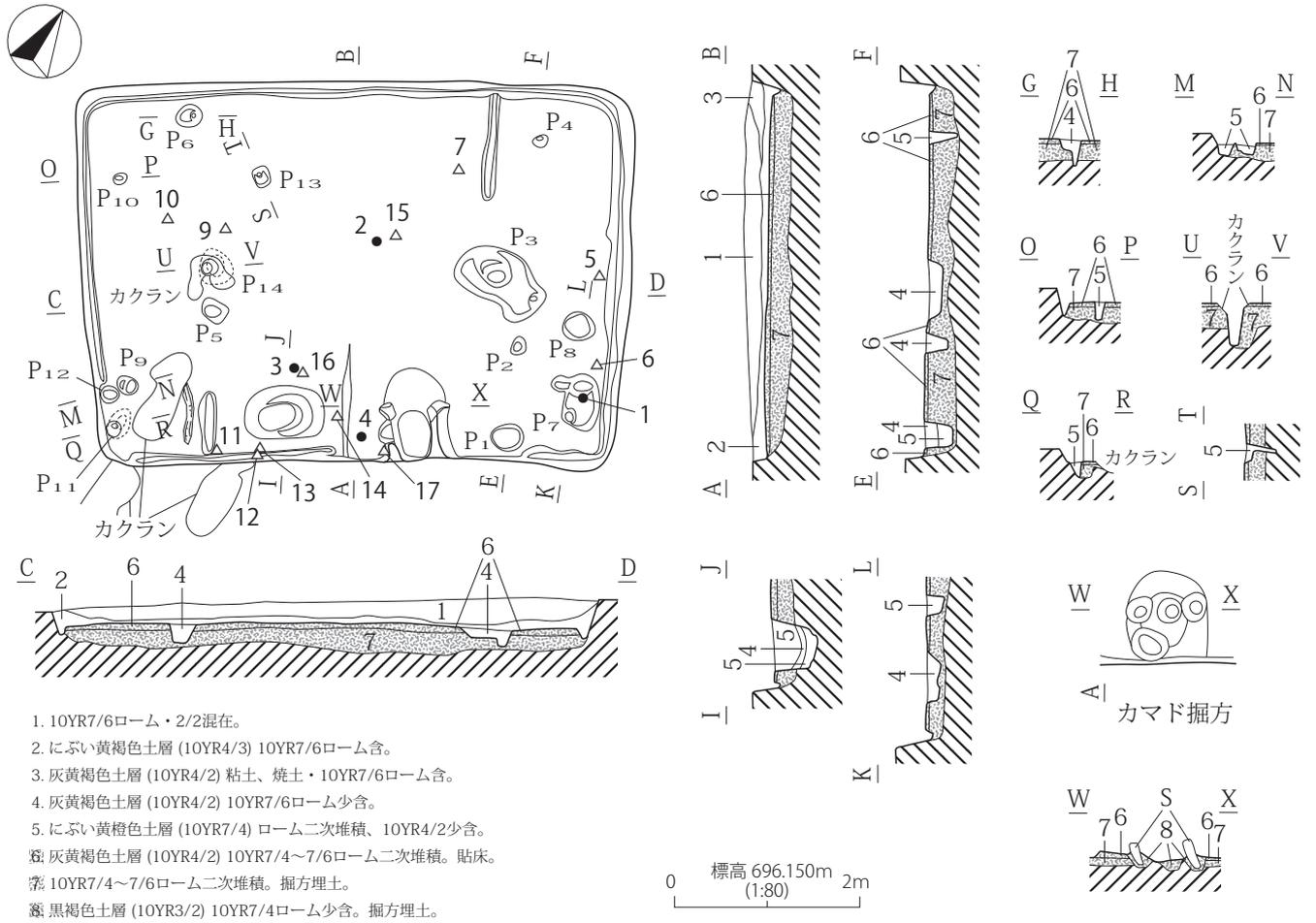
H16号住居址(第34・35図)



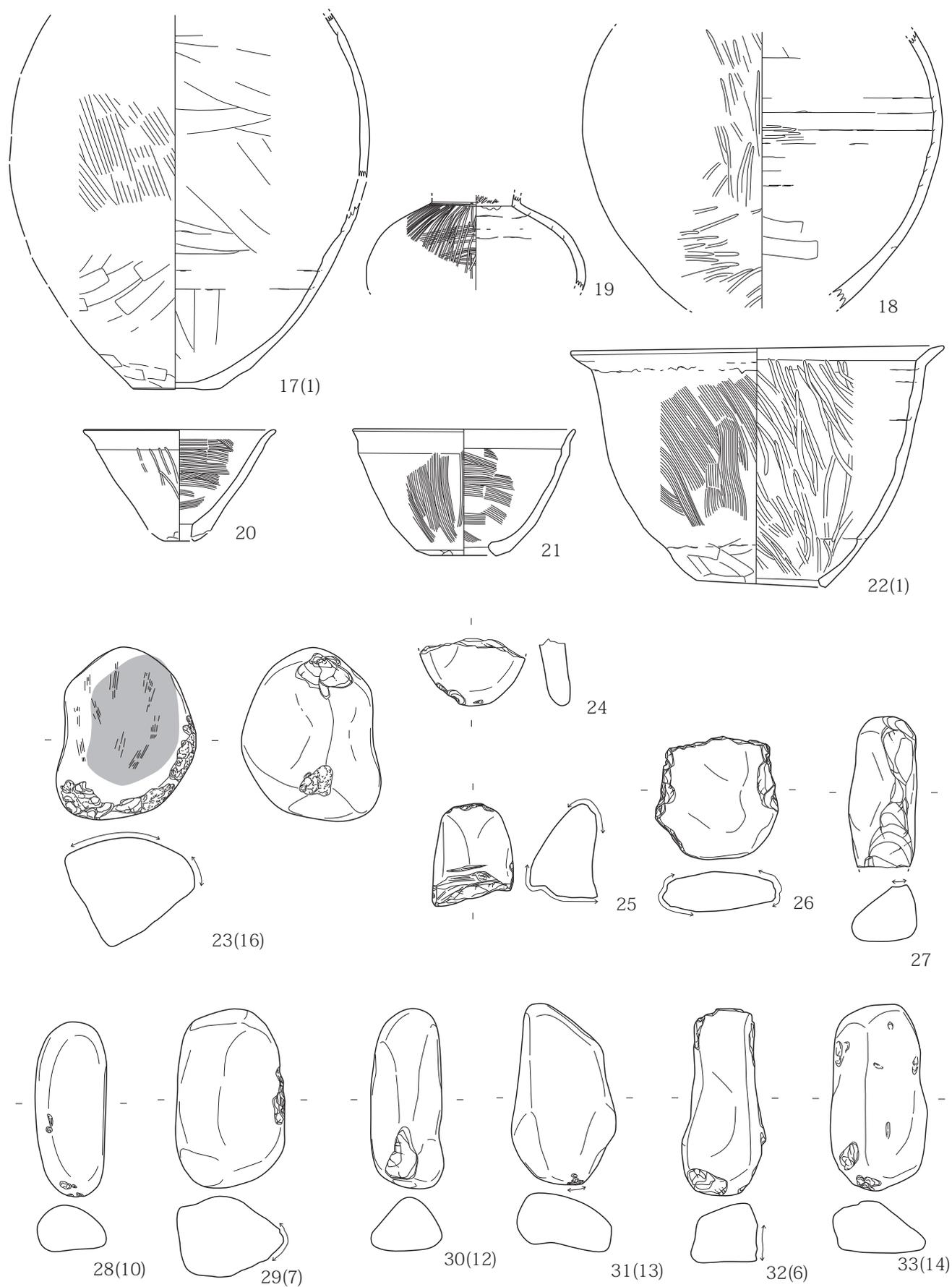
第 21 図 H 10 号住居址 (1)



第 22 图 H 10 号住居址 (2)

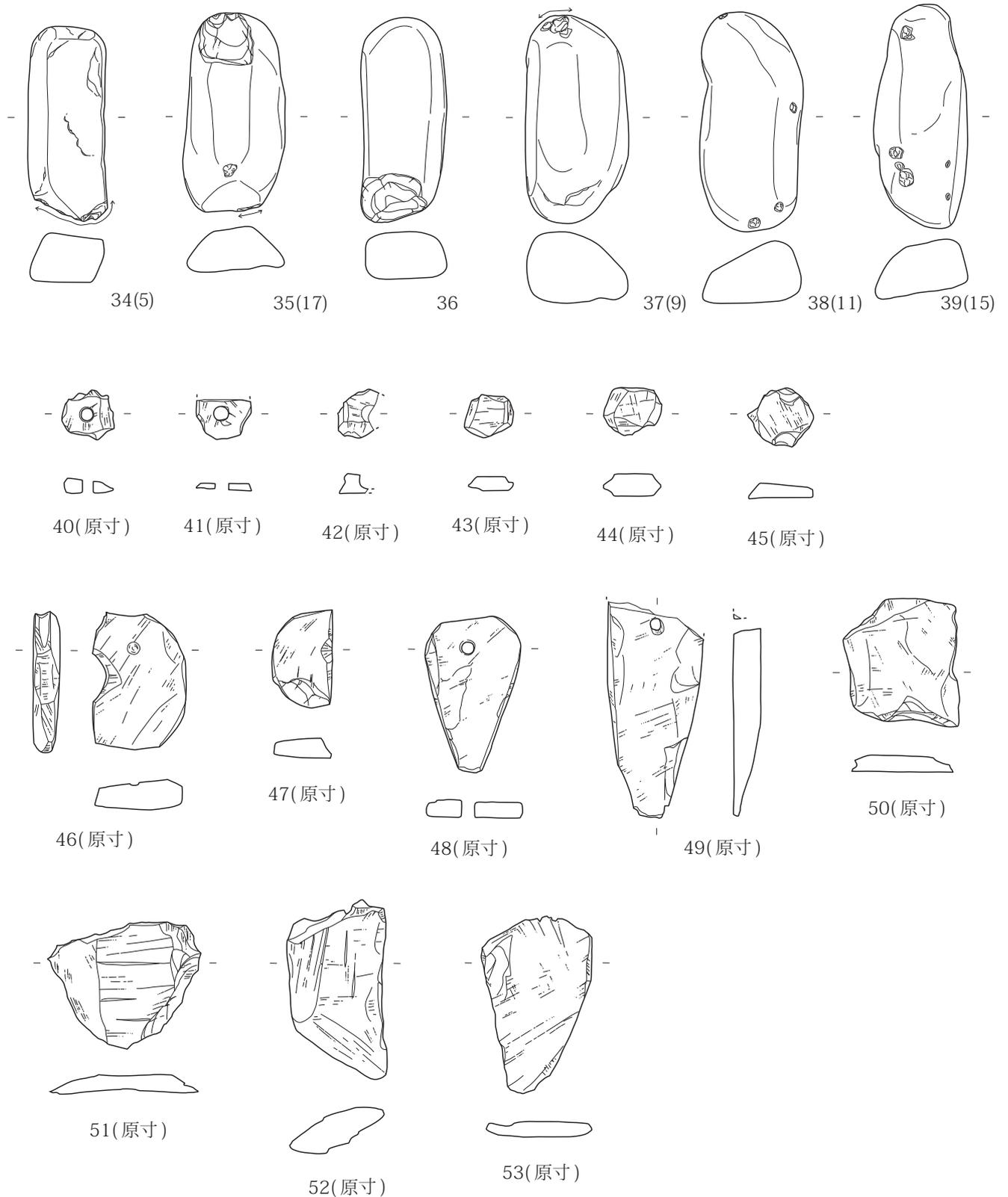


第23図 H 11号住居址(1)

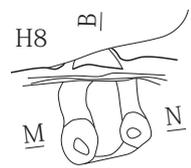
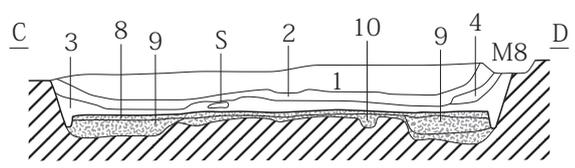
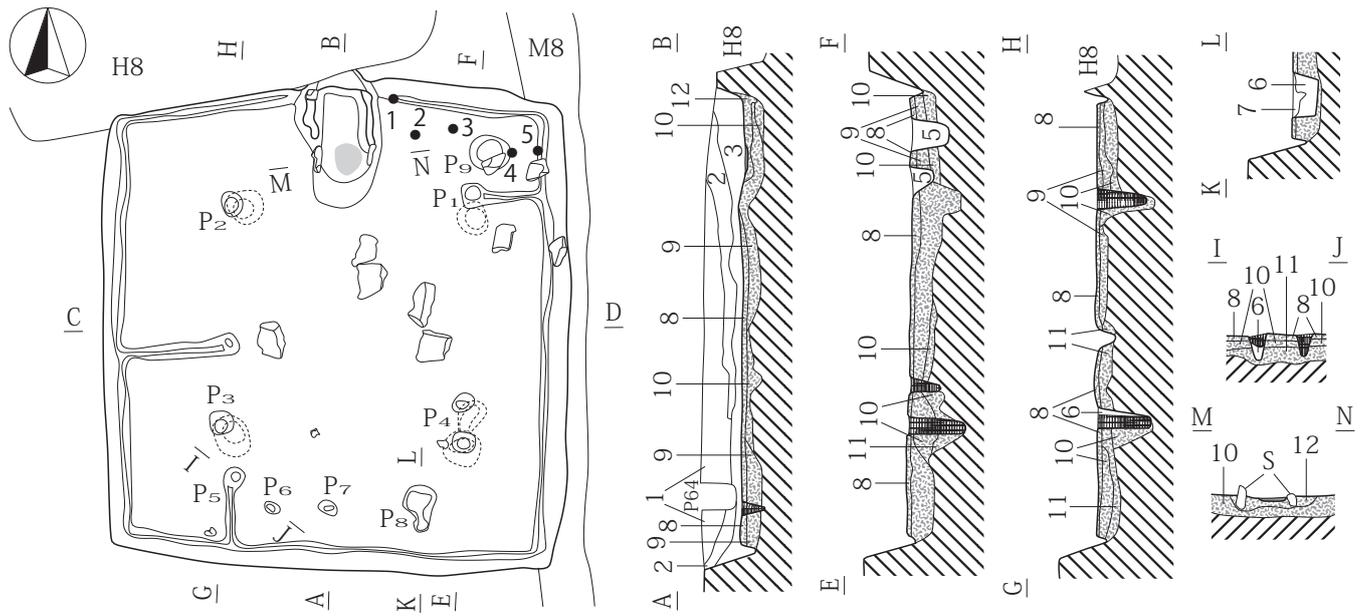


第 24 图 H 11 号住居址 (2)

VI B 7 グリットで検出された。M10 号溝址に切られ、M1 号溝址を切る。西側に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。N-6°-Eに主軸をとり、長軸長 4.9 m、壁残高 0.56 mの規模を有する。カマドは北壁の中央と思われる場所に石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分が突き出るため、H12 同様に住居の平面形は五角形を呈するものと思われる。カマド部分を除く壁下には周溝が巡らされ、周溝から P1 に向かい

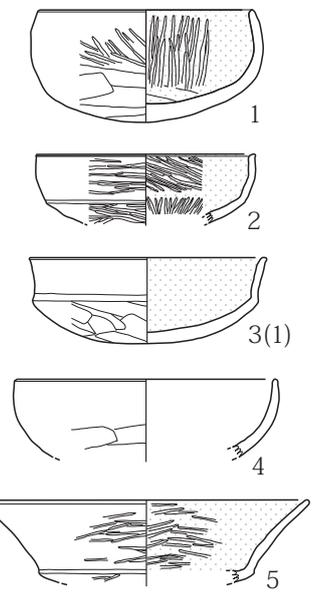


第25図 H11号住居址(3)

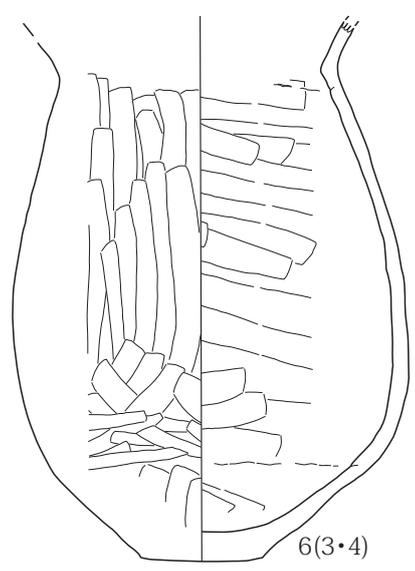


カマド掘方

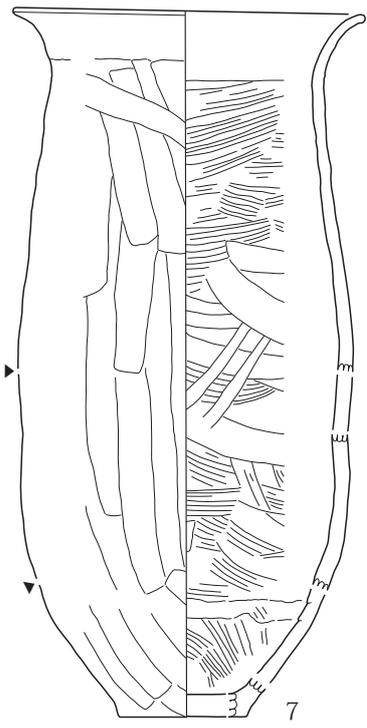
0 標高 696.35m (1:80) 2m



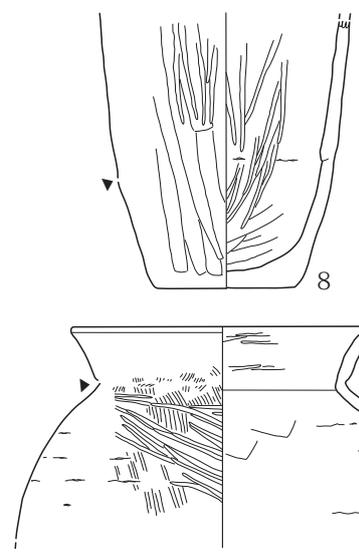
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4~7/6ローム多含、2/2少含。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含、炭化物含。
 3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 下層に炭化物の帯状堆積、10YR2/2・7/4ローム少含。
 4. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR5/3少含。
 5. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR2/2・7/4ローム少含。
 6. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) 10YR7/6ローム主体、5/3・2/2少含。
 7. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 10YR7/6ローム少含。
 8. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。貼床。
 9. 10YR2/2・3/2・8/6ローム混在。掘方埋土。
 10. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。掘方埋土。
 11. 黒褐色土層 (10YR2/2)。
 12. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム含。カマド掘方埋土。
- 焼土。
 ▨ にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 柱痕。



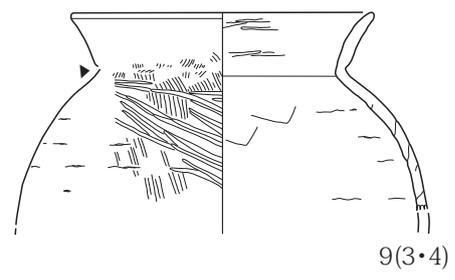
6(3・4)



7

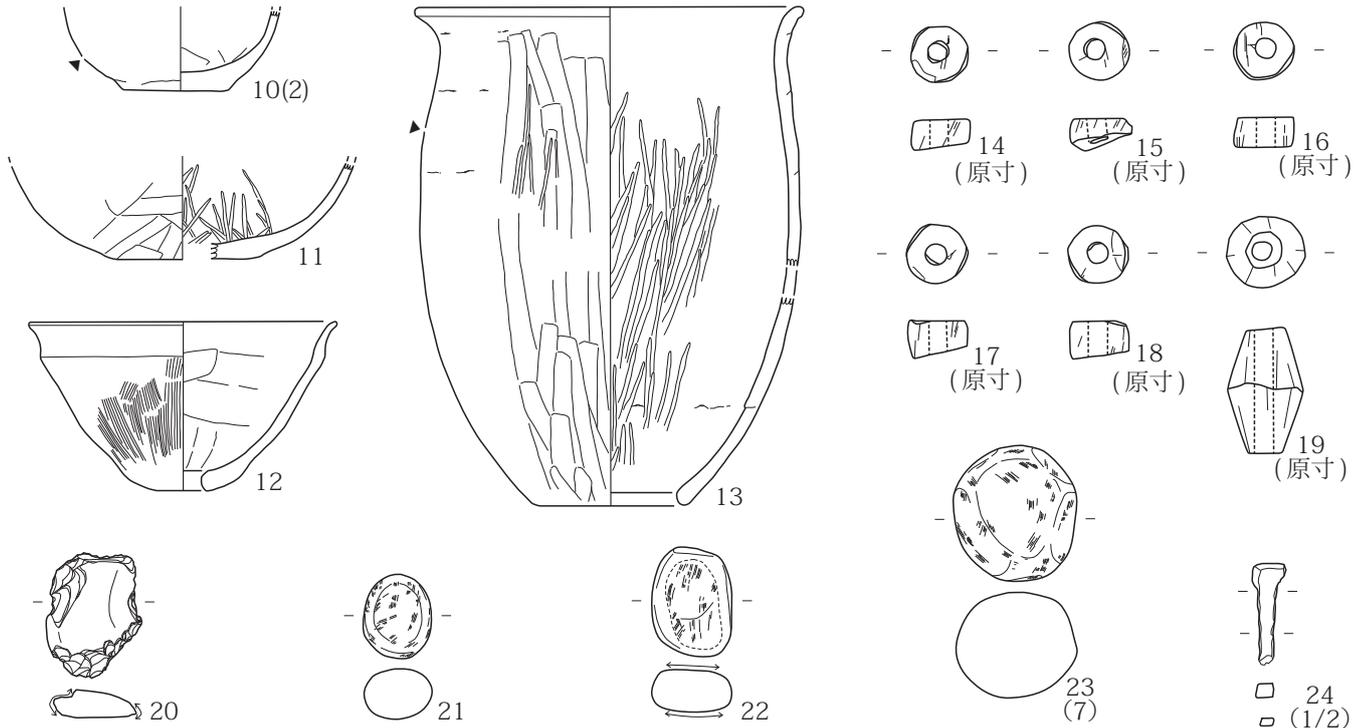


8

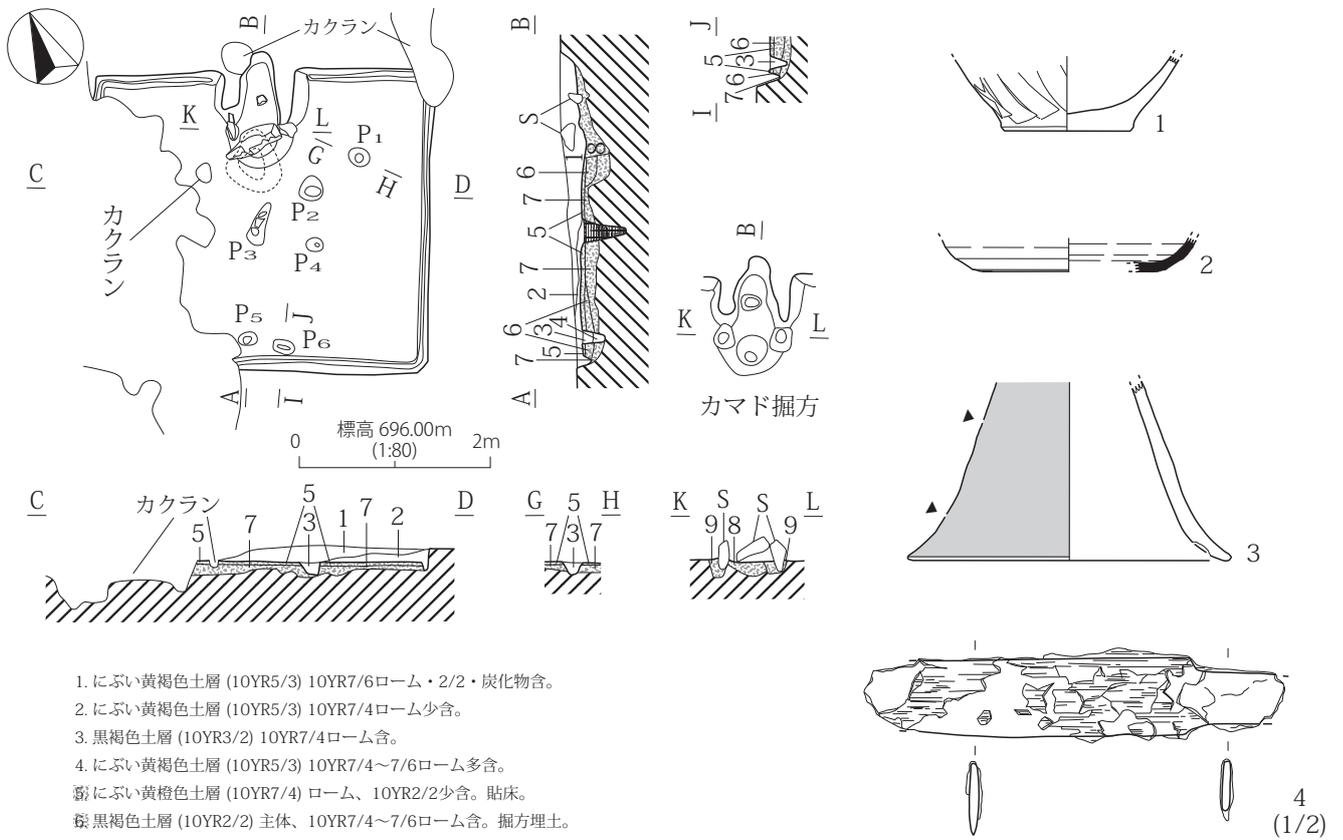


9(3・4)

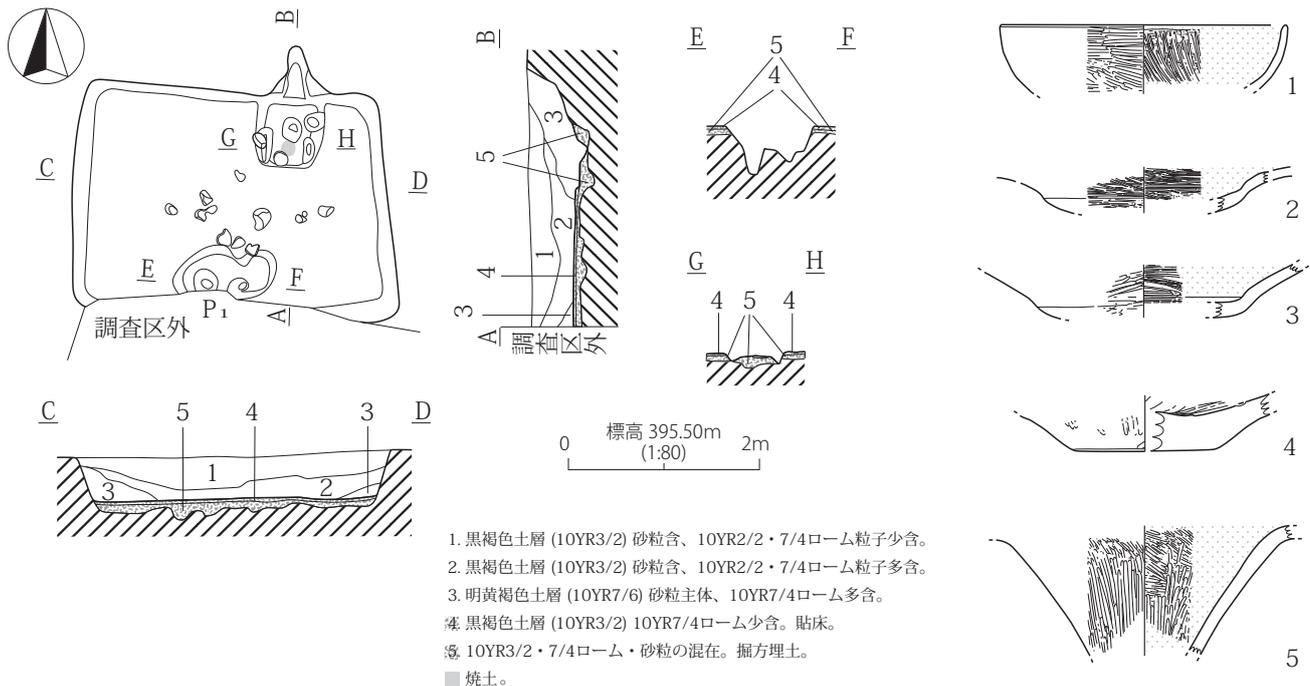
第 26 図 H 12 号住居址 (1)



第 27 図 H 12 号住居址 (2)



第 28 図 H 13 号住居址



第 29 図 H 14 号住居址

間仕切溝が連結されていた。北東隅の壁下には貯蔵穴が存在する。P1・P2の2基のピットは支柱穴で、φ15cm前後の柱痕が確認できた。覆土は単層で人為埋土である。床面直上に多量の炭化材、灰、焼土の堆積が認められたことから、本址は焼失住居と考えられる。

遺物は土師器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器には高坏(1)、鉢(2)、甕(3~9)、甑(10・11)の器種が認められる。高坏は脚部片で、端部は「L」字状に屈折して開いている。鉢は広口で体部に最大径を有する。甕は体部が球胴気味で、あまり長胴ではない。口縁形態は頸部から緩やかに開くもの(4・5)と強く「く」字に開くもの(6・7)が存在する。3・9はハケメ調整が用いられるが、他はヘラナデかヘラケズリ調整である。甑は2点共に大型のものである。11は底部を欠損するため確証を欠くが、内外面がヘラミガキ調整であることと、その形態から甑とした。底部は全開する。弥生土器は混入品で、全て中期後半の栗林式である。12が甕の他は壺である。石器・石製品は台石(16)、磨石(17・18)、剣形模造品(19)が出土している。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

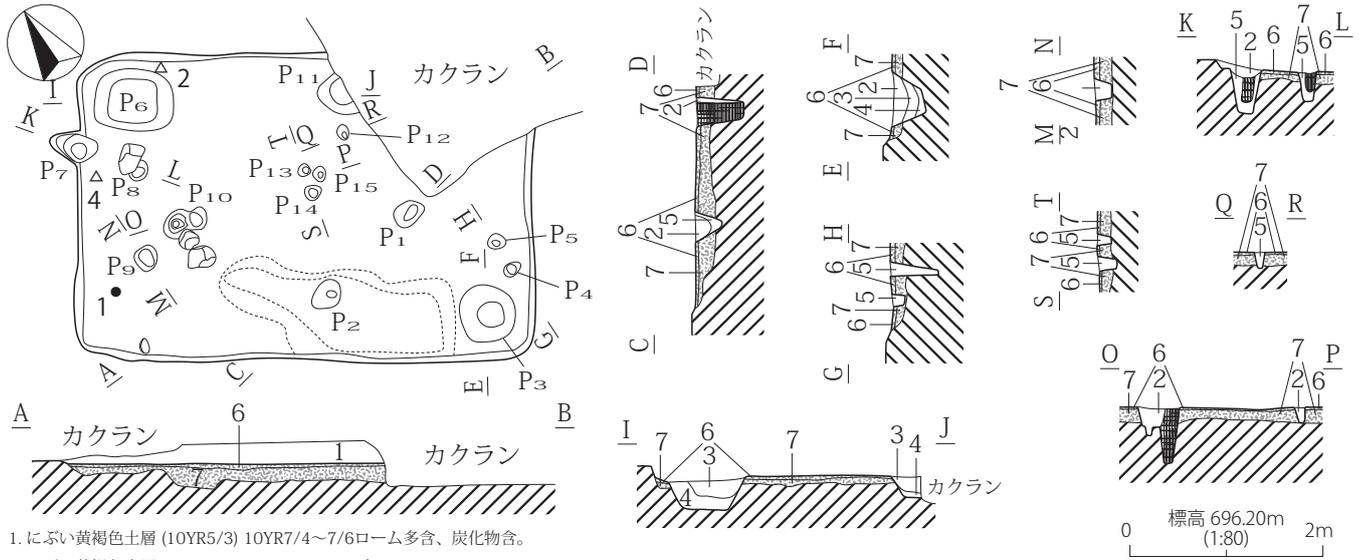
H 17号住居址 (第36図)

VH8グリッドで検出された。OT2号周溝墓を切る。南側に向かい調査区外に延びるため全容は不明である。N-0°-Eに主軸をとり、短軸長3.6m、壁残高0.37mの規模を有する。北辺に比べ、南辺が広い台形の平面形態である。カマドは東壁の東北隅近くに石組で構築されていた。また、北壁中央東寄りには旧カマドの痕跡が認められた。周溝は有さず、柱穴も判然としない。P3・P4の2基は出入口施設と思われる。

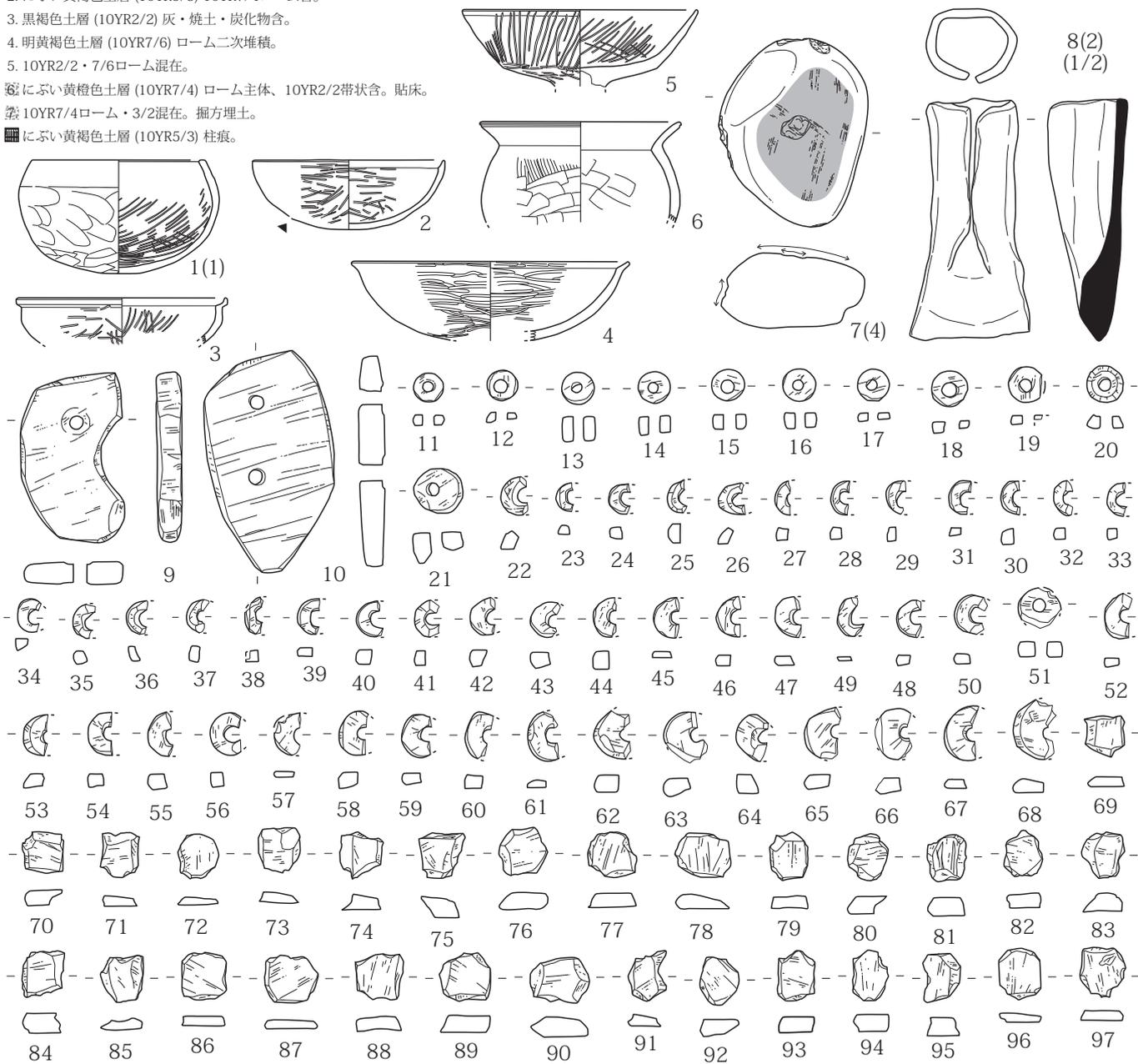
遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器・石製品、鉄製品が出土している。土師器には坏(1~5)、高坏(6)、甕(8~10)、甑(11)の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転糸切で、内面はヘラミガキ→黒色処理か暗文・黒色処理であるが、3は外底及び周縁部にヘラケズリ調整が施されている。また、5には墨書が認められるが、判読できない。高坏は脚部の破片であり、混入品である。須恵器は坏が1点出土している。底部に回転糸切痕をのこす。甕はロクロ甕とナデ調整のものである。甑は混入品である。弥生土器は全て混入品である。12~15は後期、16・17は中期後半栗林式である。石器・石製品は砥石(18)、磨製石斧(19)、磨石(20)、剣形模造品(21)の器種が認められる。本址に伴う可能性があるのは18と20であり、他の2点は混入品である。鉄製品は釘(22・23)と鏃(24)の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴は聖原編年の奈良・平安時代VI期に該当し、9世紀後半の実年代が想定されている。

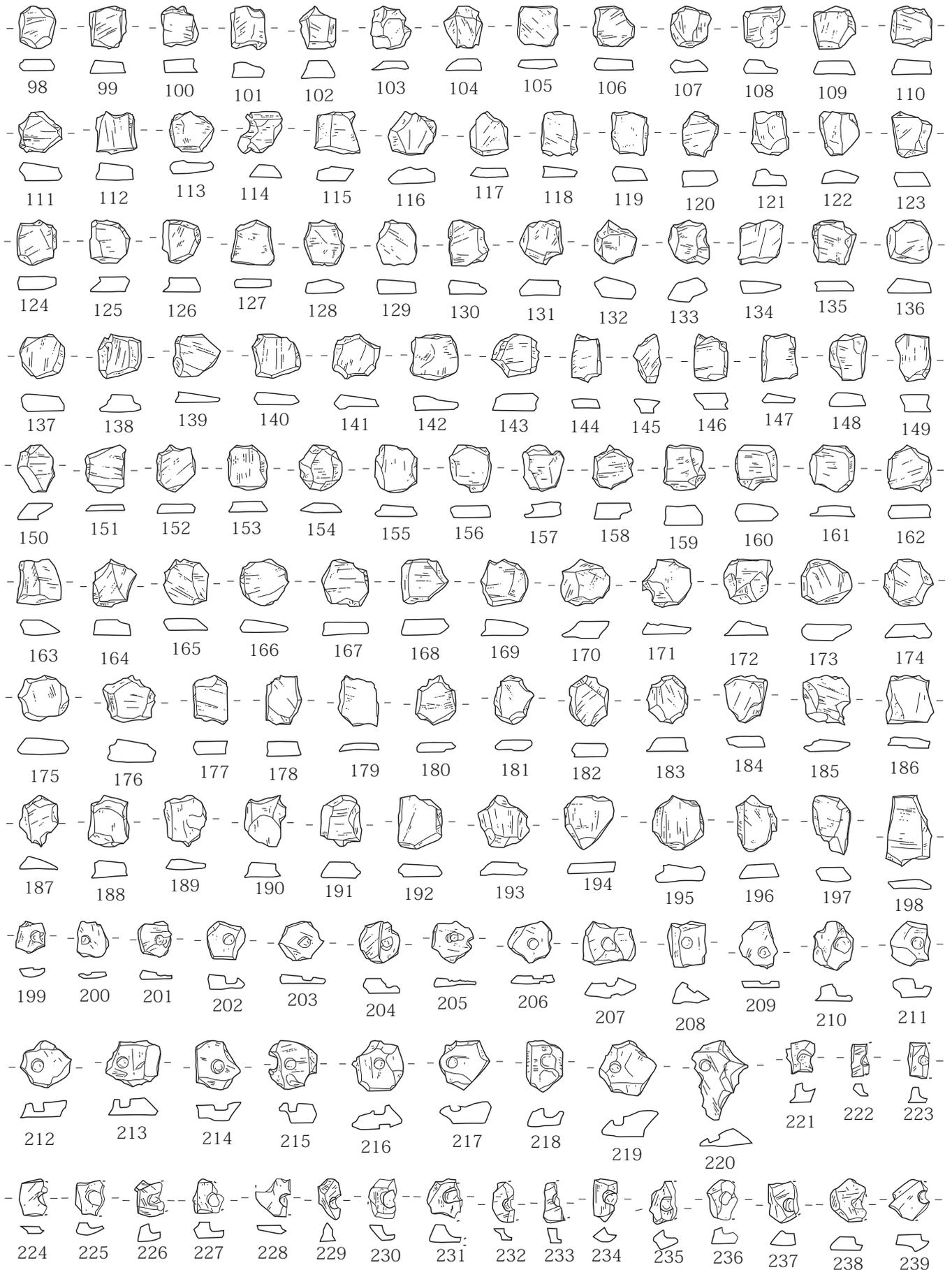
H 18号住居址 (第37図)



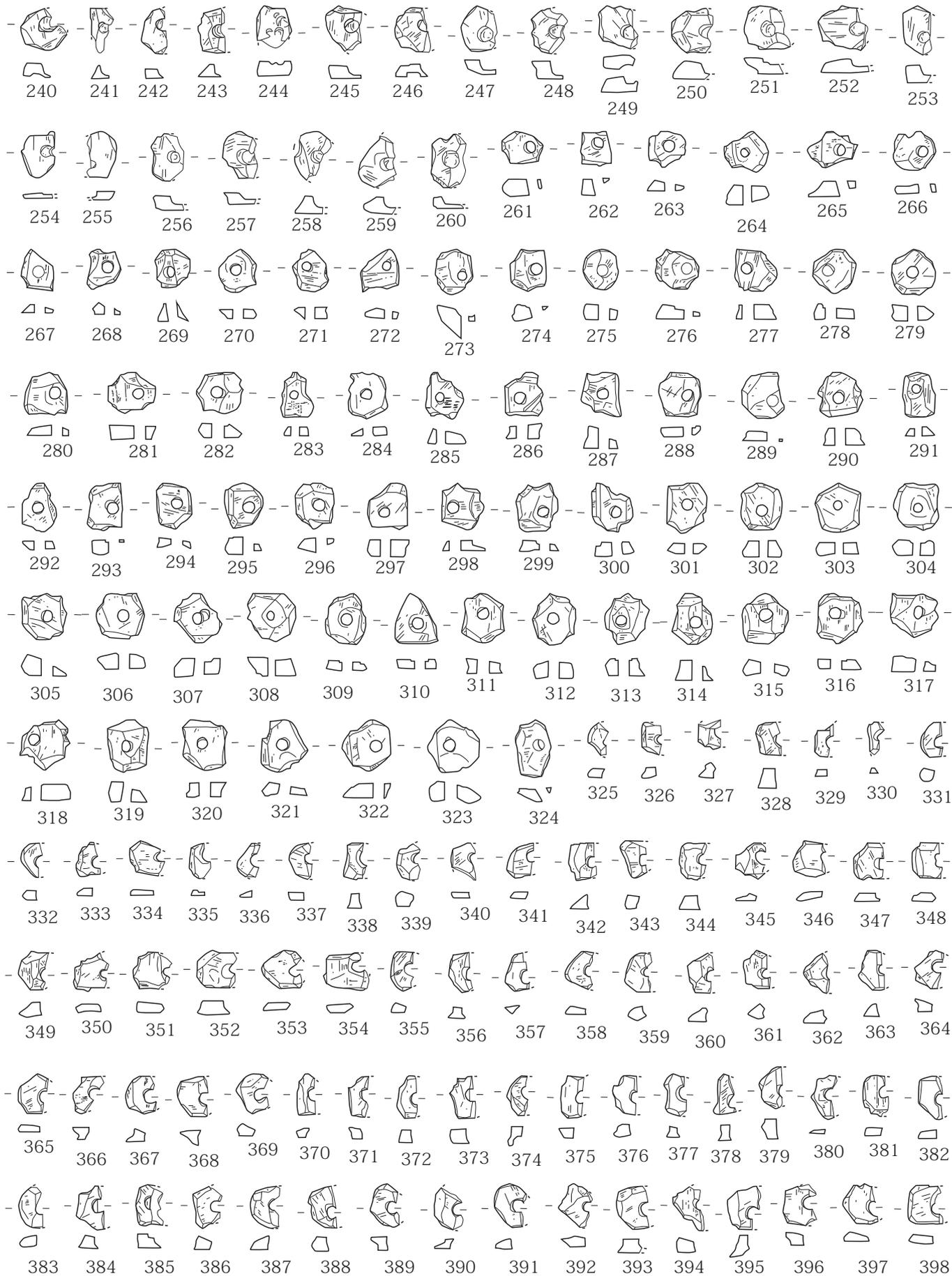
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4~7/6ローム多含、炭化物含。
 2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム含。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 灰・焼土・炭化物含。
 4. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。
 5. 10YR2/2・7/6ローム混在。
- ☉ にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2帯状含。貼床。
 ☼ 10YR7/4ローム・3/2混在。掘方埋土。
 ■ にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 柱痕。



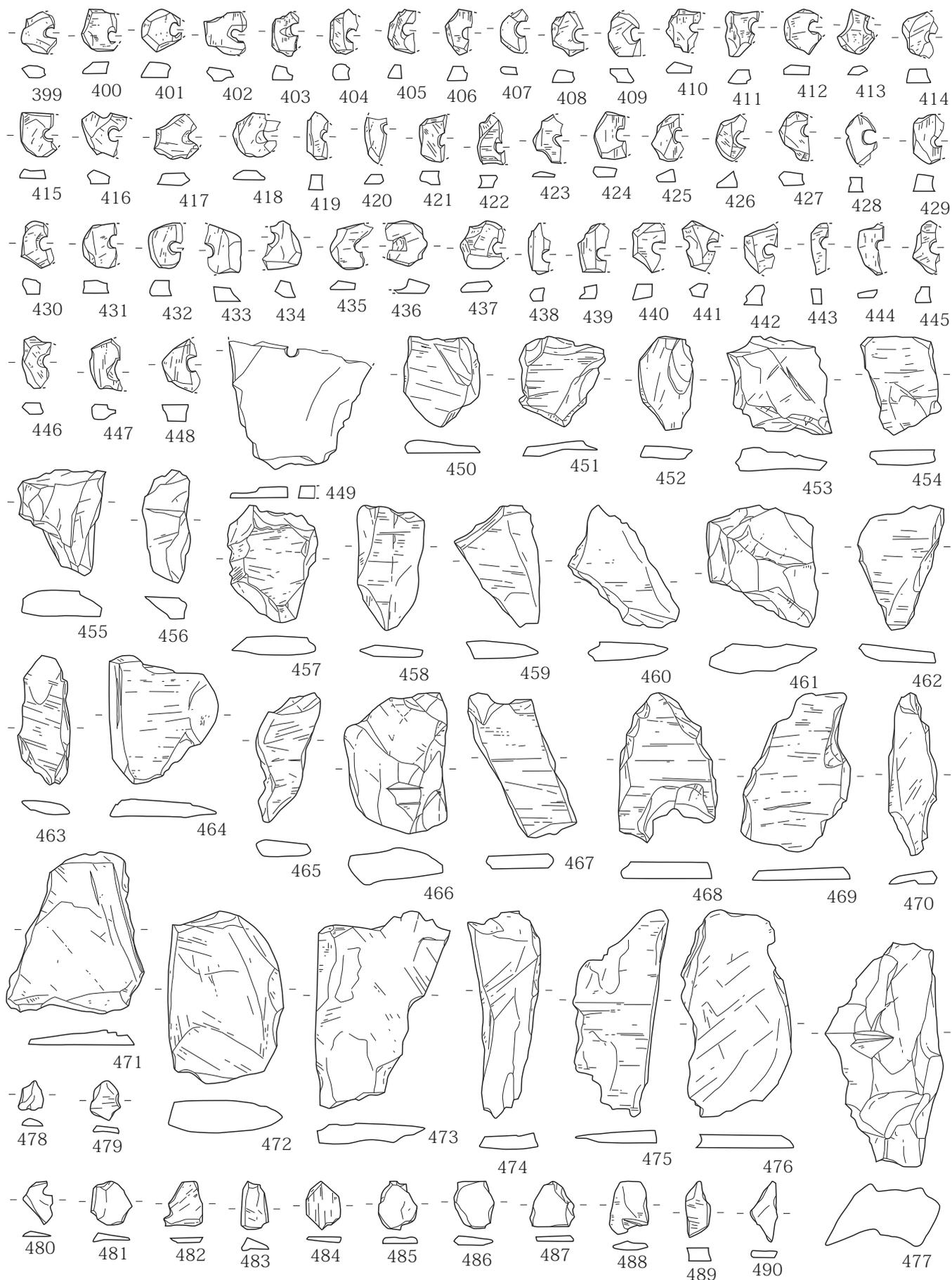
第30図 H 15号住居址 (1) (1~8以外は原寸)



第31图 H 15号住居址 (2) (原寸)



第32图 H 15号住居址(3) (原寸)



第33图 H 15号住居址 (4) (原寸)

V F 7 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-0°-Eに主軸をとり、長軸長 3.97 m、短軸長 3.78 m、壁残高 0.3 m、面積 12.43㎡の規模を有する。北辺に比べ、南辺が広い台形の平面形態である。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分を除く北壁及び東壁下には周溝が巡らされる。6基検出されたピットは、P3・P6の2基が支柱穴で、φ 16cm大の柱痕が確認された。その他のピットの性格は不明である。東南隅の壁下の土坑は貯蔵穴と思われる。

遺物は土師器と石器・石製品が出土している。土師器には坏(1・2)、高坏(3・4)、鉢(5)、甕(6)、壺(7・8)の器種が認められる。坏はD(1)とK(2)の形態が存在する。高坏は坏部に明確な稜をもち、脚端部が「L」字状に屈折して開いている。鉢は坏K形態を深くして、最大径を体部中央に持たせた形態で、外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施される。甕は小型で、最大径を体部に有する。口縁部は広口で、頸部から「く」字状に緩やかに開く。壺はいずれも口縁部が「く」字に強く外反して開き、7は端部が立ち上がり気味に摘み上げられる。8は面取り状に平坦な口唇である。石器・石製品は台石(9)と編物石(10)が出土している。

以上の出土遺物の特徴は西山編年の佐久平後期1期、富沢編年の古墳時代後期I期に該当するものであり、5世紀後葉から6世紀前葉の年代が考えられている。

H 19号住居址(第38～41図)

V D 7 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-6°-Eに主軸をとり、長軸長 5.72 m、短軸長 5.46 m、壁残高 0.41 m、面積 25.04㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分および東壁中央から東南隅を除く壁下には周溝が巡る。支柱穴P1～P4の4基のピットに向かい東壁、西壁から間仕切溝が連結される。また、P7には南壁から間仕切溝が連結されている。支柱穴にはφ 16cm大の柱痕が確認できた。P7～P9の3基のピットは出入口施設と思われる。東南隅に存在する土坑は貯蔵穴である。覆土中には多量の炭化材が包含されており、床面直上にも散乱していたことから本址は焼失住居と思われる。また、数多くの石製模造品やその未成品、素材、原石が出土していることから、玉作工房址と考えられる。

遺物は土師器、弥生土器、石器・石製品が出土した。土師器には坏(1～9)、高坏(10)、鉢(11)、甕(12～15)、壺(16～21)、甑(22～24)の器種が認められる。坏はD(5)とK(1～4、6～8)の形態が存在する。高坏は坏部の破片で明瞭な稜をもち、鉢は坏K形態を深くした形状で、器壁は厚く、輪積痕が明瞭である。甕は広口で最大径を体部に有する。壺は頸部が「く」字状に強く外反する。18は口唇部に強い面取りが施される。また、有段口縁の19も存在する。甑は底部が開口する形態で、頸部の括れがある。弥生土器はすべて混入品である。25のような後期のものと、27・28のような中期後半のものが存在する。石器・石製品には台石(29)、編物石(30～42)、使用痕の有る剥片(43)、石製模造品の原石(44)、白玉及び白玉未成品(45～56)、剣形模造品(57～66)、石製模造品の素材(67～78)が認められる。剣形模造品は孔が縦方向に2孔が穿たれ、鏝がなく、切先に向かい右側面が直線的な特徴的な形態である。

以上の出土遺物の特徴は富沢編年の古墳時代中期Ⅲ期に該当するものであり、5世紀後葉の年代が考えられている。

第2節 掘立柱建物址

F 1号掘立柱建物址(第42図)

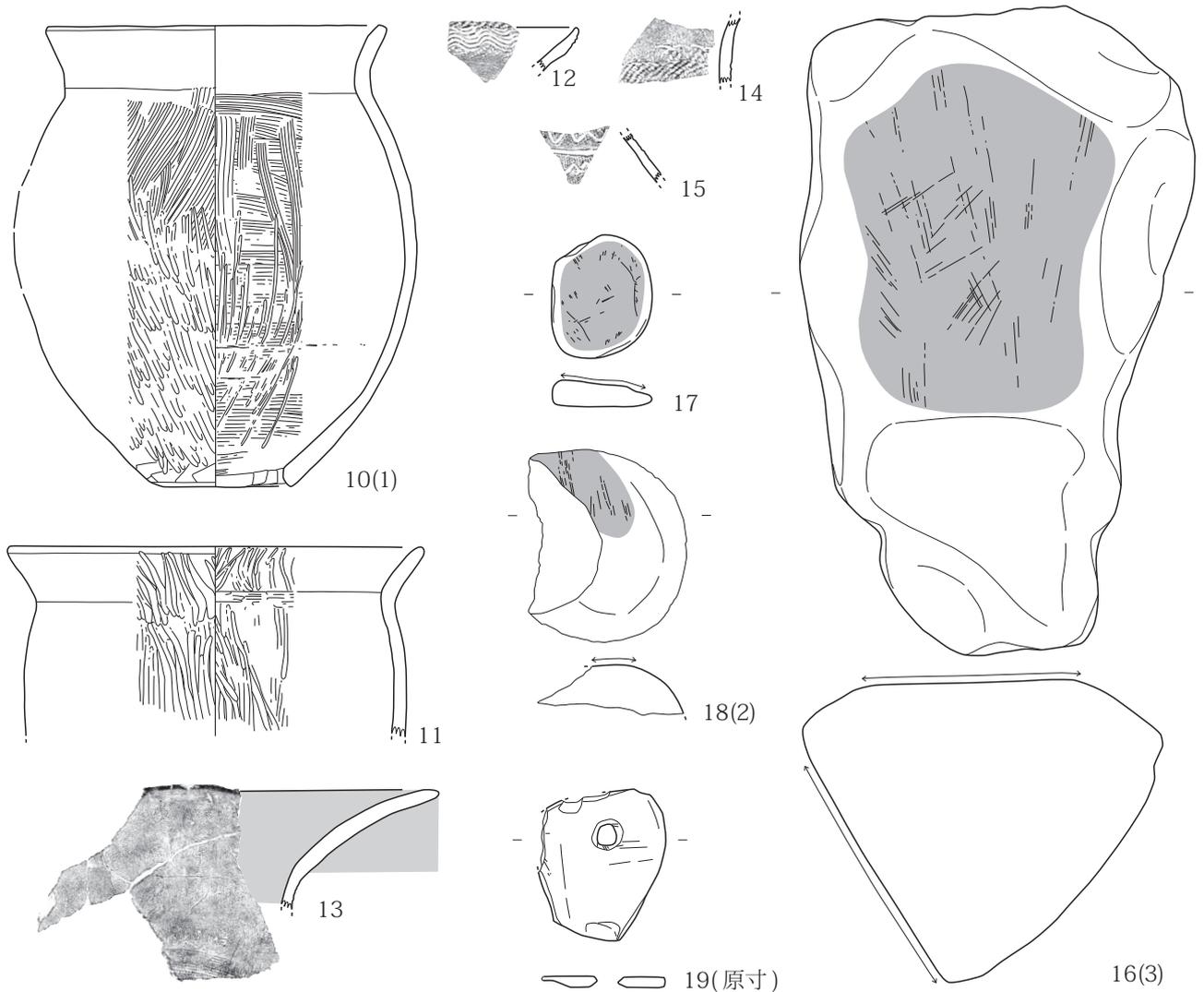
V H 2 グリットで検出された。P40に切られM3を切る。N-90°-Eに主軸をとる。桁行長 3.79 m、桁行柱間 1.9 m、梁間長 2.31 m、梁間柱間 2.31 m、面積 8.77㎡、柱径φ 15cmの規模を有する側柱の形態である。P5内には礎石が認められた。

出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

F 2号掘立柱建物址(第42図)

V I A 8 グリットで検出された。P73に切られる。桁行柱間 1.65 m、柱径 19cmの規模の他は、調査区外に延びるため全容は不明である。

遺物は土師器坏片が2点出土しており、その形態から古墳時代後期の所産と思われる。



第35図 H 16号住居址(2)

F 3号掘立柱建物址 (第42図)

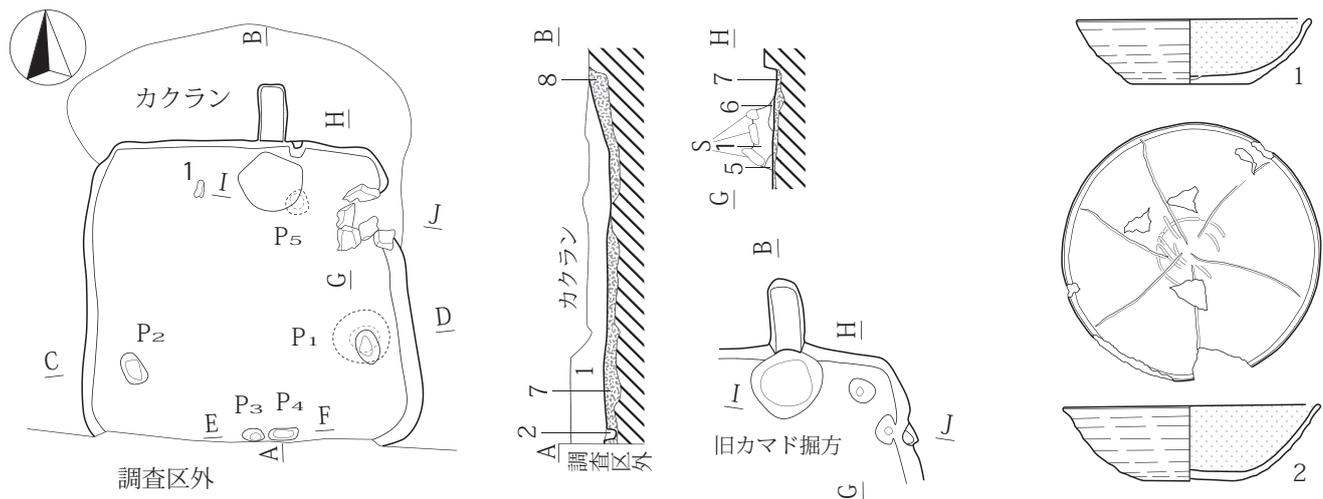
ⅢA 5グリッドで検出された。H7に切られる。N-74°-Eに主軸をとる。調査区外に延びるため全容は不明である。梁間長4.16m、桁行柱間1.27~1.69m、梁間柱間2.08mの規模である。

出土遺物は皆無であるが、重複関係からH7号住居址に先行するものである。

第3節 古墳及び周溝墓

古墳 (OT1) (第43・44図)

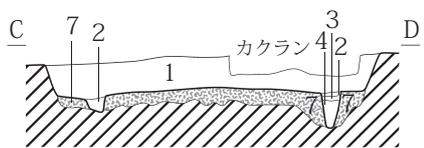
ⅣH 5グリッドで検出された。M1を切る。カクランによる破壊が著しい。調査区外に延びるため全容は不明である。周溝の最大幅2.05m、最大深度0.7mであった。羨道部分は下水管の埋設時に破壊され、框石と思われる方柱状の石がその埋土の中に存在した。60年以上前から既に天井石は存在していないことが、住民からの聞き取りで判明した。石室構築材の中では最大級であったであろう奥壁の石のみが人力では引き抜けずにそのまま残存していたものと思われる。調査時点までは未周知の古墳であった。側壁の石は奥壁に比べかなり貧弱であり、1~2段の石積みが残されていた。封土や外護列石、裏込石等は存在しなかった。耕作による破壊が礫床面にまで及んでいた。人骨は奥壁際から頭蓋骨が少なくとも2体分出土した。また、すぐ脇から大腿骨と思われる部位も出土しており、埋葬時の位置は保っていないものと思われる。頭蓋骨及び付随する歯はあまり大きくなく



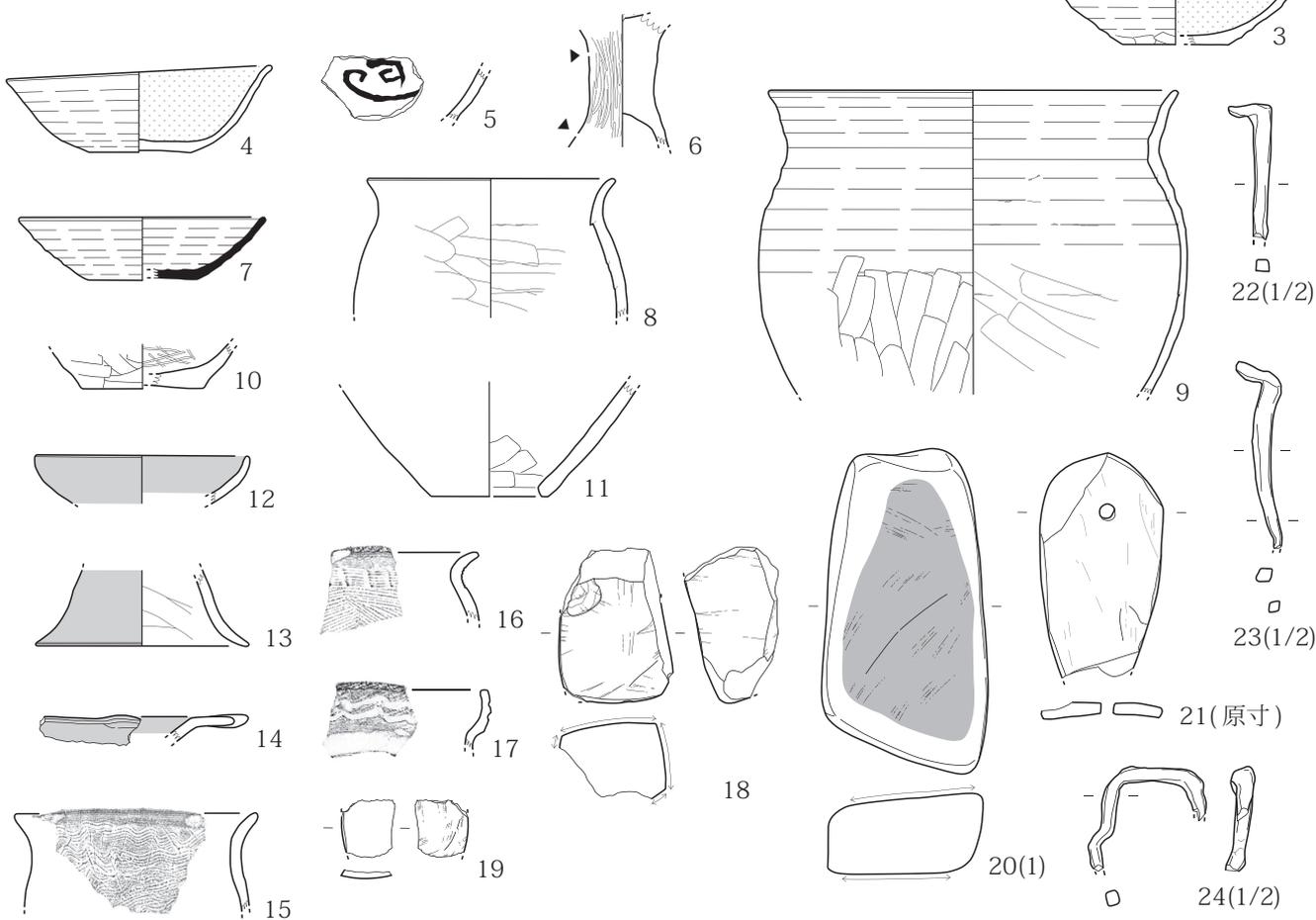
調査区外

標高 695.60m (1:80) 2m

カマド掘方



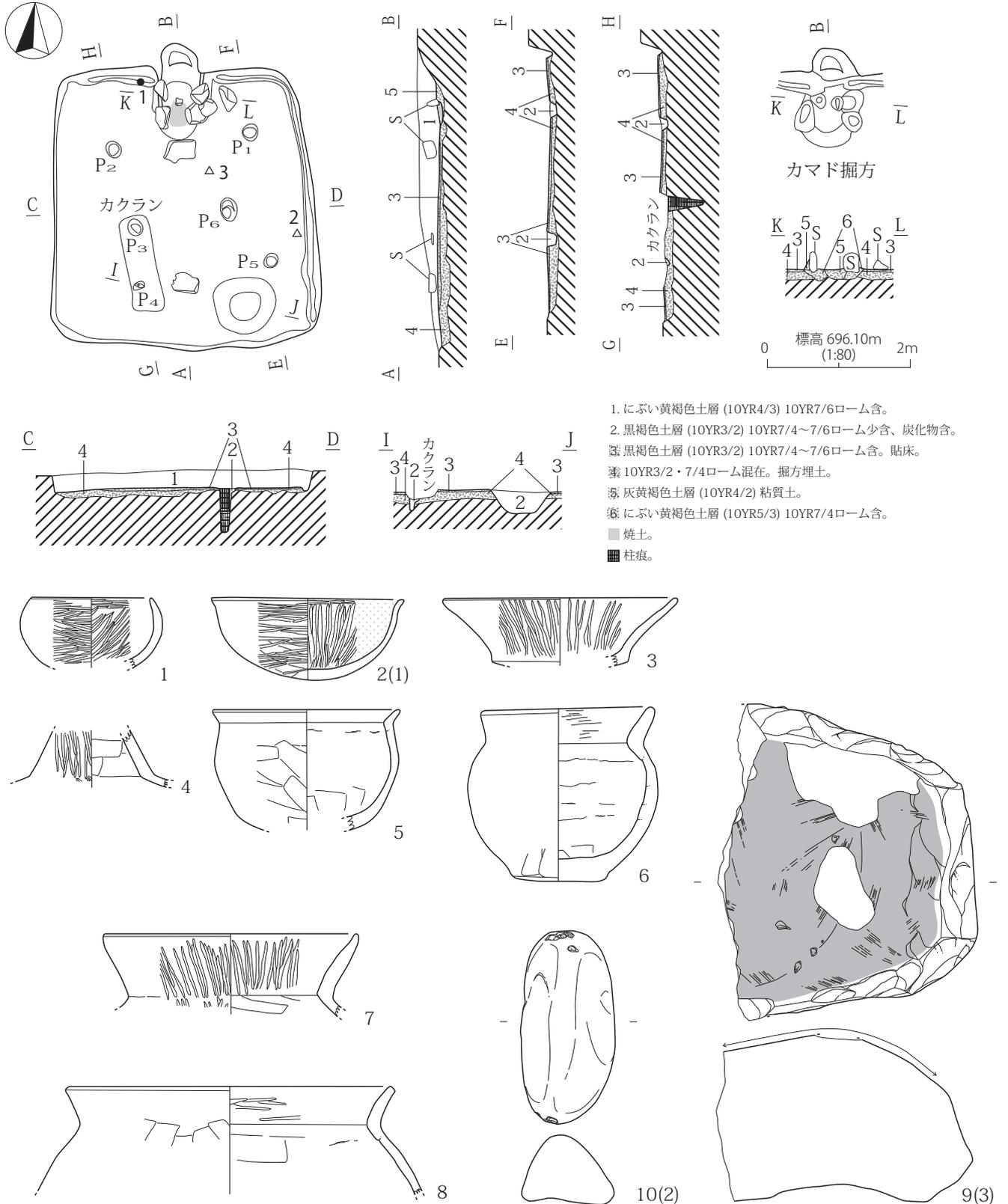
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6ローム含、砂粒・炭化物少含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2)。
3. 10YR6/3・砂粒・ロームの混在。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 砂粒の二次堆積。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 砂粒・10YR7/4ローム含。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム・砂粒含。
7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR3/2・砂粒主体、7/4~7/6ローム少含。
8. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 灰・焼土多含。



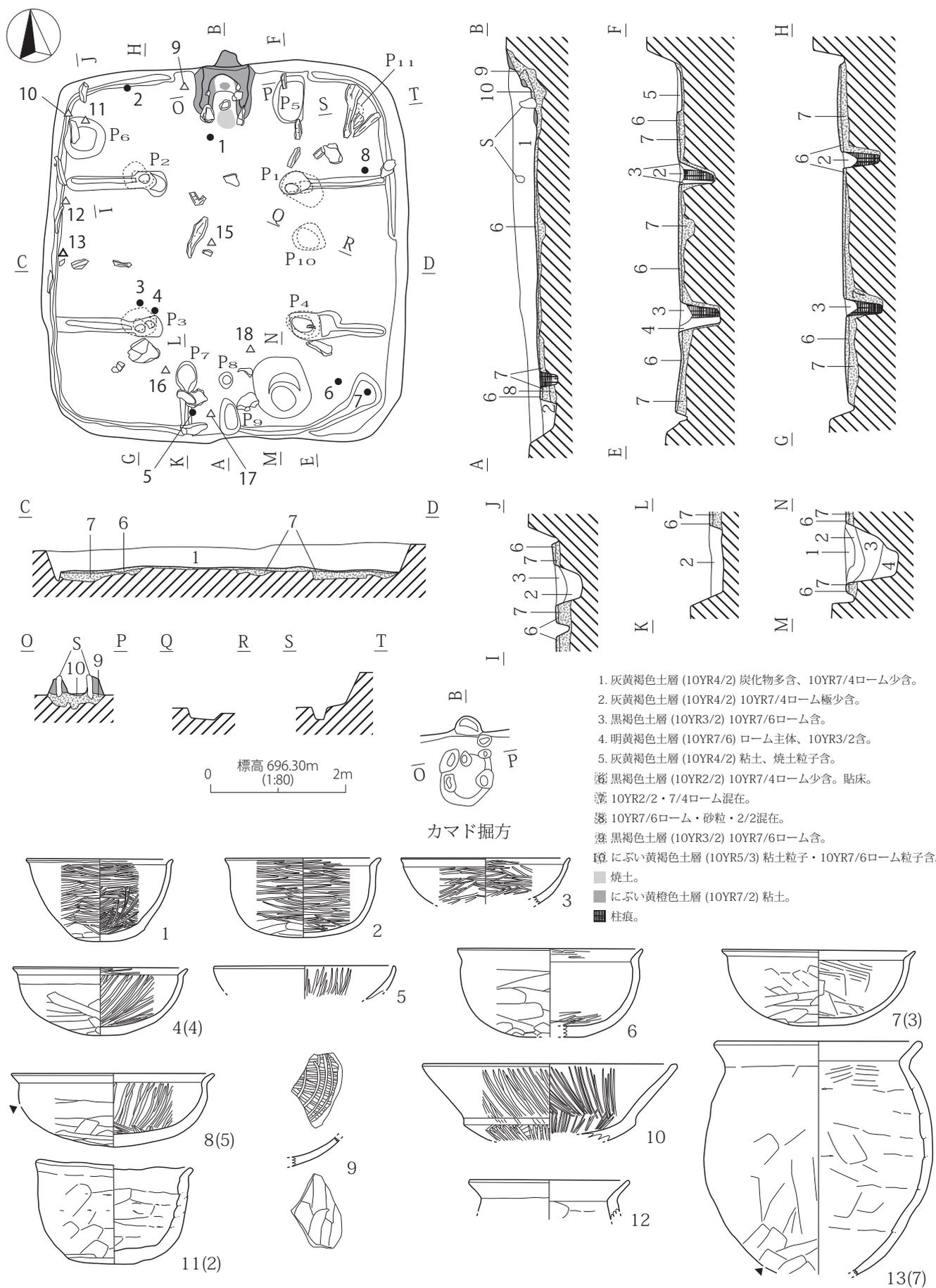
第36図 H 17号住居址

女性か子供の可能性が高い。

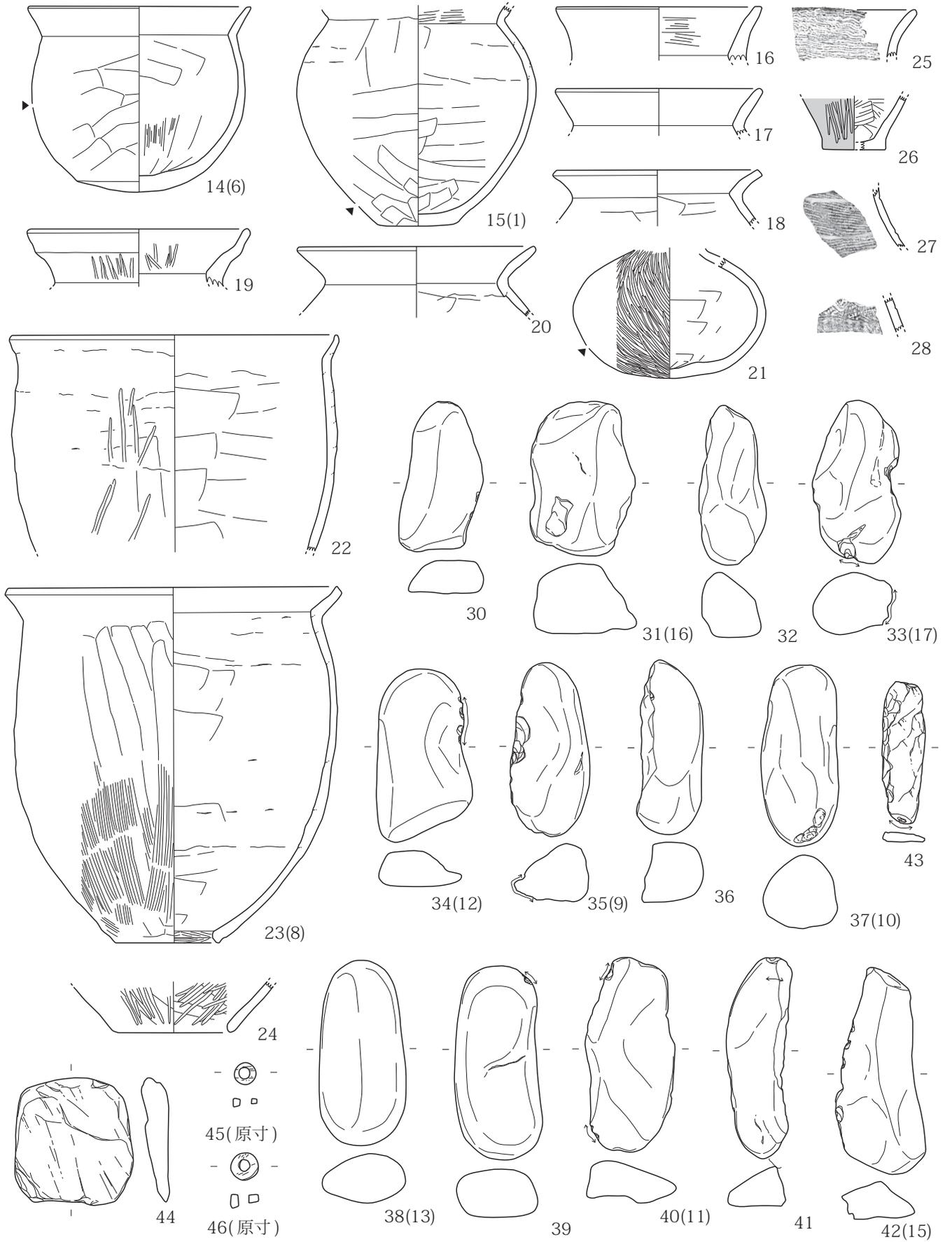
遺物は須恵器、緑釉陶器、鉄器が出土した。須恵器には坏（1～4）、有台坏（5～7）、短頸壺蓋（8）、坏蓋（9・10）、甕（13～15）、壺（16～18）、横瓶（19）の器種が認められる。緑釉陶器は碗が2点出土している。鉄器は2本を撚り合わせた軸状のもの（20）と刀子（21・22）が2点出土した。出土土器は7世紀末から10世



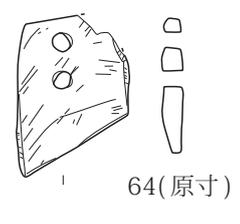
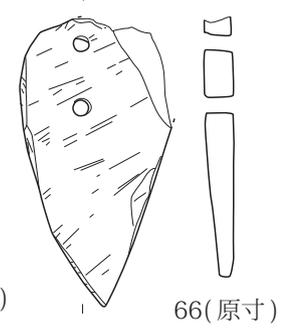
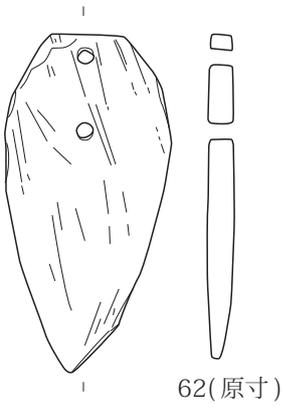
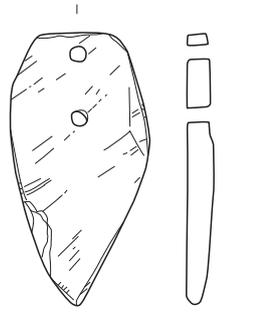
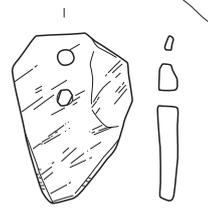
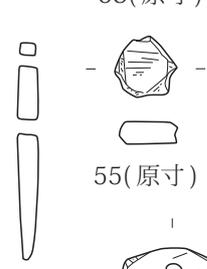
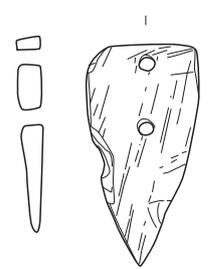
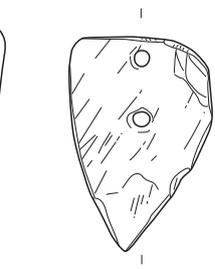
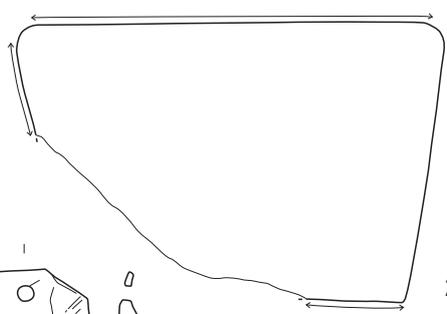
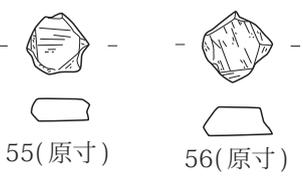
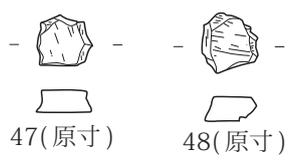
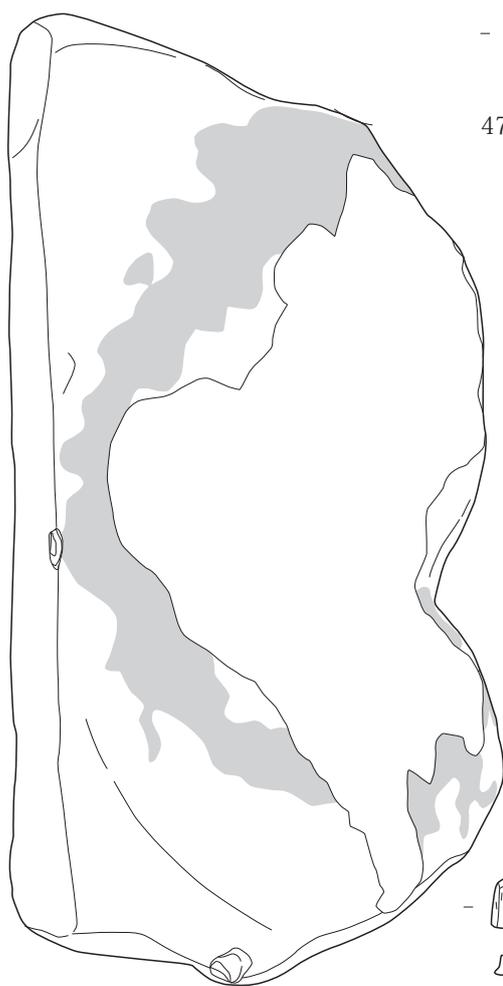
第37図 H18号住居址



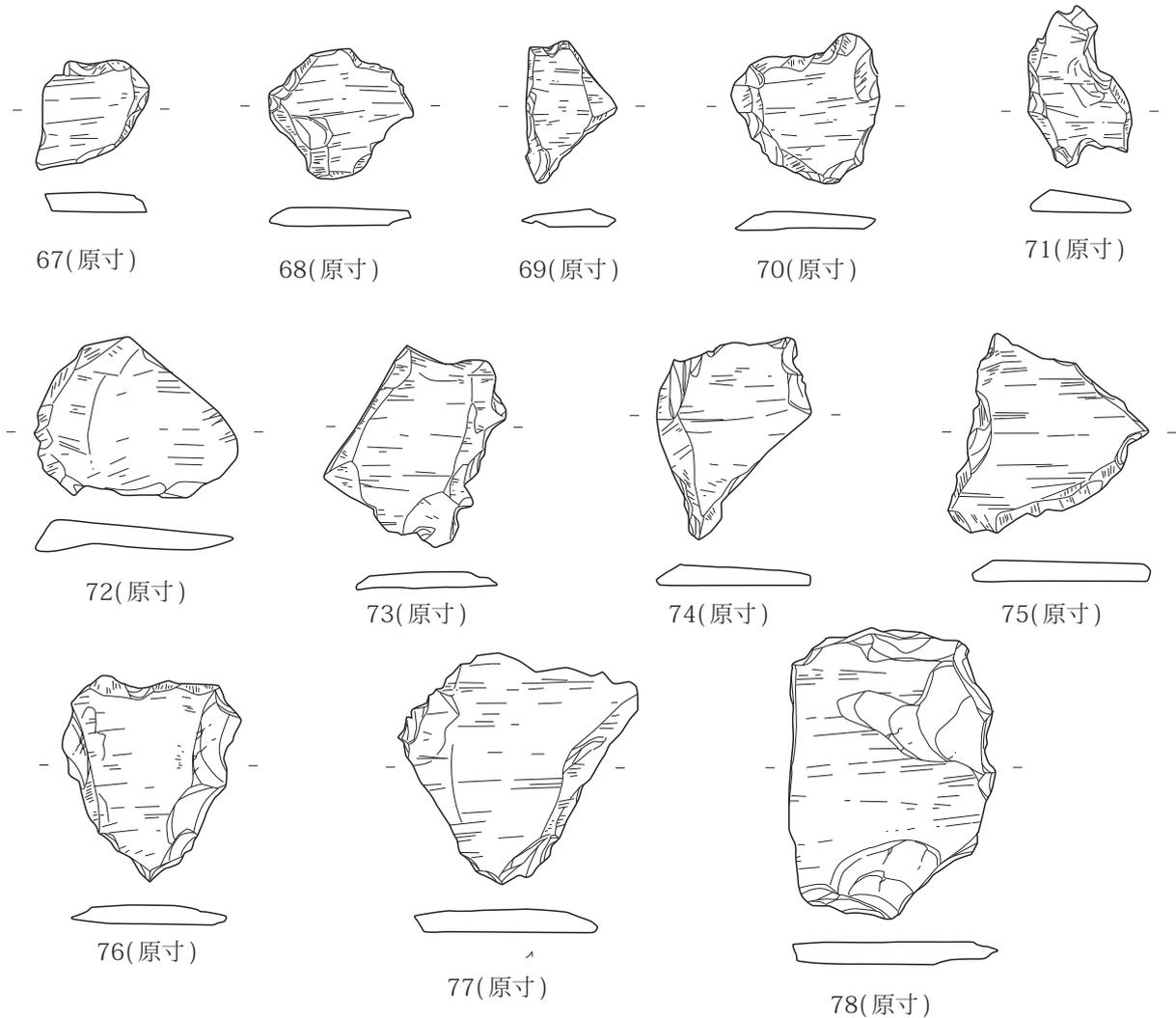
第38図 H 19号住居址 (1)



第39图 H 19号住居址 (2)



第40图 H 19号住居址 (3)



第41図 H19号住居址(4)

紀前半に及ぶことから複数回の追葬が行われたものと思われる。出土遺物の出土位置は22の刀子が礫床から出土したのみであり、その他のものは周溝及び覆土内からの出土である。

OT2円形周溝墓(第45図)

VG7グリットで検出された。H17号住居址、カクランに切られる。周溝の長径の外周径5.61m、内周径4.52m、溝の最大幅0.72m、最大深度0.3mの規模である。形態的には2か所か1か所が切れるものと思われる。主体部は組み合わせ式の木棺墓で長さ1.59m、幅0.82m、深度0.27mの規模で、隅丸長方形の平面形である。長軸は東西にとる。

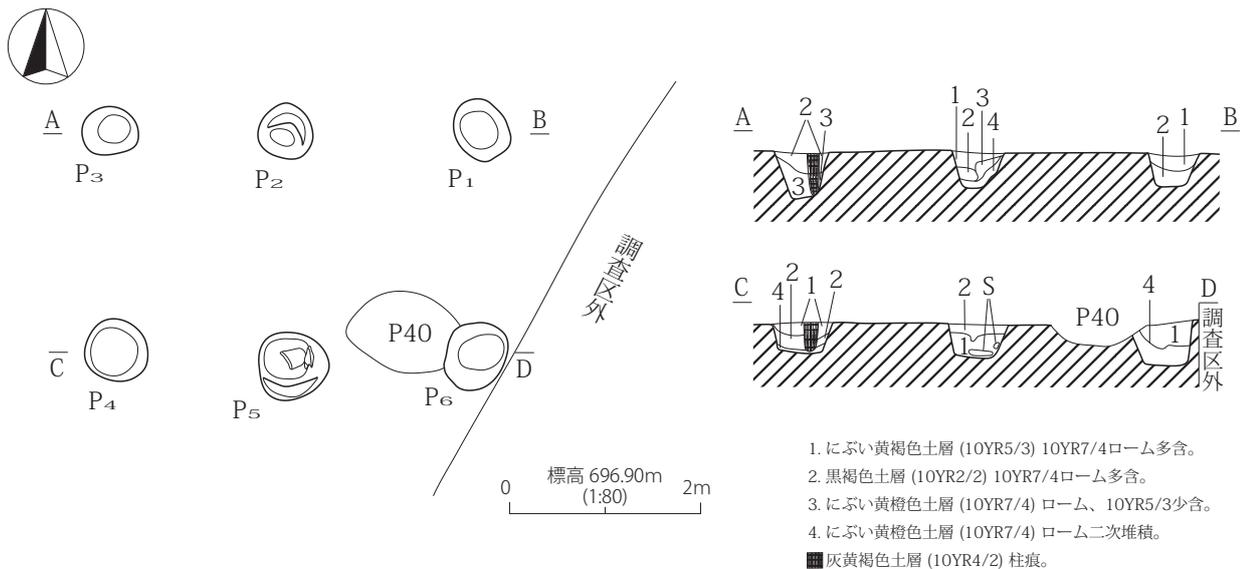
遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器・石製品が出土している。弥生土器以外は混入品である。弥生土器は2点共に高坏で赤彩が施されている。

以上の出土遺物から本址は弥生時代後期の所産と思われる。

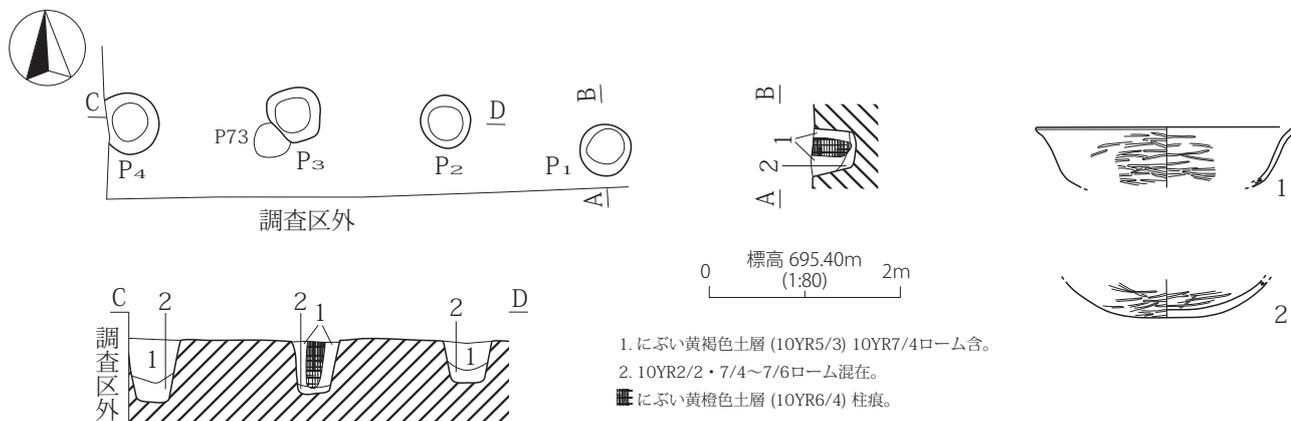
OT3円形周溝墓(第46図)

VB7グリットで検出された。カクランによる破壊を受けている。周溝の長径の外周径5.97m、内周径3.82m、短径の外周径5.58m、内周径4.69m、溝の最大幅0.74m、最大深度0.37mの規模である。2か所で溝が切れる平面形態である。主体部は残存していなかった。

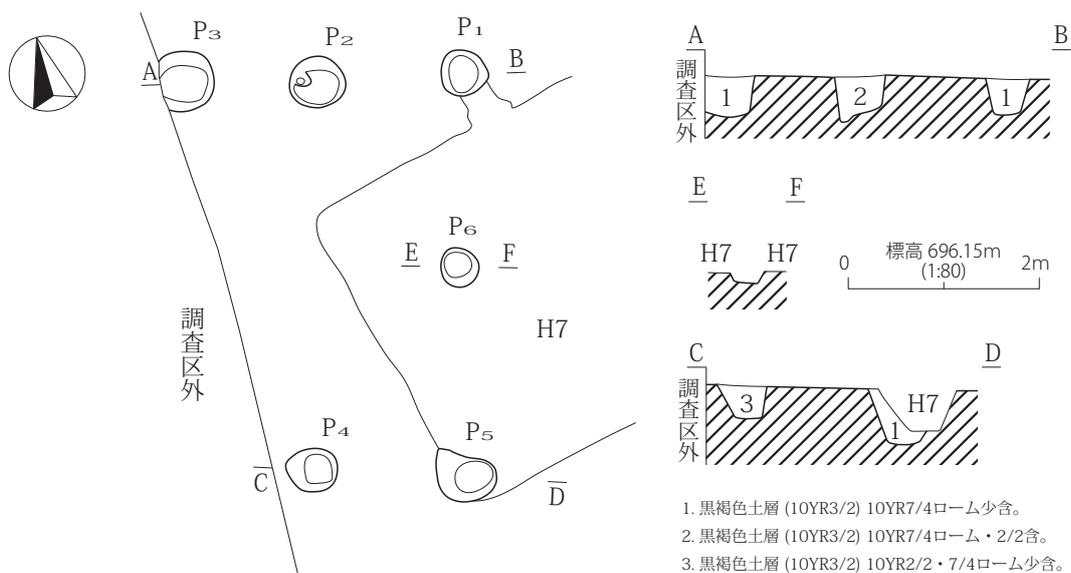
遺物は弥生土器と石器・石製品が出土している。弥生土器の器種には鉢(1)、高坏(2~5)、甕(6~8)、壺(9・



F 1号掘立柱建物址



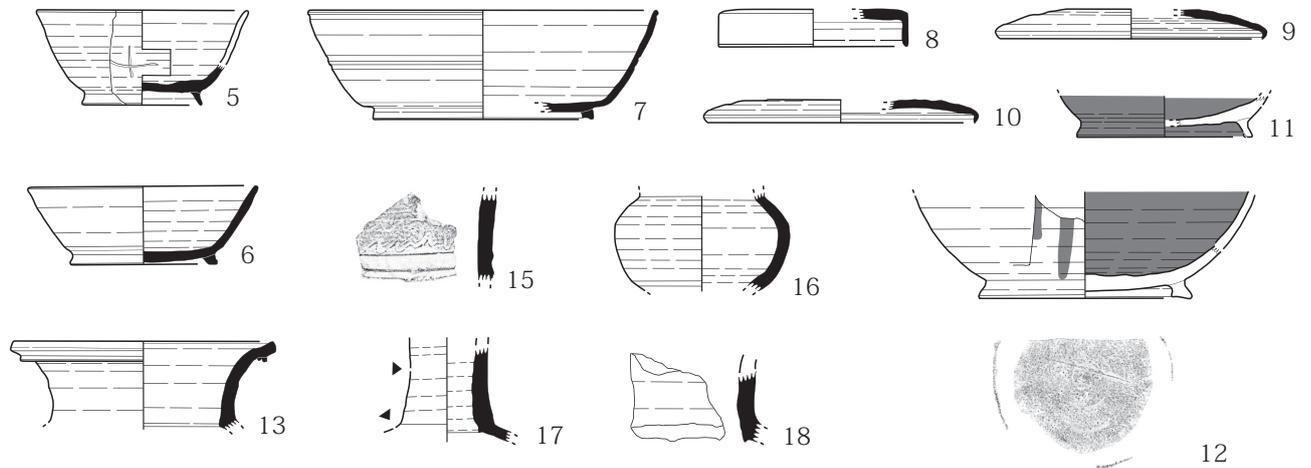
F 2号掘立柱建物址



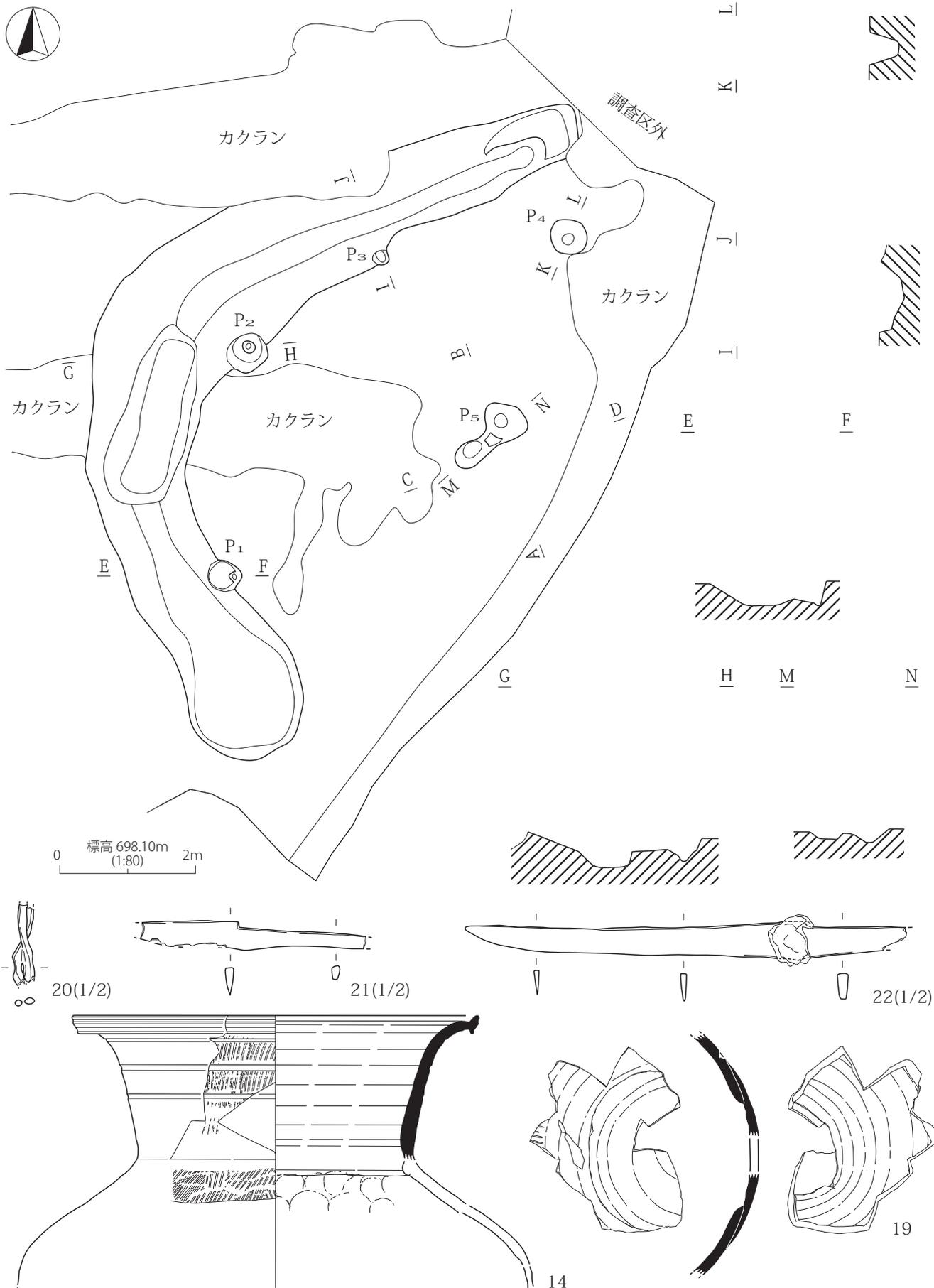
F 3号掘立柱建物址



石・骨・遺物分布図



第43図 古墳(OT1)(1)



第44図 古墳 (OT1) (2)

10) がある。甕以外は全て赤彩が施される。甕の櫛描文は波状文のもの、斜走文のものがあり、頸部文様帯を有さないものと、櫛描簾状文が巡るものがある。高坏は口縁部が屈折するが、坏下部に稜は持たない。脚部に透かし孔をもつものが存在する。壺は体部下半が屈折し、頸部に櫛描「T」字文が施文されている。口縁部は単純口縁のもの、受口のものがある。石器・石製品は黒曜石製のスクレイパーが1点出土しているが混入品であろう。

以上の出土遺物の特徴から本址の時期は、小山編年の弥生時代後期IV期古に該当するものと思われる。

OT4円形周溝墓 (第47図)

VA6グリットで検出された。P87に切られ、M1号溝址を切る。カクランにより著しい破壊を受けていた。長径の外周径4.49m、内周径3.82m、短径の外周径4.1m、内周系3.63m、溝の最大幅0.62m、最大深度0.34mの規模である。主体部は残存していなかった。2か所で溝が切れる平面形態である。

出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

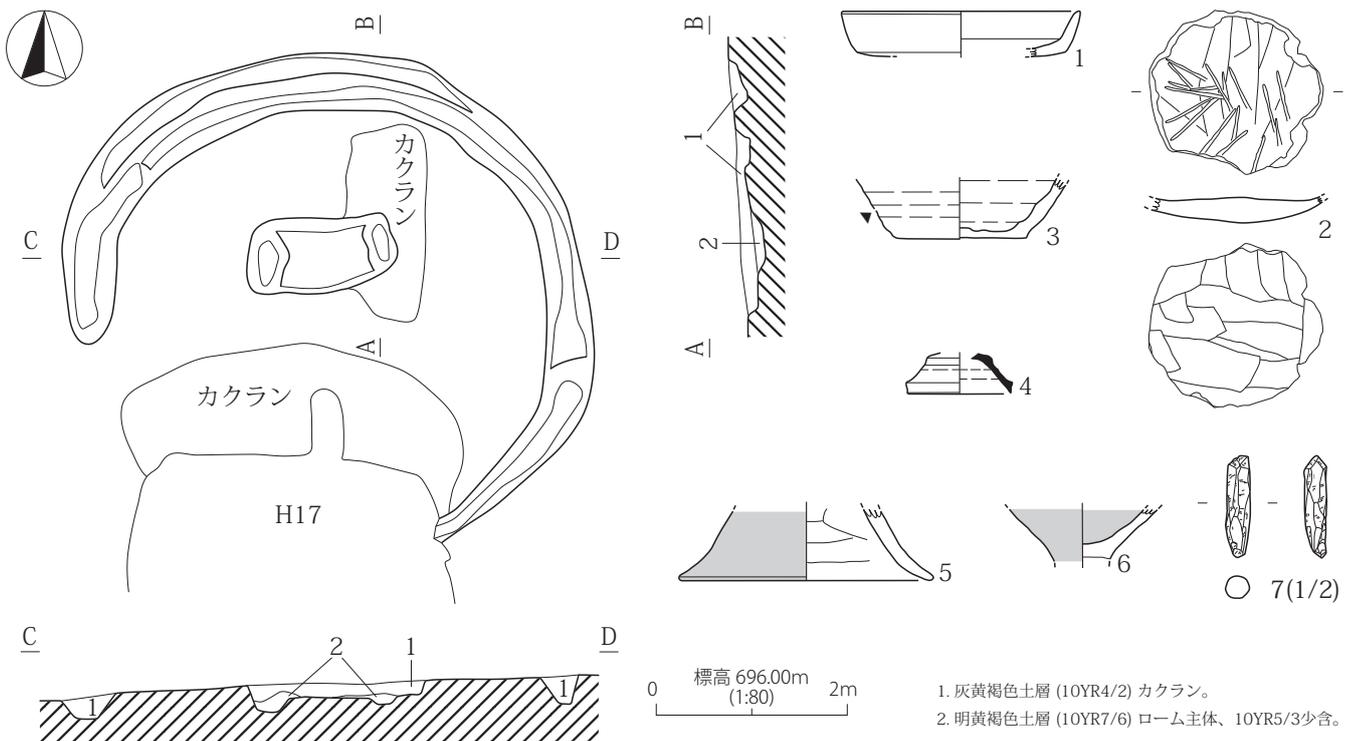
OT5円形周溝墓 (第48図)

VA7グリットで検出された。残存部分では他遺構との重複関係は有さない。溝の最大幅0.32m、最大深度0.16mの規模である。主体部は残存していなかった。全容が不明なため平面形態も不明である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

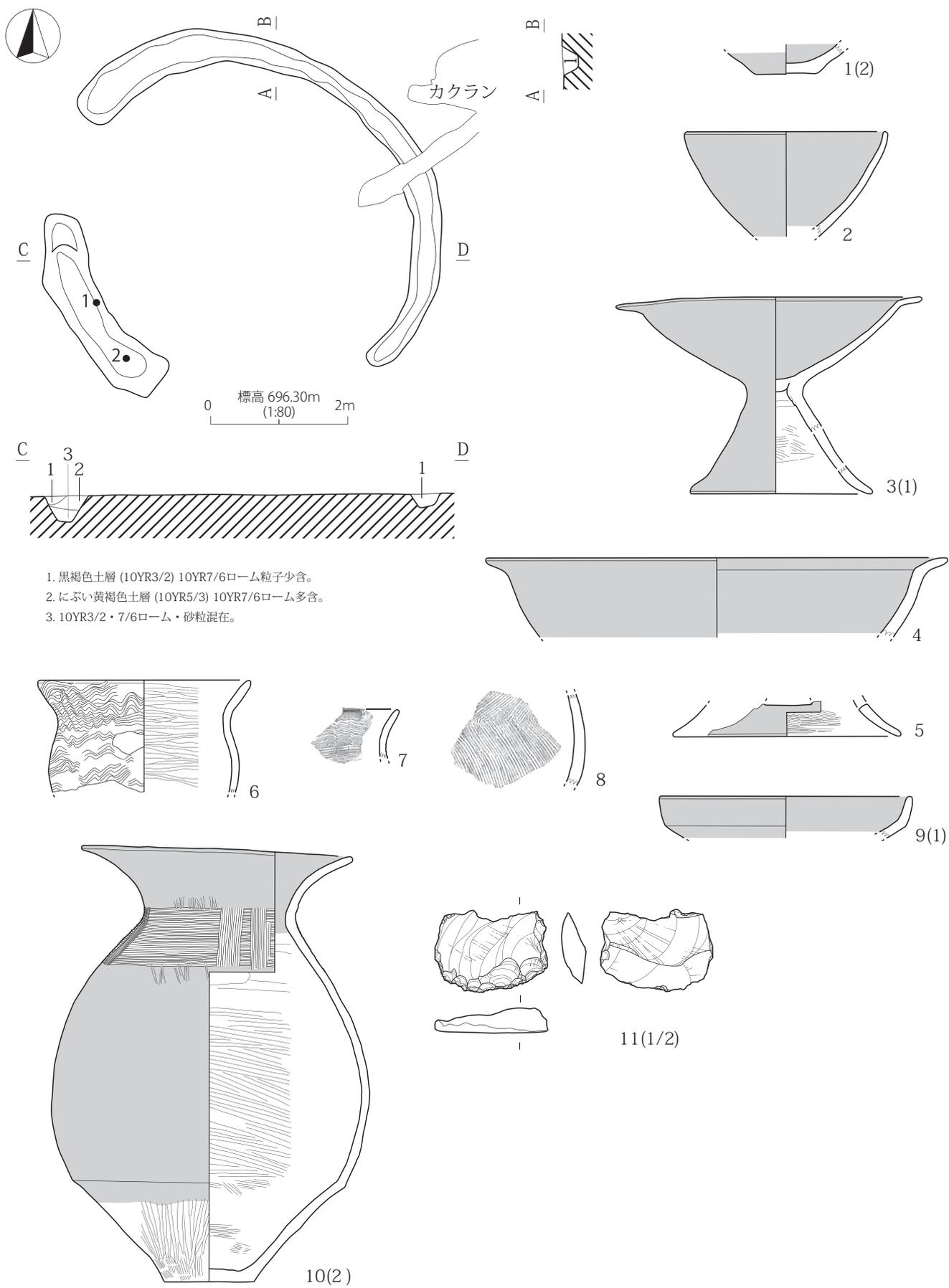
第4節 溝址

M1号溝址 (第49・50図)

IVH5～VIB7グリットで検出された。H16号住居址、OT1古墳、OT4円形周溝墓、P68、カクランに切られる。検出長52.53m、最大幅1.87m、最大深度0.89mの規模である。底面が極端に狭い「V」字の断面形状である。北一本柳の弥生集落を囲む環濠の一部分と思われる。

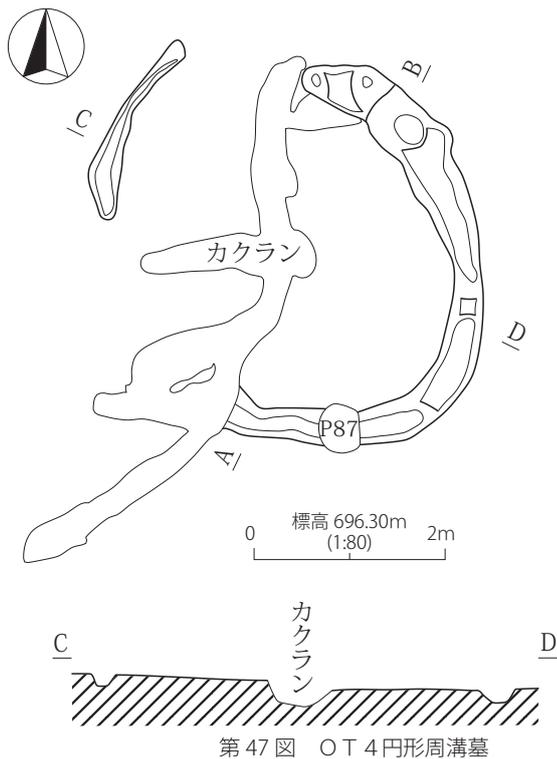


第45図 OT2円形周溝墓



- 1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/6ローム粒子少含。
- 2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム多含。
- 3. 10YR3/2・7/6ローム・砂粒混在。

第46図 OT 3円形周溝墓



第47図 OT 4円形周溝墓

が比定出来るのかもしれない。

本址の時期は、小山編年の弥生時代後期Iに比定される。

M 2号溝址 (第51図)

IV J 5グリットで検出された。M3号溝址を切る。検出長 5.45 m、最大深度 0.14 mの規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

M 3号溝址 (第52図)

IV H 1～V A 5グリットで検出された。H1号住居址、F1号掘立柱建物址、P40、カクランに切られる。検出長 25.46 m、最大幅 1.59 m、最大深度 0.91 mの規模である。底面が極端に狭い「V」字の断面形状である。M9号溝址に連結するものと思われるが、未調査部分が介在するため別遺構とした。北一本柳の弥生集落を囲む環濠の一部分と思われる。

遺物は弥生土器、縄文土器、石器・石製品が出土している。弥生土器には鉢(1)、甕(2～4)、壺(5)の器種が認められる。鉢は内外面赤彩、甕は櫛描波状文のものと斜走文ものがあり、波状文のものは頸部文様帯を有さない。壺は頸部に櫛描簾状文と直線文が横位に密着施文され、その他の外面部分は赤彩が施されている。縄文土器(6)は後期堀之内式の深鉢底部片で、網代底である。石器・石製品には打製石斧片(7)と敲石(8)が認められる。

以上の出土遺物から本址の時期は、小山編年の弥生後期IV期に比定される。

M 4号溝址 (第51図)

I F 10グリットで検出された。調査区東北端部で極めて狭い範囲が確認されたものであり、規模・性格共に不明である。出土遺物も皆無であり、時期も不明である。

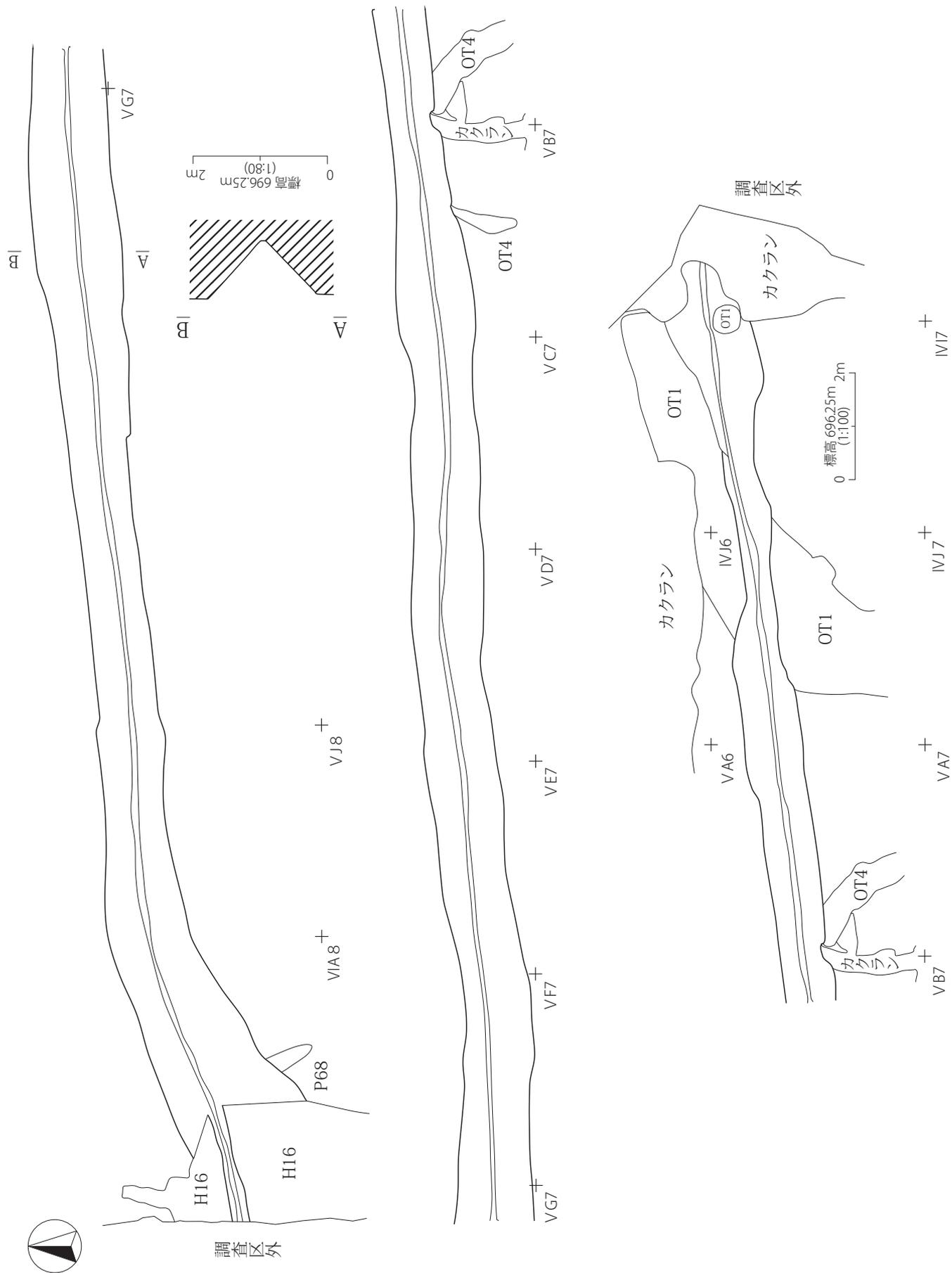
M 5号溝址 (第53・54図)

I B10～II J 9グリットで検出された。H2、H12号住居址、M8、M9号溝址に切られる。検出長 34.27 m、最大幅 1.67 m、最大深度 1.26 mの規模である。底面が極端に狭い「V」字の断面形状である。北一本柳の弥生

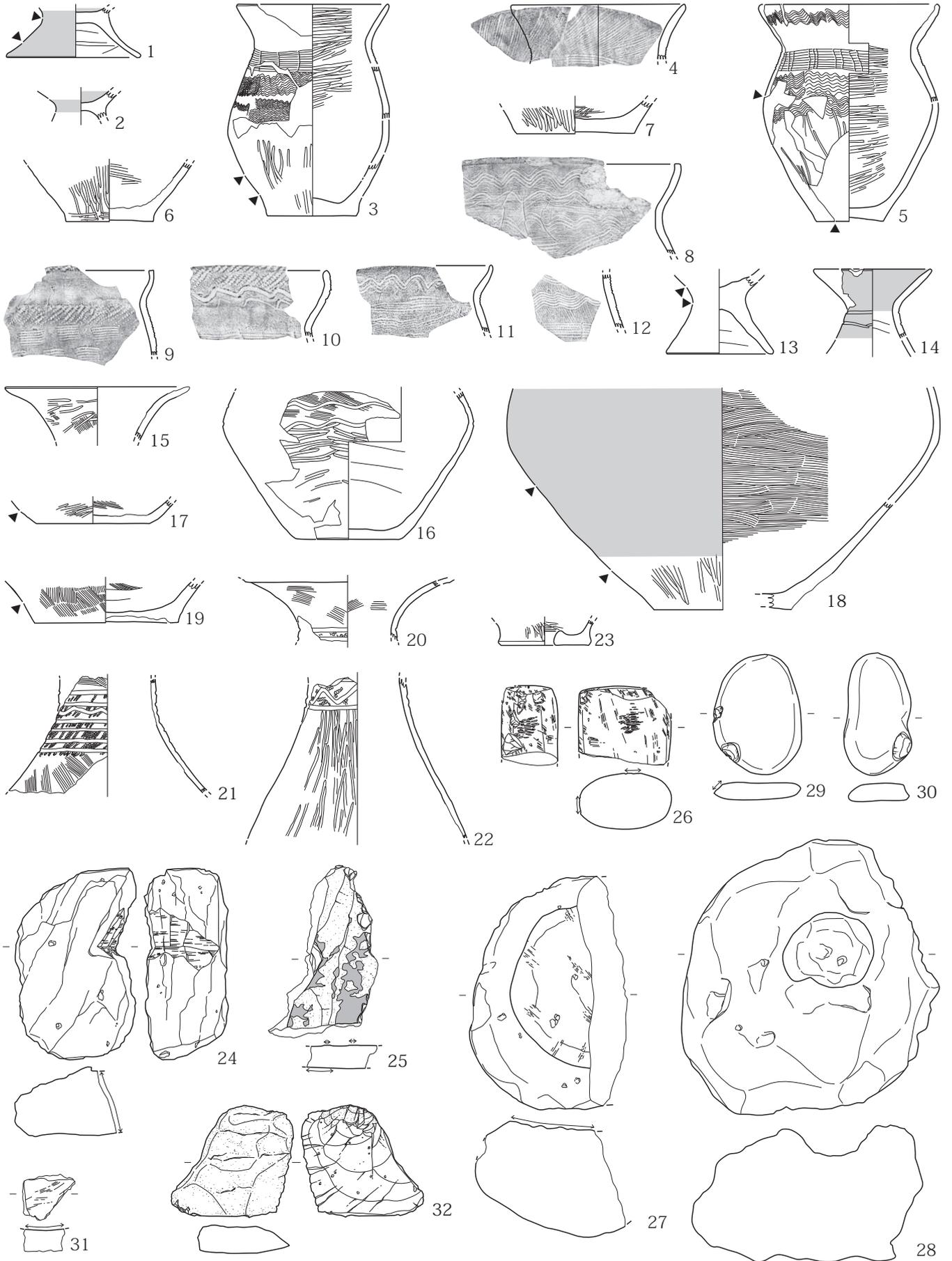


第48図 OT 5円形周溝墓

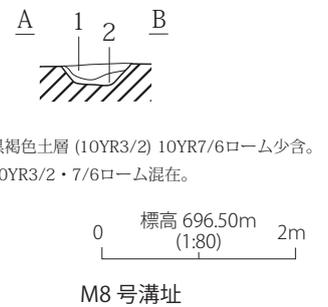
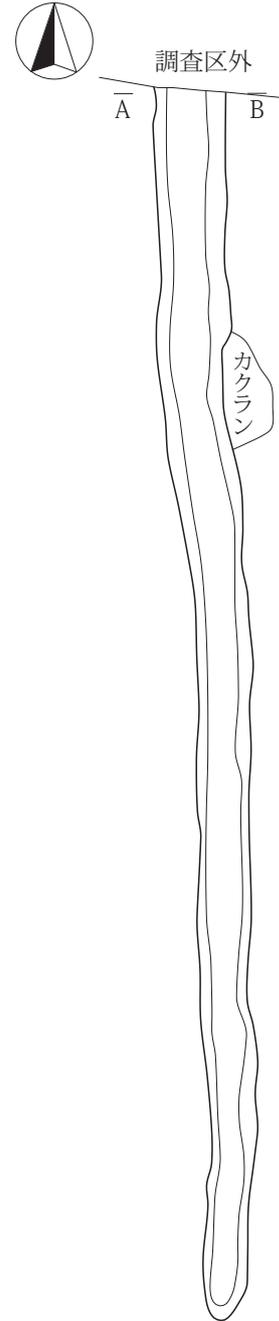
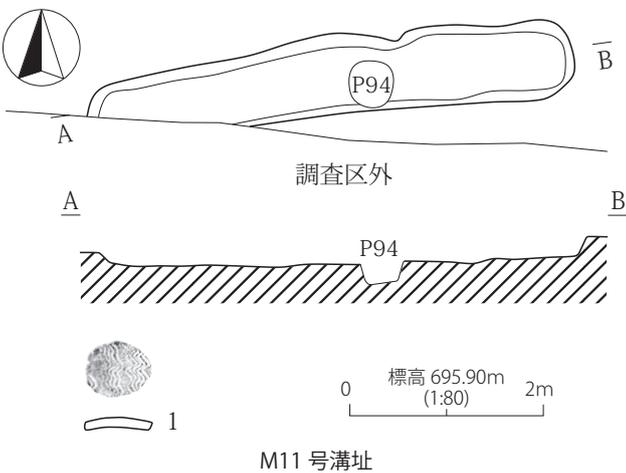
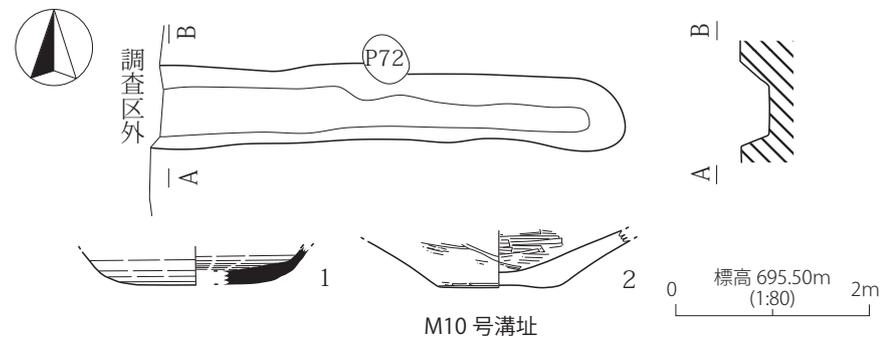
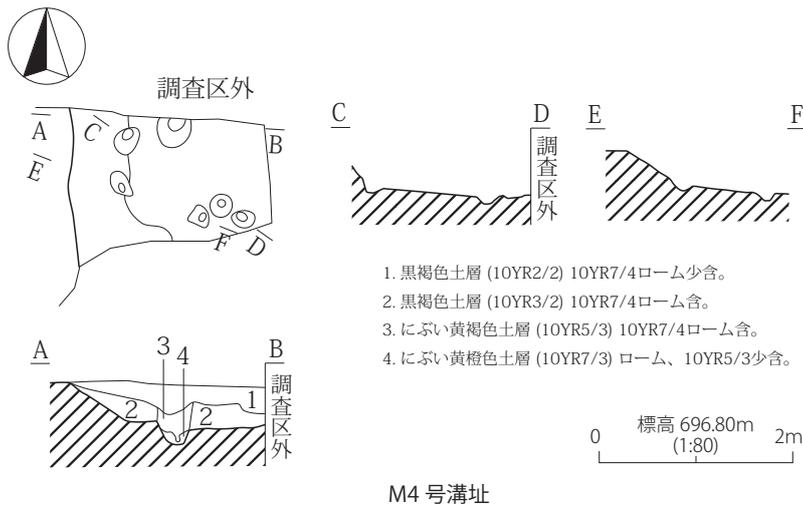
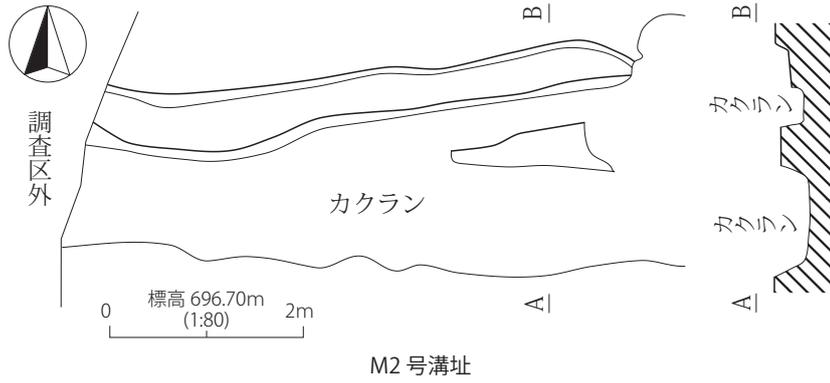
出土遺物は弥生土器と石器・石製品が認められる。弥生土器には高坏(1・2)、甕(3～12)、台付甕(13)、壺(14～22)、甑(23)の器種が認められる。石器・石製品には砥石(24)、台石(25)、磨製石斧(26)、凹石(27・28)、編物石(29・30)、磨石(31)、ガラス質安山岩素材(32)の器種が認められる。土器の時期は同一ではなく、3・5・18のような後期前半のもの、8～12・16、20～22のような中期後半のものが存在する。石器・石製品の時期も弥生時代以外の土器が混入しない状況から土器と同一の時期



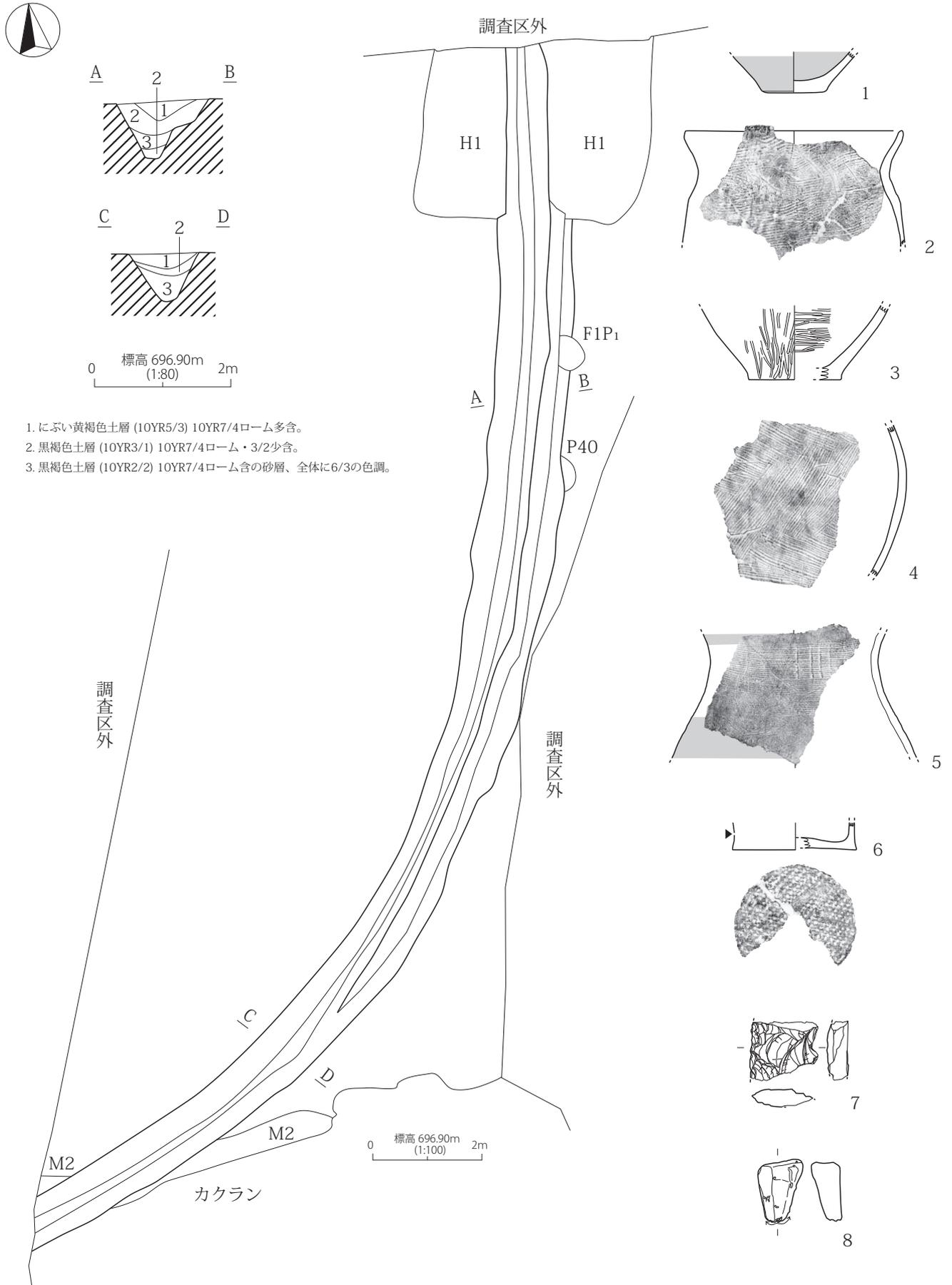
第49図 M1号溝址(1)



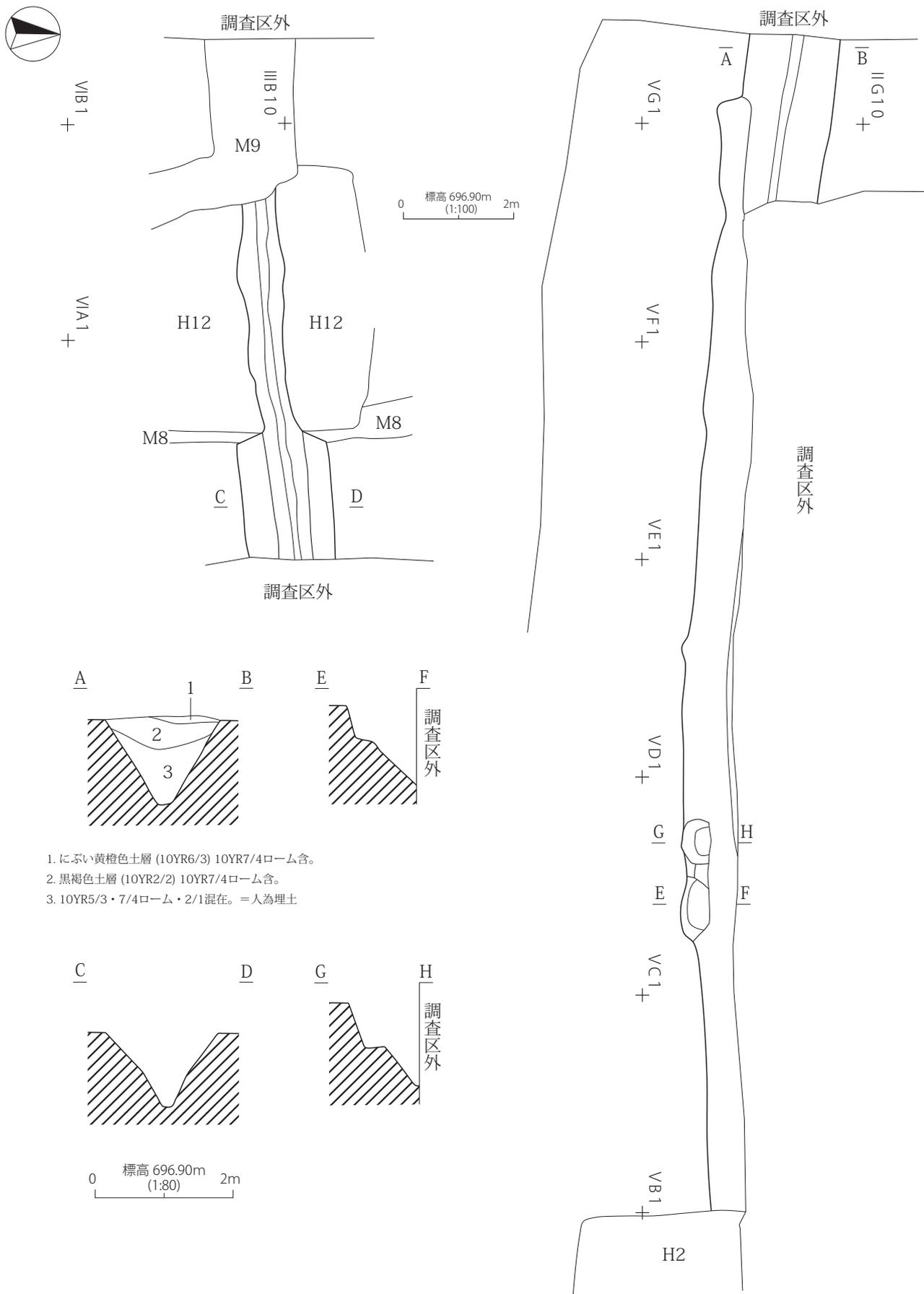
第50图 M1号沟址(2)



第51図 M2・4・8・10・11号溝址



第52図 M3号溝址



第53図 M5号溝址(1)

集落を囲む環濠の一部分と思われる。

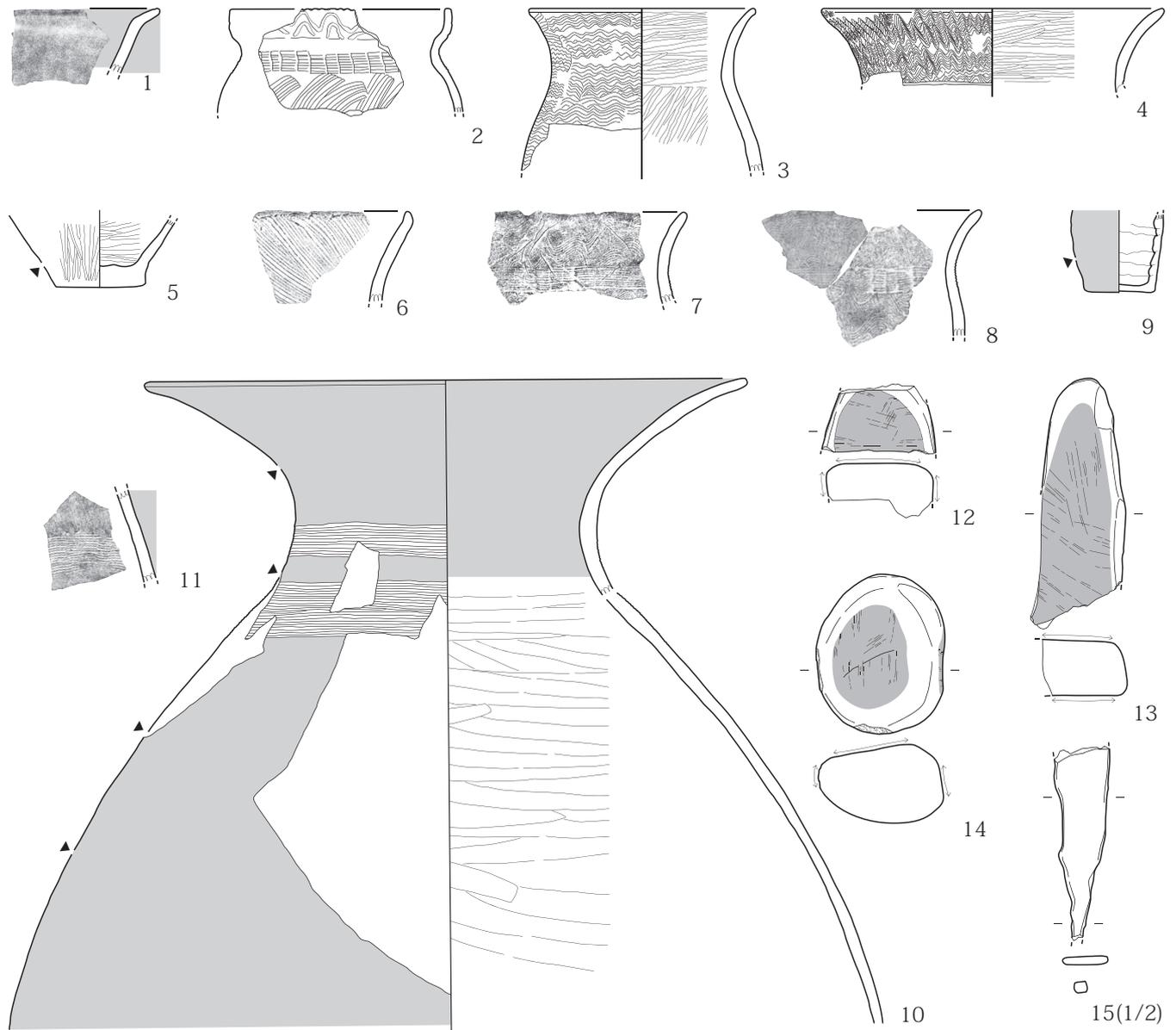
遺物は弥生土器、石器・石製品、鉄器が出土した。弥生土器には高坏（1）、甕（2～8）、人形土器底部（9）、壺（10・11）の器種が認められる。高坏は内外面共に赤彩で、口縁部屈折する。甕は2が中期後半栗林期の他は口縁部と体部は櫛描波状文、頸部には櫛描簾状文が施されるが、3は頸部文様帯を有さない。人形土器底部は外面に赤彩が施され、内面には輪積痕を残している。壺は2点共に頸部に横位の櫛描直線文が施され、赤彩が施される。石器・石製品は磨石（12・13）と磨・敲石（14）が出土している。鉄器は短頸鍬（15）が1点出土した。

以上の出土遺物から本址の時期は、小山編年の弥生時代後期IV期新に比定される。

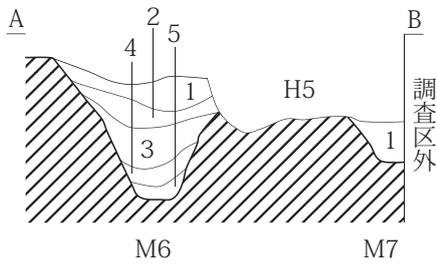
M 6号溝址（第55・56図）

Ⅱ F 4～Ⅲ B 4グリットで検出された。H5・H6号住居址、D9・D10・D12～15号土坑、P16・P17・P19・P20・P24～28・P33・P34・P37・P38・P45～47に切られる。M7号溝址を切る。検出長21.53m、最大幅1.81m、最大深度1.49mの規模である。底面が極端に狭い「V」字の断面形状である。北一本柳の弥生集落を囲む環濠の一部分と思われる。また、底面付近の壁に地震によるものと思われる地層のズレが確認された。

遺物は弥生土器、石器・石製品が出土した。弥生土器には鉢（1～4）、高坏（5～7）、甕（8～14）、壺（15



第54図 M 5号溝址（2）

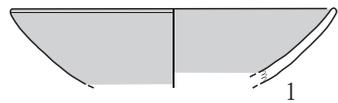


M7

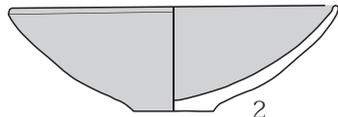
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR2/2少含、7/4ローム含。

M6

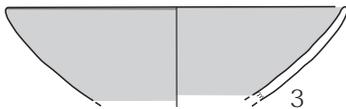
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) 砂質土。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含、2/2少含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 砂質土、10YR7/4ローム多含。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 砂質土。



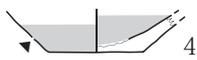
1



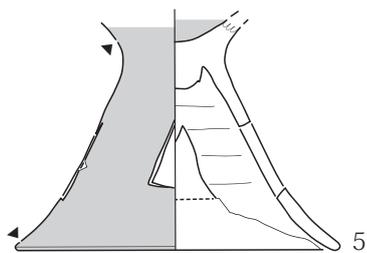
2



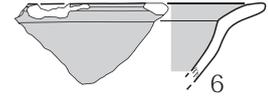
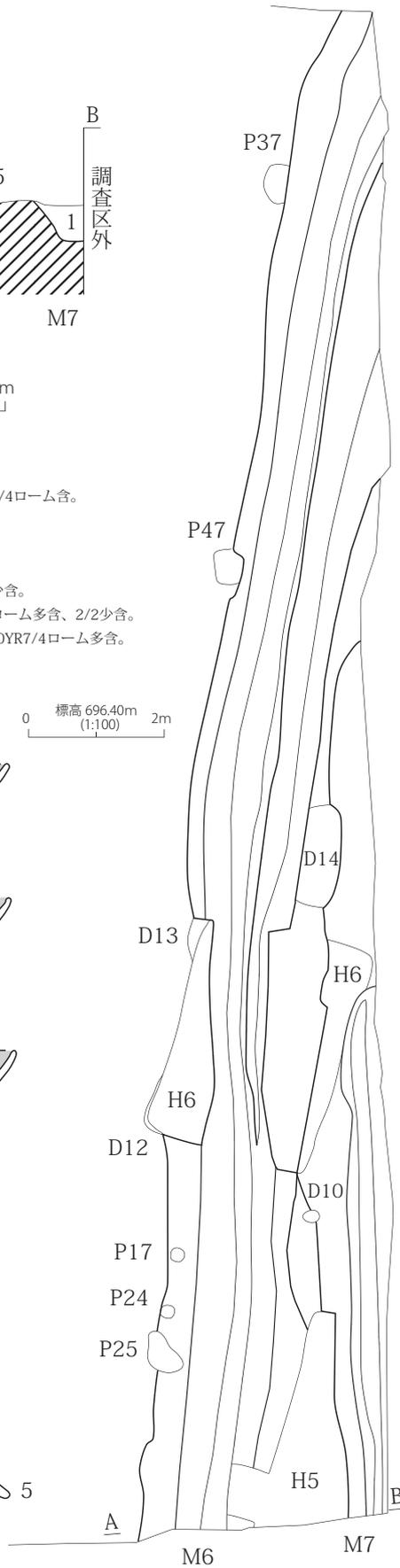
3



4



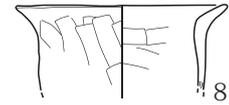
5



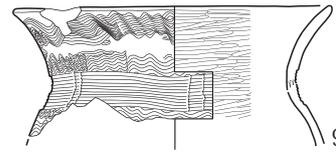
6



7



8



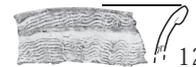
9



10



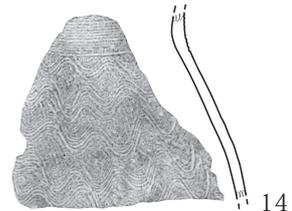
11



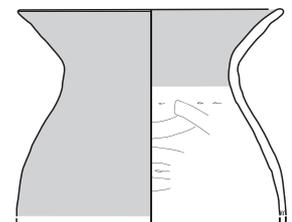
12



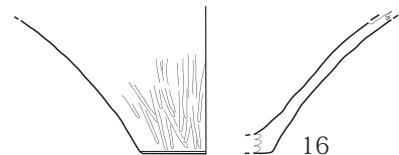
13



14



15



16



17

調査区外

第55図 M6・7号溝址 (1)

～21)の器種が認められる。鉢は全て内外面赤彩が施される。高坏も脚内を除き赤彩が施される。5は脚に三角形の透孔が認められる。また、6は口縁部が屈折する。甕は口縁部と体部が櫛描波状文ないし斜走文、頸部簾状文が基本であるが、8は無文である。12は折り返し口縁である。壺15は無文で、外面と内面口縁部に赤彩が施される。16は底部片で角度的に体部下半で屈折するものと思われる。18・19は中期後半栗林式、20は縄文施文であり、吉ヶ谷系の土器であろう。21は頸部にヘラ描き斜状文が施文され、赤彩が施される。石器・石製品は磨製石斧(22)、編物石(23)、磨・敲石(24)、敲石の器種が認められる。

以上の出土遺物から本址の時期は、小山編年の弥生時代後期IV期古に比定される。

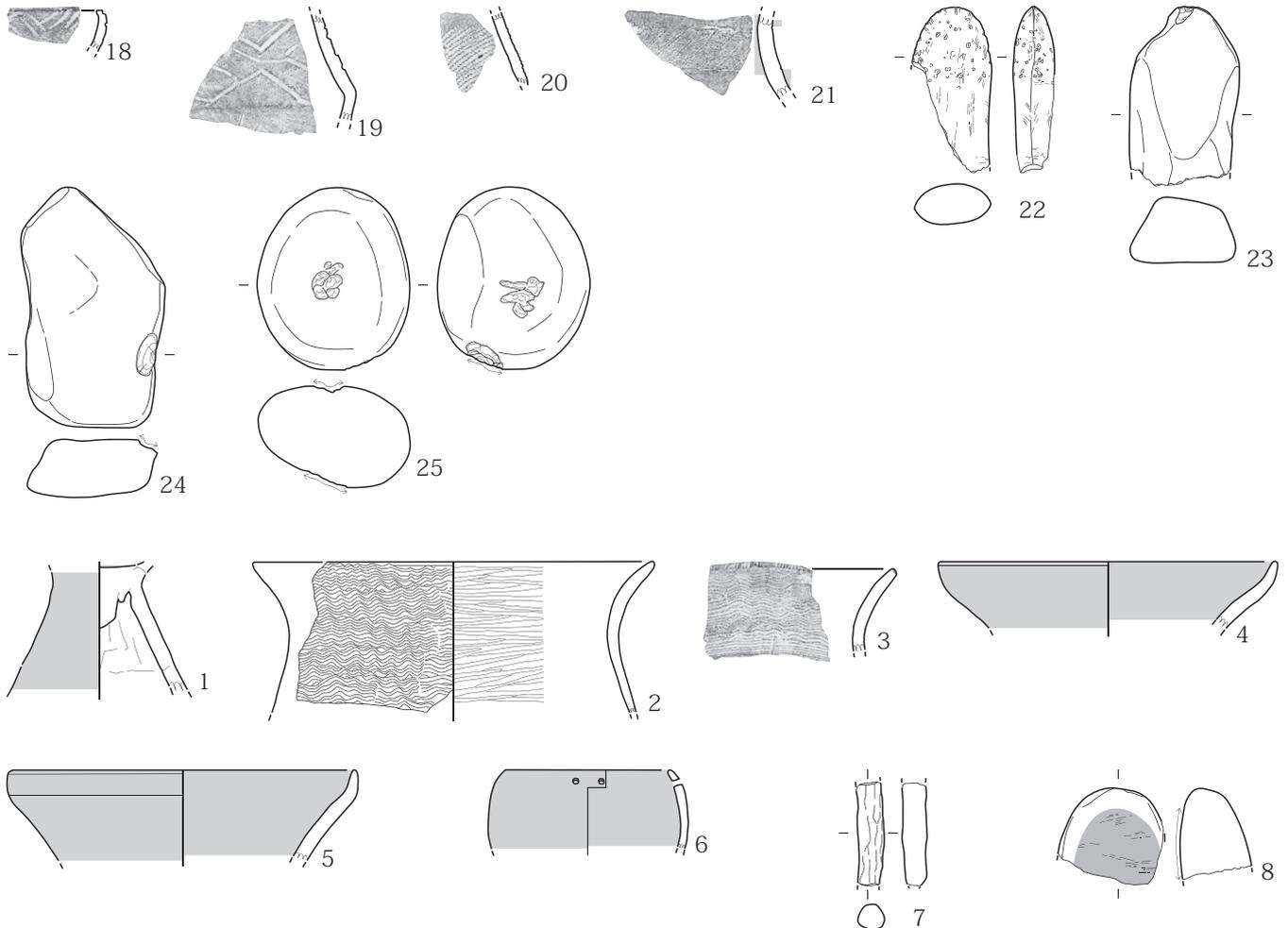
M7号溝址(第55・56図)

ⅡF4～ⅡI4グリットで検出された。H5・H6号住居址、D10・D11・D14号土坑、P18・P23・P34・P38・P41～44、M6号溝址に切られる。検出長12.93m、最大幅・最大深度は調査区外に延びるため不明である。M6は本址の付け替えと思われる。

遺物は弥生土器と石器・石製品が出土している。弥生土器には高坏(1)、甕(2)、鉢(3)、壺(4～6)、人形土器(7)の器種が認められる。高坏は脚内を除き赤彩が施される。甕2は頸部文様帯を有さない。3は口唇部に刻目が施される。壺は2点共に受口口縁で、内外面に赤彩が施される。鉢は口縁部に2ケの円孔が穿たれる。内外面に赤彩が施される。人形土器は腕の破片である。石器・石製品は磨石が1点出土している。

以上の出土遺物から本址の時期は、小山編年の弥生時代後期IV期古に比定される。

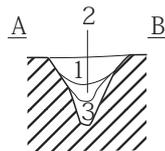
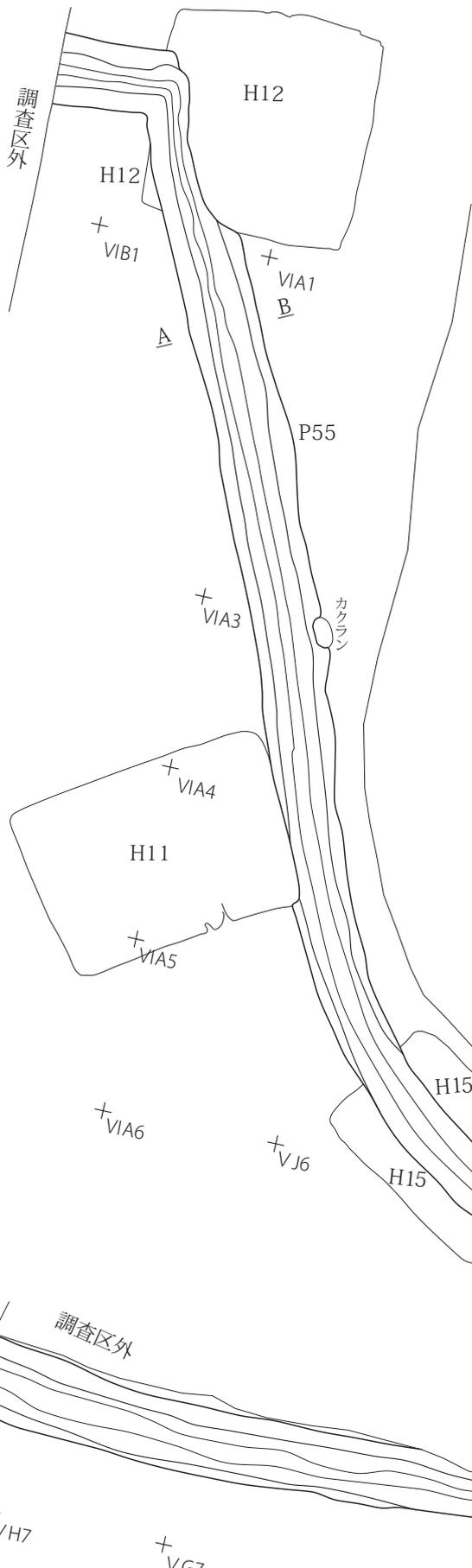
M8号溝址(第51図)



第56図 M6・7号溝址(2)

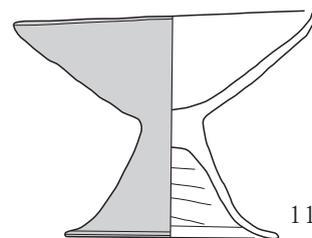
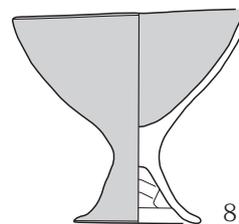
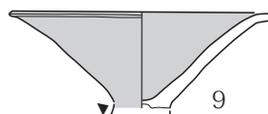
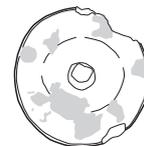
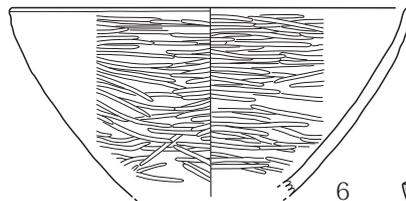
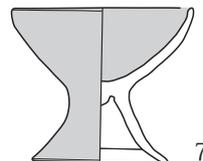
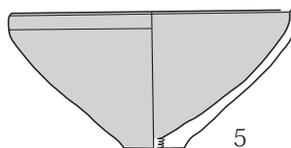
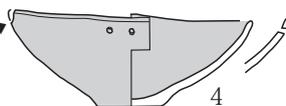
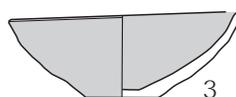
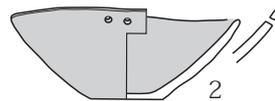


調査区外



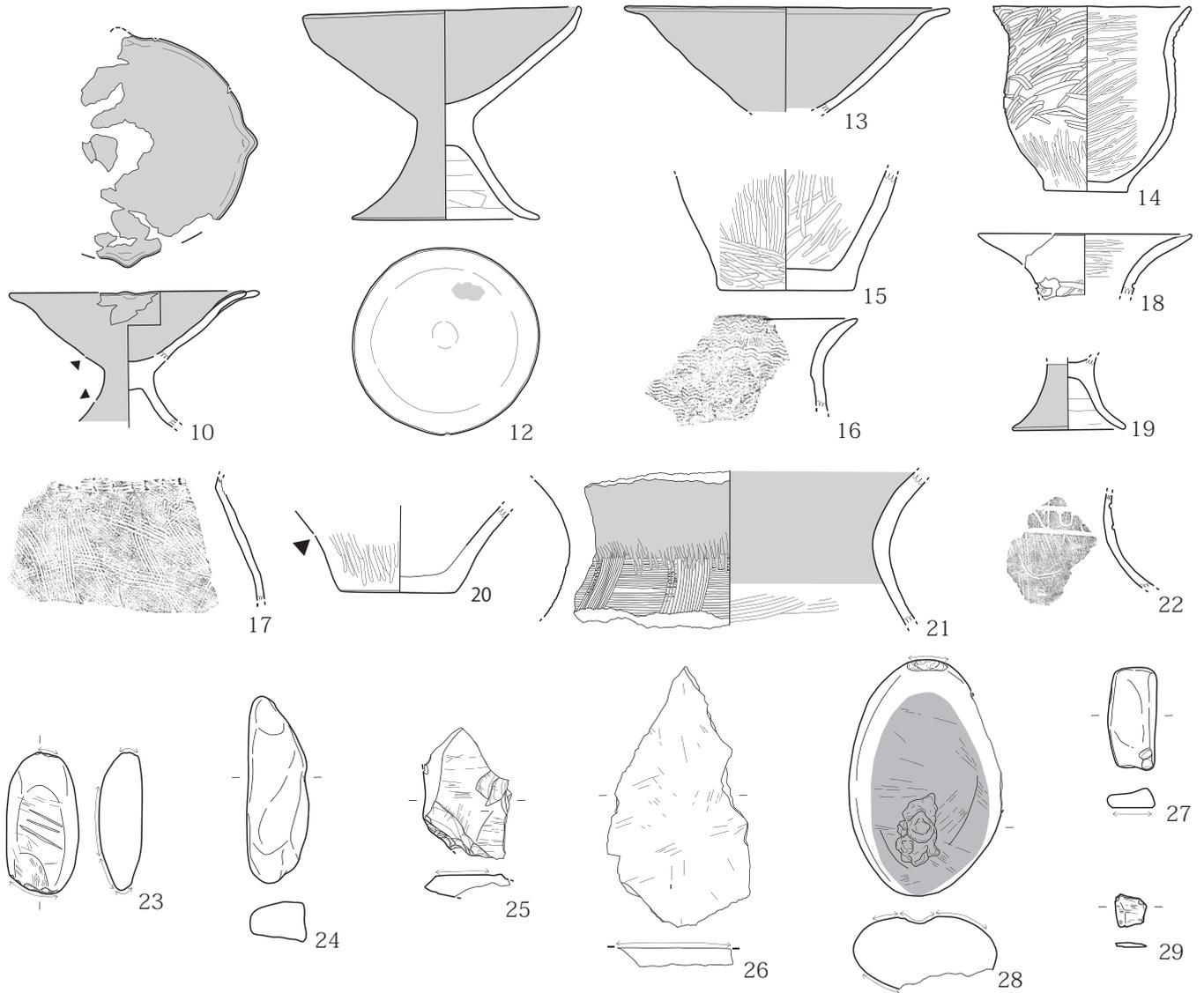
標高 696.40m
(1:150) 4m

1. 黒褐色土層 10YR7/4・7/6ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6ローム多含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR6/3) 10YR7/6ローム多含、砂質。



11

第 57 図 M 9 号溝址 (1)



第58図 M9号溝址(2)

ⅡJ8～VJ1グリットで検出された。カクランに切られ、H12号住居址・M5号溝址を切る。検出長12.85m、最大幅0.8m、最大深度0.24mの規模である。断面は逆梯形の形状である。出土遺物は皆無であり時期・性格共に不明である。

M9号溝址(第57・58図)

V D6～ⅢB10グリットで検出された。H11・H12・H15号住居址、P55、カクランに切られ、M5号溝址を切る。M3号溝址に連結するものと思われるが、未調査部分が介在するため別遺構とした。検出長47.43m、最大幅1.83m、最大深度1.26mの規模である。底面が極端に狭い「V」字の断面形状である。北一本柳の弥生集落を囲む環濠の一部と思われる。

遺物は土師器、弥生土器、石器・石製品が出土している。土師器は1の小型の広口壺が出土した。内外面ヘラミガキ調整が施されている。弥生土器には鉢(2～6)、高坏(7～13)、甕(14～17)、壺(18～22)の器種が認められる。鉢は全てが内外面にヘラミガキ後赤彩が施される。2・4は口縁部に横並びに円孔が2ヶ所に穿たれている。高坏は脚内面以外はヘラミガキ後赤彩が施されている。7・8・12は脚内に斑点状に赤彩が付着している。形態的には口縁部が屈曲する9・10・13と、しない8・11・12が存在する。甕は櫛描き斜走文が施される、14や17と櫛描波状文が施される16が認められる。時期的には17が中期後半の他は後期後半の所産と思われる。壺は赤彩されない18・22のような中期後半栗林期のものと、赤彩が施される後期後半の

19・21 が出土している。石器・石製品は砥石（23）、編物石（24）、磨石（25・26）、磨・敲石（27・28）、石製模造品の素材（29）が出土している。

以上の出土遺物から本址は弥生時代後期後半の所産と思われる。

M 10 号溝址（第 51 図）

VI A 8 グリットで検出された。P72 に切られ、H16 号住居址を切る。検出長 4.78 m、最大幅 0.89 m、最大深度 0.30 m の規模である。断面は逆梯形の形態である。遺物は須恵器坏と土師器壺が出土している。須恵器坏は底部回転ヘラ切りであり、壺の形状も加味すると本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅱ期ぐらいに位置付けられる。性格は不明である。

M 11 号溝址（第 51 図）

VC 9 グリットで検出された。P94、石組 2 に切られる。長辺 5.06 m、短辺 0.83 m、最大深度 0.55 m の規模である。出土遺物は、弥生時代後期の甕の体部片を再利用した土器片円盤が 1 点出土している。時期・性格共に定かではないが、弥生時代後期の方形周溝墓の可能性はある。

第 5 節 土坑

D 1 号土坑～D 23 号土坑（第 59～61 図）

検出位置、規模等については計測表を参照願いたい。調査範囲内において 2 ケ所に集中して検出されている。1 ケ所は調査区北端部分であり、弥生時代の環濠 M 6・7 号溝址から H 3 号住居址周辺に集中するもので、他の遺構を切って構築されている。形態は隅丸の方形や楕円である。小径のピットもこの部分に集中している。数少ない出土遺物や形態的特徴から中世のものと思われ、北一本柳や東一本柳から連続する中世遺構群の南限であろう。もう 1 ケ所は調査区東南端部分で、弥生時代後期の墓域と重なる部分である。時期・性格を確定できるような遺物の出土はないが、弥生時代後期の墓壇の可能性もある。D 23 号土坑は唯一縄文時代の陥穴である。

尚、石組とした 2 基の集石遺構は時期・性格共に不明であり、断ち割ってみたが下部に掘り込みは認められなかった。出土遺物はない。

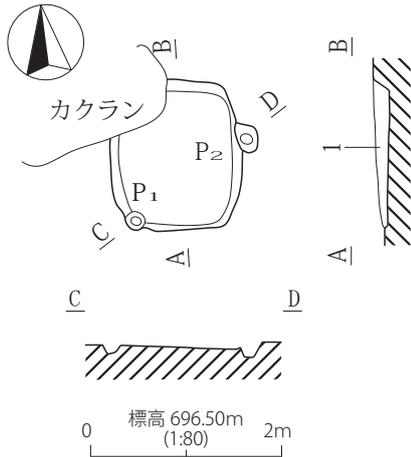
第 6 節 ピット

P 1～P 99（第 62～66 図）

99 基検出された。検出位置、規模等については計測表を参照願いたい。土坑同様に調査区北端部分に中世と思われる小径のものが集中して検出されている。多くのものは出土遺物はなく時期・性格共に不明である。

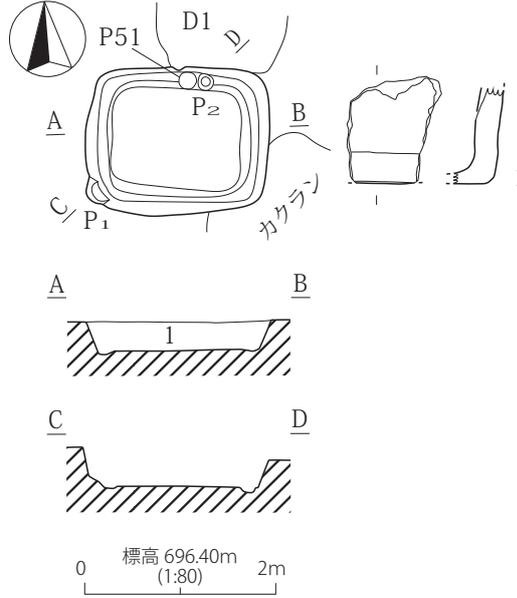
第 7 節 遺構外出土遺物（第 67 図）

弥生土器、土師器、石器・石製品、鉄器・鉄製品、銅製品が認められる。弥生土器は口唇部に縄文が施される中期後半栗林式の壺片が 1 点出土している。赤彩は施されない。土師器は坏、高坏、鉢が各 1 点出土している。いずれも内面ヘラミガキ黒色処理が施され、外面はヘラケズリ後ヘラミガキ調整が施される。坏と鉢は H 3 付近で立木の抜根時に出土したようで、調査直前の現地協議時に採取した。時期的には古墳時代後期 7 世紀前半のものである。石器・石製品は加工痕の有る剥片が 1 点出土している。鉄器は刀子が 1 点、鉄製品は釘が 4 点、銅製品は古銭（永楽通宝）が 1 枚出土している。



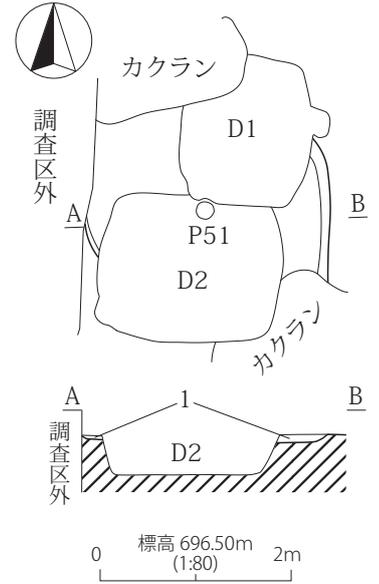
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。

D1 号土坑



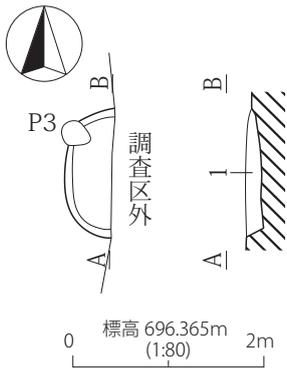
1. 10YR5/3・7/4ローム・2/2混在。

D2 号土坑



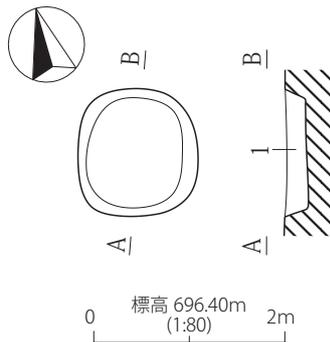
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。

D3 号土坑



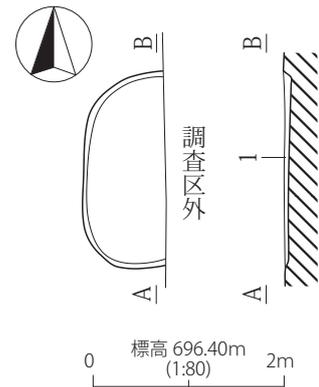
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム含。

D4 号土坑



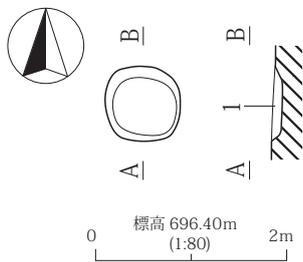
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム含。

D5 号土坑



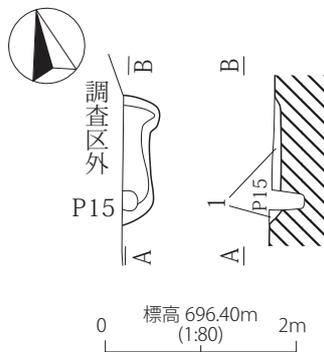
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2少含。

D6 号土坑



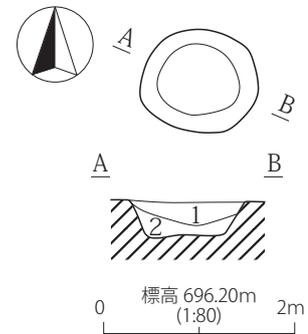
1. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、10YR3/2少含。

D7 号土坑



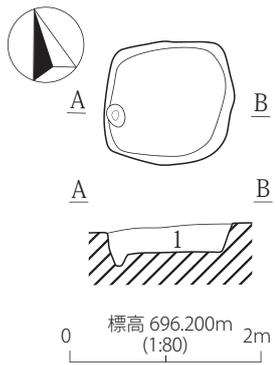
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。

D8 号土坑



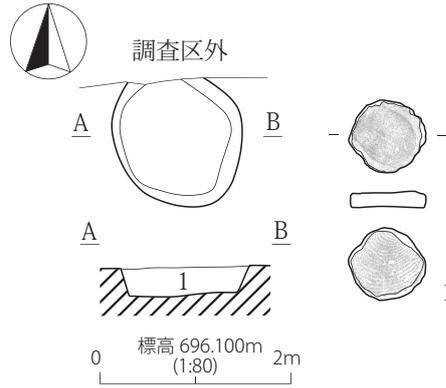
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2含。

D9 号土坑



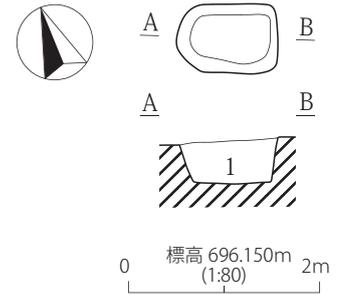
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含、2/2少含。

D10号土坑



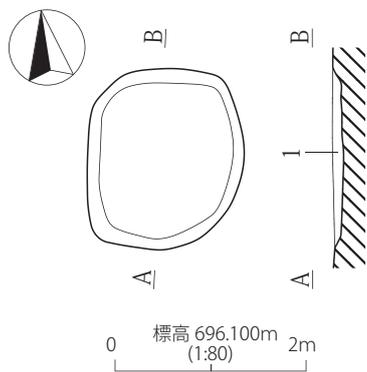
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2極少含。

D11号土坑



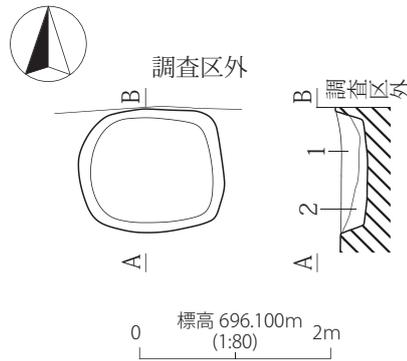
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム含。

D12号土坑



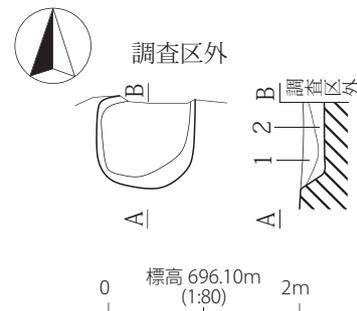
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。

D13号土坑



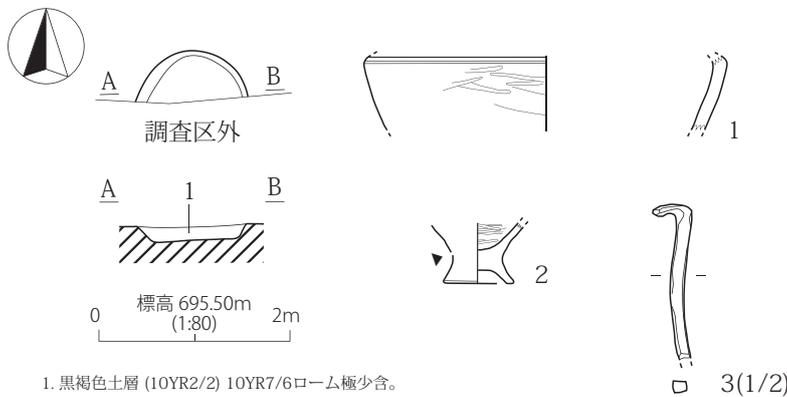
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・2/2含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。

D14号土坑



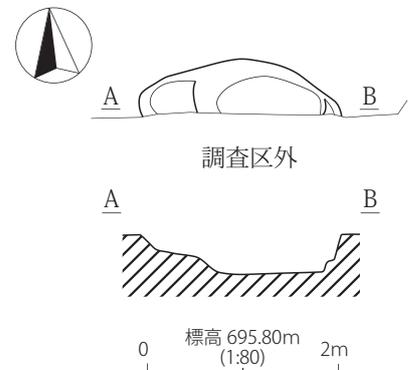
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3)。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム少含。

D15号土坑

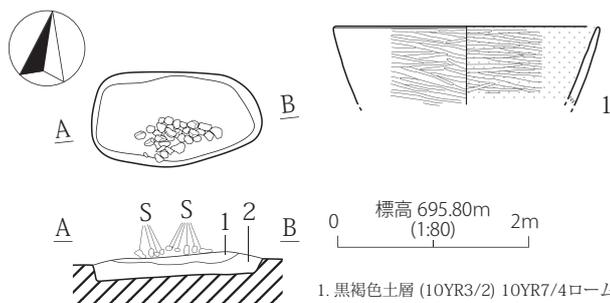


1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ローム極少含。

D16号土坑



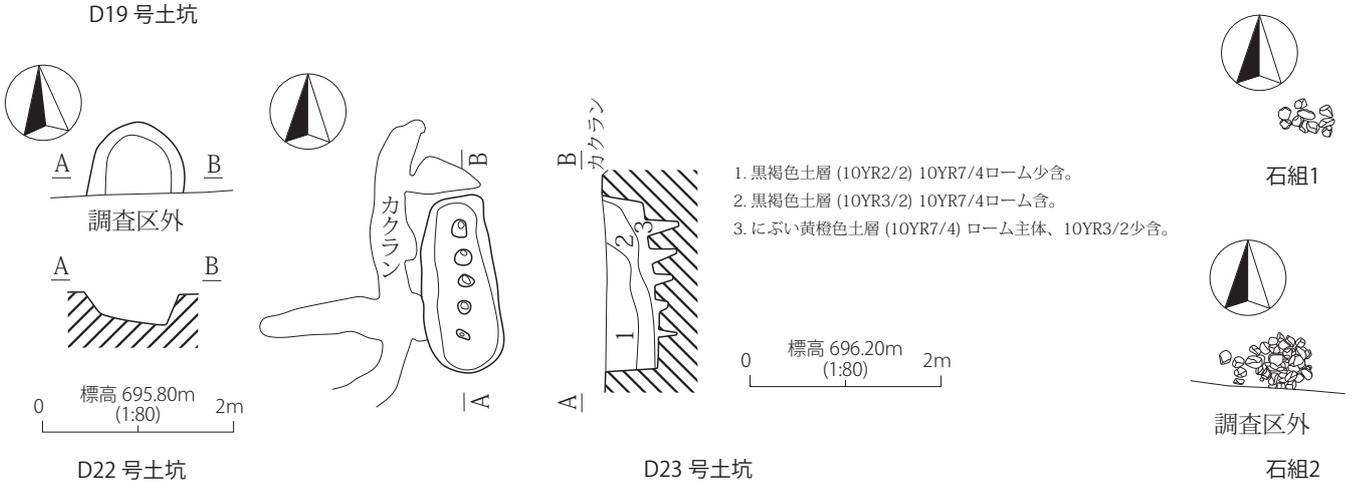
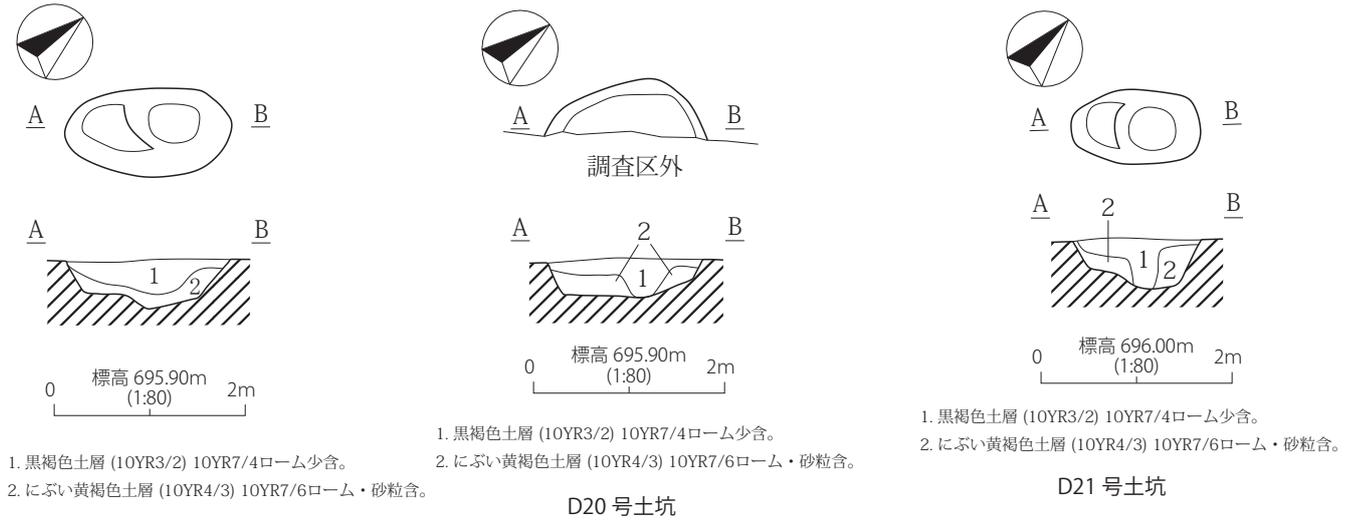
D17号土坑



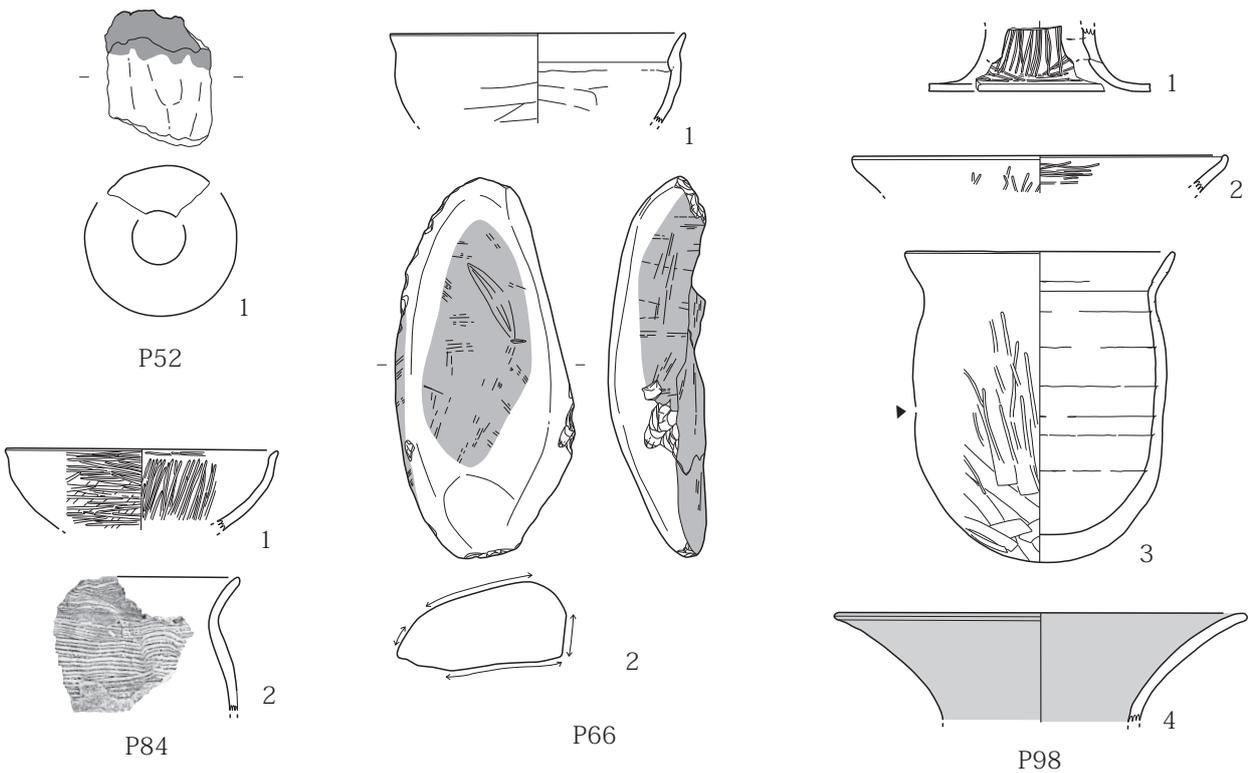
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
2. 10YR7/4ローム・砂粒混在。

D18号土坑

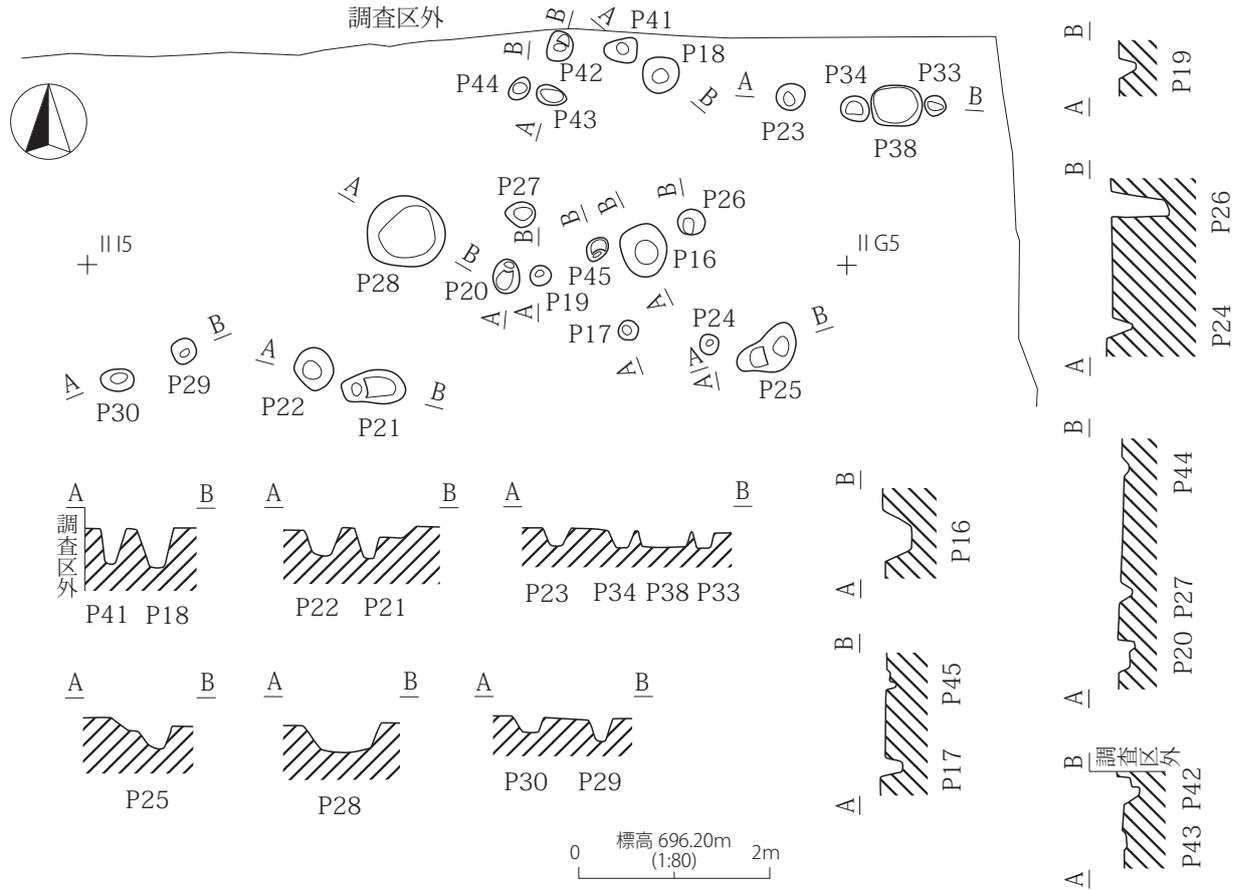
第60図 土坑(2)



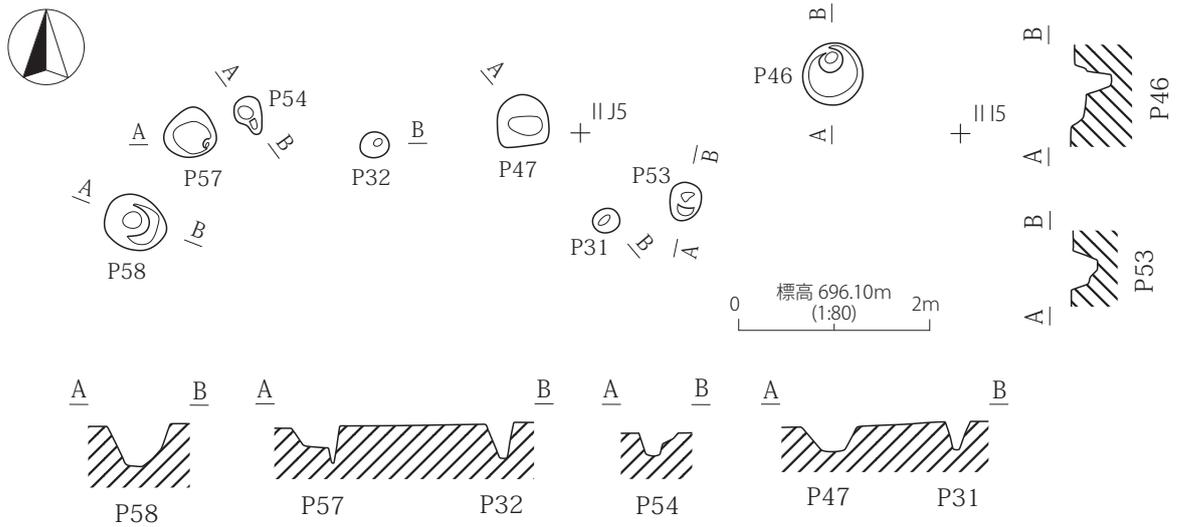
第61図 土坑(3)



第62図 ピット出土遺物

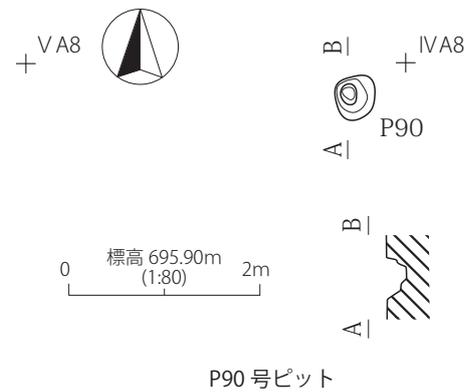
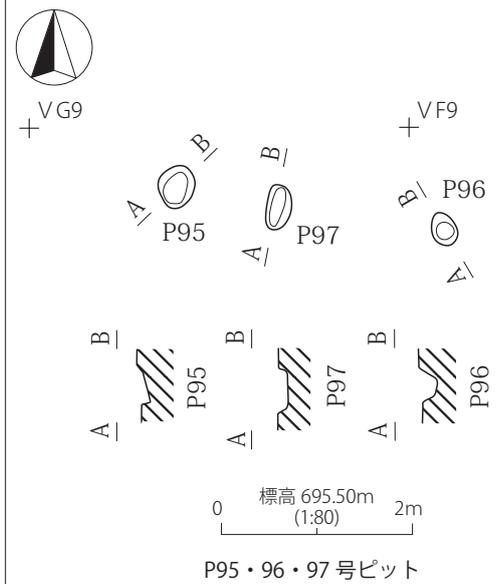
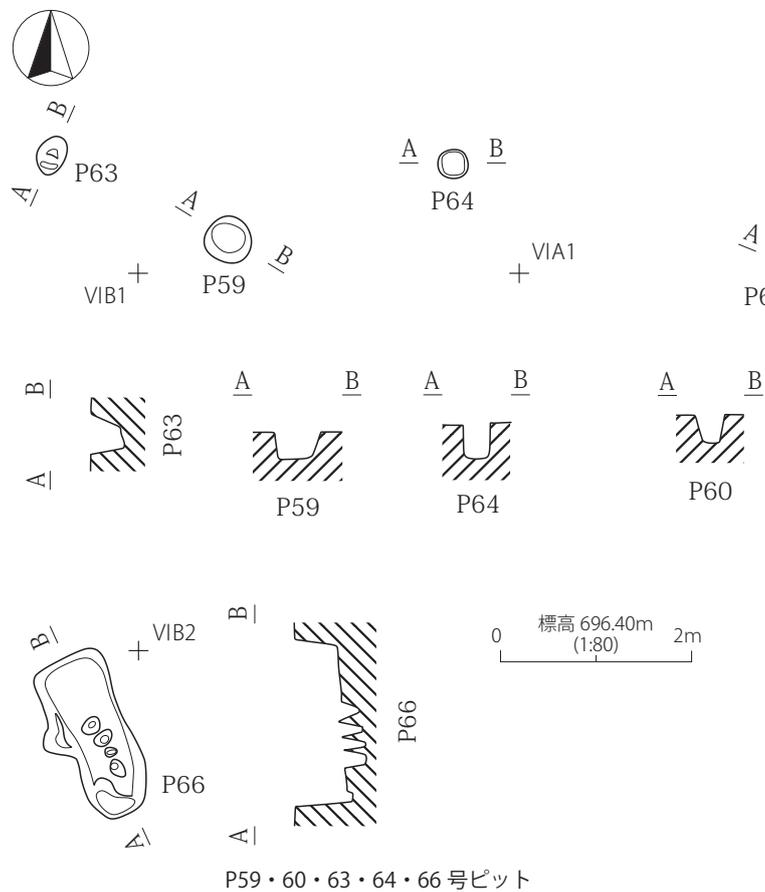
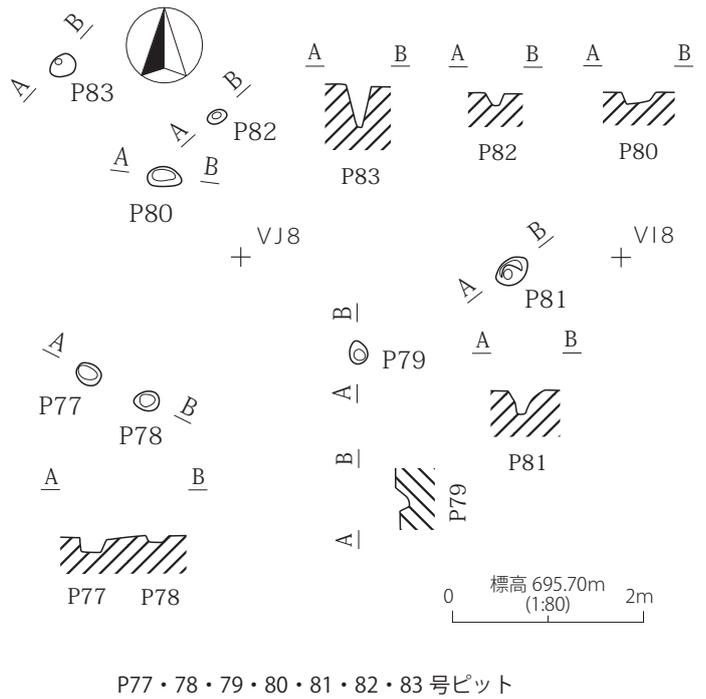
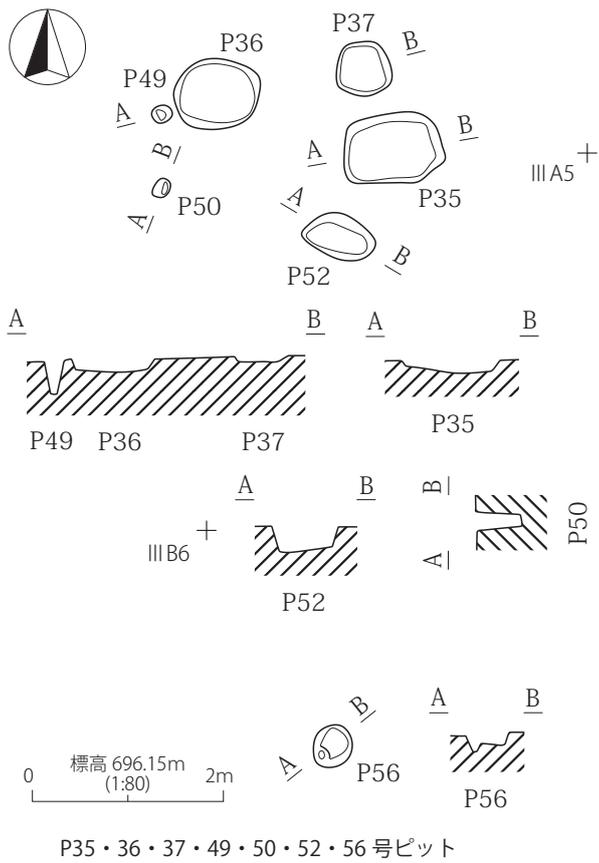


P16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・33・34・38・41・42・43・44・45号ピット

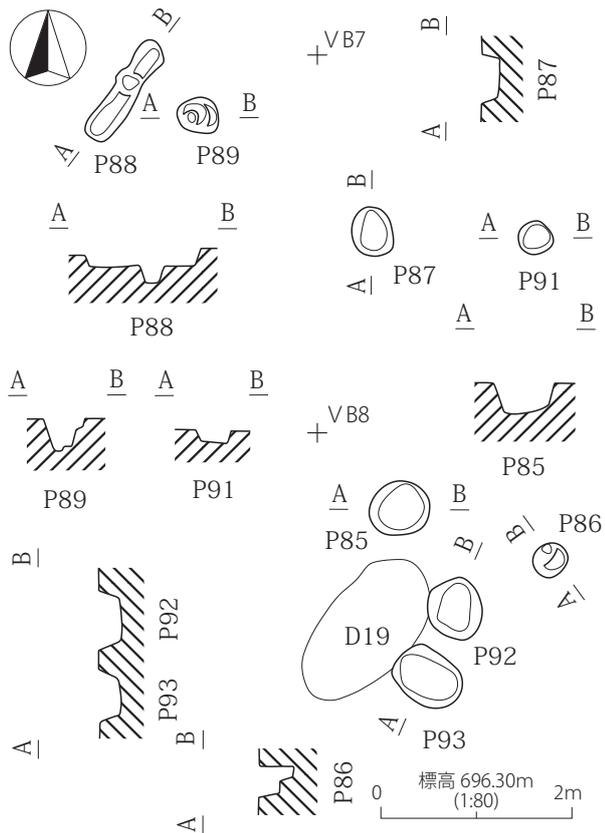


P31・32・46・47・53・54・57・58号ピット

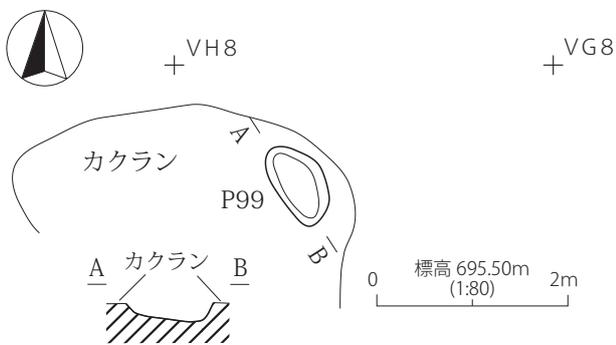
第64図 ピット(2)



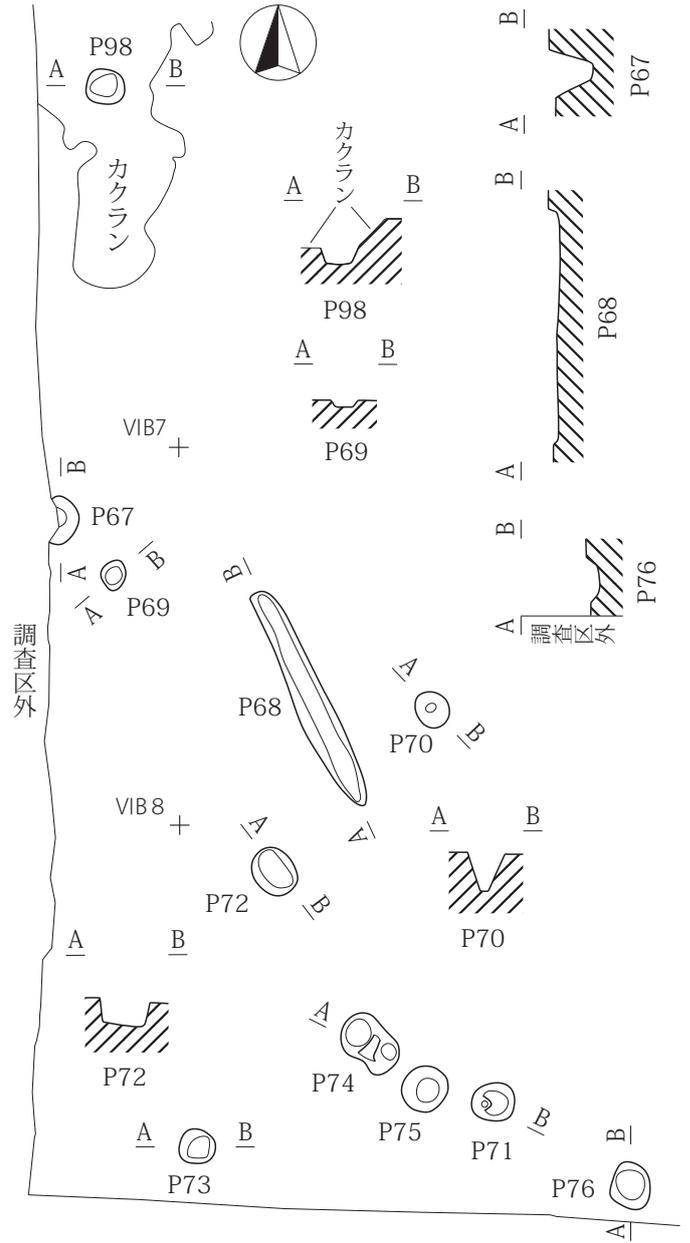
第65図 ピット(3)



P85・86・87・88・89・91・92・93号ピット

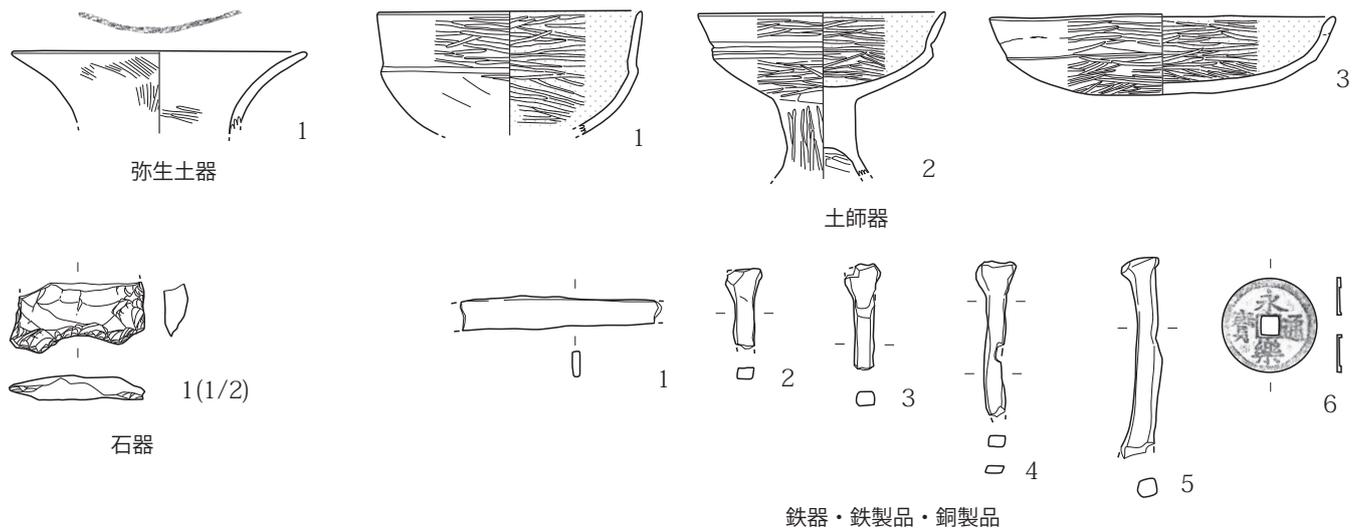


P99号ピット



P67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・98号ピット

第66図 ピット(4)



第 67 図 遺構外出土遺物

第V章 まとめ

第 1 節 弥生時代の環濠について

今回の調査では北一本柳遺跡に付随する環濠が複数検出された。その結果、単一時期の所産ではないこと、形状も単純な楕円形のようなものではないことが明らかとなった。そこで、北西の久保、西一本柳、北一本柳遺跡で実施された、過去の調査結果を検証し、明らかとなっている弥生時代住居址と環濠を地図上に表現（第 68 図）してみたところ以下のことが判明した。

1. 集落

- ・北西の久保遺跡、西一本柳遺跡では中期後半栗林期に集落が成立し、後期後半まで継続する。
- ・北一本柳遺跡では、後期後半に集落が成立する。ただし、北一本柳遺跡の東南東方向に隣接する西八日町遺跡では、栗林期の住居址が存在し、更に古い前期の土器も出土している。

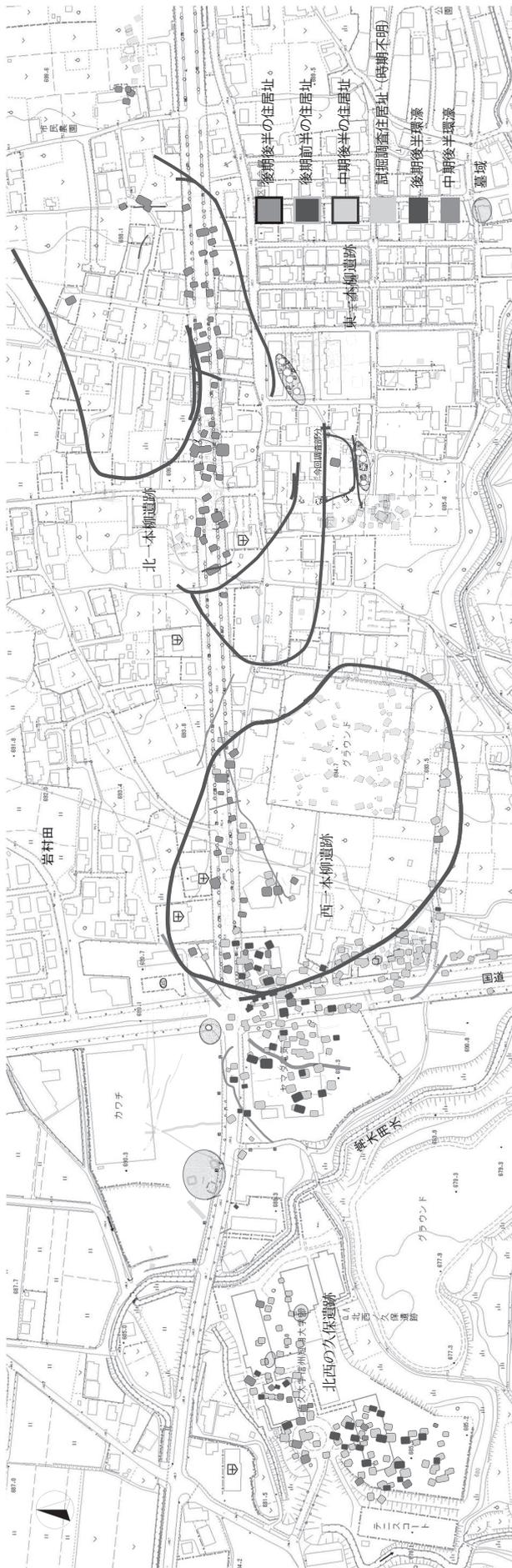
2. 墓域

- ・北西の久保遺跡には、後期集落の北東部分に礫床木棺墓群と四隅切の方形周溝墓が存在する。方形周溝墓は後期前半に比定されるが、礫床木棺墓群の時期は判然としない。
- ・西一本柳遺跡では、集落の北西部分に後期前半の方形周溝墓が存在する。形態的には四隅切と円形である。
- ・北一本柳遺跡では、集落の南端に周溝墓群が存在する。時期は後期後半、形態は円形である。

3. 環濠

- ・北西の久保遺跡では、今ところ発見されていない。
- ・西一本柳遺跡では中期後半栗林期に成立している可能性が強く、後期には北西－南東方向に長い楕円形で、一重のものが存在する。
- ・北一本柳遺跡では、おおよそ 3 期に及ぶ環濠の掘削が想定され、今回の調査で明らかとなった張り出しのような部分も認められる。もしも、この張り出し部分に存在する住居が今回調査された H 4 だけであるとしたら、この家の性格は極めて特殊なものであった可能性があるのではないだろうか？

この地域の弥生集落は、前期に湯川沿いの下信濃石遺跡から西八日町遺跡に入植した人々が端緒となり、中期後半栗林期に北西の久保遺跡や西一本柳遺跡に大規模集落を成立させた。後期前半に入ると北西の久保遺跡や西一本柳遺跡では規模の縮小化が見られ、後半に入り北西の久保遺跡では更に縮小化するが、西一本柳遺跡は拡大する。この時期に北一本柳の集落は成立し、隆盛する。北一本柳遺跡の東に存在する西八日町遺跡や、北西の久保遺跡の西に存在する五里田遺跡も含め隣接した位置で同時期に存在していることから、連合体を形成していた



第 68 図 西一本柳遺跡周辺集落の様相

ものと思われる。それは、北一本柳遺跡の環濠西端部に呼応するかのように入った西一本柳遺跡の環濠東端部形状にも表れているように思われる。

環濠の性格、あるいは掘削する目的についてであるが、本来は防御施設であり掘削土を盛り上げた土塁も存在したのであろうが、規模的に防御施設としては機能しないと思われる。第 2 節で後述する、人形土器の役割を辟邪と捉え、その対象を環濠集落全体と考えるのであれば、環濠は外敵だけではなく、「邪」に対する結界も目的として掘削されたと捉えることも可能かもしれない。

(佐久市内の遺跡で検出されている環濠すべてについて同様なことが言える。防御施設としては機能しないと思われる。)

第 2 節 人形土器について

佐久市の弥生時代を代表する遺物のひとつである西一本柳遺跡 I 出土の土偶形容器頭部 1 は、今回の調査地点の西方 100 m で出土したものである。このような人形の造形物が、佐久市岩村田地域では前期から後期後半まで作られ続けたことが、出土資料の増加により近年明らかとなってきた。(もうひとつの分布集中地域である長土呂地域では、後期を遡るものは今のところ発見されていない。)

佐久地方において、弥生時代の人形造形品の存在が初めて認識されたのは、昭和 9 年の「北佐久郡の考古学的調査」に記載された伝鷺林出土の中佐都小学校収蔵品である。この中で八幡一郎は、この資料と縄文時代の中空土偶や古墳時代の埴輪との差異を明らかとし、弥生時代の土偶と位置付けた。また、壺に人面表現を施す人面付土器とも区別をした。そして、弥生時代の土偶として日本最初の発見であるとした。しかし、この文献が正確に継承されなかったため、昭和 63 年刊行の「長野県史 考古資料編 遺構・遺物」では鷺林古墳出土埴輪として前掲文献掲載写真から図化されたとされる図と共に掲載されている。その後、平成 24 年に堤隆により展開写真と実測図が作成され、佐久考古通信 No110 に「赤彩された弥生顔面—佐久市中佐都小学校所蔵資料—」として紹介されたが、前掲した二つの文献が検証されておらず、出土地は中佐都地区が想定された。この後、伝鷺林出土の中佐都小学校所蔵資料については、堤氏の文献が引用され続け今日に至っている。弥生時代の人形土器の研究において、先見的な八幡文献が継承されなかったことが悔やまれる。

現在までのところ、市内で出土した弥生時代の人形の造形品は下信濃石遺跡—1 点、西八日町遺跡—1 点、西一本柳遺跡—4 点、北一本柳遺跡—4 点(今回調査分 3 点を含む)、東一本柳遺跡—3 点(陽器形土製品 1 点を含む)、北

西の久保遺跡－1点、大豆田遺跡－1点、西近津遺跡群－18点、西一里塚遺跡群－2点、既出資料として中佐都小学校収蔵の伝鷲林出土品1点の計36点が確認されている。下信濃石遺跡の1点、西八日町遺跡の1点、北西の久保遺跡の1点と西一本柳遺跡の2点、西一里塚の1点以外は後期の所産であり、出土数からは後期に盛行した様子が伺える。

北西の久保遺跡の3、西一本柳遺跡出土の1・2、(西一里塚の1点も中期の土偶形容器の女性像と思われ、時期的には中期前半に遡る可能性もある)は、中期後半のもので3例共に男性像の土偶形容器であり、全て頭部あるいは頭部片である。頭部以外の部分が確認されていない理由は、土器と異なる部分がないか、極めて少ないことに起因するのかもしれない。赤彩は部分的ないし施されておらず、頭部にターバンのような布を巻いたかのような表現は共通している。西一本柳の1と北西の久保例は頭頂部が開くが、西一本柳の2は、閉じている。(櫻井秀雄氏はこれを土偶形容器の開口部の蓋と考えている。)出土場所は西一本柳の2例は住居址、北西の久保は遺構外であるが、住居址出土例2点も住居址に帰属するものではない。

後期のものは、形態的には群馬県渋川市「有馬遺跡」出土例と同様のものが多いようである。赤彩を施すものがほとんどであり、外面は成形痕を消去するが、内面には輪積痕をそのまま残している。腕が付くものも多いらしく、腕の部位の出土例は多い。足の表現は行わず、体部下半は土器底部同様の形状と思われる。出土場所については環濠覆土や他時期の住居址覆土などであり、その他には遺構に伴う例はない。完形での出土例はなく、全てが破片で出土している。出土状態から考えると人為的な破壊後に廃棄されている可能性が高く、成形時の内面輪積痕がそのままであることも、製作時から破壊を前提に作られているように感じられ、縄文時代の土偶と共通する要素も多いように思われる。設楽博巳氏や櫻井秀雄氏は、この様な人面付土器の役割を墓に添えて邪霊を防ぐ「辟邪」にあると捉えている。辟邪の対象が、墓だけに限定されるのではなく、環濠に囲まれた集落全体であったと捉えることは出来ないであろうか?そのように考えるならば、環濠からの出土例が多い事の一つの回答になるように思われる。

7の陽形土製品については、人形の造形物という観点から掲載したが、調査報告書でも述べられているように、胎土や造りは人形土器と同じである。人形土器の一部分であるか否かについては現時点では判断出来ない。また、下信濃石遺跡出土例は前期のものであり、頭部が表現されない事、腰から足にかけての形態、刺突文などから「T字形土偶」の範疇で捉えられるものと思われ、現時点では佐久市出土の最も古い弥生時代の人形造形品である。西八日町遺跡出土例は未報告資料であるが、弥生時代中期前半以前の「黥面の後頭部結髪土偶」である。

以上の出土例から推測される佐久地方における弥生時代の人形造形品の変遷は、前期の「T字形土偶」から「黥面の後頭部結髪土偶」や佐久穂町館遺跡のような「黥面の土偶形容器」に変化し、中期後半には「土偶形容器」の黥面表現が消失する。そして、後期に至り弥生時代の人形造形品が完成したものと思われる。人形土器の終焉については現時点では定かではないが、桐原健氏は長野市若穂町出土の拳手人面土師器に連なるとの見解を提示している。

第3節 仮称「一本柳型壺」の提唱

弥生時代後期後半の壺型土器の頸部文様帯が多段密着の二帯構成で、文様帯部分に赤彩を施さないことは千曲川流域に共通である。しかし、佐久の一本柳地域では弥生時代後期箱清水期後半(小山岳夫の佐久地域弥生編年の弥生時代後期Ⅳ期)になると、密着施文されていた頸部文様帯を二帯に分離するものが出現する。二帯間に生じる無文帯には赤彩を施すため、明確な意図をもって文様帯を分離しているものと思われる。類例を探すと西一本、北一本柳遺跡以外にはほとんど存在しないことが判明した。佐久市内では西一里塚遺跡に1例、西八日町遺跡に1例、古仁田遺跡Ⅱに3例(確実なものは1例)、群馬県富岡市南蛇井増光寺遺跡に3例が認められるだけであることから、この壺型土器を仮称「一本柳型壺」と命名し、弥生時代後期箱清水期後半の佐久一本柳地域に特有な土器として提唱する。

仮称「一本柳型壺」の定義

1. 頸部文様帯が横位2帯に分割される。

2. 文様帯間の無文部分にも赤彩が施される。
3. 施文は櫛描で、簾状文、直線文、T字文、波状文及びこれらの組み合わせで描かれる。
4. 器形は同時期の佐久地域の壺型土器と同様であり、赤彩が施される。
5. 口縁は単口縁と受口があり、単口縁のものには突起が付加されるものもある。また、受口の場合は横位櫛描波状文が施される。稀有な例であるが、単口縁内面に櫛描波状文が施されたものが存在する。
6. 時期的には箱清水期後半に位置付けられる。(小山編年Ⅳ期古・新)
7. 地域的には西一本柳遺跡、北一本柳遺跡を中核とすることは明らかであるが、分布域は確定できていない。
8. 成立過程・終焉は明らかではないが、佐久市北西部に位置する長土呂地域の、周防畑遺跡群や西近津遺跡群の弥生後期集団は、吉ヶ谷式・系の土器を受容していることが小山岳夫などにより指摘されている。長野県埋蔵文化財センターが行った西近津遺跡群の調査では、第71図-23の土器が出土している。器形や赤彩などは当地方の特徴を備えるが、横位2帯に分割施文された頸部文様帯には縄文が施文される。縄文を櫛描文に換えれば一本柳型壺であり、一本柳型壺の成立が吉ヶ谷式・系土器に由来する可能性が指摘出来る。終焉時期についても定かではないが、小山編年古墳時代前期Ⅰ期頃と思われる。

尚、縄文施文ではないが、刺突による疑似縄文とも言うべき文様が認められる甕が1点北一本柳遺跡ⅢのM16号溝址から出土している。吉ヶ谷式・系土器の影響と思われる。

第4節 頸部「T字文」施文甕について

後期後半の箱清水式期の甕型土器の文様帯構成は口縁部、頸部、体部上半の3帯構成が基本である。佐久地域では、口縁部と体部上半の文様帯には櫛描波状文か櫛描斜走文が施文されるが、頸部文様帯は簾状文が施文されるのが普通であり、直線文のものや、文様帯そのものが存在しない例は見出せるが、頸部「T字文」施文甕の出土例は皆無であった。長野県では、頸部「T字文」施文甕は、上田市の和手遺跡で発見されたのが初例であり、現在までのところ出土数も最多である。その為、頸部「T字文」施文甕は上田地域に特有な存在と考えられてきた。ところが、頸部「T字文」の甕が北一本柳遺跡Ⅲで2例、西一本柳遺跡XIVの調査で1例の出土が確認された。北一本柳遺跡ⅢのH37号住居址-8(頸部に簾状文とT字文の両方が施文され、口縁部内面に赤彩が施される。口縁部と体部上半文様帯には波状文が施される。)、M20号溝址-119(頸部「T字文」、口縁部と体部上半文様帯には波状文が施される。)、西一本柳遺跡XIVのM12号溝址-52(頸部「T字文」、口縁部と体部上半は斜走文)である。

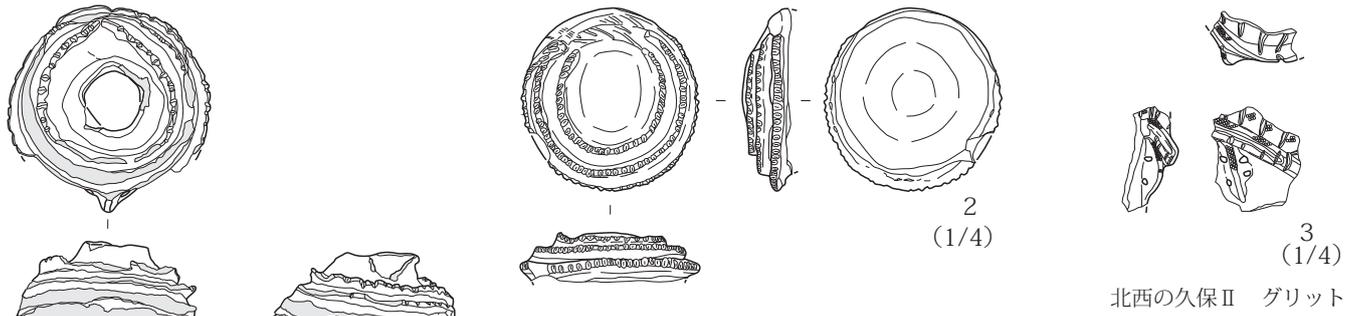
さて、北一本柳遺跡Ⅲ・西一本柳遺跡XIV出土の頸部「T字文」施文甕の系譜をどこに求めるかが問題となるが、今回「人形土器」について調べていく過程で、群馬県「有馬遺跡Ⅱ」報告書中に多数の類例を認めたため、群馬県の同時期の遺跡について、可能な限り報告書等を当たってみたが発見できなかった。時期的には、有馬遺跡の甕は「樽式土器」後期3期のものであり、時期的な矛盾はないように思われる。何れにせよ、頸部「T字文」施文甕の出自や系譜を考えるうえで新たな方向性を示唆する資料の発見と思われる。

蛇足であるが、折り返し口縁の存在も、積極的に「樽式土器」の影響と捉えて良いようにも思われる。

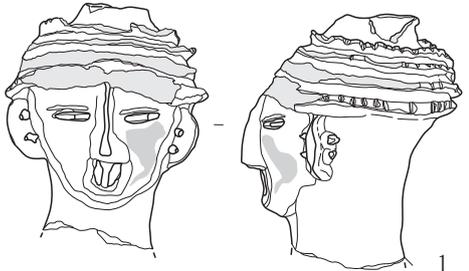
(西一本柳XIVの頸部「T」字文甕については小山2016においてその存在が指摘されている。)

第5節 石製模造品工房址について

石材産地について 2014年に、佐久市出土の古墳時代玉類の化学分析・鉱物分析、産地同定を、(株)第四紀地質研究所の井上巖氏が行った。分析資料は佐久市の北部に位置する下聖端遺跡Ⅱ・Ⅲと、南部に位置する市道遺跡Ⅲ出土の所謂「滑石」製玉類であった。結果は、下聖端遺跡Ⅱ・Ⅲのものは群馬県藤岡市大奈良、甘楽町秋畑産、市道遺跡Ⅲのものは群馬県藤岡市大奈良、甘楽町秋畑産のものと兵庫県八鹿系のものであり、佐久市内の遺跡出土「滑石」製玉類の主要な原石産地として、群馬県藤岡市大奈良、甘楽町秋畑産などの三波川帯を示唆するものであった。

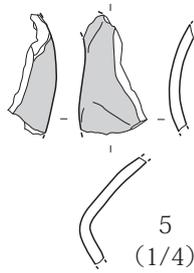


北西の久保Ⅱ グリット (1/4)

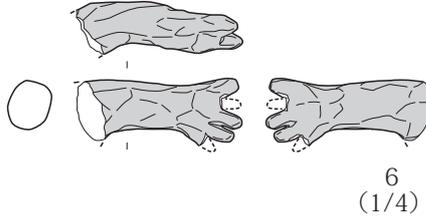


西一本柳Ⅰ H3号住居址 (1/4)

西一本柳Ⅳ H25号住居址

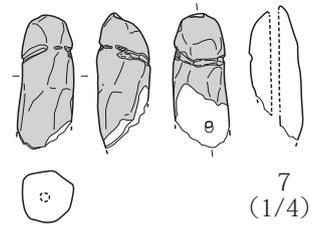


5 (1/4)

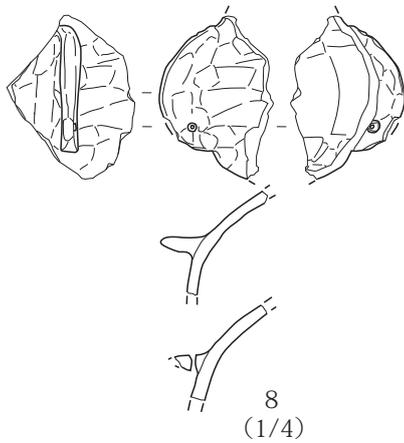


6 (1/4)

東一本柳Ⅱ グリット

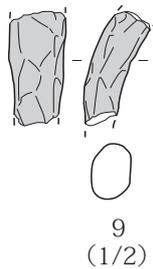


7 (1/4)

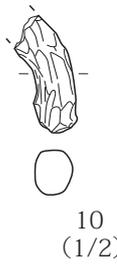


8 (1/4)

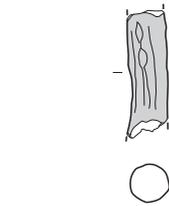
西一本柳Ⅷ グリット



9 (1/2)



10 (1/2)



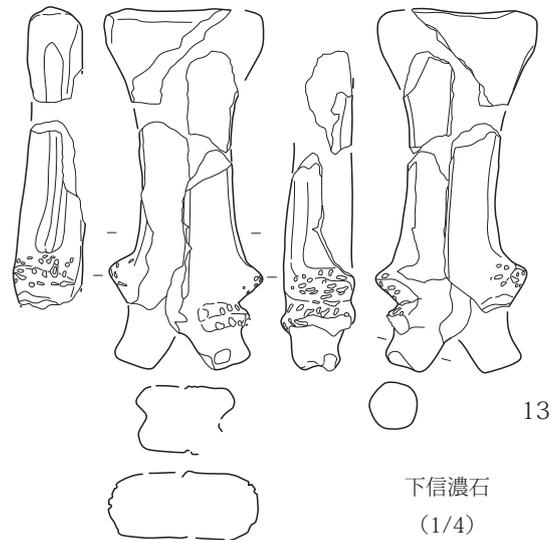
11 (1/2)

北一本柳Ⅲ H19号住居址



12 (原寸)

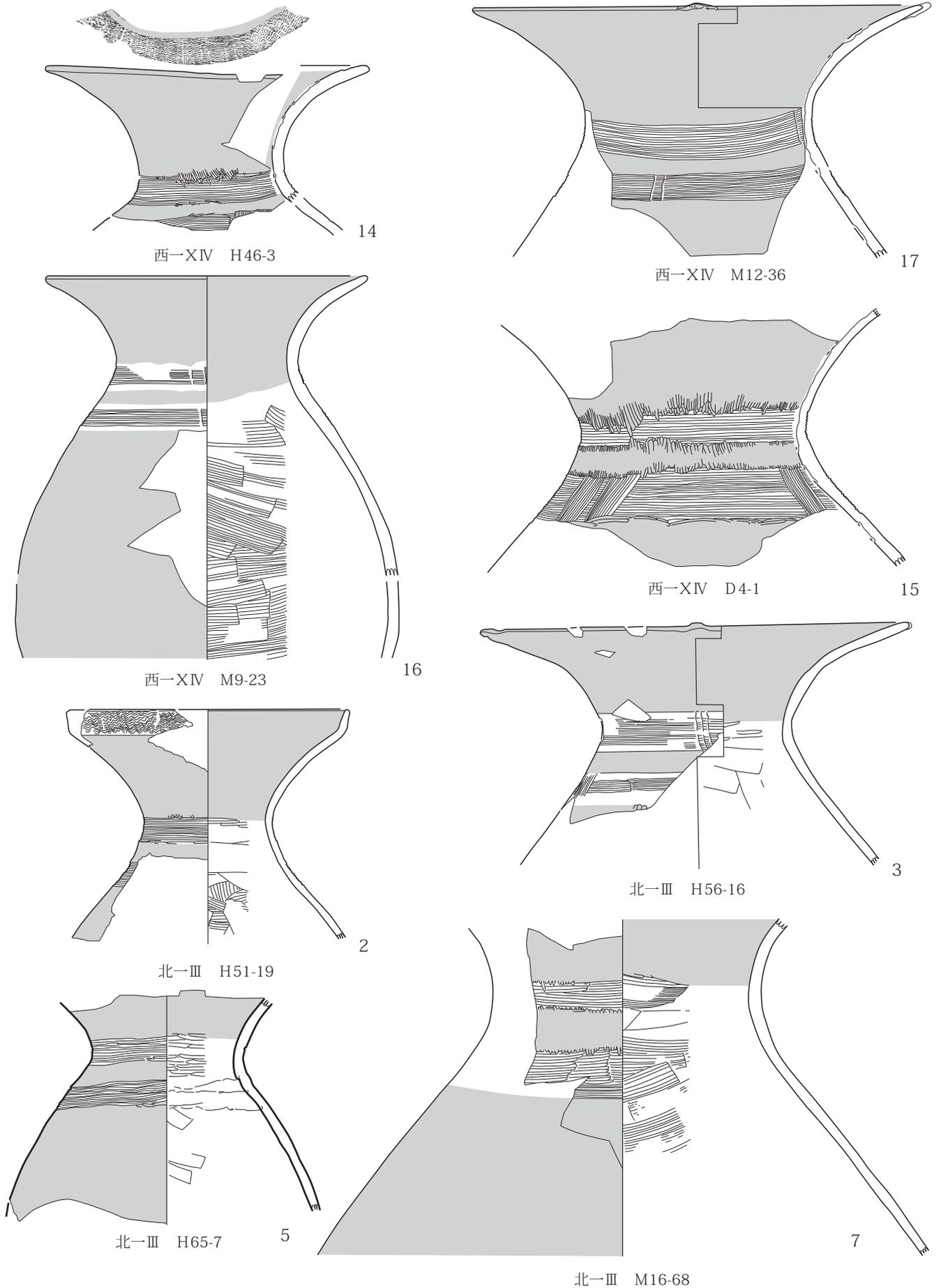
西八日町 未報告



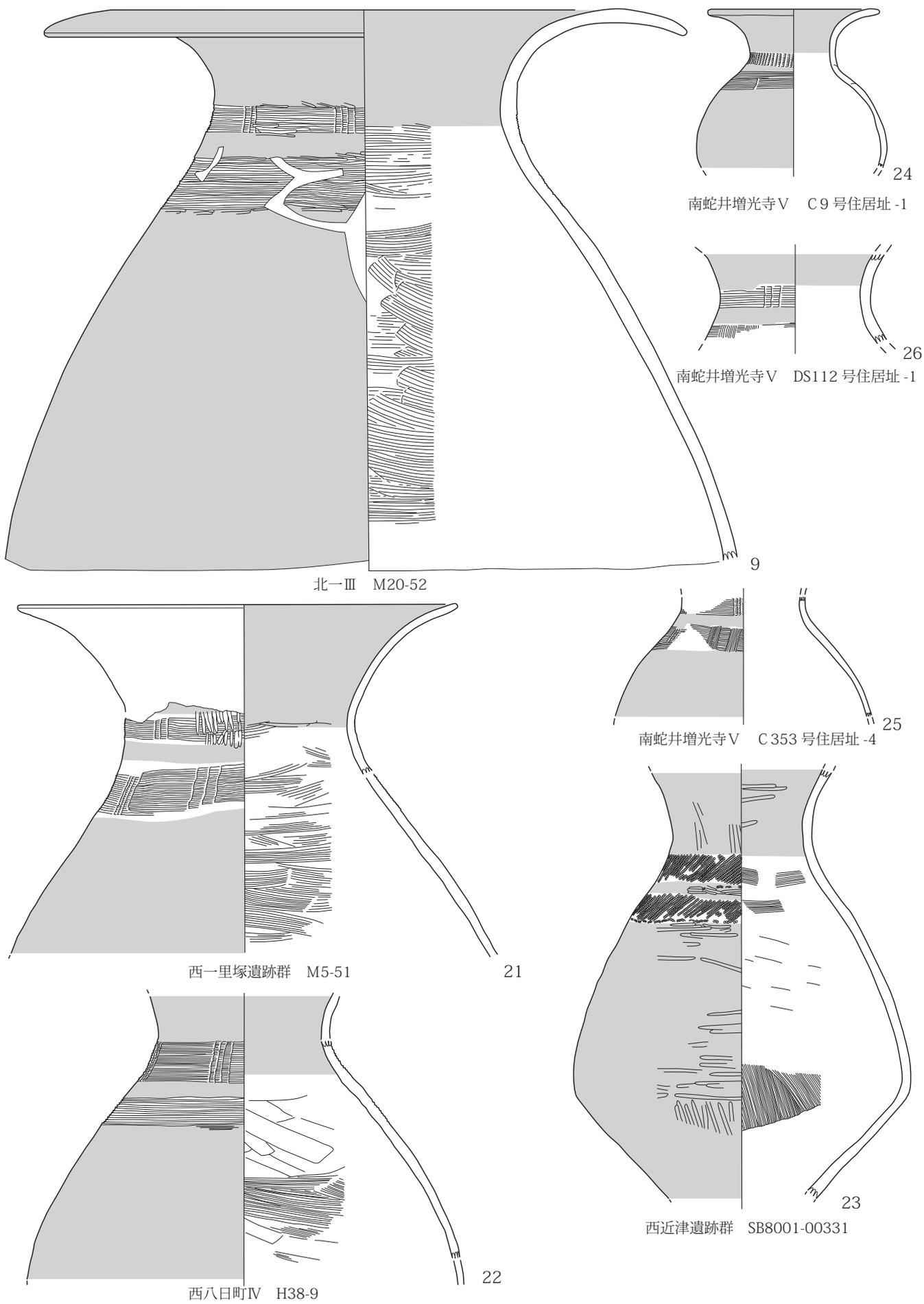
13

下信濃石 (1/4)

第69図 北・東・西一本柳遺跡、西八日町遺跡、下信濃石遺跡出土人形土器



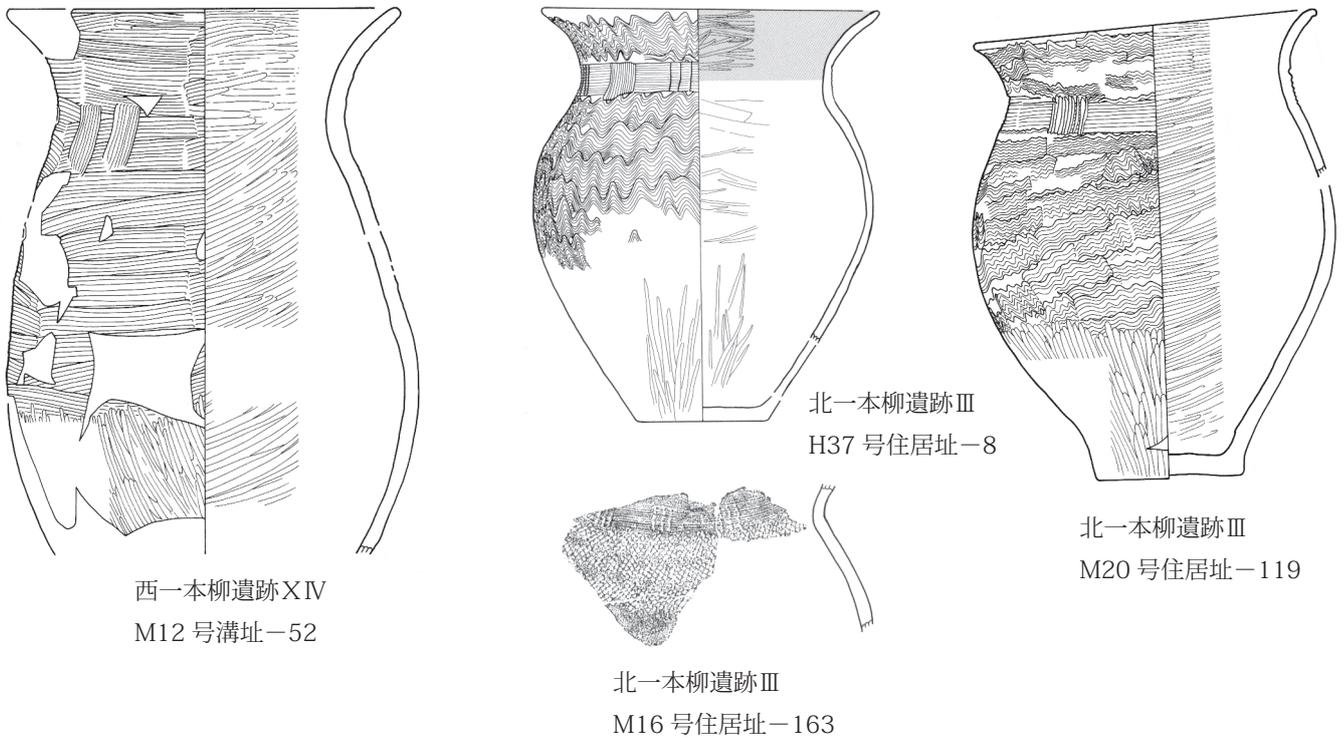
第70図 仮称「一本柳型壺」集成図(1)



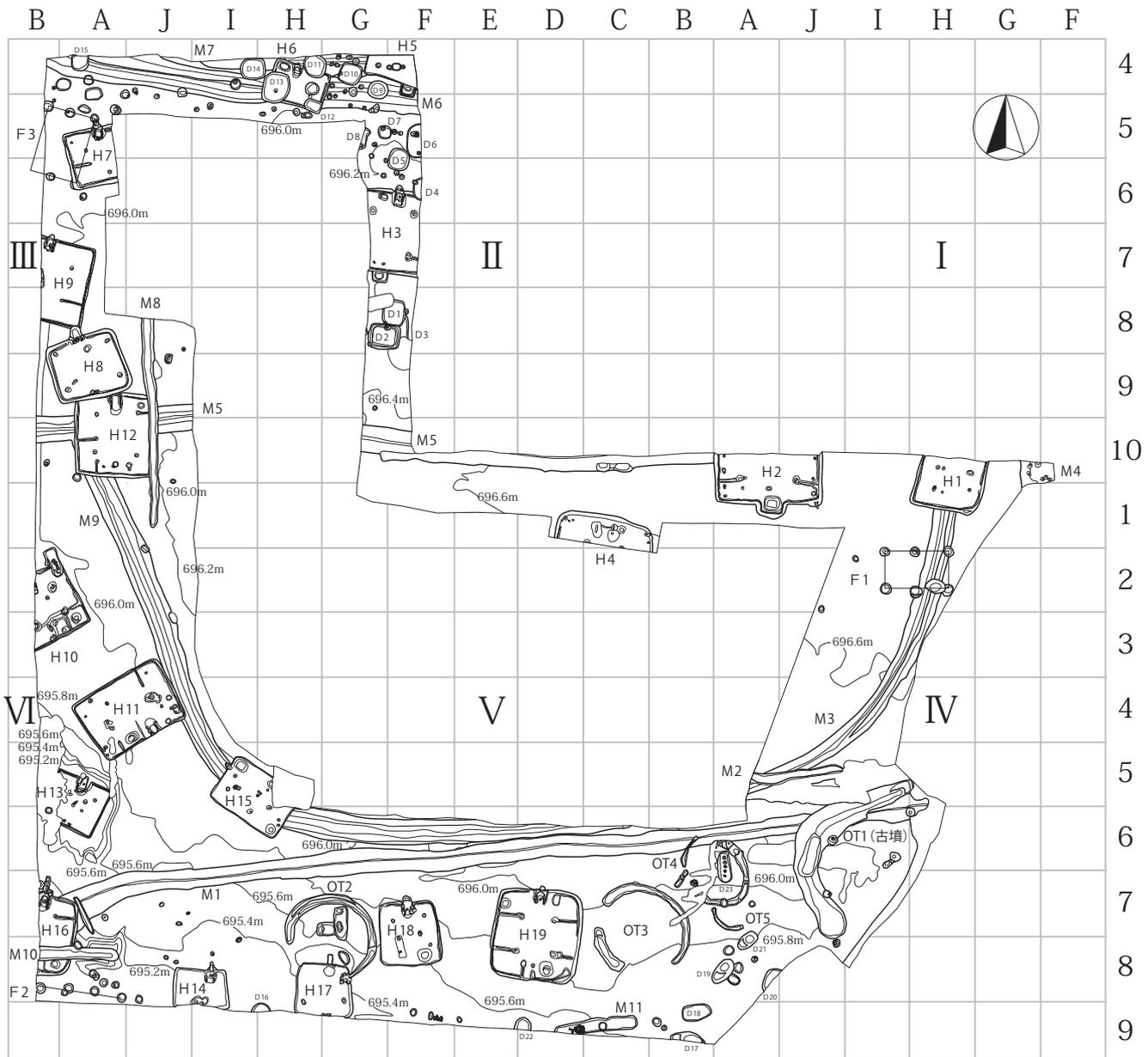
第71图 仮称「一本柳型壺」集成图(2)

仮称「一本柳型壺」一覧表 (拓影 + 断面資料は割愛してある)

No.	遺跡名	遺構名	土器No.	口縁	口縁文様	上段文様	下段文様	時期	備考
1	北一本柳遺跡Ⅲ	H 1号住居址	34	?	?	簾状文	波状文	Ⅳ期古	
2		H 51号住居址	19	受口	波状文	直線文	?	Ⅳ期古	
3		H 56号住居址	16	単口縁	突起	簾状文	T字文	Ⅳ期新	
4		H 61号住居址	20	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
5		H 65号住居址	7	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
6		M 1号溝址	48	?	?	簾状文	簾状文	Ⅳ期古	
7		M 16号溝址	68	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
8		M 17号溝址	70	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
9		M 20号溝址	52	単口縁	—	簾状文	直線文	Ⅳ期古	
10			60	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
11			64	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
12			72	?	?	簾状文	直線文	Ⅳ期古	
13			80	?	?	直線文	直線文	Ⅳ期古	
14	西一本柳遺跡XXⅡ	H 4号住居址	12	受口	波状文	簾状文	直線文	Ⅳ期古	
15			13	単口縁	—	直線文	直線文	Ⅳ期古	
16		M 5号溝址						Ⅳ期古	
17	西一本柳遺跡XⅣ	H 46号住居址	3	単口縁	内面に波状文	直線文	T字文	Ⅳ期古	
18		D 4号土坑	1	?	?	直線文	T字文	?	
19		M 9号溝址	23	単口縁	—	簾状文	簾状文	古墳後期	
20		M 12号溝址	36	単口縁	突起	直線文	簾状文	Ⅳ期新	
21	西一里塚遺跡群	M 5号溝址	51	単口縁	—	簾状文	簾状文	Ⅳ期古	
22	西八日町遺跡Ⅳ	H38号住居址	9	?	?	簾状文	直線文	Ⅳ期新?	
23	西近津遺跡群	SB8001住居址	00331	?	—	縄文	縄文	Ⅲ期古?	参考資料
24	南蛇井増光寺遺跡Ⅴ	C 9号住居址	1	単口縁	—	簾状文	直線文	古墳前期	
25		C 353号住居址	4	?	?	簾状文	簾状文 + T字文	Ⅳ期古	
26		D S 112号住居址	1	?	?	簾状文	T字文	Ⅳ期古	



第 72 図 西一本柳遺跡XⅣ・北一本柳遺跡Ⅲ出土の頸部「T字文」施文甕



第73図 西一本柳遺跡XⅡ全体図

滑石製玉類の生産・流通を考察した文献として、1989「八寸大道上遺跡」（群馬県埋蔵文化財事業団）がある。報文中に示された見解によれば、鐮川流域で原料を掌握している集団が、玉製品の主体的生産を行い、榛名山麓、赤城山麓、粕川下流域、本庄・櫛挽台地にも原料を供給し、これらが第2生産地となり、グループ内や利根川上流域、渡良瀬川中流域、利根川中流域にも製品を供給した。これらの生産と流通を管理していたのは鐮川流域と第2生産地の豪族たちであり、千曲川上流域へは、第2グループの豪族から供給された原料が、入山峠などで製品に加工され供給されたと考察している。しかし、今回の石製模造品工房址の発見により、佐久地域では内山峠や田口峠経由などで、直接鐮川流域から原料の供給を受け玉類の生産を行っていた可能性が強くなった。

工房址の時期について 今回の調査で検出された工房址は、H11号住居址とH15号住居址、H19号住居址の3軒である。出土遺物からは5世紀後葉から6世紀前葉の年代が比定される。群馬県で検出されている滑石製玉製作工房址の時期と同時期である。女屋和志雄氏の「群馬県における古墳時代の玉作（1988年）」に準拠すれば4期に該当し、5世紀末から6世紀前半に比定される。

工房址の形態について 「高崎城遺跡24」では、竪穴住居内での滑石玉作製作について否定的な見解をとっている。しかし、本遺跡の3軒の住居の内、H11とH15の2軒の場合、床面直上や、ピット内から多量のチップや

剥片が出土しており、竪穴住居が工房として使用されていた事を示唆している。工作ピットのような施設は存在しないが、佐久市ではほぼ皆無であろう H11 号住居址の南カマドの位置や、H15 はおそらくカマドが構築されていない事、H11 の支柱が判然としない事や、H15 が 2 本支柱である事、2 軒共に長方形の平面形態で比較的近くに構築されている事や主軸の方向など、明らかに今回の調査で検出された当遺跡の、同時期の住居址とは異質である。また、この 2 軒が一組として機能していた可能性も否定できない。玉作工房としての直接的な機能は遺構には反映されていないが、竪穴住居址が工房として機能していたものと思われる。なお、H19 号住居址からは、チップやフレイクは出土していないため、異なる工程の作業が行われていたか、製品や素材を管理していた場所ではないかとの推測も可能かもしれない。

工程について 三波川帯から、鐮川を流域経由で供給されたであろう原石はあまり大きなものではなかったと思われる。製作されたものは剣形、円盤、勾玉、管玉、白玉であり、大きさや、厚みを必要とするものは製作されていないことから推測される。製作工程は、H15 号から出土している鉄斧などを用い、原石から方形状で、ある程度均一な厚さを求めた素材を取り出し、更に正方形に分断した後、(白玉以外は原石から素材を取り出す時に大きさが決められている。どちらかと言えば原石の規格が製品の規格を規制している。)中央(白玉以外は異なる)に両側から穿孔を行っている。その後、研磨作業により、形状を仕上げている。規格的な統一はあまり意識されてはおらず、素材の状況により、臨機応変に作り分けているように思われる。

尚、当遺跡出土の剣形石製品には、両側縁の向かって右の側縁が直線的に仕上げられる特徴がある。消費地における識別の手掛かりになるかもしれない。

引用・参考文献

- | | | | |
|--------------|--------|---|-------------|
| 八幡一郎 | 1934 年 | 『北佐久郡の考古学的調査』 | 北佐久教育会 |
| 女屋和志雄 | 1988 年 | 『群馬の考古学 群馬県における古墳時代の玉作』 | 群馬県埋蔵文化財事業団 |
| 群馬県考古資料普及会 | 1989 年 | 『八寸大道上遺跡』 | |
| 群馬県埋蔵文化財事業団 | 1990 年 | 『有馬遺跡 II』 | |
| 群馬県埋蔵文化財事業団 | 1994 年 | 『白倉下原・天引向原遺跡 III』 | |
| 大木紳一郎 | 1995 年 | 『中高瀬観音山遺跡』 III - 3 | 群馬県埋蔵文化財事業団 |
| 群馬県埋蔵文化財事業団 | 1996 年 | 『天引狐崎遺跡 II』 | |
| 大木紳一郎 | 1997 年 | 『南蛇井増光寺 V』 第 5 章 - 第 2 節 - 1 | 群馬県埋蔵文化財事業団 |
| 群馬県埋蔵文化財事業団 | 1997 年 | 『長根安坪遺跡』 | |
| 群馬県埋蔵文化財事業団 | 1998 年 | 『田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋遺跡・福島椿森遺跡』 | |
| 吉井町教育委員会 | 2004 年 | 『長根遺跡群発掘調査報告書 VII』 | |
| 佐久市教育委員会 | 2010 年 | 『岩村田遺跡群西一本柳遺跡 X IV・北一本柳遺跡 III・東大門先遺跡 II・西八日町遺跡 III・VII』 | |
| 長野県埋蔵文化財センター | 2012 年 | 『濁り遺跡 久保田遺跡 西一里塚遺跡群』 | |
| 佐久考古学会 | 2012 年 | 特集 佐久の弥生顔面 佐久考古通信 No110 | |
| 長野県埋蔵文化財センター | 2015 年 | 『西近津遺跡群』 | |
| 櫻井秀雄 | 2015 年 | 『人形土器の研究 - 弥生時代の顔面造形 -』 金沢大学考古学研究紀要 36 | |
| かみつけの里博物館 | 2015 年 | 『ゆくものくるもの - 北関東の後期弥生文化 -』 | |
| 小山岳夫 | 2016 年 | 『前方後円墳未築造地域における弥生から古墳時代前期の集落』 専修考古学 15 号 | |
| 桐原 健 | 2016 年 | 『偶感・弥生土偶』 佐久考古通信 No115 | |
| 設楽博巳・石川岳彦 | 2017 年 | 『弥生時代人物造形品の研究』 | (株)同成社 |
| 大塚昌彦 | 2017 年 | 『高崎城遺跡 24 - 第 8 章まとめ』 | (株)測研 |
| 櫻井秀雄 | 2018 年 | 『人形土器の新資料』 金沢大学考古学研究紀要 39 | |

住居址計測表

遺構名	検出位置	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H1	I H 10	M3を切る	N-13°-E	-	4.21	0.22	-	(6)	周溝	焼失住居	5 C後半～6 C前葉
H2	II A 10	M5を切る	N-0°-E	-	6.54	0.59	-	(12)	礎石・壁柱穴・周溝・間仕切・張出貯蔵穴		5 C後半～6 C前葉
H3	II F 7	D4・カクランに切られる	N-8°-E	5.16	-	0.49	-	(6)	周溝・間仕切・張出貯蔵穴・石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H4	V C 1	-	N-5°-E	-	6.07	0.79	-	(7)	周溝	焼失住居	弥生後期
H5	II F 4	P23・33・34・38に切られM6・7を切る	-	-	-	0.37	-	(0)	張出貯蔵穴		5 C後半～6 C前葉
H6	II H 4	D11・12・13・P28に切られ、M6・8を切る	N-20°-E	3.5	2.48	0.49	6.72	2	周溝・貯蔵穴・石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H7	III A 2	F3を切る	N-13°-W	3.57	-	0.39	-	(6)	周溝・間仕切・石組粘土カマド		6 C中葉～6 C後半
H8	III A 9	H9・12を切る	N-18°-W	4.65	4.03	0.53	13.37	7	周溝・石組粘土カマド		7 C後半
H9	III B 7	H8に切られる	N-16°-E	5.08	-	0.43	-	(4)	周溝・間仕切・石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H10	VI B 2	P66に切られる	N-29°-W	4.35	-	0.34	-	(8)	周溝・間仕切・貯蔵穴		5 C後半～6 C前葉
H11	V J 4	M9を切りカクランに切られる	N-210°-W	5.99	4.17	0.35	21.55	14	周溝・間仕切・貯蔵穴・石組粘土カマド	南カマド、玉作工房址	5 C後半～6 C前葉
H12	III A 10	H8・M8・P64に切られる、M5・9を切る	N-0°-E	5.24	4.91	0.52	19.97	9	周溝・間仕切・石組粘土カマド	カマド頂点の五角形	6 C前半～6 C中葉
H13	VI A 5	カクランに切られる	N-25°-E	(3.61)	3.22	0.18	-	(6)	周溝・石組粘土カマド		古墳時代後期
H14	VI 8	-	N-0°-E	3.32	-	0.52	-	1	石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H15	VI 5	M9を切り、カクランに切られる	N-55°-W	4.74	3.19	0.23	-	(14)	貯蔵穴	カマド不明、玉作工房址	5 C後半～6 C前葉
H16	VI B 7	M10・P68・69・カクランに切られ、M1を切る	N-6°-E	4.9	-	0.56	-	(2)	周溝・間仕切・貯蔵穴・石組粘土カマド	焼失住居	5 C後半～6 C前葉
H17	V H 8	O T 2を切る	N-0°-E	-	3.6	0.37	-	5	石組粘土カマド	北壁に旧カマド	9 C後半
H18	V F 7	-	N-0°-E	3.97	3.78	0.3	12.43	6	周溝・貯蔵穴・石組粘土カマド		5 C後半～6 C前葉
H19	V D 7	-	N-6°-E	5.72	5.46	0.41	25.04	11	周溝・間仕切・貯蔵穴・石組粘土カマド	焼失住居、玉作工房址	5 C後半

掘立柱建物址計測表

遺構名	検出位置	重複関係	長軸方位	桁行長	梁間長	面積	柱痕径	桁行柱間寸法	梁間柱間寸法	備考
F1	IV H 2	P40に切られ、M3を切る	N-90°-E	3.79	2.31	8.77	0.15	1.9	2.31	P5に礎石
F2	VI A 8	P73に切られる	-	-	-	-	0.19	1.65	-	
F3	III A 5	H7に切られる	N-74°-E	-	4.16	-	-	1.27～1.69	2.08	

周溝墓計測表

遺構名	検出位置	重複関係	長径		短径		最大幅	最大深	備考
			外周径	内周径	外周径	内周径			
OT1	IV H 5	カクランに切られM1を切る	-	-	-	-	2.05	0.7	
OT2	V G 7	H17・カクランに切られる	5.61	4.52	-	-	0.72	0.30	主体部 長1.59 短0.82 深0.27
OT3	V B 7	カクランに切られる	5.97	5.09	5.58	4.69	0.74	0.37	
OT4	V A 6	P87・カクランに切られM1を切る	4.49	3.82	4.1	3.03	0.62	0.34	
OT5	V A 7	-	-	-	-	-	-	-	

溝址計測表

遺構名	検出位置	重複関係	長径		短径		最大幅	最大深	備考
			外周径	内周径	外周径	内周径			
M1	IV H 5～VI B 7	H16、OT1・4、P68、カクランに切られる	-	-	-	-	(52.53)	1.87	弥生環壕
M2	IV J 5	カクランに切られ、M3を切る	-	-	-	-	(5.45)	-	(0.14)
M3	IV H 1～V A 5	H1、F1、P40、カクランに切られる	-	-	-	-	(25.46)	1.59	弥生環壕
M4	I F 1 0	-	-	-	-	-	-	-	0.42
M5	I B 1 0～II J 9	H2・12、M8・9に切られる	-	-	-	-	(34.27)	1.67	1.26 弥生環壕
M6	II F 4～III B 4	H5・6、D9・10・12・13・14・15・P16・17・19・20・24・25・26・27・28・33・34・37・38・45・46・47に切られる	-	-	-	-	(21.53)	1.81	1.49 弥生環壕
M7	II F 4～II I 4	H5・6、D10・11・14・P18・23・34・38・41・42・43・44に切られる	-	-	-	-	(12.93)	-	(0.47) 弥生環壕
M8	II J 8～V J 1	カクランに切られ、H12、M5を切る	-	-	-	-	(12.85)	0.80	0.24
M9	V D 6～III B 1 0	H11・12・15、P55、カクランに切られ、M5を切る	-	-	-	-	(47.43)	1.83	1.26
M10	VI A 8	P72に切られ、H16を切る	-	-	-	-	(4.78)	0.89	0.30
M11	V C 9	P94、石組2に切られる	-	-	-	-	(5.06)	0.83	0.55 周溝墓の可能性有

土坑計測表

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備考
D 1	II F 8	D 2・3を切り、カクランに切られる	隅丸長方形	N-7°-E	1.62	1.4	0.18	(1.56)	2基のピットは本址に伴なわれない可能性有
D 2	II F 8	D 1・P 51・カクランに切られ、D 3を切る	隅丸長方形	N-85°-W	1.93	1.57	0.29	1.38	周溝を有する
D 3	II F 8	D 1・2、P 51・カクランに切られる	-	-	-	-	0.09	-	壁穴建物址と掘えた方が良いかもしれない
D 4	II F 6	P 3に切られ、H 3を切る	隅丸長方形	-	-	-	0.18	-	
D 5	II F 6	-	隅丸長方形	N-17°-E	1.36	1.27	0.24	1	
D 6	II F 5	P 10・11を切る	-	-	-	-	0.08	-	
D 7	II G 5	P 14を切る	円形	N-45°-W	0.81	0.79	0.11	0.34	
D 8	II G 5	P 15に切られる	-	-	-	-	0.1	-	
D 9	II G 4	M 6を切る	楕円形	N-67°-W	1.26	1.1	0.4	0.51	
D 10	II G 4	M 6・7を切る	隅丸方形	N-63°-W	1.35	1.32	0.29	1.19	
D 11	II H 4	H 6・M 7を切る	楕円形	N-30°-W	-	1.37	0.28	-	
D 12	II H 5	H 6・M 6を切る	隅丸長方形	N-65°-W	1.07	0.74	0.48	0.38	
D 13	II H 4	H 6・M 6・7を切る	隅丸長方形	N-8°-E	1.94	1.64	0.1	1.99	
D 14	II I 4	M 6・7を切る	隅丸長方形	N-90°-W	1.54	1.31	0.29	1.25	
D 15	III A 4	M 6を切る	不整形	N-0°-E	-	1.04	0.24	-	
D 16	V H 9	-	-	-	-	-	0.16	-	
D 17	V B 9	-	楕円形	-	-	-	0.43	-	
D 18	V B 9	-	楕円形	N-80°-E	1.78	1.02	0.17	1.18	集石を伴う
D 19	V A 8	P 92・93を切る	楕円形	N-35°-E	1.74	0.93	0.53	0.51	
D 20	V A 8	-	-	-	-	-	0.4	-	
D 21	V A 8	-	楕円形	N-48°-E	1.35	0.79	0.55	0.4	
D 22	V D 9	-	-	-	-	-	0.35	-	
D 23	V A 6	カクランに切られる	楕円形	N-4°-W	1.88	0.81	0.55	0.88	

ピット計測表(1)

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土色
P 1	IV I 2	D 2・3を切る	楕円形	0.39	0.3	0.25	10YR5/4 7/4ローム多含
P 2	IV J 2	-	楕円形	0.3	0.25	0.26	10YR5/4 7/4ローム多含
P 3	II F 6	D 4を切る	楕円形	0.32	0.27	0.27	10YR5/3 3/2・7/4ローム含
P 4	II F 6	P 3に切られ、H 3を切る	円形	0.32	0.3	0.48	10YR5/3 3/2・7/4ローム含
P 5	II F 6	-	円形	0.32	0.3	0.29	10YR5/3 3/2・7/4ローム含
P 6	II G 6	-	円形	0.31	0.3	0.29	10YR5/3 2/2含
P 7	II G 5	-	円形	0.3	0.27	0.18	10YR5/3 2/2含
P 8	II G 5	-	円形	0.25	0.27	0.43	10YR5/3 2/2含
P 9	II G 6	-	楕円形	0.25	0.19	0.19	10YR3/2 7/4ローム含
P 10	II F 5	D 6に切られる	円形	0.21	0.19	0.17	10YR3/2 7/4ローム含
P 11	II F 5	D 6に切られる	楕円形	0.52	0.32	0.46	10YR5/3 3/2・7/4ローム含
P 12	II F 5	-	楕円形	0.27	0.23	0.37	10YR3/2 5/3・7/4ローム少含
P 13	II F 5	-	楕円形	0.35	0.3	0.31	10YR3/2 5/3・7/4ローム少含
P 14	II G 5	D 7に切られる	円形	0.27	0.25	0.36	10YR2/2 7/4ローム少含
P 15	II G 5	D 8を切る	-	-	-	0.28	10YR2/2 7/4ローム少含
P 16	II G 4	M 6を切る	楕円形	0.56	0.49	0.3	10YR5/3 2/2・7/4ローム含
P 17	II G 5	M 6を切る	円形	0.22	0.22	0.24	10YR5/3 7/4ローム含
P 18	II G 4	M 7を切る	円形	0.41	0.39	0.43	10YR4/2 2/2・7/4ローム含
P 19	II G 5	M 6を切る	円形	0.23	0.21	0.18	10YR5/3 7/4ローム少含
P 20	II G 5	M 6を切る	楕円形	0.36	0.28	0.2	10YR4/2 7/4ローム含
P 21	II G 5	-	楕円形	0.68	0.36	0.33	10YR3/2 7/4ローム少含

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土色
P 2 2	II G 5	-	楕円形	0.46	0.41	0.29	10YR3/2 7/4ローム少含
P 2 3	II G 4	M 7を切る	円形	0.31	0.28	0.27	10YR5/3 7/4ローム少含
P 2 4	II G 5	M 6を切る	円形	0.22	0.21	0.27	10YR5/3 7/4ローム少含
P 2 5	II G 5	M 6を切る	楕円形	0.71	0.39	0.33	10YR5/3 7/4ローム少含
P 2 6	II G 4	M 6を切る	円形	0.29	0.27	0.61	10YR5/3 7/4ローム少含
P 2 7	II G 4	M 6を切る	楕円形	0.32	0.27	0.15	10YR5/3 7/4ローム少含
P 2 8	II G 4	H 6・M 6を切る	円形	0.83	0.78	0.31	10YR3/2 2/2・7/4ローム含
P 2 9	II G 5	-	円形	0.28	0.27	0.24	10YR3/2 7/4ローム少含
P 3 0	II G 5	-	楕円形	0.35	0.24	0.18	10YR3/2 7/4ローム少含
P 3 1	II I 5	-	楕円形	0.29	0.26	0.29	10YR3/2 7/4ローム少含
P 3 2	II J 5	-	楕円形	0.31	0.27	0.38	10YR3/2 7/4ローム少含
P 3 3	II F 4	M 6を切る	円形	0.23	0.22	0.13	10YR2/2 7/4ローム少含
P 3 4	II F 4	M 6・7を切る	楕円形	0.31	0.27	0.16	10YR2/2 7/4ローム少含
P 3 5	III A 4	-	楕円形	1.08	0.78	0.13	10YR5/3 7/4ローム少含
P 3 6	III A 4	-	楕円形	0.93	0.76	0.2	10YR5/3 7/4ローム少含
P 3 7	III A 4	M 6を切る	円形	0.62	0.61	0.06	10YR5/3 7/4ローム少含
P 3 8	II F 4	M 6・7を切る	楕円形	0.55	0.48	0.14	10YR3/2・5/3・7/4ローム混在
P 3 9	II F 5	-	楕円形	0.34	0.23	0.28	10YR2/2 5/3・7/4ローム含
P 4 0	IV G 2	F 1・M 3を切る	楕円形	1.24	0.86	0.25	10YR5/3 7/4ローム多含
P 4 1	II G 4	M 7を切る	楕円形	0.36	0.27	0.4	10YR4/2
P 4 2	II G 4	M 7を切る	楕円形	0.33	0.28	0.31	10YR5/3 7/4ローム少含

ピット計測表(2)

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	土色	
							内	外
P 4 3	II G 4	M 7 を切る	楕円形	0.33	0.21	0.06	10YR5/3 7/4 ローム少含	
P 4 4	II G 4	M 7 を切る	楕円形	0.27	0.19	0.09	10YR5/3 7/4 ローム少含	
P 4 5	II G 4	M 6 を切る	楕円形	0.28	0.21	0.12	10YR5/3 7/4 ローム少含	
P 4 6	II 1 5・4	M 6 を切る	円形	0.67	0.62	0.43	10YR5/3 2/2・8/4 ローム含	
P 4 7	II J 4	M 6 を切る	円形	0.6	0.59	0.26	10YR5/3 2/2・8/4 ローム含	
P 4 8	II G 9	—	円形	0.27	0.25	0.19	10YR3/2 7/4 ローム少含	
P 4 9	III A 4	—	楕円形	0.22	0.17	0.35	10YR3/2 7/4 ローム含	
P 5 0	III A 5	—	楕円形	0.22	0.15	0.10YR3/2 7/4 ローム含		
P 5 1	II F 8	D 2 を切る	楕円形	0.39	0.29	0.59	10YR4/2 7/4 ローム極少含	
P 5 2	III A 5	—	楕円形	0.79	0.48	0.32	10YR3/2 2/2・7/4 ローム多含	
P 5 3	II I 5	—	楕円形	0.41	0.33	0.28	10YR5/3 7/4 ローム多含	
P 5 4	II J 4	—	楕円形	0.42	0.29	0.25	10YR3/2 2/2・7/4 ローム少含	
P 5 5	V J 1	M 9 を切る	楕円形	0.53	0.42	0.35	—	
P 5 6	III A 6	—	楕円形	0.48	0.41	0.2	10YR3/2 2/2・7/4 ローム少含	
P 5 7	II J 4	—	円形	0.55	0.53	0.4	10YR3/2 7/4 ローム少含	
P 5 8	II J 5	—	楕円形	0.66	0.56	0.47	10YR3/2 7/4 ローム少含	
P 5 9	III A 1 0	—	円形	0.51	0.5	0.31	10YR2/2 7/4 ローム少含	
P 6 0	II J 1 0	—	楕円形	0.31	0.25	0.29	10YR2/2 7/4 ローム少含	
P 6 1	II J 9	—	円形	0.22	0.2	0.18	10YR2/2	
P 6 2	II J 1 0	—	楕円形	0.61	0.45	0.48	10YR5/3 2/2・7/4 ローム含	
P 6 3	III B 1 0	—	楕円形	0.43	0.3	0.34	10YR3/2 7/4 ローム少含	
P 6 4	III A 1 0	H 1 2 を切る	円形	0.33	0.32	0.37	10YR3/2 5/3 含	
P 6 5	V B 9	—	円形	0.33	0.31	0.34	—	
P 6 6	VI B 2	H 1 0 を切る	楕円形	1.83	0.94	0.65	10YR5/3 7/4 ローム少含	
P 6 7	VI B 7	—	—	—	—	0.47	10YR3/2 7/6 ローム少含	
P 6 8	VI A 7	H 1 6・M 1 を切る	楕円形	2.52	0.38	0.13	10YR5/3 2/2・7/6 ローム含	
P 6 9	VI B 7	H 1 6 を切る	楕円形	0.33	0.26	0.08	10YR5/3 7/4 ローム多含	
P 7 0	VI A 7	—	楕円形	0.4	0.35	0.42	10YR5/3 7/4 ローム多含	
P 7 1	VI A 8	—	楕円形	0.47	0.42	0.2	10YR5/3 7/4 ローム多含	

H 1 号住居址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	法			量		重量等	形成		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	面	外					
1	土師器	環	(11.0)	—	< 4.7 >	—	—	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	—	III区	
2	土師器	環	(12.0)	—	5.3	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	—	完全実測、二次焼熱 No5	
3	土師器	環	14.8	—	6.3	—	ナデ→暗文状ヘラミガキ	ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	—	完全実測 No8	
4	土師器	環	(15.4)	—	< 5.8 >	—	暗文状ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	—	III区	
5	土師器	環	(18.3)	—	< 4.9 >	—	暗文状ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	—	III区	
6	土師器	環	—	—	< 2.1 >	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	—	完全実測、二次焼熱 No6	
7	土師器	環	—	—	< 3.8 >	—	暗文状ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	—	完全実測 No2、No7、ケン	
8	土師器	高環	16.0	—	< 5.3 >	—	ヘラミガキ	坏下部ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	完全実測 No6、IV区、ケン	
9	土師器	高環	—	12.4	< 7.1 >	—	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラケズリ	—	完全実測 No5	
10	土師器	甕	(11.6)	—	< 6.5 >	—	ナデ	ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ナデ	—	III区	
11	土師器	甕	(11.8)	—	< 4.9 >	—	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	ヘラケズリ→ナデ	—	完全実測、二次焼熱 No4	
12	土師器	甕	14.0	4.2	13.1	—	—	ヘラケズリ→ナデ	ヘラケズリ→ナデ	—	III区	
13	土師器	甕	(14.0)	—	< 7.3 >	—	—	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ナデ	—	IV区、ケン	
14	土師器	甕	14.1	—	< 9.1 >	—	—	ヘラケズリ→ナデ	ヘラケズリ→ナデ	—	完全実測 No1	
15	土師器	鉢	(15.4)	—	< 7.6 >	—	ナデ→黒色処理?	ハケ目→ナデ、縁付着	ハケ目→ナデ、縁付着	—	III区	
16	土師器	壺	15.0	—	< 15.9 >	—	口縁部ナデ、胴上半ナデ、下半ハケメ	口縁部ナデ、胴部ハケ目→ヘラケズリ、口唇部ヘラケズリによる面取	口縁部ナデ、胴部ハケ目→ヘラケズリ、口唇部ヘラケズリによる面取	—	No9	

H 1 号住居址出土遺物観察表(2)

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面		
17	土師器	壺	(19.2)	—	—	< 4.9 >	—	ナデ、煤付着	ナデ、煤付着		回転実測	No3	
18	土師器	甌	21.3	(10.1)	16.3	—	—	ハケ目	ハケ目、底部周縁へラケズリ		完全実測	No1、III区	
19	石器・石製品	台石	< 29.1 >	19.5	7.1	< 4500.0 >	—	両端欠損、磨面1、二次被熱により一部黒化	両端欠損、磨面1、二次被熱により一部黒化		完全実測、二次被熱	No14	
20	石器・石製品	磨石	< 16.8 >	< 15.4 >	< 9.0 >	< 2410.0 >	—	左側～裏面欠損、磨面3、二次被熱により一部黒化	左側～裏面欠損、磨面3、二次被熱により一部黒化		完全実測、二次被熱	No15	
21	石器・石製品	敲石	12.9	4.2	3.4	194.71	—	両端部に敲打痕、二次被熱により一部黒化	両端部に敲打痕、二次被熱により一部黒化		完全実測、二次被熱	No12	
22	石器・石製品	敲石	24.5	11.9	9.2	2860	—	両端部に敲打痕、二次被熱により一部黒化	両端部に敲打痕、二次被熱により一部黒化		完全実測、二次被熱	No11	
23	石器・石製品	素材	4.9	2.4	0.4	7.59	—	磨製石鏃等の素材	磨製石鏃等の素材		完全実測	ケン	

H 2 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面		
1	土師器	環	12.3	12.0	5.2	—	—	へラミガキ→黒色処理	へラケズリ→へラミガキ		完全実測	No7、EW区、P3	
2	土師器	環	(14.2)	(12.8)	(4.9)	—	—	へラミガキ→黒色処理	へラケズリ→へラミガキ		回転実測	W区	
3	土師器	環	(14.4)	(9.2)	(4.5)	—	—	へラミガキ→黒色処理	へラケズリ→へラミガキ		ケン	ケン	
4	土師器	環	14.4	—	4.5	—	—	へラミガキ	へラミガキ		完全実測	No3	
5	土師器	環	(14.6)	—	< 5.1 >	—	—	へラミガキ	へラケズリ→へラミガキ		回転実測	E、W区	
6	土師器	環	(16.6)	—	6.2	—	—	へラミガキ→黒色処理	へラケズリ		回転実測	E区、D1	
7	土師器	環	(18.4)	(12.2)	5.1	—	—	へラミガキ→黒色処理	へラケズリ→へラミガキ		回転実測	ケン	
8	土師器	環	(18.6)	(14.0)	(4.5)	—	—	へラミガキ→黒色処理	へラケズリ→へラミガキ		回転実測	E区	
9	土師器	環	—	—	< 7.5 >	—	—	へラミガキ→黒色処理	へラケズリ→へラミガキ		回転実測	E、W区	
10	土師器	高環	(18.0)	—	< 6.8 >	—	—	へラミガキ	へラミガキ		回転実測	W区	
11	須恵器	環	—	—	< 2.6 >	—	—	ロクロナデ	回転へラケズリ		回転実測	W区	
12	須恵器	環	—	—	< 3.8 >	—	—	ロクロナデ	回転へラケズリ		回転実測	E区	
13	土師器	甕	10.1	6.0	12.0	—	—	ナデ	へラケズリ		完全実測	No6	
14	土師器	甕	(12.4)	—	< 8.4 >	—	—	ナデ	へラケズリ		回転実測	E区	
15	土師器	甕	12.6	5.9	10.6	—	—	ナデ→へラミガキ	へラケズリ→へラミガキ		完全実測	No8	
16	土師器	甕	13.2	—	< 11.3 >	—	—	ナデ	へラケズリ		完全実測	D1、E、W区	
17	土師器	甕	(13.8)	—	< 6.1 >	—	—	ナデ	へラケズリ		回転実測	E区	
18	土師器	甕	10.4	—	16.1	—	—	ナデ→へラミガキ	へラケズリ→へラミガキ		完全実測	No2	
19	土師器	壺	11.1	7.3	13.6	—	—	ナデ→赤彩	へラケズリ→へラミガキ→赤彩		完全実測	No1	
20	土師器	壺	13.5	—	< 7.5 >	—	—	へラミガキ	ハケ目→へラミガキ		完全実測	No4、E区	
21	土師器	壺	16.6	—	< 7.9 >	—	—	ナデ	へラケズリ→へラミガキ		完全実測	No5、E区	
22	須恵器	はそう	(11.2)	—	< 4.9 >	—	—	自然釉	櫛歯状工具による波状文、自然釉		回転実測	E区、床	
23	土師器	甌	19.5	7.3	16.4	—	—	へラケズリ	へラケズリ		完全実測	No7、E区	
24	土製品	丸玉	< 0.9 >	< 0.6 >	< 0.9 >	< 0.63 >	—	ナデ、孔径0.15	へラケズリ		完全実測	W区	
25	石器・石製品	台石	< 38.8 >	< 22.2 >	< 9.1 >	—	—	周囲欠損、磨面2	完全実測		完全実測	No12	
26	石器・石製品	打製石斧	10.2	6.5	1.4	103.56	—	使用による摩滅有	完全実測		完全実測	No11	
27	石器・石製品	白玉	0.75	0.75	0.5	0.36	—	孔径0.25	完全実測		完全実測	覆土	
28	石器・石製品	管玉	0.6	0.65	2.15	1.81	—	孔径0.25	完全実測		完全実測	No10	
29	金属製品	不明	< 3.3 >	< 1.3 >	< 0.9 >	< 5.21 >	—	両端部欠損	完全実測		完全実測	E区	

H 3 号住居址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面		
1	土師器	環	15.0	11.5	5.4	—	—	へラミガキ→黒色処理	へラミガキ		完全実測	No2	
2	土師器	環	(15.1)	—	< 4.5 >	—	—	ナデ	へラケズリ→ナデ		回転実測	I区、II区	
3	土師器	鉢	—	(8.6)	< 5.0 >	—	—	ナデ→黒色処理	へラケズリ→へラミガキ		回転実測	I区、カマド	

H 3 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面			
4	土師器	小型甕	10.5	5	—	10.7	—	ナデ	ハケ目	ハケ目→ハケ目	ハケ目→ハケ目	完全実測	No1	
5	土師器	甕	(18.9)	—	—	< 34.9 >	—	ハケ目	ハケ目	ハケ目→ハケ目	ハケ目→ハケ目	完全実測(調整回転)	I区、II区、III区	
6	石器・石製品	石製模造品素材	7.5	3.3	8.0	0.8	27.72	—	—	—	—	完全実測	III区	
7	石器・石製品	磨・敲石	8.9	8.0	7.0	573.71	—	—	—	—	—	完全実測	No3	

H 4 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面			
1	弥生土器	鉢	(11.8)	4.2	—	6.4	—	ミガキ→赤彩	ミガキ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	No9	
2	弥生土器	鉢	(14.1)	4.6	—	< 6.5 >	—	ミガキ→赤彩	ミガキ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	床	
3	弥生土器	高坏	15.3	—	—	< 9.2 >	—	ミガキ→赤彩	ミガキ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測、脚欠損状態で使用	No6	
4	弥生土器	高坏	15.7	8.2	—	12.5	—	ミガキ→赤彩	ミガキ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	No2	
5	弥生土器	甕	15	—	—	< 13.7 >	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	No7	
6	弥生土器	甕	(19.3)	—	—	< 16.8 >	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	No5	
7	弥生土器	甕	22.3	—	—	< 12.7 >	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	No10	
8	弥生土器	甕	(23.2)	8.1	—	31.7	—	ケズリ→ミガキ	ケズリ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No4	
9	弥生土器	甕	23.7	9.7	—	44.2	—	ハケメ→ミガキ	ハケメ	ハケメ→ミガキ	ハケメ→ミガキ	完全実測	No3	
10	弥生土器	甕	24.6	10.3	—	37.5	—	ケズリ→ミガキ	ケズリ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No1	
11	弥生土器	甕	—	6.6	—	< 5.1 >	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩	完全実測	No8	
12	弥生土器	壺	23.0	8.0	—	44.3	—	ハケメ・赤彩	ハケメ	ハケメ・赤彩	ハケメ・赤彩	完全実測	No8	
13	弥生土器	壺	(34.1)	—	—	< 18.2 >	—	ハケメ・赤彩	ハケメ	ハケメ・赤彩	ハケメ・赤彩	完全実測	—	
14	土製品	土器片円盤	3.7	3.2	—	0.9	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	—	
15	石器・石製品	軽石製品	7.0	3.6	—	3.0	22.8	磨面2	磨面2	磨面2	磨面2	完全実測	—	
16	石器・石製品	磨石	< 3.0 >	< 2.0 >	—	< 0.6 >	< 4.0 >	裏面欠損、全体に磨り	裏面欠損、全体に磨り	裏面欠損、全体に磨り	裏面欠損、全体に磨り	完全実測	—	
17	石器・石製品	磨石	6.6	2.5	—	1.8	38.1	全体すり	全体すり	全体すり	全体すり	完全実測	—	
18	石器・石製品	磨石	< 7.5 >	< 3.9 >	—	< 1.4 >	< 51.5 >	裏面欠損、全体に磨り	裏面欠損、全体に磨り	裏面欠損、全体に磨り	裏面欠損、全体に磨り	完全実測	—	

H 5 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面			
1	土師器	甕	(18.4)	—	—	< 33.4 >	—	ハケ目、ナデ	ハケ目	ハケ目、ナデ	ハケ目、ナデ	回転実測	No1、ホリ、M6	
2	土師器	甕	(18.6)	—	—	< 36.2 >	—	ハケ目、ナデ	ハケ目	ハケ目、ナデ	ハケ目、ナデ	回転実測	No1	
3	土師器	甕	17.5	(7.4)	—	13.5	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	No1	
4	須恵器	すり鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	覆土	
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	ハケ目、ナデ	ハケ目	ハケ目、ナデ	ハケ目、ナデ	破片実測、拓本	覆土	
6	弥生土器	壺	—	(17.0)	—	< 4.1 >	—	剥離	剥離	剥離	剥離	回転実測	覆土	
7	石器・石製品	台石	< 23.4 >	< 17.7 >	—	< 15.0 >	< 11300.0 >	一端欠損、使用面2	一端欠損、使用面2	一端欠損、使用面2	一端欠損、使用面2	完全実測	No2	

H 6 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面			
1	土師器	環	15.1	9.2	—	6.2	—	ハケ目、ナデ	ハケ目	ハケ目、ナデ	ハケ目、ナデ	完全実測	No1、カマド	
2	土師器	台付甕	(14.1)	9.7	—	15.9	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	No2・3、II区、カマド掘方	
3	土師器	小型甕	(14.3)	5.6	—	15.9	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	No2	
4	土師器	甕	17.1	6.1	—	35.3	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	No2、カマド	
5	土師器	甕	24.5	9.2	—	30.3	—	ハケ目→ハケ目	ハケ目	ハケ目→ハケ目	ハケ目→ハケ目	完全実測	No1	
6	弥生土器	鉢	—	3.9	—	< 2.9 >	—	ハケ目、ナデ	ハケ目	ハケ目、ナデ	ハケ目、ナデ	完全実測	IV区	
7	土製品	土器片円盤	4.6	5.2	—	0.8	—	ハケ目	ハケ目	ハケ目	ハケ目	完全実測	I区	

H 7 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	形	法			量		成		形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	内面	外面			
1	土師器	環	(12.2)	(13.4)	(4.6)	-	ハラミガキ→黒色処理	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	Ⅲ区、Ⅳ区	
2	土師器	環	13.9	5.1	5.8	-	ハラミガキ→黒色処理	ハラケズリ、木葉痕	ハラケズリ、木葉痕	ハラケズリ、木葉痕	完全実測、拓本	No2	
3	土師器	環	(14.8)	(12.0)	< 4.2 >	-	ナデ→黒色処理	ハラケズリ、ナデ	ハラケズリ、ナデ	ハラケズリ、ナデ	回転実測	I区	
4	土師器	台付甕	(11.1)	9.9	14.4	-	ナデ→黒色処理	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	No3、I区、II区	
5	土師器	甕	12.2	6.4	7.7	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	Ⅲ区	
6	土師器	甕	(14.6)	(8.8)	(9.7)	-	ハラミガキ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	II区	
7	土師器	甕	17	(6.8)	34.1	-	ハケ目	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	No2、I区、II区、IV区、カマド、カマド構築	
8	土師器	甕	17.6	5.0	28.7	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	No2、I区、カマド、カマド構築	
9	土師器	甕	18.6	7.4	34.7	-	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	No2、I区	
10	土師器	甕	(19.4)	-	< 4.8 >	-	ナデ	ハラケズリ、口縁ハケナデ	ハラケズリ、口縁ハケナデ	ハラケズリ、口縁ハケナデ	回転実測	I区、II区	
11	土師器	甕	20.1	-	32.4	-	ハケ目	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	No1、I区	
12	土師器	甕	20.2	(6.0)	32.0	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	No2、I区	
13	土師器	甕	-	4.8	< 4.2 >	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	カマド構築	
14	須恵器	はそう	-	-	< 6.1 >	-	ロクロナデ	櫛描波状文、刺突文、ハラ描洗線	櫛描波状文、刺突文、ハラ描洗線	櫛描波状文、刺突文、ハラ描洗線	回転実測	No2	
15	石器・石製品	台石	< 30.4 >	< 25.5 >	< 13.0 >	< 13000.0 >	片側欠損、使用面1				完全実測	No4	
16	石器・石製品	敲石	12.7	6.0	2.9	380	端部に敲打痕				完全実測	IV区	
17	石器・石製品	敲石	16.0	6.5	3.7	390	稜上に敲打痕				完全実測	IV区ホリ	

H 8 号住居址出土遺物観察表(1)

No.	器種	形	法			量		成		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	土師器	環	12.4	11.8	4.1	-	ハラミガキ→黒色処理	ハラケズリ→ハラミガキ	ハラケズリ→ハラミガキ	完全実測	Ⅲ区
2	土師器	北武蔵型環	12.8	12.5	3.4	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	I区、II区、IV区
3	土師器	北武蔵型環	(13.5)	-	(4.5)	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	I区
4	土師器	北武蔵型環	(14.0)	(14.0)	5.0	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	No2
5	土師器	北武蔵型環	15.3	15	5.0	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	完全実測	II区、III区
6	土師器	手捏土器	(3.0)	(2.3)	2.3	-	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	Ⅲ区
7	土師器	手捏土器	(3.1)	(2.0)	2.8	-	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅲ区
8	土師器	手捏土器	(5.2)	(5.6)	3.1	-	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅲ区
9	土師器	手捏土器	(5.4)	(3.4)	3.6	-	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅲ区
10	土師器	手捏土器	-	5	< 3.5 >	-	ハラミガキ→黒色処理	ハラミガキ	ハラミガキ	完全実測	Ⅲ区
11	須恵器	高坏	-	(8.0)	< 2.0 >	-	ロクロナデ	自然釉	自然釉	回転実測	Ⅲ区、IV区、H12 IV区
12	須恵器	盤	-	11.8	< 4.5 >	-	ロクロナデ	自然釉	自然釉	完全実測	Ⅲ区、Ⅳ区
13	土師器	鉢	(12.6)	-	< 11.4 >	-	ナデ→ハラミガキ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	No1
14	土師器	甕	(23.2)	-	< 19.6 >	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	I区、II区
15	土師器	台付甕	-	(9.6)	< 4.1 >	-	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	Ⅲ区
16	土師器	壺	(17.0)	-	< 10.0 >	-	ナデ	ハラケズリ→ハラミガキ	ハラケズリ→ハラミガキ	回転実測	No3
17	弥生土器	蓋	-	4.2	< 4.3 >	-	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ→赤彩	完全実測	IV区
18	石器・石製品	石鏝	< 1.75 >	< 1.60 >	< 0.35 >	< 0.80 >	先端・基部欠損、黒曜石			完全実測	IV区
19	石器・石製品	磨石	< 15.9 >	< 16.3 >	< 7.2 >	2270	被熱有？(裏面被熱剥離?)、磨面2			完全実測	IV区
20	石器・石製品	敲石	12.4	8.6	8.0	1120	正面・片側に削り状使用痕、端部敲打痕			完全実測	IV区
21	石器・石製品	敲石	16.3	8.5	5.7	890	両端部に敲打痕			完全実測	No4
22	石器・石製品	磨・敲石	15.8	8.8	7.0	1130	両端部と側面に敲打痕、磨面1			完全実測	IV区
23	石器・石製品	白玉	1.00	1.00	0.60	0.94	孔径0.35			完全実測	Ⅲ区
24	石器・石製品	白玉	1.00	1.00	0.40	0.71	孔径0.30			完全実測	Ⅲ区
25	石器・石製品	白玉	1.00	1.10	0.50	0.91	孔径0.35			完全実測	Ⅲ区
26	石器・石製品	白玉	1.00	1.00	0.50	0.83	孔径0.30			完全実測	Ⅲ区

H 8号住居址出土遺物観察表(2)

No.	器種	器形	法			量		内面	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	外面		外面			
27	石器・石製品	白玉	1.00	1.10	0.40	0.69	孔径0.30			完全実測	Ⅲ区	
28	石器・石製品	白玉	1.00	1.10	0.30	0.53	孔径0.30			完全実測	Ⅲ区	
29	石器・石製品	白玉	1.05	1.15	0.40	0.78	孔径0.30			完全実測	Ⅲ区	
30	石器・石製品	白玉	1.05	1.05	0.55	0.80	孔径0.30			完全実測	Ⅲ区	
31	石器・石製品	白玉	1.05	1.05	0.30	0.35	孔径0.35			完全実測	Ⅲ区	
32	石器・石製品	白玉	1.10	1.10	0.40	0.59	孔径0.30			完全実測	Ⅲ区	
33	石器・石製品	有孔円板	<1.40>	<2.20>	<0.70>	<2.11>	孔径0.30、約1/3残存			完全実測	Ⅲ区	

H 9号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		内面	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	外面		外面			
1	土師器	坏	16.6	13.2	5.3	-	ミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ→ミガキ		完全実測	No1	
2	土師器	鉢	16.8	5.2	13.3	-	胴部から底部ナデ	胴部・底部ヘラケズリ		完全実測、歪み有	No3	
3	土師器	甕	(16.7)	-	<189>	-	胴部ナデ	胴部ヘラケズリ		回転実測	I区	
4	土師器	甕	17.4	4.9	37.5	-	胴部から底部ナデ	胴部・底部ヘラケズリ		完全実測	No5、I区	
5	土師器	甕?	-	-	-	-	胴部ナデ	胴部ヘラケズリ		破片実測	I区	
6	土師器	甕?	(29.0)	-	<8.5>	-	ハケ目→ミガキ	胴部ハケ目→ミガキ		回転実測	I区	
7	土師器	甕	30.0	(9.0)	28.6	-	ミガキ	胴部ナデ、ナデ→ミガキ		完全実測	No2	
8	石器・石製品	磨・敲石	7.6	6.5	2.9	170	側面・端部に敲打痕、磨面2			完全実測	I区	
9	石器・石製品	磨・敲石	10.4	9.8	6.3	890	正面・側面に敲打痕、磨面3			完全実測	Ⅳ区	
10	石器・石製品	磨・敲石	13.3	6.6	6.3	490	側面に敲打痕、磨面1			完全実測	I区	

H 10号住居址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	法			量		内面	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	外面		外面			
1	土師器	坏	12.4	-	5.6	-	ヘラミガキ	ヘラケズリ		完全実測	No1	
2	土師器	坏	(12.4)	-	<4.4>	-	ナデ	ヘラケズリ		回転実測	I区	
3	土師器	坏	(13.6)	-	<5.3>	-	ヘラミガキ	ヘラケズリ		回転実測	I区	
4	土師器	坏	(14.2)	-	6.2	-	ナデ	ヘラケズリ		回転実測	I区	
5	土師器	坏	(14.6)	-	<5.3>	-	ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	ナデ		回転実測	I区、Ⅱ区	
6	土師器	坏	(16.0)	-	<4.1>	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ		回転実測	I区	
7	土師器	高坏	15.8	12.9	12.3	-	坏部ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ		完全実測	No2	
8	土師器	高坏	16.7	12.7	10.7	-	坏部ヘラミガキ、脚部ハケ目ヘラケズリ	ヘラケズリ→ヘラミガキ		完全実測	I区、Ⅱ区、Ⅳ区	
9	土師器	高坏	16.8	13.2	11.9	-	坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ	ハケ目→ヘラケズリ		完全実測	No4	
10	土師器	高坏	17.3	14.1	11.3	-	坏部ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ	ハケ目→ヘラケズリ→ナデ→ヘラミガキ		完全実測	No3	
11	須恵器	坏	(10.2)	-	<4.2>	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		回転実測	Ⅱ区	
12	須恵器	坏	11.0	-	<4.6>	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		完全実測	No6	
13	須恵器	坏	(12.6)	-	<5.0>	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		回転実測	I区	
14	須恵器	蓋	(12.6)	-	4.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ		回転実測	Ⅱ区	
15	土師器	甕	(15.8)	-	<6.2>	-	ナデ	ナデ		回転実測	I区、Ⅱ区、Ⅲ区	
16	土師器	甕	(16.0)	-	<7.8>	-	ハケ目	ハケ目		回転実測	Ⅲ区、H19P3	
17	土師器	甕	16.1	6.9	27.7	-	ハケ目ナデ	ハケ目ヘラケズリ		完全実測	No1、Ⅱ区	
18	土師器	甕	17.3	-	<19.4>	-	ハケ目	ハケ目		完全実測	No7、I区、Ⅱ区	
19	土師器	甕	-	-	<20.8>	-	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ		回転実測	Ⅱ区、Ⅲ区	
20	土師器	甕	8.0	-	9.2	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ		完全実測	No5	
21	土師器	甕	-	(9.2)	<4.7>	-	ハケ目	ナデ		回転実測	Ⅲ区	
22	須恵器	はそう	(15.4)	-	<5.2>	-	ロクロナデ	ロクロナデ、横溝状文		回転実測	Ⅲ区	

H 10号住居址出土遺物観察表(2)

No.	器種	器形	法		量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面			
23	須恵器	はそう	—	—	<8.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ、平行叩目、櫛描波状文	完全実測		I、III、IV区、P3、4、6	
24	須恵器	はそう	—	—	<6.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ、当具痕、格子叩目	回転実測		II区	
25	弥生土器	人面付土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測		II区、III区	
26	石器・石製品	磨石	3.4	3.2	1.7	22	磨面1	磨面1		完全実測		IV区	
27	石器・石製品	磨石	<15.2>	<6.0>	<5.6>	<680>	片削欠損、磨面3	片削欠損、磨面3		完全実測		No9	
28	石器・石製品	磨・敲石	10.3	3.6	2.6	130	両端部に敲打痕、全体に擦り	両端部に敲打痕、全体に擦り		完全実測		I区	
29	石器・石製品	磨・敲石	<10.6>	<6.8>	<5.4>	420	下部欠損、磨面2、端部に敲打痕	下部欠損、磨面2、端部に敲打痕		完全実測		No11	
30	石器・石製品	磨・敲石	14.0	5.7	4.7	780	端部と側面に敲打痕、全体に擦り	端部と側面に敲打痕、全体に擦り		完全実測		No8	
31	石器・石製品	磨・敲石	19.0	7.2	4.5	880	両側と端部に敲打痕、磨面1	両側と端部に敲打痕、磨面1		完全実測		No12	
32	石器・石製品	白玉	1.10	1.10	0.40	0.59	孔径0.30	孔径0.30		完全実測		III区	
33	石器・石製品	有孔凹板	<1.40>	<2.20>	<0.70>	<2.11>	孔径0.30、約1/3残存	孔径0.30、約1/3残存		完全実測		III区	

H 11号住居址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	法		量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面			
1	土師器	坏	(12.4)	—	6.0	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測		II区	
2	土師器	坏	(13.0)	—	<5.3>	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測		II区	
3	土師器	坏	(13.2)	—	<5.9>	—	放射暗文	放射暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測		II区、ケン	
4	土師器	坏	(13.8)	—	<4.7>	—	放射暗文	放射暗文	ヘラケズリ	回転実測		II区	
5	土師器	坏	(14.0)	—	<4.6>	—	放射暗文	放射暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測		II区、IV区	
6	土師器	坏	(15.0)	—	<3.9>	—	放射暗文	放射暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測		II区	
7	土師器	坏	(15.4)	—	<5.7>	—	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	回転実測		I区	
8	土師器	高坏	17.3	12.4	13.2	—	脚部ヘラナデ→ヘラミガキ、坏部ヘラミガキ	脚部ヘラナデ→ヘラミガキ、坏部ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測		カマド	
9	土師器	高坏	—	11.1	<6.1>	—	ナデ	ナデ	ヘラミガキ	完全実測		No3	
10	土師器	高坏	—	(11.6)	<6.6>	—	ナデ	ナデ	ヘラミガキ	回転実測		II区	
11	土師器	鉢	(15.6)	—	<3.0>	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測		I・II区	
12	土師器	甕	11.0	6.1	11.9	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測		No4	
13	土師器	甕	(14.0)	—	<6.0>	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測		I区	
14	土師器	甕	(15.2)	4.4	8.8	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測		No2、I・II区	
15	土師器	甕	(17.2)	—	<24.7>	—	ハケ目	ハケ目	ハケ目→ヘラミガキ、下半部ヘラケズリ	回転実測		No2、II区	
16	土師器	甕	—	4.8	<3.0>	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測		No1	
17	土師器	甕	—	6.5	<27.8>	—	ナデ	ナデ	ヘラケズリ→ハケ目	完全実測		No1、IV区	
18	土師器	甕	—	—	<20.4>	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測		I・II区、H10 III・IV区、NB5	
19	土師器	壺	—	—	<7.0>	—	ナデ	ナデ	ヘラミガキ	回転実測		IV区、H15	
20	土師器	甕	(14.0)	(2.0)	8.3	—	ハケ目	ハケ目	ヘラミガキ	回転実測		IV区	
21	土師器	甕	(16.2)	(4.6)	9.3	—	ハケ目	ハケ目	ヘラケズリ、ハケ目	回転実測		IV区	
22	土師器	甕	27.2	9.3	17.3	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ目、下半部ヘラナデ	完全実測		No1、IV区	
23	石器・石製品	磨・敲石	12.8	10.2	8.8	1380	縁辺と端部に敲打痕、磨面1	縁辺と端部に敲打痕、磨面1		完全実測		No16	
24	石器・石製品	編物石	(5.0)	(7.7)	(2.7)	(101.2)	使用による折れ?	使用による折れ?		完全実測		I区	
25	石器・石製品	編物石	7.6	6.0	4.6	220	両端に使用痕、正面に条痕	両端に使用痕、正面に条痕		完全実測		II区	
26	石器・石製品	編物石	9.0	8.9	3.1	260.2	端部・両側に使用痕	端部・両側に使用痕		完全実測		II区	
27	石器・石製品	編物石	(11.2)	5.0	4.0	(260.0)	被熱有?(一部褐色)、稜上に使用痕、被熱割れ?	被熱有?(一部褐色)、稜上に使用痕、被熱割れ?		完全実測		ケン	
28	石器・石製品	編物石	12.9	5.3	3.5	335	使用痕有	使用痕有		完全実測		No10	
29	石器・石製品	編物石	13.2	8.0	6.0	720	両側に使用痕	両側に使用痕		完全実測		No7	
30	石器・石製品	編物石	13.3	5.3	4.0	398	使用痕有	使用痕有		完全実測		No12	
31	石器・石製品	編物石	13.3	7.6	4.1	620	端部に使用痕有	端部に使用痕有		完全実測		No13	
32	石器・石製品	編物石	13.8	6.2	4.3	520	両端と側面に使用痕	両端と側面に使用痕		完全実測		No6	

H 11 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
33	石器・石製品	編物石	13.8	7.2	3.8	440	使用痕有				完全美測		No14	
34	石器・石製品	編物石	13.9	5.6	3.5	470	端部に使用痕				完全美測		No5	
35	石器・石製品	編物石	14.2	7.2	4.3	500	使用痕有				完全美測		No17、カマド	
36	石器・石製品	編物石	14.6	6.0	3.7	522	端部に使用痕				完全美測		ケン	
37	石器・石製品	編物石	14.9	7.3	5.9	780	使用痕有				完全美測		No9	
38	石器・石製品	編物石	15.7	7.4	4.3	600	使用痕有				完全美測		No11	
39	石器・石製品	編物石	16.0	6.7	4.1	565	使用痕有				完全美測		No15	
40	石器・石製品	白玉	0.90	0.95	0.30	0.31	孔径0.25				完全美測		覆土	
41	石器・石製品	白玉	<0.70>	<1.00>	<0.15>	<0.14>	孔径0.25	一部欠損			完全美測		覆土	
42	石器・石製品	白玉	<0.90>	<0.75>	<0.40>	<0.28>	孔径(0.30)	一部欠損			完全美測		覆土	
43	石器・石製品	白玉未完成	0.80	0.90	0.25	0.30					完全美測		I区ホリ	
44	石器・石製品	白玉未完成	0.90	1.00	0.40	0.61					完全美測		覆土	
45	石器・石製品	白玉未完成	1.00	1.15	0.30	0.46					完全美測		II区	
46	石器・石製品	勾玉未完成	2.45	1.70	0.50	3.55	孔径0.20(途中)				完全美測		覆土	
47	石器・石製品	有孔円盤?	1.80	1.05	0.35	1.15	穿孔中の破損または勾玉未完成品か				完全美測		III区	
48	石器・石製品	剣形模造品	2.80	1.70	0.35	2.65	孔径0.20				完全美測		覆土	
49	石器・石製品	剣形模造品	<3.90>	<1.70>	<0.50>	<4.77>	孔径0.20	上部欠損			完全美測		ケン	
50	石器・石製品	素材	2.30	2.10	0.30	2.50					完全美測		覆土	
51	石器・石製品	素材	2.30	2.70	0.35	2.32					完全美測		P14	
52	石器・石製品	素材	3.20	1.80	0.60	4.48					完全美測		II区	
53	石器・石製品	素材	3.20	1.95	0.35	2.90					完全美測		I区ホリ	

H 12 号住居址出土遺物観察表 (1)

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	土師器	環	11.3	-	6.0	-	ナデ→ヘラミガキ				完全美測		No1	
2	土師器	環	(11.6)	(10.4)	<3.7>	-	ヘラミガキ→黒色処理				回転美測		III区	
3	土師器	環	12.5	11.9	4.6	-	黒色処理				完全美測		No1	
4	土師器	環	(13.8)	-	<4.2>	-	ナデ				回転美測		III区	
5	土師器	環	(17.2)	(11.4)	<4.4>	-	ヘラミガキ→黒色処理				回転美測		I区、カマド	
6	土師器	甕	-	6.4	<28.7>	-	ナデ				完全美測		No3・4、I区ホリ、カマド	
7	土師器	甕	18.6	(6.8)	<37.5>	-	ハケメ、ナデ				完全美測		カマド、II・III・IV区	
8	土師器	甕	-	7.3	<14.2>	-	ナデ→ヘラミガキ				完全美測		I区、H8 III区	
9	土師器	甕	(16.0)	-	<11.3>	-	ナデ→ヘラミガキ				完全美測		No3・4・8	
10	土師器	甕	-	5.7	<4.2>	-	ナデ				完全美測		No2、I区	
11	土師器	甕	(15.6)	-	<3.0>	-	ヘラミガキ				回転美測		カマド	
12	土師器	甕	(16.2)	(5.4)	(9.0)	-	ヘラナデ				回転美測		III区	
13	土師器	甕	20.6	(8.2)	26.5	-	ヘラミガキ				完全美測		カマド、I・II区	
14	石器・石製品	白玉	0.7	0.75	0.4	0.4	孔径0.25				完全美測		No内	
15	石器・石製品	白玉	0.8	0.8	0.4	0.3	孔径0.25				完全美測		No内	
16	石器・石製品	白玉	0.8	0.8	0.4	0.4	孔径0.25				完全美測		No内	
17	石器・石製品	白玉	0.8	0.8	0.5	0.4	孔径0.25				完全美測		No内	
18	石器・石製品	白玉	0.8	0.8	0.5	0.5	孔径0.25				完全美測		No内	
19	石器・石製品	切子玉	0.9	1	1.7	2.1	孔径0.25				完全美測		III区	
20	石器・石製品	編物石	6.7	5.1	1.6	63.5	両側挟り				完全美測		II区	
21	石器・石製品	磨石	4.5	3.6	2.7	62.1	全体に磨り				完全美測		IV区	
22	石器・石製品	磨石	5.9	4.3	2.3	80.3	磨面2				完全美測		I区ホリ	

H 12 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法			量			重量等	内	外	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)					
23	石器・石製品	磨石	7.2	6.5	0.8	5.6	3.63	全体に磨り			完全実測	No7	
24	鉄製品	釘	<2.7>			0.5	1.8	先端欠損			完全実測	Ⅲ区	

H 13 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			重量等	内	外	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)					
1	土師器	甕	-	(6.6)		<4.0>	-	ナデ		ハラケズリ	回転実測	覆土	
2	須置器	壺	-	(9.2)		<1.8>	-	ロクロナデ		ロクロナデ、回転ハラケズリ	回転実測	カクラン	
3	弥生土器	高坏	-	(16.4)		<9.5>	-	ナデ		ハラミガキ→赤彩	完全実測	Ⅳ区、カクラン、P98	
4	鉄器	刀子	<11.1>		2.1	<0.3>	<26.7>	両端欠損、木質残存			完全実測	ケン	

H 14 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			重量等	内	外	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)					
1	土師器	环	(15.2)	-		<3.7>	-	ハラミガキ→黒色処理		ハラミガキ	回転実測	I 区	
2	土師器	环	-	(10.6)		<2.4>	-	ハラミガキ→黒色処理		ハラミガキ	回転実測	I 区、ケン	
3	土師器	环	-	(11.3)		<2.8>	-	ハラミガキ→黒色処理		ハラミガキ	回転実測	Ⅱ区、Ⅳ区	
4	土師器	壺	-	(8.0)		<3.0>	-	ナデ		ハラミガキ	回転実測	Ⅱ区	
5	土師器	环	-	-		<6.9>	-	ハラミガキ→黒色処理		ハラミガキ	回転実測	Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区	

H 15 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法			量			重量等	内	外	備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)					
1	土師器	环	(10.8)	-		7.2	-	放射暗文		ナデ→底部ハラケズリ	完全実測	No1	
2	土師器	环	(12.0)	-		4.4	-	ハラミガキ		ハラミガキ	完全実測	P2	
3	土師器	环	(13.2)	-		<2.9>	-	ハラミガキ		ハラミガキ	回転実測	ホリ	
4	土師器	环	(17.4)	-		<5.0>	-	ハラミガキ		ハラミガキ	回転実測	H15	
5	土師器	高坏	(14.8)	-		<4.9>	-	放射暗文		放射暗文	回転実測	P2	
6	土師器	甕	(12.6)	-		<6.4>	-	ナデ		ハケ目→ハラケズリ	回転実測	H15	
7	石器・石製品	磨・敲石	12.0	9.4		4.8	600	縁辺・中央に敲打痕、磨面1			完全実測	No 4	
8	鉄器	斧	7.6	3.8		2.3	98.2	袋状			完全実測	No 2	

H 15 号住居址出土遺物観察表 (2) 玉及び石製品模造品

No	器種	法			量			加工	備考	出土層位
		長径	短径	厚	重量	器高(厚)	器高(厚)			
9	勾玉	2.70	1.60	0.40	3.32	0.20	穿孔		覆土	
10	劍形模造品	3.55	2.05	0.40	6.31	0.20			覆土	
11	白玉	0.45	0.45	0.20	0.08	0.15	完形		約 2/3 欠損	
12	白玉	0.50	0.50	0.15	0.06	0.20	完形		約 1/2 欠損	
13	白玉	0.50	0.50	0.40	0.17	0.15	完形		約 1/2 欠損	
14	白玉	0.50	0.50	0.30	0.11	0.15	完形		約 1/2 欠損	
15	白玉	0.50	0.50	0.25	0.10	0.20	完形		約 2/3 欠損	
16	白玉	0.50	0.50	0.25	0.11	0.15	完形		約 1/2 欠損	
17	白玉	0.50	0.50	0.15	0.05	0.15	完形		約 2/3 欠損	
18	白玉	0.60	0.60	0.20	0.09	0.20	完形		約 1/2 欠損	
19	白玉	0.60	<0.55>	<0.15>	<0.05>	0.20	一部欠損		約 1/2 欠損	
20	白玉	0.60	0.60	0.20	0.08	0.20	台形、未完成か?		約 2/3 欠損	

H 15号住居址出土遺物觀察表(3)玉及び石製品模造品

No	器種	法		量		加工 穿孔	備考	出土層位
		長径	短径	厚	重量			
33	白玉	<0.55>	<0.35>	<0.15>	<0.04>	—	約1/2欠損	P2
34	白玉	<0.55>	<0.35>	<0.20>	<0.03>	—	約1/2欠損	P2
35	白玉	<0.55>	<0.35>	<0.20>	<0.03>	—	約2/3欠損	P2
36	白玉	<0.55>	<0.35>	<0.20>	<0.05>	—	約2/3欠損	覆土
37	白玉	<0.55>	<0.35>	<0.25>	<0.04>	—	約2/3欠損	覆土
38	白玉	<0.60>	<0.30>	<0.20>	<0.03>	—	約2/3欠損	P2
39	白玉	<0.60>	<0.35>	<0.10>	<0.04>	—	約1/2欠損	覆土
40	白玉	<0.60>	<0.40>	<0.20>	<0.05>	—	約1/2欠損	覆土
41	白玉	<0.60>	<0.40>	<0.25>	<0.05>	—	約1/2欠損	P2
42	白玉	<0.60>	<0.40>	<0.30>	<0.09>	—	約1/2欠損	P2
43	白玉	<0.60>	<0.50>	<0.25>	<0.10>	—	約1/2欠損	覆土、榫方
44	白玉	<0.65>	<0.35>	<0.30>	<0.11>	—	約1/2欠損	覆土
45	白玉	<0.65>	<0.40>	<0.10>	<0.04>	—	約1/2欠損	覆土
46	白玉	<0.65>	<0.40>	<0.15>	<0.07>	—	約1/2欠損	覆土
47	白玉	<0.65>	<0.40>	<0.15>	<0.08>	—	約1/2欠損	覆土
48	白玉	<0.65>	<0.40>	<0.20>	<0.04>	—	約1/2欠損	覆土
49	白玉	<0.65>	<0.45>	<0.10>	<0.04>	—	約2/3欠損	覆土
50	白玉	<0.65>	<0.55>	<0.15>	<0.06>	—	約1/2欠損	覆土
51	白玉	<0.65>	<0.70>	0.25	<0.14>	0.20	一部欠損	覆土
52	白玉	<0.70>	<0.40>	<0.15>	<0.05>	—	約1/2欠損	覆土
53	白玉	<0.70>	<0.40>	<0.20>	<0.08>	—	約1/2欠損	覆土
54	白玉	<0.70>	<0.40>	<0.25>	<0.11>	—	約1/2欠損	覆土
55	白玉	<0.70>	<0.40>	<0.25>	<0.11>	—	約1/2欠損	覆土
56	白玉	<0.70>	<0.45>	<0.25>	<0.10>	—	約1/2欠損	覆土
57	白玉	<0.70>	<0.45>	<0.10>	<0.03>	—	約2/3欠損	覆土
58	白玉	<0.70>	<0.50>	<0.25>	<0.13>	—	約1/2欠損	覆土
59	白玉	<0.70>	<0.50>	<0.20>	<0.09>	—	約1/2欠損	覆土
60	白玉	<0.75>	<0.45>	<0.20>	<0.07>	—	約2/3欠損	P2
61	白玉	<0.80>	<0.50>	<0.10>	<0.06>	—	約1/2欠損	覆土
62	白玉	<0.80>	<0.60>	<0.30>	<0.18>	—	約1/2欠損	覆土
63	白玉	<0.80>	<0.70>	<0.30>	<0.18>	—	約1/2欠損	覆土
64	白玉	<0.85>	<0.55>	<0.30>	<0.15>	—	約1/2欠損	覆土
65	白玉	<0.85>	<0.60>	<0.25>	<0.15>	—	約1/2欠損	覆土
66	白玉	<0.85>	<0.60>	<0.25>	<0.19>	—	約1/2欠損	覆土
67	白玉	<0.90>	<0.55>	<0.15>	<0.13>	—	約1/2欠損	覆土
68	白玉	<1.00>	<0.70>	<0.20>	<0.19>	—	約1/2欠損	覆土
69	白玉未成品	0.65	0.65	0.15	0.13	—	擦痕、条痕あり	覆土
70	白玉未成品	0.65	0.65	0.25	0.16	—	擦痕あり	覆土
71	白玉未成品	0.70	0.65	0.15	0.09	—	擦痕、条痕あり	覆土
72	白玉未成品	0.70	0.65	0.15	0.09	—	擦痕、条痕あり	覆土
73	白玉未成品	0.70	0.70	0.15	0.14	—	擦痕、条痕あり	覆土
74	白玉未成品	0.70	0.70	0.25	0.18	—	擦痕あり	覆土、榫方
75	白玉未成品	0.70	0.70	0.30	0.20	—	擦痕あり	覆土
76	白玉未成品	0.70	0.75	0.25	0.20	—	擦痕あり	覆土
77	白玉未成品	0.70	0.80	0.20	0.16	—	擦痕あり	覆土
78	白玉未成品	0.70	0.90	0.20	0.18	—	擦痕あり	覆土
79	白玉未成品	0.75	0.60	0.20	0.16	—	擦痕あり	覆土
80	白玉未成品	0.75	0.60	0.30	0.16	—	擦痕あり	覆土
81	白玉未成品	0.75	0.60	0.30	0.19	—	擦痕、すり切り、条痕あり	覆土
82	白玉未成品	0.75	0.65	0.30	0.17	—	擦痕あり	覆土
83	白玉未成品	0.75	0.65	0.30	0.18	—	擦痕あり	覆土
84	白玉未成品	0.75	0.65	0.30	0.18	—	擦痕あり	覆土
85	白玉未成品	0.75	0.70	0.20	0.14	—	擦痕、条痕あり	覆土

No	器種	法		量		加工 穿孔	備考	出土層位	
		長径	短径	厚	重量				
86	白玉未成品	0.75	0.70	0.15	0.20	—	擦痕あり	覆土、床土	
87	白玉未成品	0.75	0.85	0.15	0.15	0.22	—	擦痕あり	覆土、床土
88	白玉未成品	0.75	0.75	0.20	0.18	—	—	覆土	
89	白玉未成品	0.75	0.80	0.25	0.35	—	—	覆土	
90	白玉未成品	0.75	0.95	0.30	0.44	—	—	覆土	
91	白玉未成品	0.80	0.60	0.20	0.10	—	擦痕、条痕あり	覆土	
92	白玉未成品	0.80	0.60	0.25	0.19	—	—	覆土	
93	白玉未成品	0.80	0.60	0.25	0.21	—	—	覆土、床土	
94	白玉未成品	0.80	0.60	0.30	0.19	—	—	覆土	
95	白玉未成品	0.80	0.60	0.30	0.23	—	—	覆土	
96	白玉未成品	0.80	0.65	0.15	0.13	—	擦痕、条痕あり	覆土	
97	白玉未成品	0.80	0.70	0.15	0.15	0.15	—	覆土	
98	白玉未成品	0.80	0.70	0.20	0.22	—	—	覆土	
99	白玉未成品	0.80	0.70	0.25	0.26	—	—	覆土	
100	白玉未成品	0.80	0.70	0.25	0.26	—	—	覆土	
101	白玉未成品	0.80	0.70	0.30	0.21	—	—	覆土	
102	白玉未成品	0.80	0.70	0.35	0.27	—	—	覆土	
103	白玉未成品	0.80	0.75	0.15	0.16	—	—	覆土	
104	白玉未成品	0.80	0.75	0.20	0.18	—	—	覆土	
105	白玉未成品	0.80	0.80	0.15	0.19	—	—	覆土	
106	白玉未成品	0.80	0.80	0.20	0.22	—	—	覆土	
107	白玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.20	—	—	覆土	
108	白玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.26	—	—	覆土	
109	白玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.28	—	—	覆土	
110	白玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.30	—	—	覆土	
111	白玉未成品	0.80	0.80	0.35	0.30	—	—	覆土	
112	白玉未成品	0.80	0.80	0.35	0.31	—	—	覆土	
113	白玉未成品	0.80	0.85	0.20	0.18	—	—	覆土、床土	
114	白玉未成品	0.80	0.85	0.25	0.25	0.18	—	P2	
115	白玉未成品	0.80	0.90	0.25	0.36	—	—	覆土	
116	白玉未成品	0.80	0.90	0.30	0.39	—	—	覆土、床土	
117	白玉未成品	0.85	0.70	0.20	0.16	—	—	覆土	
118	白玉未成品	0.85	0.70	0.20	0.20	—	—	覆土	
119	白玉未成品	0.85	0.70	0.30	0.25	—	—	覆土	
120	白玉未成品	0.85	0.70	0.30	0.27	—	—	覆土	
121	白玉未成品	0.85	0.70	0.30	0.28	—	—	覆土	
122	白玉未成品	0.85	0.75	0.25	0.23	—	—	覆土	
123	白玉未成品	0.85	0.75	0.25	0.28	—	—	覆土	
124	白玉未成品	0.85	0.75	0.25	0.25	0.28	—	覆土	
125	白玉未成品	0.85	0.75	0.30	0.32	—	—	覆土	
126	白玉未成品	0.85	0.75	0.30	0.27	—	—	覆土	
127	白玉未成品	0.85	0.80	0.15	0.22	—	—	覆土、床土	
128	白玉未成品	0.85	0.80	0.25	0.25	—	—	覆土	
129	白玉未成品	0.85	0.80	0.30	0.27	—	—	覆土	
130	白玉未成品	0.85	0.80	0.30	0.39	—	—	覆土	
131	白玉未成品	0.85	0.80	0.35	0.35	—	—	覆土	
132	白玉未成品	0.85	0.80	0.40	0.32	—	—	覆土	
133	白玉未成品	0.85	0.85	0.20	0.24	—	—	覆土	
134	白玉未成品	0.85	0.85	0.20	0.25	—	—	覆土	
135	白玉未成品	0.85	0.85	0.20	0.25	—	—	覆土	
136	白玉未成品	0.85	0.85	0.25	0.34	—	—	覆土、床土	
137	白玉未成品	0.85	0.85	0.30	0.37	—	—	覆土	
138	白玉未成品	0.85	0.85	0.35	0.37	—	—	覆土	

H 15 号住居址出土遺物觀察表(4) 玉及び石製品模造品

No	器種	法			量			加工 穿孔	備考	出土層位
		長径	短径	厚	重量	厚	重量			
139	白玉未成品	0.85	0.90	0.20	0.26	—	—	—	擦痕あり	覆土
140	白玉未成品	0.85	0.90	0.25	0.34	—	—	—	擦痕あり	覆土
141	白玉未成品	0.85	0.90	0.30	0.29	—	—	—	擦痕あり	覆土
142	白玉未成品	0.85	0.90	0.30	0.30	—	—	—	擦痕あり	覆土
143	白玉未成品	0.85	0.90	0.35	0.44	—	—	—	擦痕、条痕あり	覆土
144	白玉未成品	0.90	0.06	0.15	0.12	—	—	—	擦痕、条痕あり	覆土
145	白玉未成品	0.90	0.55	0.30	0.14	—	—	—	擦痕、条痕あり	覆土
146	白玉未成品	0.65	0.65	0.30	0.29	—	—	—	擦痕あり	P2
147	白玉未成品	0.90	0.70	0.15	0.19	—	—	—	擦痕あり	覆土
148	白玉未成品	0.90	0.70	0.25	0.17	—	—	—	擦痕あり	覆土
149	白玉未成品	0.90	0.70	0.30	0.24	—	—	—	擦痕あり	覆土
150	白玉未成品	0.90	0.70	0.30	0.24	—	—	—	擦痕あり	覆土
151	白玉未成品	0.90	0.75	0.10	0.13	—	—	—	擦痕、条痕あり	覆土
152	白玉未成品	0.90	0.75	0.15	0.19	—	—	—	擦痕あり	覆土
153	白玉未成品	0.90	0.75	0.20	0.21	—	—	—	擦痕あり	覆土
154	白玉未成品	0.90	0.80	0.20	0.19	—	—	—	擦痕あり	覆土
155	白玉未成品	0.90	0.80	0.20	0.26	—	—	—	擦痕あり	覆土
156	白玉未成品	0.90	0.80	0.20	0.30	—	—	—	擦痕あり	覆土
157	白玉未成品	0.90	0.80	0.30	0.24	—	—	—	擦痕あり	覆土
158	白玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.28	—	—	—	擦痕あり	覆土
159	白玉未成品	0.90	0.80	0.35	0.41	—	—	—	擦痕あり	覆土、床土
160	白玉未成品	0.90	0.80	0.35	0.46	—	—	—	擦痕あり	覆土、掘方
161	白玉未成品	0.90	0.85	0.20	0.24	—	—	—	擦痕あり	覆土
162	白玉未成品	0.90	0.85	0.25	0.30	—	—	—	擦痕あり	覆土
163	白玉未成品	0.90	0.85	0.30	0.37	—	—	—	擦痕あり	覆土
164	白玉未成品	0.90	0.85	0.30	0.38	—	—	—	擦痕あり	覆土
165	白玉未成品	0.90	0.90	0.20	0.29	—	—	—	擦痕あり	覆土
166	白玉未成品	0.90	0.90	0.25	0.30	—	—	—	擦痕あり	覆土、床土
167	白玉未成品	0.90	0.90	0.30	0.33	—	—	—	擦痕あり	覆土
168	白玉未成品	0.90	0.90	0.30	0.36	—	—	—	擦痕あり	覆土
169	白玉未成品	0.90	0.90	0.30	0.45	—	—	—	擦痕あり	覆土
170	白玉未成品	0.90	0.90	0.35	0.41	—	—	—	擦痕あり	覆土、床土
171	白玉未成品	0.90	0.95	0.20	0.25	—	—	—	擦痕あり	覆土、掘方
172	白玉未成品	0.90	0.95	0.25	0.26	—	—	—	擦痕あり	覆土
173	白玉未成品	0.90	0.95	0.30	0.39	—	—	—	擦痕あり	覆土
174	白玉未成品	0.90	0.95	0.30	0.39	—	—	—	擦痕あり	覆土
175	白玉未成品	0.90	1.00	0.30	0.43	—	—	—	擦痕あり	覆土
176	白玉未成品	0.95	1.00	0.40	0.61	—	—	—	擦痕あり	覆土
177	白玉未成品	0.95	0.65	0.25	0.29	—	—	—	擦痕あり	覆土
178	白玉未成品	0.95	0.70	0.30	0.30	—	—	—	擦痕あり	覆土
179	白玉未成品	0.95	0.75	0.15	0.16	—	—	—	擦痕あり	覆土
180	白玉未成品	0.95	0.75	0.20	0.22	—	—	—	擦痕あり	覆土
181	白玉未成品	0.95	0.75	0.20	0.24	—	—	—	擦痕あり	覆土
182	白玉未成品	0.95	0.75	0.25	0.30	—	—	—	擦痕あり	覆土、床土
183	白玉未成品	0.95	0.80	0.25	0.28	—	—	—	擦痕あり	覆土
184	白玉未成品	0.95	0.85	0.20	0.25	—	—	—	擦痕あり	覆土
185	白玉未成品	0.95	0.90	0.20	0.28	—	—	—	擦痕あり	覆土、床土
186	白玉未成品	0.95	0.90	0.20	0.34	—	—	—	擦痕あり	覆土
187	白玉未成品	1.00	0.70	0.25	0.20	—	—	—	擦痕あり	覆土、掘方
188	白玉未成品	1.00	0.75	0.35	0.34	—	—	—	擦痕あり	覆土
189	白玉未成品	1.00	0.80	0.30	0.28	—	—	—	擦痕あり	覆土
190	白玉未成品	1.00	0.80	0.30	0.35	—	—	—	擦痕あり	覆土
191	白玉未成品	1.00	0.80	0.30	0.36	—	—	—	擦痕あり	覆土

No	器種	法			量			加工 穿孔	備考	出土層位
		長径	短径	厚	重量	厚	重量			
192	白玉未成品	1.00	0.85	0.25	0.31	—	—	—	擦痕あり	覆土
193	白玉未成品	1.00	1.00	0.25	0.38	—	—	—	擦痕あり	覆土
194	白玉未成品	1.05	0.95	0.20	0.27	—	—	—	擦痕あり	覆土、床土
195	白玉未成品	1.05	1.00	0.35	0.56	—	—	—	擦痕あり	覆土、床土
196	白玉未成品	1.10	0.80	0.25	0.31	—	—	—	擦痕あり	覆土
197	白玉未成品	1.15	0.70	0.30	0.30	—	—	—	擦痕あり	覆土
198	白玉未成品	1.35	0.90	0.15	0.38	—	—	—	擦痕あり	覆土
199	白玉未成品	0.60	0.60	0.20	0.09	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
200	白玉未成品	0.70	0.60	0.05	0.09	0.15	0.15	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
201	白玉未成品	0.70	0.65	0.20	0.12	0.15	0.15	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
202	白玉未成品	0.70	0.70	0.30	0.26	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
203	白玉未成品	0.75	0.85	0.15	0.16	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
204	白玉未成品	0.80	0.75	0.30	0.23	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
205	白玉未成品	0.80	0.80	0.15	0.13	0.10	0.10	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土、掘方
206	白玉未成品	0.80	0.85	0.15	0.14	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり、穿孔2	覆土、床土
207	白玉未成品	0.80	1.00	0.35	0.40	0.25	0.25	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
208	白玉未成品	0.85	0.70	0.40	0.31	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
209	白玉未成品	0.90	0.75	0.10	0.15	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
210	白玉未成品	0.90	0.75	0.30	0.29	0.30	0.30	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
211	白玉未成品	0.90	0.75	0.35	0.29	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
212	白玉未成品	0.90	1.00	0.30	0.35	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
213	白玉未成品	0.90	1.00	0.30	0.47	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕、条痕あり	覆土
214	白玉未成品	0.95	0.85	0.30	0.36	0.25	0.25	—	穿孔途中、擦痕あり	覆土
215	白玉未成品	0.95	0.90	0.35	0.45	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕あり、穿孔2	覆土
216	白玉未成品	0.95	0.95	0.40	0.55	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕、条痕あり、穿孔2	覆土
217	白玉未成品	0.95	0.95	0.40	0.56	0.20	0.20	—	穿孔途中、擦痕、条痕あり	覆土
218	白玉未成品	1.00	0.70	0.35	0.43	0.30	0.30	—	穿孔途中中、擦痕あり	覆土
219	白玉未成品	1.10	1.10	0.50	0.59	0.20	0.20	—	穿孔途中中、擦痕、条痕あり	P2
220	白玉未成品	1.50	1.05	0.35	0.40	0.20	0.20	—	穿孔途中中、擦痕あり	覆土
221	白玉未成品	<0.60>	<0.55>	<0.35>	<0.17>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
222	白玉未成品	<0.65>	<0.35>	<0.20>	<0.08>	(0.20)	(0.20)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土、掘方
223	白玉未成品	<0.70>	<0.40>	<0.30>	<0.30>	(0.30)	(0.30)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
224	白玉未成品	<0.70>	<0.55>	<0.15>	<0.11>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	P2
225	白玉未成品	<0.70>	<0.55>	<0.25>	<0.12>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
226	白玉未成品	<0.70>	<0.55>	<0.30>	<0.20>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
227	白玉未成品	<0.70>	<0.60>	<0.25>	<0.13>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
228	白玉未成品	<0.70>	<0.65>	<0.20>	<0.10>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土、床土
229	白玉未成品	<0.75>	<0.50>	<0.25>	<0.14>	(0.20)	(0.20)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土、掘方
230	白玉未成品	<0.75>	<0.50>	<0.35>	<0.14>	(0.30)	(0.30)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土、掘方
231	白玉未成品	<0.75>	<0.65>	<0.30>	<0.20>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
232	白玉未成品	<0.80>	<0.40>	<0.20>	<0.09>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
233	白玉未成品	<0.80>	<0.40>	<0.25>	<0.11>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
234	白玉未成品	<0.80>	<0.45>	<0.30>	<0.14>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
235	白玉未成品	<0.80>	<0.55>	<0.35>	<0.13>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土、床土
236	白玉未成品	<0.80>	<0.60>	<0.30>	<0.14>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
237	白玉未成品	<0.80>	<0.60>	<0.35>	<0.20>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
238	白玉未成品	<0.80>	<0.65>	<0.25>	<0.19>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
239	白玉未成品	<0.80>	<0.75>	<0.30>	<0.19>	(0.20)	(0.20)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	P2
240	白玉未成品	<0.80>	<0.85>	<0.25>	<0.21>	(0.30)	(0.30)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり、穿孔2	覆土
241	白玉未成品	<0.85>	<0.45>	<0.20>	<0.07>	(0.20)	(0.20)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土、床土
242	白玉未成品	<0.85>	<0.50>	<0.20>	<0.13>	(0.20)	(0.20)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土
243	白玉未成品	<0.85>	<0.50>	<0.20>	<0.13>	(0.25)	(0.25)	—	一部欠損、穿孔途中中、擦痕あり	覆土

H 15 号住居址出土遺物観察表 (7) 玉及び石製品模造品

No	器種	法			量			加工 穿孔	備考	出土層位
		長径	短径	厚	底径	器高	厚			
455	素材	2.00	1.60	0.55	2.07	< 7.0 >	—	—	擦痕あり	覆土
456	素材	2.15	0.90	0.40	0.83	< 5.3 >	—	—	糸痕、擦痕あり	覆土
457	素材	2.20	1.70	0.35	1.77	< 9.8 >	—	—	擦痕あり	覆土
458	素材	2.30	1.25	0.20	0.95	< 6.1 >	—	—	擦痕あり	覆土
459	素材	2.30	1.60	0.35	1.44	< 5.3 >	—	—	擦痕あり	覆土
460	素材	2.30	2.10	0.35	1.26	< 7.3 >	—	—	擦痕あり	覆土、床土
461	素材	2.30	2.15	0.60	3.01	< 2.6 >	—	—	擦痕あり	覆土、床土
462	素材	2.35	2.65	0.30	1.21	< 11.0 >	—	—	擦痕あり	覆土
463	素材	2.40	1.00	0.25	0.77	< 1.80 >	—	—	擦痕あり	覆土、床土
464	素材	2.40	2.10	0.35	2.47	< 171000 >	—	—	糸痕、擦痕あり	覆土
465	素材	2.45	1.20	0.35	1.02	95.6 磨面 1	—	—	擦痕あり	覆土、床土
466	素材	2.65	2.00	0.70	4.74	< 300 >	—	—	糸痕、擦痕あり	覆土
467	素材	2.70	2.10	0.25	1.88	< 1.57 >	—	—	擦痕あり	覆土
468	素材	2.80	1.85	0.30	2.31	< 1.57 >	—	—	擦痕あり	覆土、床土
469	素材	3.00	2.00	0.25	2.25	< 1.57 >	—	—	擦痕あり	覆土
470	素材	3.05	0.90	0.25	0.88	< 1.57 >	—	—	擦痕あり	覆土
471	素材	3.10	2.60	0.35	3.44	< 1.57 >	—	—	糸痕、擦痕あり	覆土
472	素材	3.30	2.20	0.65	7.64	< 1.57 >	—	—	擦痕あり	覆土、掘方

H 16 号住居址出土遺物観察表

No	器種	形	法			量			内面	外面	形・調	整	備	考	出土層位
			口径	長	底径	短	器高	厚							
1	土師器	高坏	—	(13.6)	—	(11.6)	< 7.0 >	—	脚部ヘラケズリ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	—	カマド	覆土
2	土師器	鉢	—	(13.6)	—	—	< 5.3 >	—	ヘラナデ	ナデ	ナデ	回転実測	—	P3	覆土
3	土師器	甕	—	15.1	—	5.9	23.7	—	ナデ、下半部ヘラケ目、上半部ヘラナデ	ナデ、体部ヘラケ目→ナデ→ヘラミガキ	ナデ、ヘラナデ	完全実測	—	P3	覆土
4	土師器	甕	—	(16.3)	—	—	< 9.8 >	—	ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	回転実測、9 と同一個体?	—	カマド	覆土
5	土師器	甕	—	(16.4)	—	—	< 6.1 >	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	—	P3、IV区	覆土
6	土師器	甕	—	17.8	—	—	< 5.3 >	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	完全実測	—	P3	覆土
7	土師器	甕	—	(18.4)	—	—	< 7.3 >	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	—	P3、IV区	覆土
8	土師器	甕	—	—	—	(4.4)	< 2.6 >	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	—	IV区	覆土
9	土師器	甕	—	—	—	(6.7)	< 13.8 >	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ、体部ヘラケ目→ナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ、体部ヘラケ目→ナデ→ヘラミガキ	完全実測、4 と同一個体?	—	カマド	覆土
10	土師器	甕	—	19.5	—	7.3	26.6	—	ハケ目→ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ	ハケ目→ヘラミガキ	完全実測	—	No1、I区	覆土
11	土師器	甕	—	(23.8)	—	—	< 11.0 >	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	—	カマド	覆土
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	ヘラミガキ	口唇部縄文、櫛描波状文	口唇部縄文、櫛描波状文	破片実測	—	I区	覆土
13	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩、櫛描横走平行線文	破片実測、拓本	破片実測、拓本	—	I区、II区、ケン	覆土
14	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ、縄文	ヘラミガキ、縄文	破片実測、拓本	—	I区	覆土
15	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	ナデ	縄文、ヘラ描波状文、ヘラ描沈線	縄文、ヘラ描波状文、ヘラ描沈線	破片実測、拓本	—	I区	覆土
16	石器・石製品	台石	—	37.4	—	22.7	18.1	< 171000 >	使用面 2	—	—	完全実測	—	No3	覆土
17	石器・石製品	磨石	—	7.2	—	5.8	1.5	95.6 磨面 1	—	—	—	完全実測	—	IV区	覆土
18	石器・石製品	磨石	—	< 11.1 >	—	< 9.1 >	< 2.6 >	< 300 >	被熱有、表面黒化(被熱割?)、周囲欠損、磨面 1	—	—	完全実測	—	No2	覆土
19	石器・石製品	剣形模造品	—	2.20	—	< 1.80 >	0.25	< 1.57 >	孔径 0.30、一部欠損	—	—	完全実測	—	IV区	覆土

H 17 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	形	法			量			内面	外面	形・調	整	備	考	出土層位
			口径	長	底径	短	器高	厚							
1	土師器	环	—	12.4	—	6.2	3.5	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→右回転糸切	ロクロナデ→右回転糸切	完全実測	—	カマド、I区	覆土
2	土師器	环	—	13.6	—	4.8	4.0	—	暗文、ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→右回転糸切	ロクロナデ→右回転糸切	完全実測	—	カマド、I区	覆土
3	土師器	环	—	(14.0)	—	(5.6)	4.2	—	暗文、口唇部ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ、底部・底部外周手持ちヘラケズリ	ロクロナデ、底部・底部外周手持ちヘラケズリ	回転実測	—	I区、II区	覆土
4	土師器	环	—	14.2	—	5.4	4.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ→右回転糸切	ロクロナデ→右回転糸切	完全実測	—	カマド、OT2ケン	覆土

H 17号住居址出土遺物観察表(2)

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
5	土師器	環	—	—	—	—	—	ヘラミカキ→黒色処理	面	ロクロナデ、墨書	破片夷削		II区	
6	土師器	高環	—	—	<7.1>	—	—	環部ヘラミカキ→黒色処理、脚部ナデ	面	ヘラミカキ	完全夷削		II区	
7	須恵器	環	(13.2)	(5.8)	3.4	—	—	ロクロナデ	面	ナデ	回転夷削		I区	
8	土師器	甕	(13.2)	—	<7.5>	—	—	ナデ	面	ナデ	回転夷削		III区	
9	土師器	甕	(21.8)	—	<16.4>	—	—	ロクロナデ、下部ナデ	面	ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	回転夷削		I区	
10	土師器	甕	—	(6.4)	<2.4>	—	—	ヘラミカキ	面	ナデ	回転夷削		III区	
11	土師器	甕	—	(6.2)	<6.2>	—	—	ナデ、下部ヘラケズリ	面	ナデ	回転夷削		II区、OT2ケン	
12	弥生土器	鉢	(11.4)	—	<2.6>	—	—	ヘラミカキ→赤彩	面	ヘラミカキ→赤彩	回転夷削		II区	
13	弥生土器	高環	—	(11.2)	<4.1>	—	—	ナデ	面	ヘラミカキ→赤彩	回転夷削		IV区	
14	弥生土器	高環	—	—	<1.4>	—	—	ヘラミカキ→赤彩	面	ヘラミカキ→赤彩	破片夷削		II区	
15	弥生土器	甕	(13.0)	—	<5.3>	—	—	ヘラミカキ	面	櫛波状文	回転夷削、拓本		I区	
16	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	ヘラミカキ	面	櫛波状文(7本1連止)、櫛波斜走文	断面夷削、拓本		II区	
17	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	ヘラミカキ	面	口唇部縄文、口縁部縄文・ヘラ櫛波状文	断面夷削、拓本		I区ホリ	
18	石器・石製品	砥石	<8.4>	<6.1>	<4.6>	<2.40>	<4.6>	上側・裏面欠損、砥面数4、一部黒化	面	—	完全夷削		IV区	
19	石器・石製品	磨製石斧	<3.1>	<2.8>	<0.35>	<5.8>	<0.35>	側面一部のみ残存、片刃石斧	面	—	完全夷削		I区	
20	石器・石製品	磨石	17.5	9	4.6	1235	4.6	磨面2	面	—	完全夷削	No1		
21	石器・石製品	剣形模造品	<3.00>	1.60	0.25	<2.49>	<0.25>	孔径0.20、下部欠損	面	—	完全夷削		カマド	
22	鉄製品	釘	<3.7>	0.7	0.5	<1.9>	<0.5>	先端欠損	面	—	完全夷削		カマド	
23	鉄製品	釘	<5.0>	0.8	0.5	<3.6>	<0.5>	先端欠損	面	—	完全夷削		覆土	
24	鉄製品	鏃	<2.8>	<3.1>	0.4	<2.8>	<0.4>	両端欠損	面	—	完全夷削		覆土	

H 18号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	土師器	環	(8.4)	—	(5.0)	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラミカキ	回転夷削		VG9	
2	土師器	環	13.6	—	5.9	—	—	ヘラミカキ→黒色処理	面	ヘラケズリ→ヘラミカキ	完全夷削		No1	
3	土師器	高環	(16.6)	—	<4.9>	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラミカキ	回転夷削		II区、IV区	
4	土師器	高環	—	—	<4.0>	—	—	ヘラナデ	面	ヘラミカキ	回転夷削		I区、カマド	
5	土師器	鉢	(13.2)	—	<8.6>	—	—	ヘラナデ	面	ヘラケズリ	回転夷削		III区	
6	土師器	甕	11.8	6.6	12.4	—	—	ヘラナデ、口縁ハケ目	面	ヘラケズリ	完全夷削		IV区、P5	
7	土師器	壺	(18.0)	—	<5.9>	—	—	体部ヘラナデ、口縁ヘラミカキ	面	ヘラミカキ	回転夷削		II区、カマド	
8	土師器	壺	(23.2)	—	<7.7>	—	—	体部ヘラナデ、口縁ヘラミカキ	面	ヘラケズリ→ヘラミカキ	回転夷削		I区	
9	石器・石製品	台石	<22.5>	<18.4>	<11.8>	<70000>	<11.8>	片側・正面に欠損有、使用面1	面	—	完全夷削		No3	
10	石器・石製品	編物石	13.7	6.6	4.7	520	4.7	両端部に使用痕	面	—	完全夷削		No2	

H 19号住居址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	土師器	環	11.0	8.8	6.2	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラケズリ→ヘラミカキ	完全夷削		I区ホリ	
2	土師器	環	(11.6)	—	6.0	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラケズリ→ヘラミカキ	回転夷削		カマド、P10	
3	土師器	環	(12.6)	—	<3.5>	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラミカキ	回転夷削		I区	
4	土師器	環	13.0	—	5.2	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラケズリ	完全夷削		No4、P3、III区	
5	土師器	環	(13.4)	—	<2.6>	—	—	ナデ	面	ナデ	回転夷削		II区	
6	土師器	環	(13.8)	—	(6.7)	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラケズリ	回転夷削		カマド	
7	土師器	環	14.4	—	5.8	—	—	ハケナデ	面	ヘラケズリ	完全夷削		No3	
8	土師器	環	(15.1)	—	5.6	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラケズリ	完全夷削		No5	
9	土師器	環	—	—	—	—	—	ヘラミカキ	面	ヘラケズリ	破片夷削		IV区	

H 19 号住居址出土遺物観察表 (2)

No.	器種	器形	法			量		成		形・調		整	面	備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面						
10	土師器	高坏	(19.0)	-	< 5.8 >	-	ハラミガキ		ハラメ→ハラミガキ				回転実測		I 区	
11	土師器	甕	11.7	6.5	7.5	-	ハラナデ		ハラケズリ				完全実測		No2	
12	土師器	甕	(12.0)	-	< 3.0 >	-	ハラナデ		ナデ				回転実測		III 区	
13	土師器	甕	15.6	-	< 17.7 >	-	ハケメ、ハラナデ		ハラケズリ				完全実測		No7	
14	土師器	甕	(16.8)	-	14.2	-	ハラナデ		ハラケズリ				完全実測		No6	
15	土師器	甕	-	6.0	< 16.8 >	-	ハラナデ		ハラケズリ				完全実測		No1	
16	土師器	壺	(15.4)	-	< 4.1 >	-	ハケメ		ナデ				回転実測		III 区	
17	土師器	壺	(15.6)	-	< 3.6 >	-	ナデ		ナデ				回転実測		II・IV 区	
18	土師器	壺	(15.8)	-	< 4.3 >	-	ハラナデ		ハラケズリ				回転実測		II 区	
19	土師器	壺	(16.8)	-	< 4.4 >	-	ハラミガキ		ハラミガキ				回転実測		II 区	
20	土師器	壺	(18.0)	-	< 5.4 >	-	ナデ		ハラナデ				回転実測		P7、I 区床、IV 区	
21	土師器	壺	-	-	< 9.9 >	-	ハラミガキ		ハラナデ				完全実測		P6、II・III 区	
22	土師器	甗	(24.8)	-	< 16.5 >	-	ハラナデ		ハラナデ→ハラミガキ				回転実測		カマド	
23	土師器	甗	25.4	7.6	27.0	-	ハケメ、ハラナデ		ハラケズリ→ハラミガキ				完全実測		No8、I 区	
24	土師器	甗	-	(9.0)	< 3.9 >	-	ハラナデ		ハラケズリ→ハラミガキ				回転実測		IV 区	
25	弥生土器	甗	-	-	-	-	ハラミガキ		櫛描状文				破片実測		III 区ホリ	
26	弥生土器	甗	-	(4.8)	< 4.1 >	-	ハケメ		ハラミガキ、赤彩				回転実測		ケン	
27	弥生土器	甗	-	-	-	-	ハラミガキ		縄文、ハラ描沈線				破片実測		III 区	
28	弥生土器	甗	-	-	-	-	ナデ		縄文、ハラ描波状文				破片実測		IV 区ホリ	
29	石器・石製品	台石	51.5	26.2	< 17.7 >	30.300.0	裏面欠損、使用面 2、正・裏面に赤色顔料付着						完全実測		No18	
30	石器・石製品	編物石	11.4	6.4	3.0	290.0	側面・端部に使用痕						完全実測		II 区	
31	石器・石製品	編物石	11.7	8.0	5.3	620.0							完全実測		No16	
32	石器・石製品	編物石	12.2	5.1	5.0	330.0							完全実測		P6	
33	石器・石製品	編物石	12.4	6.7	4.8	395.0	側面に抉り、端部に使用痕						完全実測		No17	
34	石器・石製品	編物石	13.2	7.3	4.0	430.0	被熱有、側面に使用痕						完全実測		No12	
35	石器・石製品	編物石	13.2	6.0	5.0	380.0	片側に抉り						完全実測		No9	
36	石器・石製品	編物石	13.3	5.1	4.8	380.0	被熱有						完全実測		II 区	
37	石器・石製品	編物石	13.8	5.8	5.6	545.0	被熱有、端部に使用痕						完全実測		No10	
38	石器・石製品	編物石	14.1	6.5	3.9	540.0	被熱有						完全実測		No13	
39	石器・石製品	編物石	14.8	6.7	3.9	590.0	使用痕有						完全実測		P6	
40	石器・石製品	編物石	14.8	6.8	3.3	410.0	被熱有、端部に使用痕						完全実測		No11	
41	石器・石製品	編物石	15.2	5.0	3.7	275.0	端部に使用痕						完全実測		II 区	
42	石器・石製品	編物石	15.7	6.8	3.2	365.0							完全実測		No15	
43	石器・石製品	使用痕の有る剥片	10.8	3.3	0.8	45.0	端部に敲打痕と擦痕						完全実測		I 区	
44	石器・石製品	原材	9.7	9.0	2.0	230.0							完全実測		P3	
45	石器・石製品	白玉	0.40	0.40	0.15	0.05	孔径 0.20						完全実測		III 区	
46	石器・石製品	白玉	0.50	0.50	0.30	0.11	孔径 0.20						完全実測		I 区	
47	石器・石製品	白玉未成品	0.70	0.75	0.30	0.23							完全実測		I 区	
48	石器・石製品	白玉未成品	0.80	0.75	0.30	0.21							完全実測		I 区	
49	石器・石製品	白玉未成品	0.80	0.75	0.30	0.33							完全実測		I 区	
50	石器・石製品	白玉未成品	0.80	0.75	0.20	0.24							完全実測		I 区	
51	石器・石製品	白玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.26							完全実測		I 区	
52	石器・石製品	白玉未成品	0.80	0.80	0.30	0.35							完全実測		I 区	
53	石器・石製品	白玉未成品	0.80	0.80	0.25	0.33							完全実測		I 区	
54	石器・石製品	白玉未成品	0.85	0.90	0.25	0.27							完全実測		I 区	
55	石器・石製品	白玉未成品	0.85	0.80	0.30	0.32							完全実測		I 区	
56	石器・石製品	白玉未成品	0.95	0.95	0.40	0.38							完全実測		I 区	

H 19号住居址出土遺物観察表(3)

No	器種	器形	法			量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
57	石器・石製品	劍形模造品	2.30	1.60	0.30	1.62	孔径0.20				完全美測		Ⅲ区	
58	石器・石製品	劍形模造品	2.90	1.50	0.35	<2.78>	孔径0.20、一部欠損				完全美測		Ⅲ区	
59	石器・石製品	劍形模造品	2.90	1.90	0.30	3.09	孔径0.20				完全美測		Ⅲ区	
60	石器・石製品	劍形模造品	3.00	1.50	0.30	2.04	孔径0.20				完全美測		Ⅲ区	
61	石器・石製品	劍形模造品	3.60	1.85	0.30	4.46	孔径0.20				完全美測		Ⅲ区	
62	石器・石製品	劍形模造品	4.50	2.20	0.35	6.67	孔径0.20				完全美測		Ⅲ区	
63	石器・石製品	劍形模造品	<1.80>	<1.70>	<0.30>	<1.74>	孔径0.20、先端欠損				完全美測		Ⅲ区	
64	石器・石製品	劍形模造品	<2.20>	1.50	0.30	<1.70>	孔径0.25、一部欠損				完全美測		Ⅲ区	
65	石器・石製品	劍形模造品	<2.30>	1.55	0.30	<2.30>	孔径0.20、先端欠損				完全美測		Ⅲ区	
66	石器・石製品	劍形模造品	<3.90>	<2.00>	<0.40>	<4.80>	孔径0.20、基部欠損				完全美測		Ⅲ区	
67	石器・石製品	素材	1.50	1.55	0.30	1.00					完全美測		I区	
68	石器・石製品	素材	1.80	2.00	0.25	1.26					完全美測		I区	
69	石器・石製品	素材	2.00	1.30	0.25	0.73					完全美測		I区	
70	石器・石製品	素材	2.10	2.00	0.30	1.58					完全美測		Ⅱ区	
71	石器・石製品	素材	2.20	1.45	0.30	1.09					完全美測		I区	
72	石器・石製品	素材	2.25	2.80	0.40	2.75					完全美測		Ⅲ区	
73	石器・石製品	素材	2.75	2.50	0.25	2.09					完全美測		I区	
74	石器・石製品	素材	2.80	2.10	0.35	2.13					完全美測		Ⅱ区	
75	石器・石製品	素材	2.80	2.75	0.35	2.98					完全美測		I区ホリ	
76	石器・石製品	素材	2.85	2.40	0.30	2.61					完全美測		I区	
77	石器・石製品	素材	3.20	3.30	0.30	4.13					完全美測		I区	
78	石器・石製品	素材	4.00	2.85	0.35	0.63					完全美測		I区	

O T 1号周溝墓(古墳)出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成		形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	須恵器	杯	(14.8)	(6.4)	4.7	-	ロクロナデ			ロクロナデ→ナデ	回転美測		ケン、M1 IV区	
2	須恵器	杯	(14.8)	(7.0)	3.8	-	ロクロナデ			ロクロナデ→底部・底部外周ナデ	回転美測		覆土	
3	須恵器	杯	-	(7.2)	<1.3>	-	ロクロナデ			ロクロナデ→回転糸切	回転美測	No2		
4	須恵器	杯	-	(7.8)	<1.2>	-	ロクロナデ			ロクロナデ→ヘラキリ→ヘラナデ	回転美測	M1 IV区		
5	須恵器	有台杯	(11.2)	(6.3)	5.1	-	ロクロナデ			ロクロナデ→回転ヘラキリ→高台貼付、ヘラ記号	回転美測		覆土	
6	須恵器	有台杯	(12.2)	(7.8)	4.2	-	ロクロナデ			ロクロナデ→回転ヘラキリ→高台貼付、火襷	回転美測		覆土	
7	須恵器	有台杯	(18.5)	(11.6)	5.8	-	ロクロナデ			ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台貼付	回転美測		ケン、M1 IV区	
8	須恵器	蓋	(10.0)	(10.0)	2.4	-	ロクロナデ			ロクロナデ	回転美測		M1 IV区	
9	須恵器	蓋	(13.8)	-	<1.6>	-	ロクロナデ			ロクロナデ→回転ヘラケズリ	回転美測		覆土	
10	須恵器	蓋	(13.9)	-	<1.3>	-	ロクロナデ			ロクロナデ、火襷	回転美測		覆土	
11	緑釉陶器	碗	-	(9.2)	<2.2>	-	ロクロナデ→施釉			ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台貼付→施釉	回転美測		覆土	
12	緑釉陶器	碗	-	(11.2)	<5.7>	-	ロクロナデ→施釉			ロクロナデ→回転ヘラキリ→高台貼付→施釉、ヘラ記号	回転美測		M1 IV区	
13	須恵器	甕	(14.0)	-	<4.7>	-	ロクロナデ			ロクロナデ	回転美測	M1		
14	須恵器	甕	(30.2)	-	<20.5>	-	口縁ロクロナデ、胴部当具痕→ナデ			叫目→ロクロナデ→洗線	回転美測		ケン、M1 IV区、M2 ケン	
15	須恵器	小型壺	-	-	-	-	ロクロナデ			縹描波状文、洗線	断面美測、拓本		W区	
16	須恵器	壺	-	-	<5.3>	-	ロクロナデ			ロクロナデ→胴下半部回転ヘラケズリ	回転美測		M1、VA6	
17	須恵器	壺	-	-	<5.5>	-	ロクロナデ			ロクロナデ	完全美測		ケン	
18	須恵器	横瓶	-	-	-	-	ロクロナデ→ナデ			ロクロナデ	破片美測		覆土	
19	須恵器	横瓶	-	-	-	-	ロクロナデ			タタキ→ほぞ貼付→ロクロナデ	破片美測		M1 IV区	
20	鉄器	刺	<3.0>	<0.8>	<0.6>	<1.4>	両端欠損、2本を燃る				完全美測		覆土	
21	鉄器	刀子	<8.4>	1	<0.3>	<5.5>	先端欠損				完全美測		覆土	
22	鉄器	刀子	<16.4>	1.4	<0.4>	<19.6>	基部欠損、金具?残存				完全美測		礎床	

OT 2号周溝墓出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面					
1	土師器	環	(12.6)	(11.0)	<2.2>	-	ロクロナデ		ロクロナデ			回転実測	ケン		
2	土師器	環	-	-	<1.4>	-	ハラケズリ		ハラケズリ			破片実測	ケン		
3	土師器	ロクロ甕	-	6.5	<3.3>	-	ロクロナデ		ロクロナデ		回転糸切	完全実測	ケン		
4	須臾器	高坏	-	(5.4)	<2.2>	-	ロクロナデ		ロクロナデ		凹形透かし	回転実測	ケン		
5	弥生	高坏	-	(13.4)	<3.8>	-	ハラナデ		ハラナデ		ハラミガキ→赤彩	回転実測	ケン		
6	弥生	高坏	-	-	<2.7>	-	ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩		ハラミガキ→赤彩	完全実測	ケン		
7	石器・石製品	石錐	2.70	0.65	0.60	1.64	面取り状の加工					完全実測	ケン		

OT 3号周溝墓出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面					
1	弥生土器	鉢	-	(4.8)	<2.2>	-	ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩		ハラミガキ→赤彩	回転実測	No2		
2	弥生土器	高坏	(15.0)	-	<7.8>	-	ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩		ハラミガキ→赤彩	回転実測	覆土		
3	弥生土器	高坏	22.5	13.4	14.6	-	坏部ハラミガキ		坏部ハラミガキ→赤彩		ハラミガキ→赤彩	完全実測	No1		
4	弥生土器	高坏	(34.0)	-	<5.9>	-	ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩		ハラミガキ→赤彩	回転実測	覆土		
5	弥生土器	高坏	-	(16.8)	<2.6>	-	ハケ目		ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩	回転実測	覆土		
6	弥生土器	甕	(15.6)	-	<8.3>	-	ハラミガキ		ハラミガキ		櫛描波状文	回転実測	覆土		
7	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハラミガキ		ハラミガキ		櫛描波状文、櫛描籐状文	断面実測、拓本	I区、覆土		
8	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハラミガキ		ハラミガキ		櫛描斜走文	断面実測、拓本	覆土		
9	弥生土器	甕	(18.6)	-	<3.1>	-	ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩		ハラミガキ→赤彩	回転実測	No1		
10	弥生土器	甕	19.9	6.6	32.3	-	口縁部ハラミガキ		口縁部ハラミガキ→赤彩		ハラミガキ→赤彩	完全実測	No2		
11	石器・石製品	スクレイパー	4.1	3.0	0.8	-	黒曜石				ハケ目→ハラミガキ→赤彩	完全実測	覆土		

M 1号溝址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面					
1	弥生土器	高坏	-	-	<2.2>	-	ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩、胴内ナデ		ハラミガキ、赤彩	完全実測		覆土	
2	弥生土器	高坏	-	(10.0)	<3.8>	-	ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩、胴内ナデ		ハラミガキ、赤彩	完全実測		覆土	
3	弥生土器	甕	(11.3)	(6.7)	16.2	-	ハラミガキ		ハラミガキ		頸部櫛描籐状文、体部櫛描波状文	完全実測		覆土	
4	弥生土器	甕	(13.2)	-	<4.2>	-	ハラミガキ		ハラミガキ		櫛描籐状文、櫛描斜走文	回転実測、拓本		覆土	
5	弥生土器	甕	(13.7)	(5.1)	16.6	-	ハラミガキ		ハラミガキ		頸部櫛描籐状文、口縁部・体部櫛描波状文	完全実測		覆土	
6	弥生土器	甕	-	(6.6)	<4.5>	-	ハケメ、器面剥離		ハラミガキ		ハラミガキ	回転実測		覆土	
7	弥生土器	甕	-	8.9	<2.5>	-	ハラミガキ		ハラミガキ		ハラミガキ	完全実測		覆土	
8	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハラミガキ		ハラミガキ		櫛描波状文	完全実測		覆土	
9	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハラミガキ		ハラミガキ		細文、櫛描短線文	破片実測、拓本		覆土	
10	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハラミガキ		ハラミガキ		細文、櫛描籐状文・波状文	破片実測、拓本		覆土	
11	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハラミガキ		ハラミガキ		櫛描籐状文・波状文	破片実測、拓本		覆土	
12	弥生土器	甕	-	-	-	-	ハラミガキ		ハラミガキ		櫛描籐状文	破片実測、拓本		覆土	
13	弥生土器	台付甕	-	(8.0)	<6.5>	-	ナデ		ナデ		ナデ	完全実測		覆土	
14	弥生土器	壺	(9.0)	-	<6.7>	-	ハラミガキ		ハラミガキ→赤彩		ハラミガキ、赤彩	完全実測		覆土	
15	弥生土器	壺	(14.0)	-	<4.1>	-	ナデ		ナデ、器面剥離		ハラミガキ→ハラミガキ	回転実測		覆土	
16	弥生土器	壺	-	(8.2)	<11.3>	-	ナデ		ナデ		ハケメ、ハラミガキ、ハラミガキ→赤彩	回転実測		覆土	
17	弥生土器	壺	-	8.6	<1.8>	-	ハケメ		ハケメ		ハラミガキ	完全実測		覆土	
18	弥生土器	壺	-	(10.4)	<17.0>	-	ハケメ		ハケメ		ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
19	弥生土器	壺	-	10.9	<3.1>	-	ハケメ、ナデ		ハケメ		ハラミガキ	完全実測		覆土	
20	弥生土器	壺	-	-	<4.9>	-	ハケメ		ハケメ		口縁部ハケメ、頸部細文・ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
21	弥生土器	壺	-	-	<8.7>	-	ナデ、器面剥離		ナデ		ハケメ、頸部ハラミガキ→赤彩、ハラミガキ→赤彩	回転実測		覆土	

M 1号溝址出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
22	弥生土器	壺	—	—	<12.3>	—	ナデ				ヘラミガキ、ヘラ描平行波線間にヘラ描波状文・縄文	回転実測	覆土	
23	弥生土器	甌	—	(6.6)	<1.9>	—	ヘラミガキ				ヘラミガキ	回転実測	覆土	
24	石器・石製品	砥石	15.2	9.8	5.6	750.0	黒曜石、側面に「V」字状の磨滅した面					完全実測	覆土	
25	石器・石製品	台石	<13.2>	<8.3>	<2.2>	<238.0>	全周欠損、正・裏面に磨滅した部分有					完全実測	覆土	
26	石器・石製品	磨製石斧	<6.1>	<7.0>	<4.3>	<340.0>	基部のみ残存、正面・側面に使用痕					完全実測	覆土	
27	石器・石製品	凹石	<17.9>	<12.0>	<8.7>	<1462.0>	凹径(12.0)、凹深<0.9>					完全実測	覆土	
28	石器・石製品	凹石	21.0	19.5	10.6	3,190.0	凹径6.8×5.7、凹深2.2					完全実測	覆土	
29	石器・石製品	編物石	9.1	6.8	1.4	110.3	抉り、使用痕有					完全実測	覆土	
30	石器・石製品	編物石	9.3	5.2	1.6	83.1	使用痕有					完全実測	覆土	
31	石器・石製品	磨石	<3.5>	<4.0>	<1.8>	<32.0>	全周欠損、磨面1					完全実測	覆土	
32	石器・石製品	原材	8.5	9.3	2.3	2150.0	ガラス質安山岩					完全実測	覆土	

M 3号溝址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	弥生土器	鉢	—	(4.8)	<3.0>	—	ヘラミガキ→赤彩				ヘラミガキ、体部赤彩	回転実測	Ⅲ区	
2	弥生土器	甕	(16.2)	—	<8.6>	—	ヘラミガキ				櫛描波状文、口唇部刻目	回転実測、拓本	Ⅲ区	
3	弥生土器	甕	—	(6.8)	<5.6>	—	ヘラミガキ				ヘラミガキ	回転実測	I区	
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ				櫛描斜走文	破片実測、拓本	I区	
5	弥生土器	甕	—	—	<9.3>	—	剥落				頸部櫛描縄文、体部・口縁ヘラミガキ→赤彩	回転実測、拓本	Ⅱ区	
6	縄文土器	深鉢	—	9.1	<2.0>	—	ナデ				網代痕、ナデ	完全実測、拓本、後期	Ⅱ区	
7	石器・石製品	打製石斧	<4.4>	<5.1>	<1.3>	<34.3>	片側以外欠損					完全実測	Ⅲ区	
8	石器・石製品	敲石	4.8	3.8	2.2	35.1	端部に敲打痕					完全実測	Ⅱ区	

M 5号溝址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	弥生土器	高坏	—	—	—	—	ヘラミガキ				櫛描斜走文	破片実測、拓本	覆土	
2	弥生土器	甕	(13.6)	—	<6.6>	—	ヘラミガキ				ヘラ描斜走文	回転実測	覆土	
3	弥生土器	甕	(14.0)	—	<10.1>	—	ヘラミガキ				櫛描波状文	回転実測	覆土	
4	弥生土器	甕	(21.0)	—	<5.2>	—	ヘラミガキ				櫛描波状文	回転実測	覆土	
5	弥生土器	甕	—	5.5	<4.2>	—	ヘラミガキ				ヘラミガキ	完全実測	覆土	
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ				ヘラ描波状文、櫛描斜走文・縲状文、口唇部刻	破片実測、拓本	覆土	
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ				櫛描波状文	破片実測、拓本	覆土	
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	ヘラミガキ				櫛描波状文	破片実測、拓本	覆土	
9	弥生土器	人形土器	—	4.3	<4.8>	—	輪轉痕、ナデ				ヘラミガキ→赤彩	完全実測、底部	覆土	
10	弥生土器	壺	(37.0)	—	<39.8>	—	ヘラミガキ→赤彩				ヘラミガキ→赤彩	完全実測	覆土	
11	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハケメ				櫛描直線文	破片実測、拓本	覆土	
12	石器・石製品	磨石	<4.3>	<7.0>	<3.3>	<115.0>	上・下・裏面欠損、磨面3				完全実測	完全実測	覆土	
13	石器・石製品	磨石	<15.4>	<5.9>	<4.3>	<450.0>	端部・側面欠損、磨面2				完全実測	完全実測	覆土	
14	石器・石製品	磨・敲石	9.9	7.9	4.8	508.0	敲打痕有、磨面2				完全実測	完全実測	覆土	
15	鉄器	短頸鎌	<6.0>	<1.7>	<0.4>	<5.6>	斧節、両端欠損				完全実測	完全実測	覆土	

M 6号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	弥生土器	鉢	(17.2)	—	< 4.0 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測		覆土	
2	弥生土器	鉢	17.3	4.2	5.6	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
3	弥生土器	鉢	(18.0)	—	< 5.0 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測		覆土	
4	弥生土器	鉢	—	5	< 12.0 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
5	弥生土器	高坏	—	(16.8)	< 12.3 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
6	弥生土器	高坏	—	—	< 4.2 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	破片実測		覆土	
7	弥生土器	高坏	—	—	< 5.4 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
8	弥生土器	甕	(11.2)	—	< 4.5 >	—	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測		覆土	
9	弥生土器	甕	16.8	—	< 7.0 >	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	完全実測		覆土	
10	弥生土器	甕	(18.2)	—	< 3.0 >	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
13	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
14	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
15	弥生土器	壺	(14.0)	—	< 12.0 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測		覆土	
16	弥生土器	甕	—	(7.0)	< 7.5 >	—	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	回転実測		覆土	
17	弥生土器	甕	—	11.4	< 2.8 >	—	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	完全実測		覆土	
18	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
19	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
20	弥生土器	甕	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
21	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
22	石器・石製品	磨製石斧	< 9.3 >	< 4.4 >	< 2.3 >	< 111.4 >	刃部欠損、成形痕残る	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
23	石器・石製品	編物石	< 10.1 >	< 6.2 >	< 4.5 >	< 364.0 >	下部欠損(使用痕有)	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
24	石器・石製品	磨・敲石	13.5	8	3.3	564.0	抉り有	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
25	石器・石製品	敲石	10.3	8.4	5.8	642	正裏・端部に敲打痕	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	

M 7号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	弥生土器	高坏	—	—	< 7.0 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	
2	弥生土器	甕	(22.3)	—	< 8.5 >	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測		覆土	
3	弥生土器	鉢	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本		覆土	
4	弥生土器	甕	(19.0)	—	< 3.8 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測		覆土	
5	弥生土器	壺	(19.6)	—	< 5.1 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測		覆土	
6	弥生土器	壺	(9.2)	—	< 4.4 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測		覆土	
7	弥生土器	人形土器	< 5.9 >	< 1.6 >	< 1.4 >	—	ナブ	ナブ	ナブ	ナブ	完全実測、腕		覆土	
8	石器・石製品	磨石	< 5.5 >	< 5.9 >	< 3.9 >	< 151.1 >	下部欠損、磨面1	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		覆土	

M 9号溝址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	法			量		成			形・調		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面				
1	土師器	壺	(5.9)	2.8	5.3	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	完全実測		VF6	
2	弥生土器	鉢	12.1	3.8	4.8	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		VH6	
3	弥生土器	鉢	12.2	3.8	4.4	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		VG6・VE6	
4	弥生土器	鉢	(12.8)	3.3	4.9	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測		VC6	
5	弥生土器	鉢	(15.0)	(3.2)	7.3	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測		VJ4	
6	弥生土器	鉢	(21.2)	—	< 10.1 >	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測		VD7	

M 9号溝址出土遺物観察表(2)

No.	器種	器形	量			法		重量等		内	成	形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	口径(長)	底径(短)	口径(長)			底径(短)	口径(長)			
7	弥生土器	高坏	9.6	7.0	8.2	—	—	—	ハラミガキ→赤彩、脚内面に赤印	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測	—	—	VC6	
8	弥生土器	高坏	12.5	6.5	11.2	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測	—	—	VC6	
9	弥生土器	高坏	14.0	—	< 5.2 >	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測	—	—	VC6	
10	弥生土器	高坏	(14.2)	—	< 8.2 >	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測	—	—	VC6	
11	弥生土器	高坏	16.0	11.1	11.8	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測	—	—	VC6・VG6	
12	弥生土器	高坏	16.6	11.0	12.6	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測	—	—	VC6・VG6	
13	弥生土器	高坏	19.5	—	< 6.4 >	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	完全実測	—	—	VH6	
14	弥生土器	甕	11.8	4.8	11.2	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	完全実測	—	—	VH6	
15	弥生土器	甕	—	(8.0)	< 7.3 >	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測	—	—	覆土	
16	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本	—	—	覆土	
17	弥生土器	甕	(12.8)	—	< 3.7 >	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本	—	—	VF6	
18	弥生土器	壺	—	—	6.6	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	完全実測	—	—	VF6	
19	弥生土器	壺	—	7.0	< 5.3 >	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	—	—	VF6	
20	弥生土器	壺	—	—	4.4	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	—	—	VF6	
21	弥生土器	壺	—	—	< 9.3 >	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測	—	—	VE6・VF6	
22	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	破片実測、拓本	—	—	覆土	
23	石器・石製品	砥石	8.5	4.3	2.6	< 143.4 >	< 143.1 >	—	砥面1、条痕有、両端部に敲打痕、磨面1	砥面1、条痕有、両端部に敲打痕、磨面1	砥面1、条痕有、両端部に敲打痕、磨面1	完全実測	—	—	VF6	
24	石器・石製品	編物石	11.3	3.7	2.6	< 143.1 >	< 143.1 >	—	側・裏面欠損、砥面1	側・裏面欠損、砥面1	側・裏面欠損、砥面1	完全実測	—	—	VF6	
25	石器・石製品	磨石	< 7.5 >	< 5.4 >	< 1.3 >	< 44.5 >	< 44.5 >	—	側・裏面欠損、砥面1	側・裏面欠損、砥面1	側・裏面欠損、砥面1	完全実測	—	—	VF6	
26	石器・石製品	磨石	< 15.7 >	< 8.6 >	< 1.2 >	< 157.3 >	< 157.3 >	—	磨面1、全周欠損	磨面1、全周欠損	磨面1、全周欠損	完全実測	—	—	覆土	
27	石器・石製品	磨・敲石	6.1	2.9	1.2	< 33.8 >	< 33.8 >	—	裏面に磨り	裏面に磨り	裏面に磨り	完全実測	—	—	VF6	
28	石器・石製品	磨・敲石	14.3	< 9.2 >	< 4.5 >	< 605.0 >	< 605.0 >	—	端部・正面に敲打痕、磨面2	端部・正面に敲打痕、磨面2	端部・正面に敲打痕、磨面2	完全実測	—	—	VF5	
29	石器・石製品	素材	2.0	1.9	0.3	< 2.4 >	< 2.4 >	—	右製煉造品の素材	右製煉造品の素材	右製煉造品の素材	完全実測	—	—	VF6	

M 10号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	量			法		重量等		内	成	形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	口径(長)	底径(短)	口径(長)			底径(短)	口径(長)			
1	須臾器	坏	—	—	< 2.0 >	(8.0)	< 2.0 >	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切→ナデ	回転実測	—	—	覆土	
2	土師器	壺	—	(6.0)	< 3.0 >	(6.0)	< 3.0 >	—	ハケ目	ハケ目	ハラミガキ、摩耗	回転実測	—	—	ケン	

M 11号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	量			法		重量等		内	成	形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	口径(長)	底径(短)	口径(長)			底径(短)	口径(長)			
1	弥生土器	土器片円盤	3.5	3.1	0.7	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	櫛歯状文	破片実測、拓本	弥生甕の二次利用	—	—	覆土

ピット出土遺物観察表

No.	器種	器形	量			法		重量等		内	成	形・調		備	考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	口径(長)	底径(短)	口径(長)			底径(短)	口径(長)			
1	土製品	羽口	< 7.3 >	< 5.5 >	< 2.7 >	—	—	—	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ、先端部ノロ付着	完全実測	—	—	P52	
1	土師器	鉢	(15.6)	—	< 4.8 >	—	—	—	ハラケズリ	ハラケズリ	ハラケズリ	回転実測	—	—	P66	
2	石器・石製品	砥石	20.3	9.5	4.3	1080	1080	—	砥面敷4	砥面敷4	砥面敷4	完全実測	—	—	P66	
1	土師器	坏	(14.4)	—	< 4.3 >	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測	—	—	P84	
2	弥生土器	甕	—	(11.6)	—	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	破片実測、拓本	—	—	P84	
1	土師器	高坏	—	—	< 3.4 >	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	回転実測、透かし有	—	—	P98	
2	土師器	高坏(?)	(19.8)	—	< 2.0 >	—	—	—	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	回転実測	—	—	P98	
3	土師器	甕	(14.2)	—	16.6	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	完全実測	—	—	P98	
4	弥生土器	壺	(21.8)	—	< 5.8 >	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	回転実測	—	—	P98	

土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成			形・調		備考	出土遺構
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面	面				
1	土師器	鍋	—	—	—	—	ナデ	破片実測						D2	
1	青磁	碗	—	—	—	—	ロクロナデ	破片実測						D10	
1	土師器	土器片円盤	3.9	—	4.1	0.9	坏底部の再利用	—						D11	
1	土師器	内耳鍋	—	—	< 4.0 >	—	ナデ	—						D16	
2	弥生土器	台付甕	—	—	3.7	< 3.2 >	ハラミガキ	—						D16	
3	鉄製品	釘	< 4.7 >	—	0.7	< 3.2 >	先端欠損	—						D16	
1	土師器	環	(14.0)	—	—	< 4.2 >	ハラミガキ、黒色処理	—						D18	
2	弥生土器	甕	—	—	—	< 12.0 >	ハケ目	—						D18	
3	弥生土器	壺	(14.4)	—	—	< 4.0 >	ハラミガキ→赤彩	—						D18	
4	弥生土器	壺	—	—	—	—	ハラミガキ→赤彩	—						D18	
4	弥生土器	土器片円盤	—	—	—	—	ハケ目	—						D18	
5	弥生土器	土器片円盤	4.9	—	7.1	0.8	剥落	—						D18	

遺構外出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成			形・調		備考	出土遺構
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面	面				
1	土師器	環	(14.0)	(13.6)	—	< 6.6 >	ハラミガキ→黒色処理	—							VC9
2	土師器	高坏	13.1	—	—	< 8.8 >	ハラミガキ→黒色処理、脚部ナデ	—							表採
3	土師器	鉢	18.2	—	—	4.3	ハラミガキ→黒色処理	—							表採
1	弥生土器	甕	(15.6)	—	—	< 4.4 >	ハラミガキ	—							VC9
1	石器・石製品	加工痕有剥片	< 1.90 >	< 3.60 >	—	< 0.60 >	上部欠損、下辺加工痕、チャート	—							表採
1	鉄器	刀子	< 5.3 >	< 0.9 >	—	< 0.25 >	莖部残存、両端欠損	—							VI4
2	鉄製品	釘	< 2.2 >	< 0.9 >	—	< 0.6 >	両端欠損	—							VJ2
3	鉄製品	釘	< 2.8 >	< 0.9 >	—	< 0.7 >	両端欠損	—							VJ5
4	鉄製品	釘	< 4.1 >	—	—	0.8	先端欠損	—							IVB85
5	鉄製品	釘	< 5.3 >	—	—	0.6	先端欠損	—							IVB86
6	銅製品	古銭	2.5	—	—	0.1	孔 0.5 × 0.5、永楽通宝	—							表彩

F 2号掘立柱建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量			成			形・調		備考	出土遺構
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内	面	外	面	面				
1	土師器	環	(13.8)	—	—	< 3.2 >	ハラミガキ	—							P4
2	土師器	環	—	—	—	< 2.0 >	ハラミガキ	—							P2



H 1 号住居址遺物出土状況（東から）



H 1 号住居址完掘（南から）



H 2 号住居址完掘（南から）



H 2 号住居址礎石除去状態（西から）



H 3 号住居址完掘（西から）



H 3 号住居址カマド完掘（南から）



H 3 号住居址掘方完掘（北から）



H 4 号住居址遺物出土状況（西から）



H 4 号住居址完掘（西から）



H 5 号住居址完掘（南から）



H 5 号住居址張出部（東から）



H 6 号住居址完掘（東から）



H 6 号住居址カマド完掘（南から）



H 7 号住居址完掘（南東から）



H 7 号住居址遺物出土状況（東から）



H 7号住居址カマド完掘 (南から)



H 8号住居址完掘 (南から)



H 9号住居址完掘 (南から)



H 9号住居址カマド完掘 (南から)



H 10号住居址遺物出土状況 (南から)



H 10号住居址完掘 (南から)



H 11号住居址完掘 (南から)



H 11号住居址カマド完掘 (北から)



H 12号住居址完掘（南から）



H 12号住居址カマド完掘（西から）



H 13号住居址完掘（東から）



H 13号住居址カマド完掘（南から）



H 14号住居址完掘（東から）



H 15号住居址完掘（北東から）



H 16号住居址完掘（南から）



H 16号住居址遺物出土状況（東から）



H 16号住居址カマド完掘（南から）



H 17号住居址完掘（西から）



H 18号住居址完掘（南から）



H 18号住居址カマド完掘（南から）



H 19号住居址完掘（南から）



H 19号住居址カマド完掘（南から）



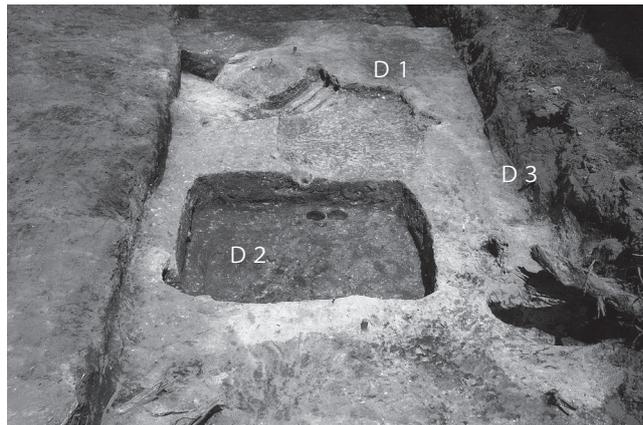
F 2号掘立柱建物址完掘（東から）



F 1号掘立柱建物址完掘（西から）



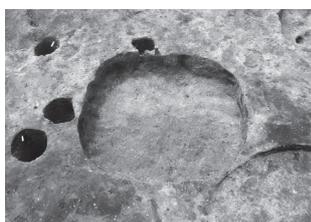
F 3号掘立柱建物址完掘（南から）



D 1・2・3号土坑完掘（南から）



D 4号土坑完掘



D 5号土坑完掘



D 6号土坑完掘



D 7号土坑完掘



D 8号土坑完掘



D 9号土坑完掘



D 10号土坑完掘



D 11号土坑完掘



D 12号土坑完掘



D 13号土坑完掘



D 14号土坑完掘



D 15号土坑完掘



D 16号土坑完掘



D 17号土坑完掘



D 18号土坑石組



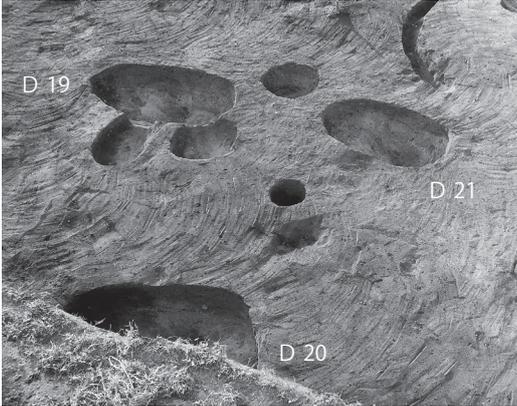
D 18号土坑完掘



D 19号土坑完掘



D 20号土坑完掘



D 21号土坑周辺



D 22号土坑完掘



D 23号土坑完掘

O T 1 は終末期の古墳である。下写真の↓から向かって右側は下水工事で破壊されている。



O T 1 古墳土層堆積状況（西から）



OT 1 古墳石室完掘（南から）



OT 1 古墳石室西の石組（北西から）



OT 1 古墳人骨出土状況 (南東から)



OT 1 古墳掘方 (北西から)



OT 2 円形周溝墓（南から）



OT 3 円形周溝墓（北から）



O T 4 円形周溝墓 (北から)



M 1 号溝址 (弥生後期環濠 西から)



M 1 号溝址 (弥生後期環濠 東から)



M 2 号溝址 (東から)



M 3号溝址 (弥生後期環濠 M 9に接続する 南から)



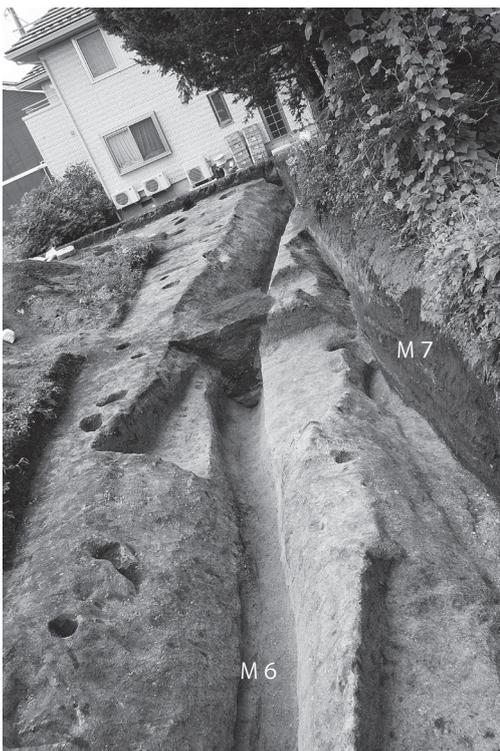
M 4号溝址 (南から)



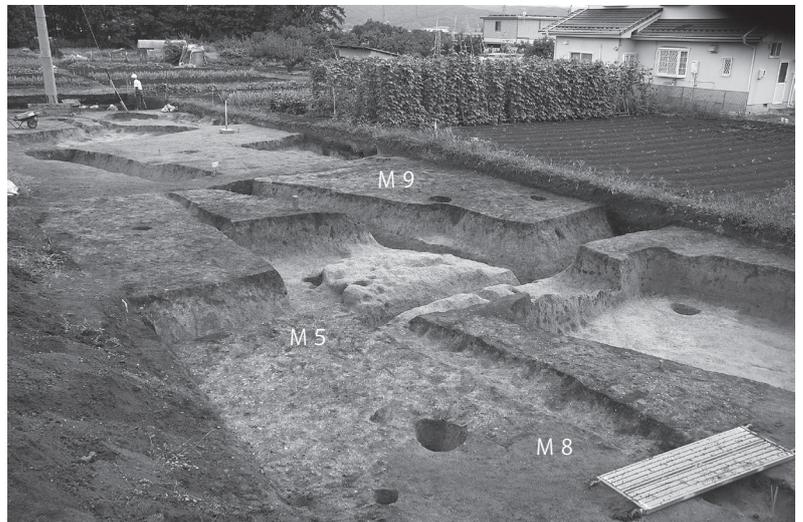
M 5号溝址 (弥生後期環濠 西から)



M 6・7号溝址東半 (弥生後期環濠 西から)



M 6・7号溝址西半 (西から)



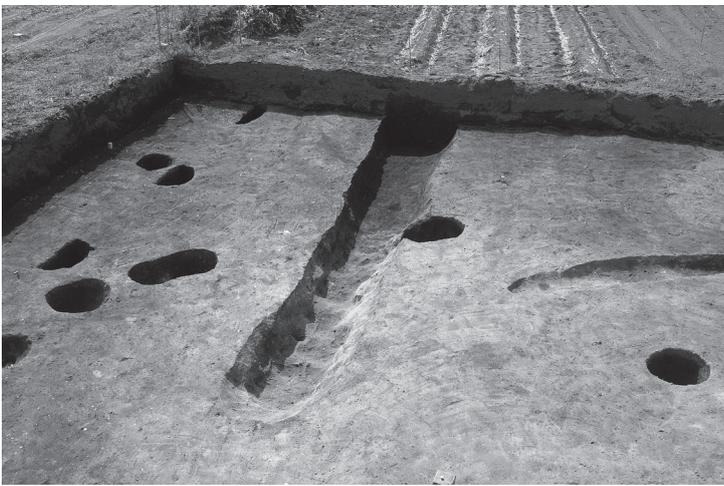
M 5・8・9号溝址 (東から)



M 1・9号溝址（弥生後期環濠 西から）



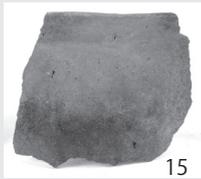
M 11号溝址（東から）



M 10号溝址（東から）



H 1号住居址出土遺物（1）



15



23



16



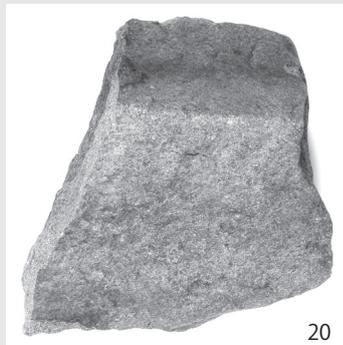
17



18



19



20



21



22

H 1 号住居址出土遺物 (2)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14

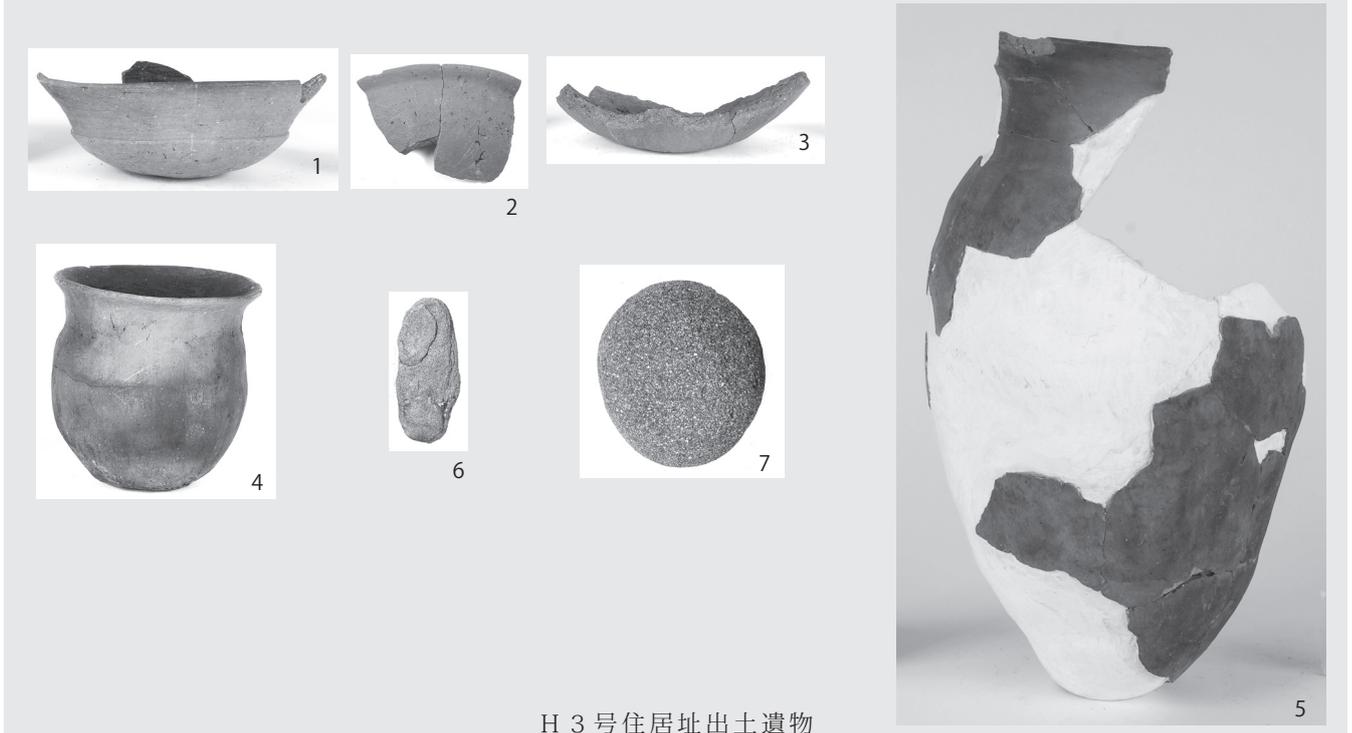


15

H 2 号住居址出土遺物 (1)



H 2 号住居址出土遺物 (2)



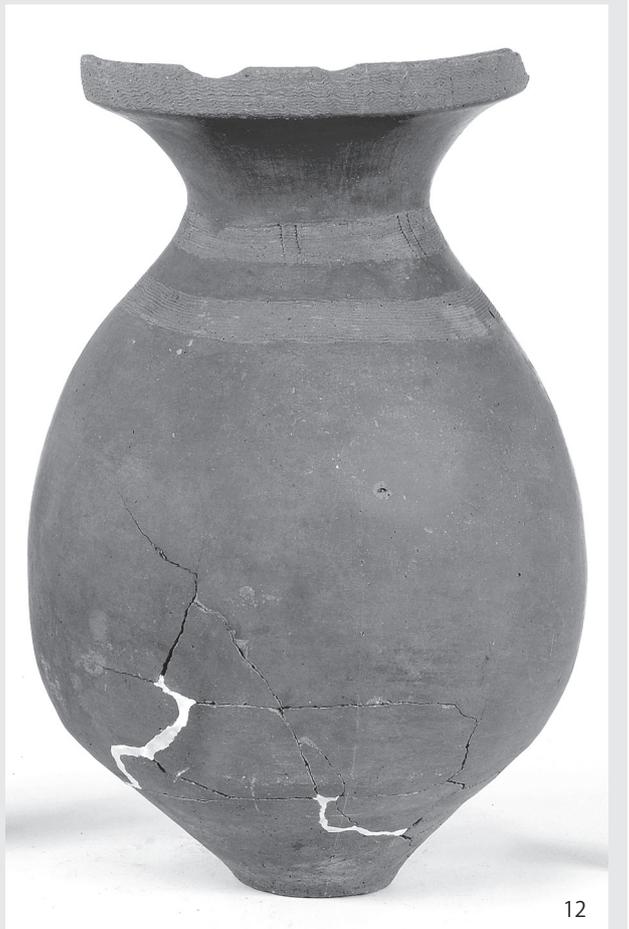
H 3 号住居址出土遺物



H 4 号住居址出土遺物 (1)



10



12



13



17



18

H 4 号住居址出土遺物 (2)



1



2

H 5 号住居址出土遺物 (1)



H 5 号住居址出土遺物 (2)



H 6 号住居址出土遺物



H 7 号住居址出土遺物 (1)



16



17

H 7 号住居址出土遺物 (2)



1



2



3



4



5



(1/2)



(1/2)



(1/2)



(1/2)



12



18
(1/2)



10



11



15



17



14



19



16



13



20



21

H 8 号住居址出土遺物 (1)



22



23
(原寸)



24
(原寸)



25
(原寸)



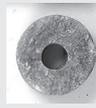
26
(原寸)



27
(原寸)



28
(原寸)



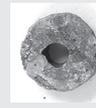
29
(原寸)



30
(原寸)



31
(原寸)



32
(原寸)



33
(原寸)

H 8号住居址出土遺物 (2)



1



2



3



5



4



10



7



6

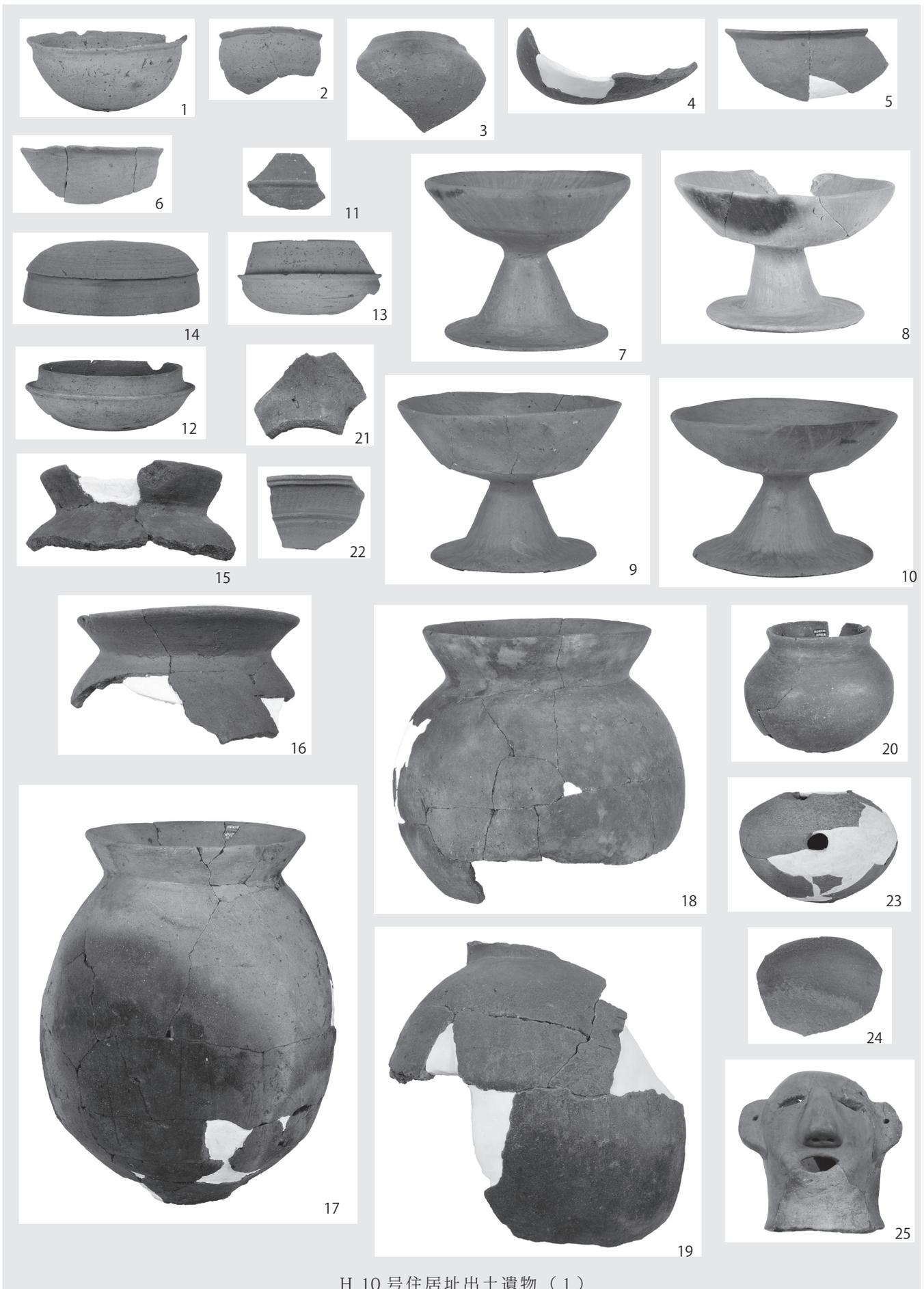


8

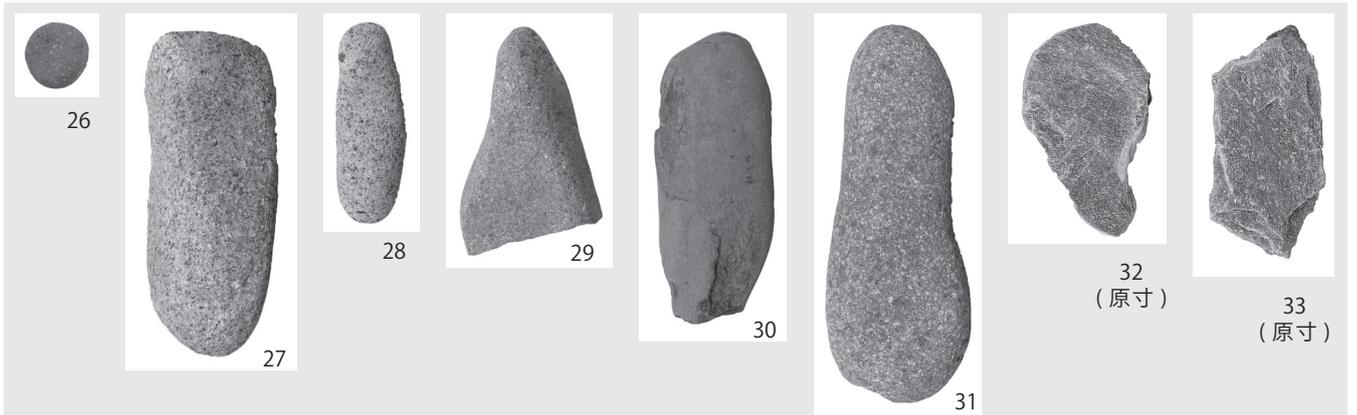


9

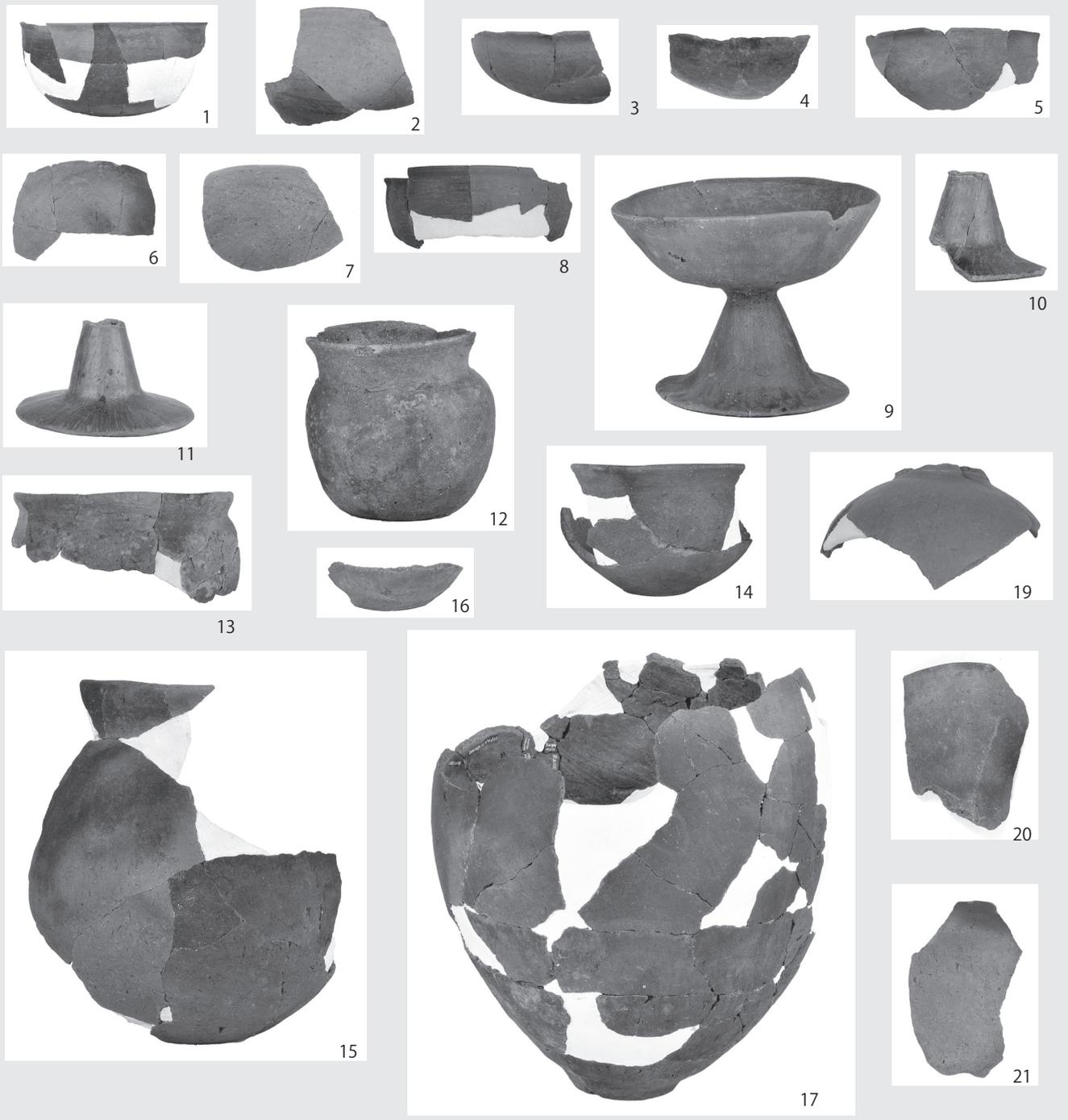
H 9号住居址出土遺物



H 10 号住居址出土遺物 (1)



H 10 号住居址出土遺物 (2)



H 11 号住居址出土遺物 (1)



22

18



23

24

25

26

27

28

29



30

31

32

33

34

35

36



37

38

39

46

47

48

49



40

41

42

43

44

45



50

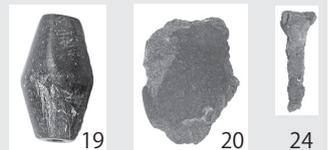
51

52

53

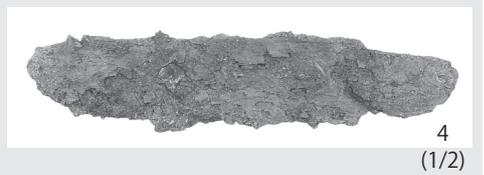
(40 ~ 53 は原寸)

H 11 号住居址出土遺物 (2)

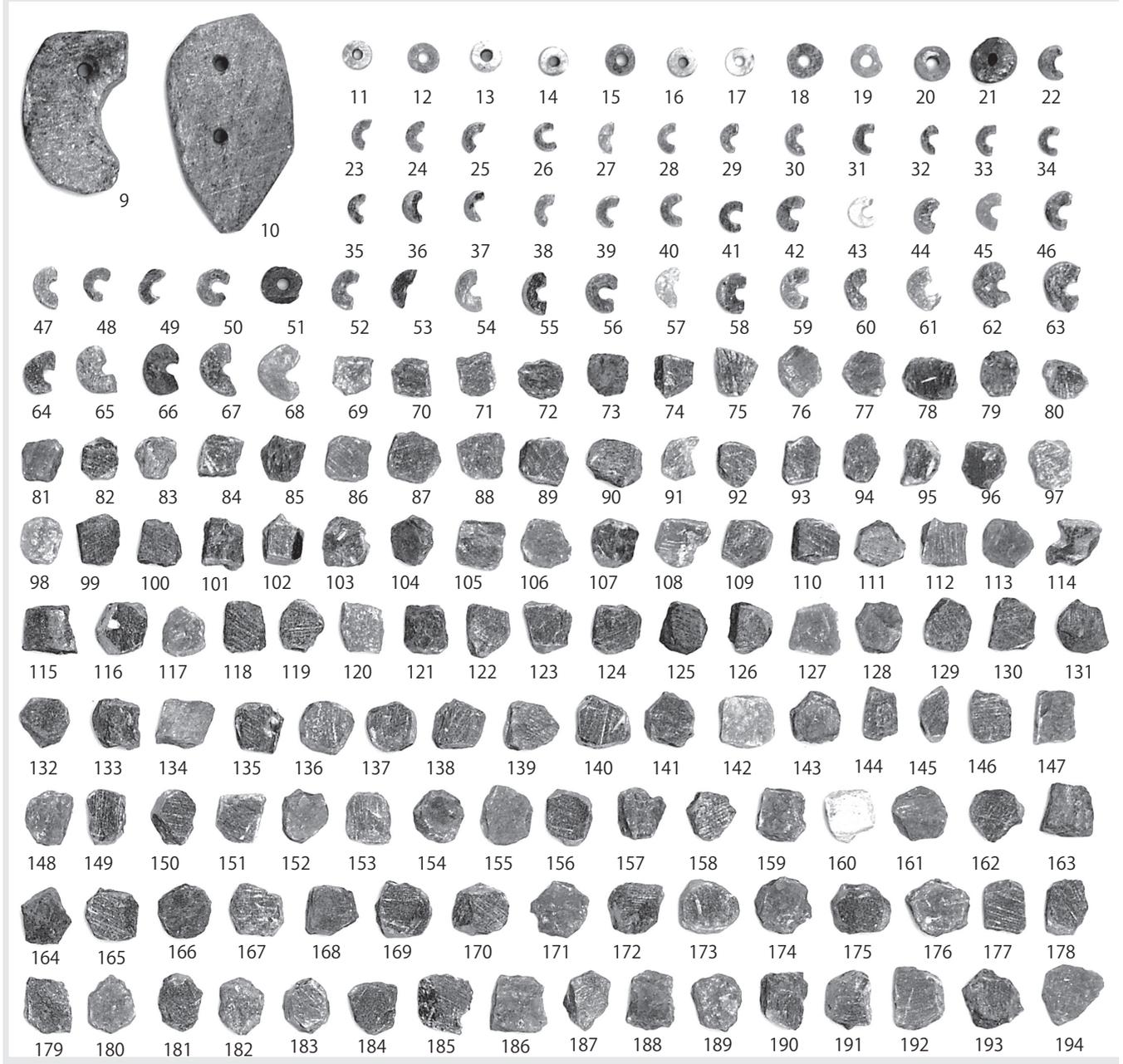
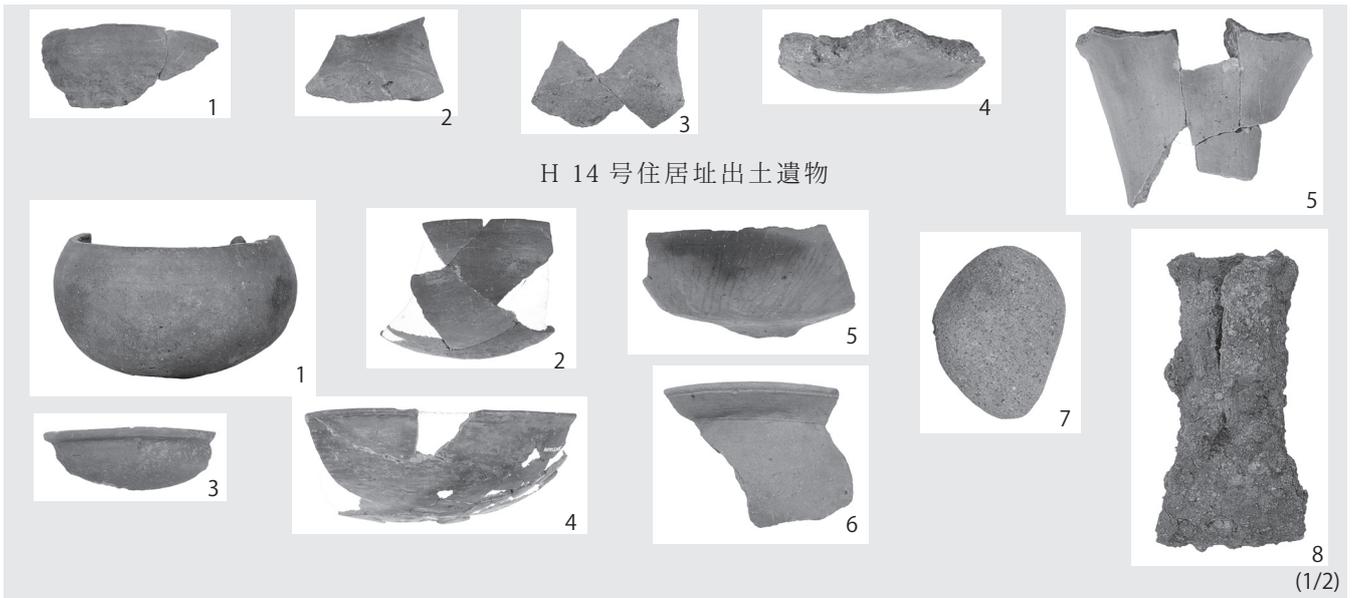


(14 ~ 19 は原寸、24 は 1/2)

H 12 号住居址出土遺物



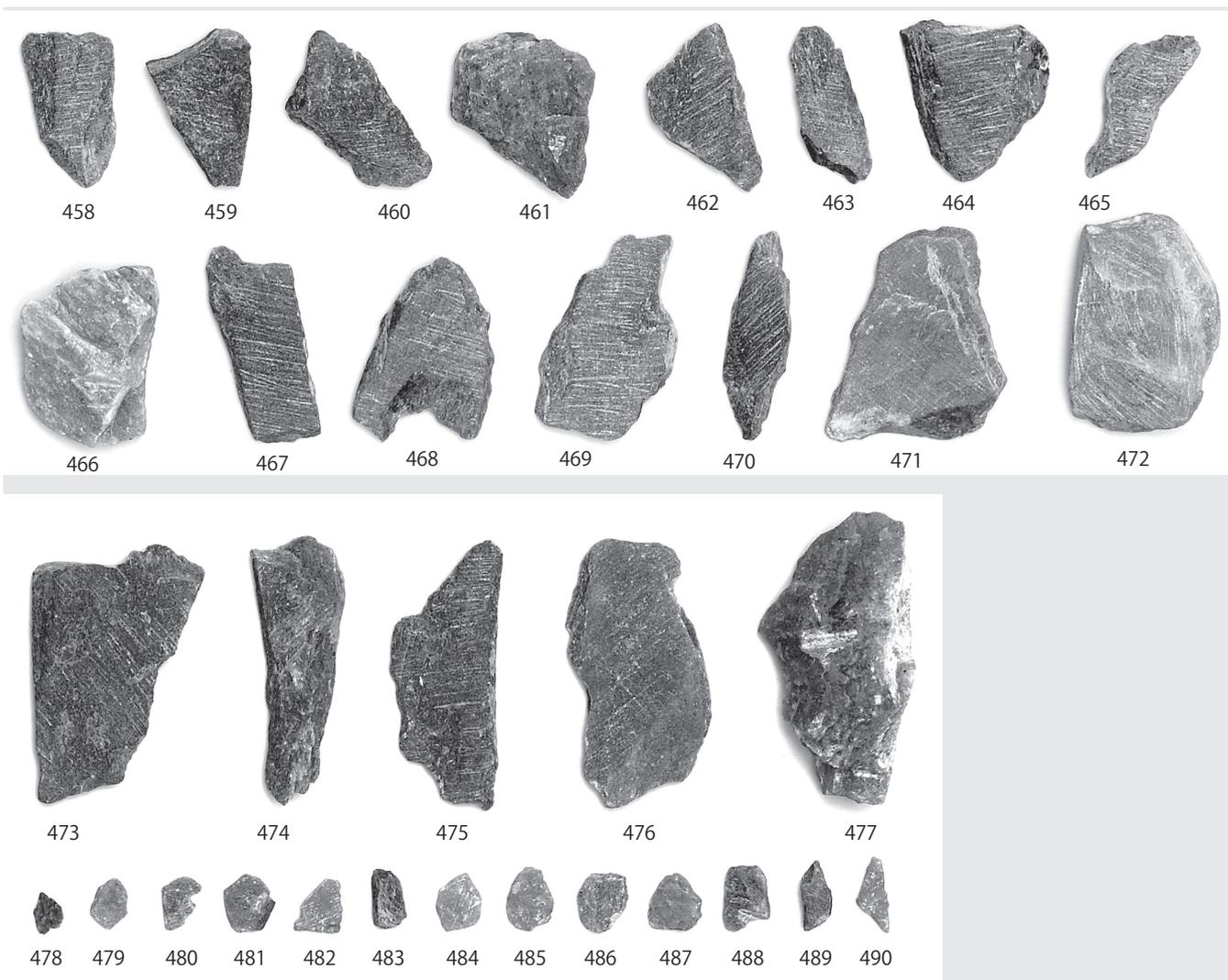
H 13 号住居址出土遺物



H 15 号住居址出土遺物 (1) (1 ~ 8 以外は原寸)



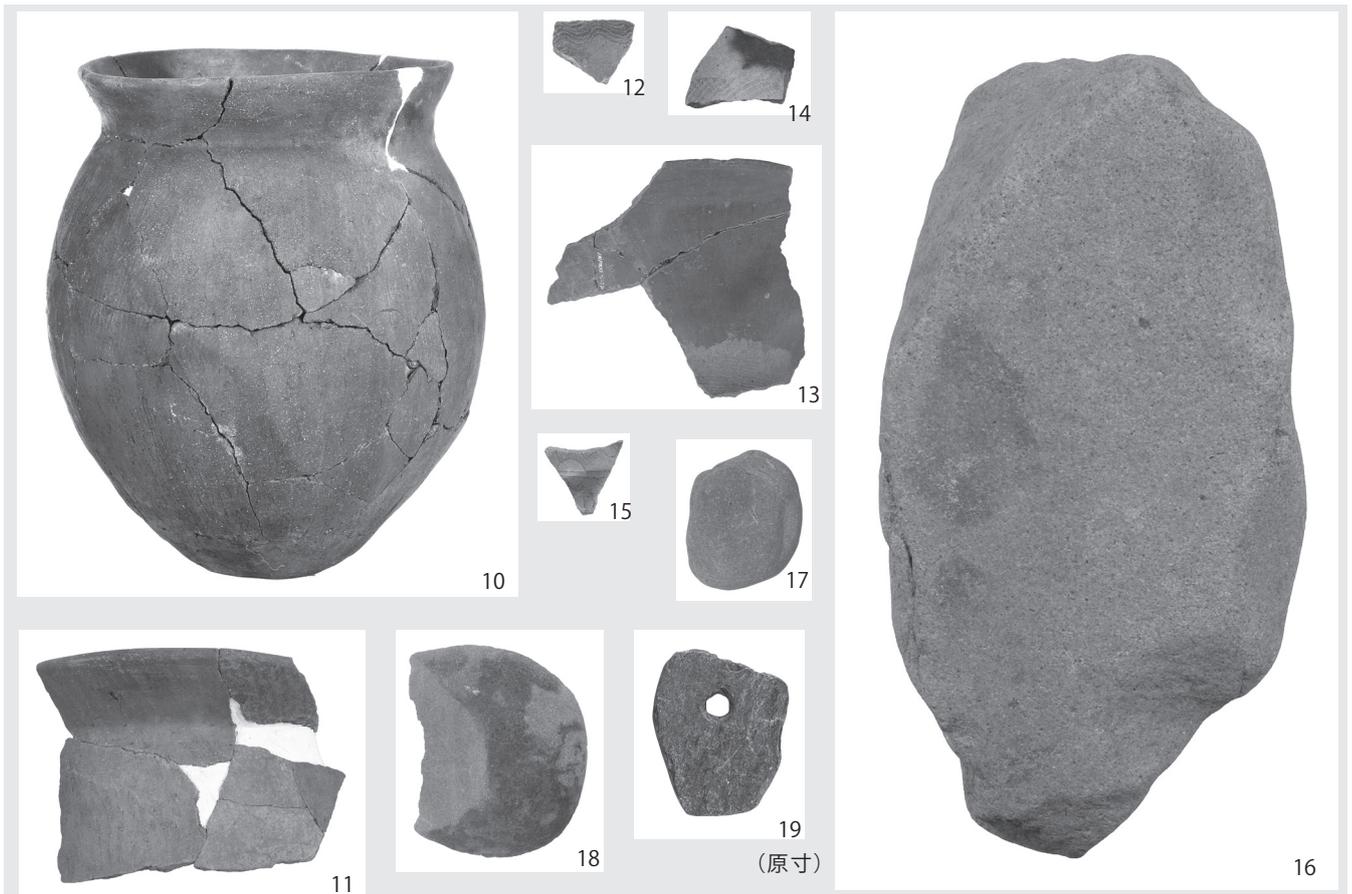
H 15 号住居址出土遺物 (2) (原寸)



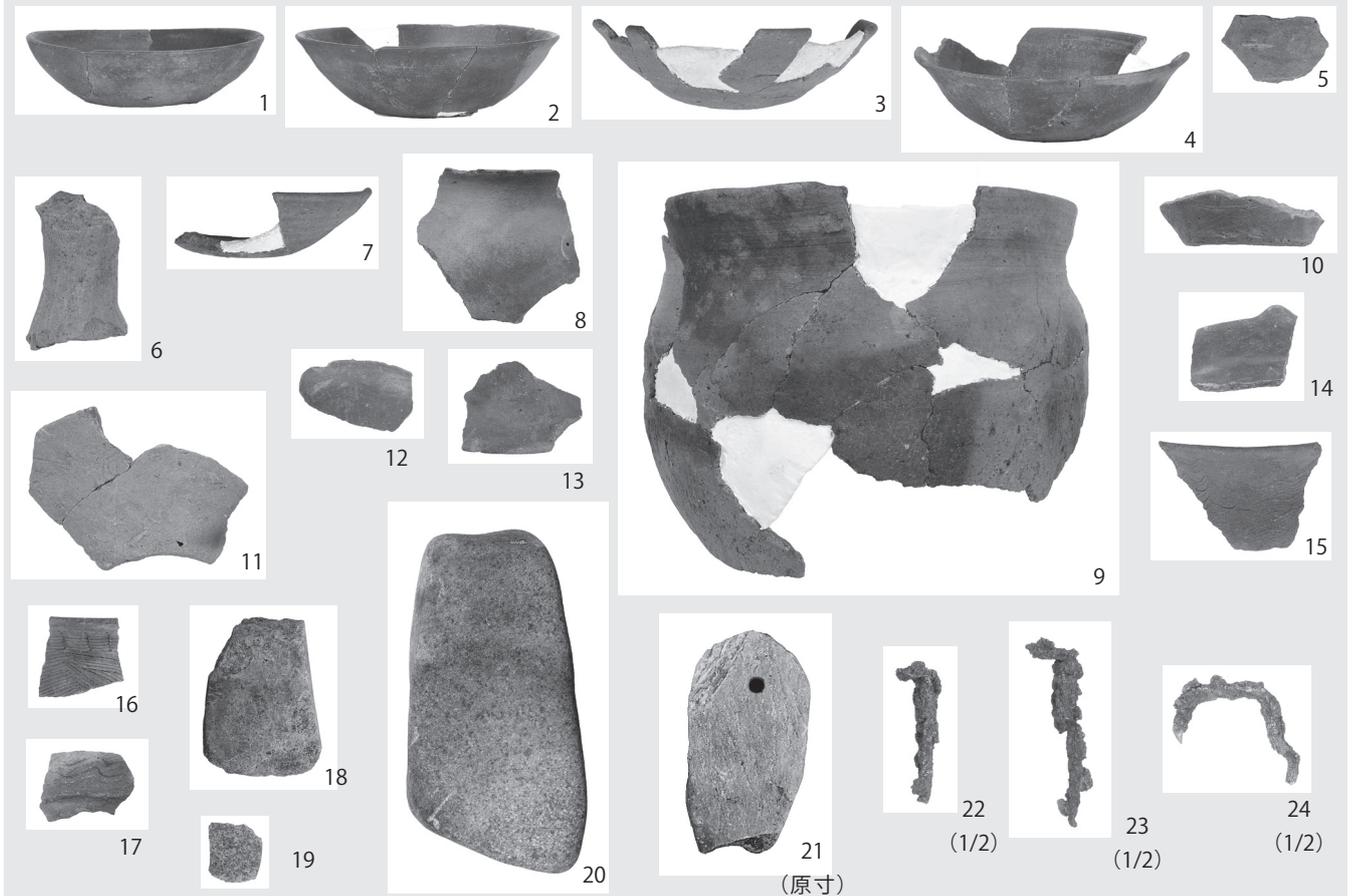
H 15 号住居址出土遺物 (3) (原寸)



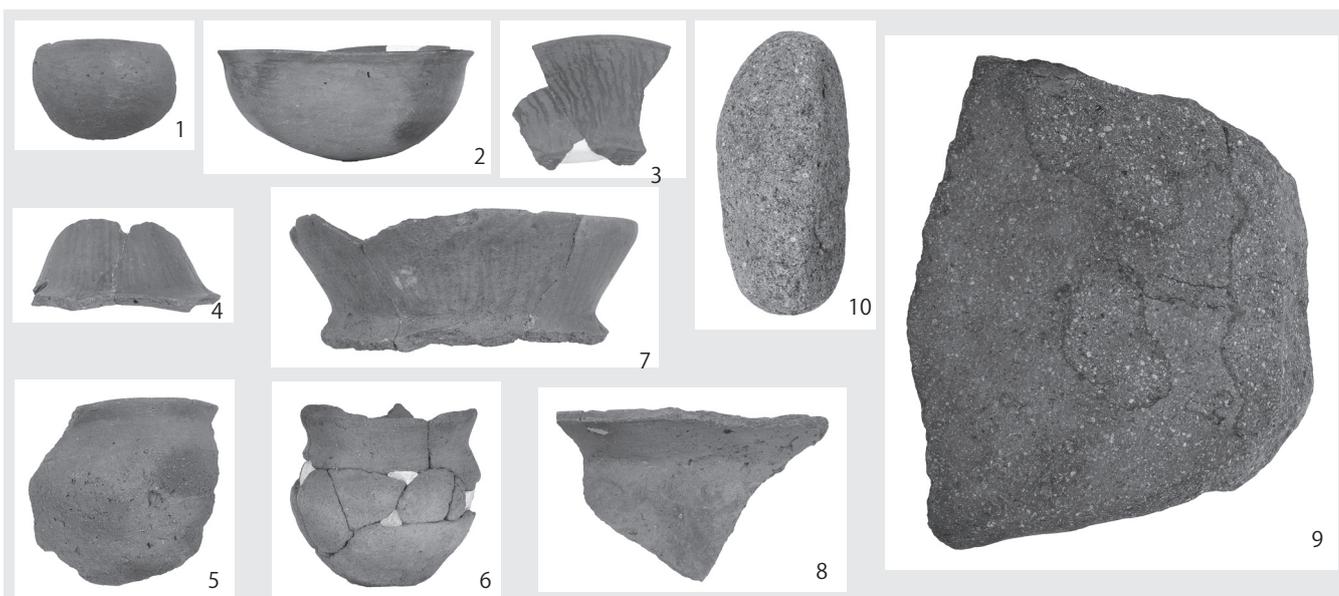
H 16 号住居址出土遺物 (1)



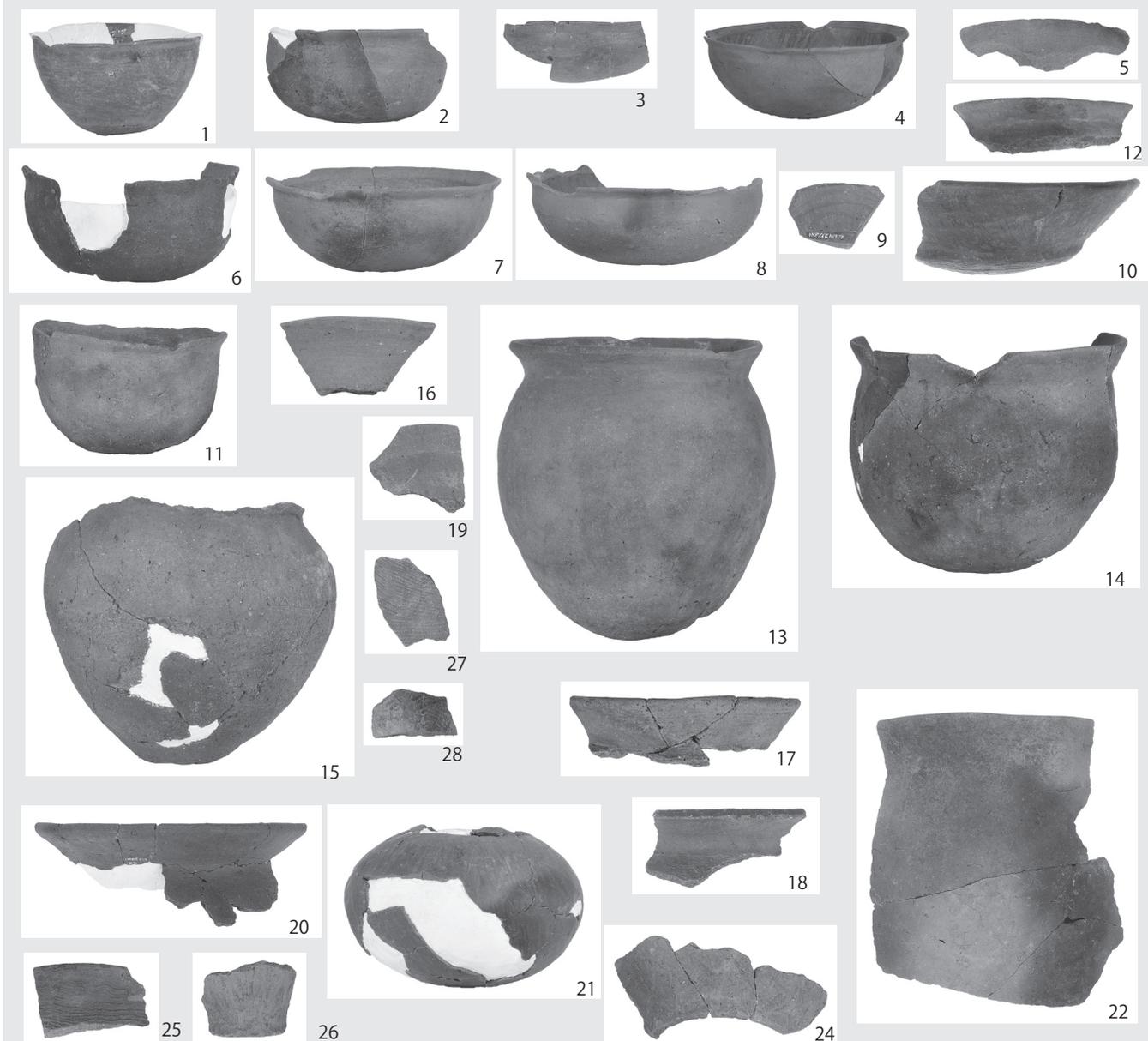
H 16 号住居址出土遺物 (2)



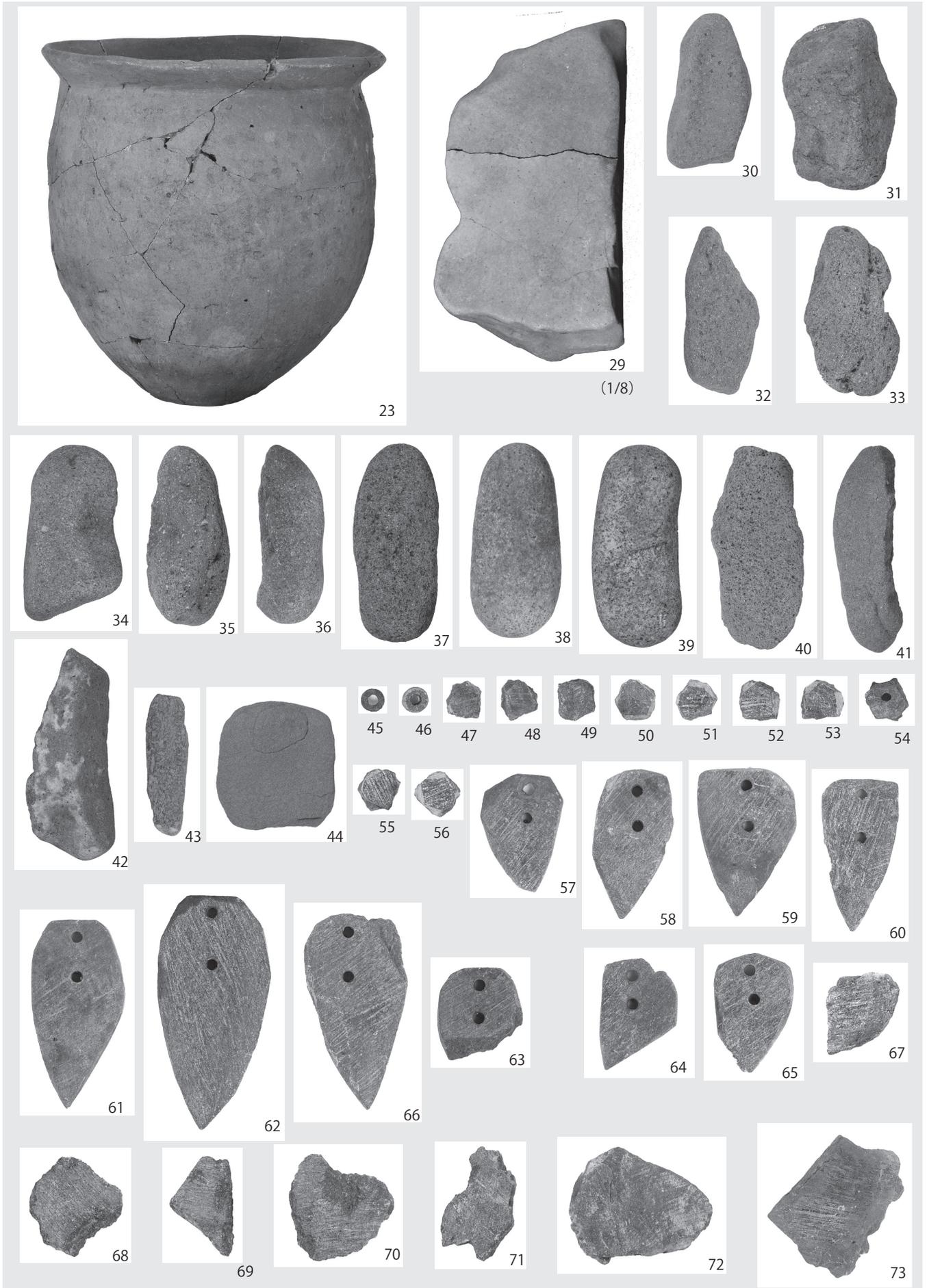
H 17 号住居址出土遺物



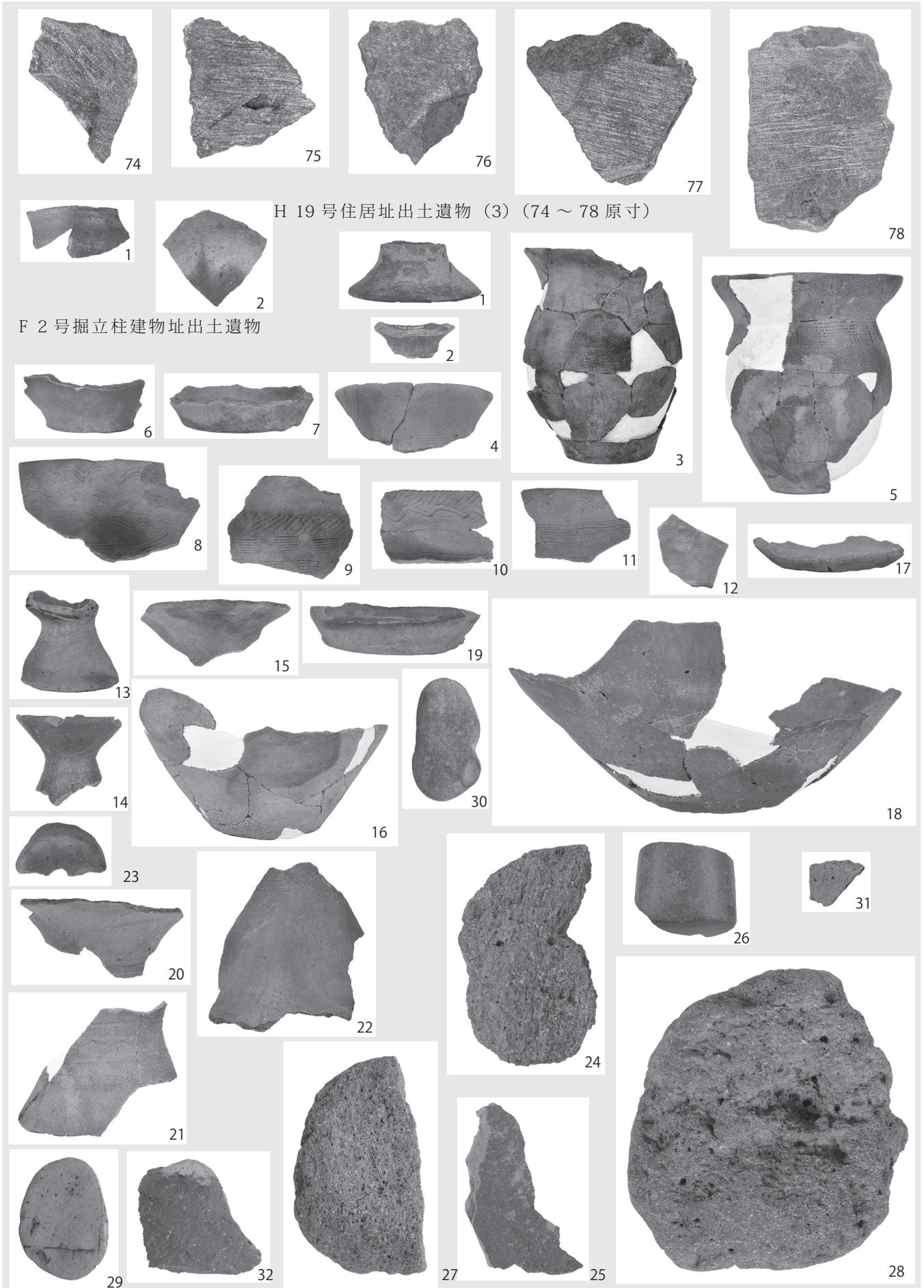
H 18 号住居址出土遺物



H 19 号住居址出土遺物 (1)



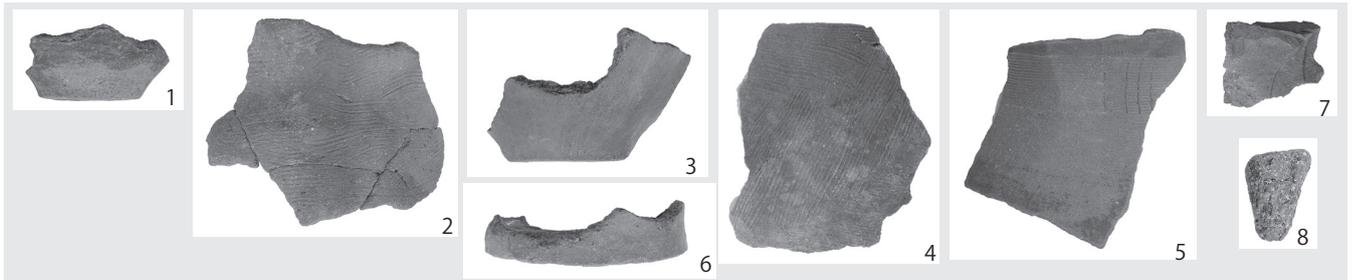
H 19 号住居址出土遺物 (2) (45 ~ 73 原寸)



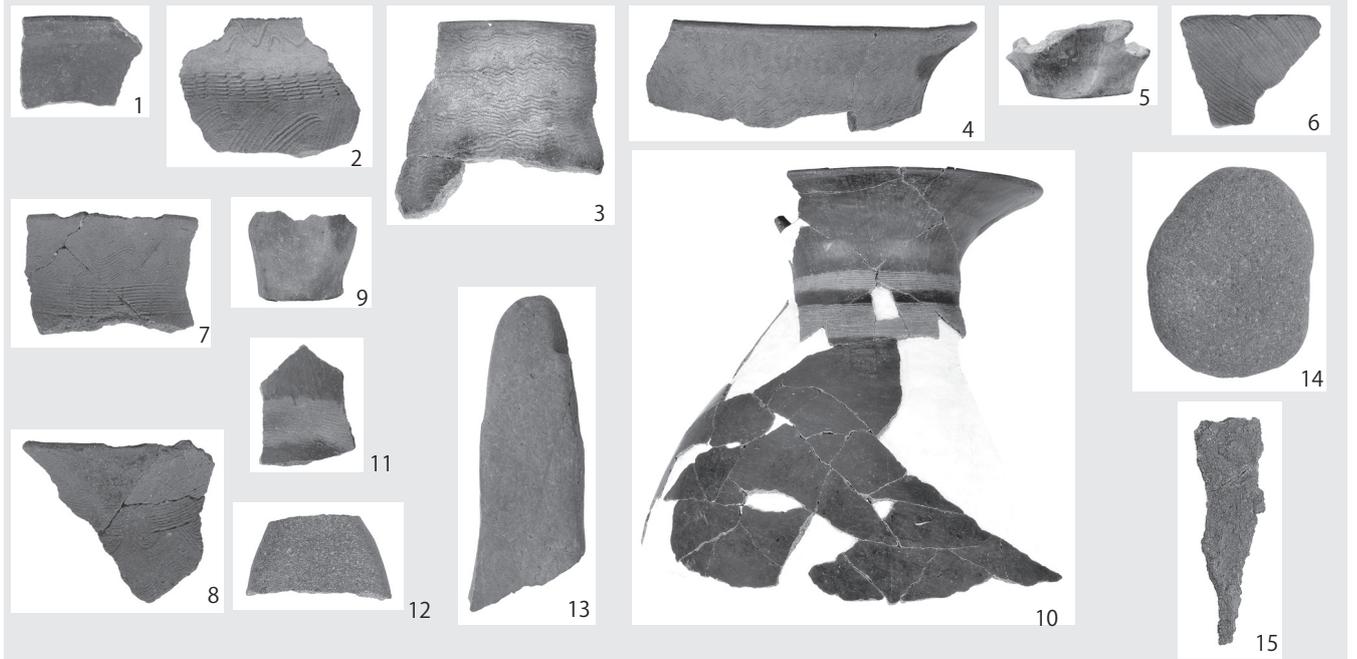
H 19 号住居址出土遺物 (3) (74 ~ 78 原寸)

F 2 号掘立柱建物址出土遺物

M 1 号溝址出土遺物

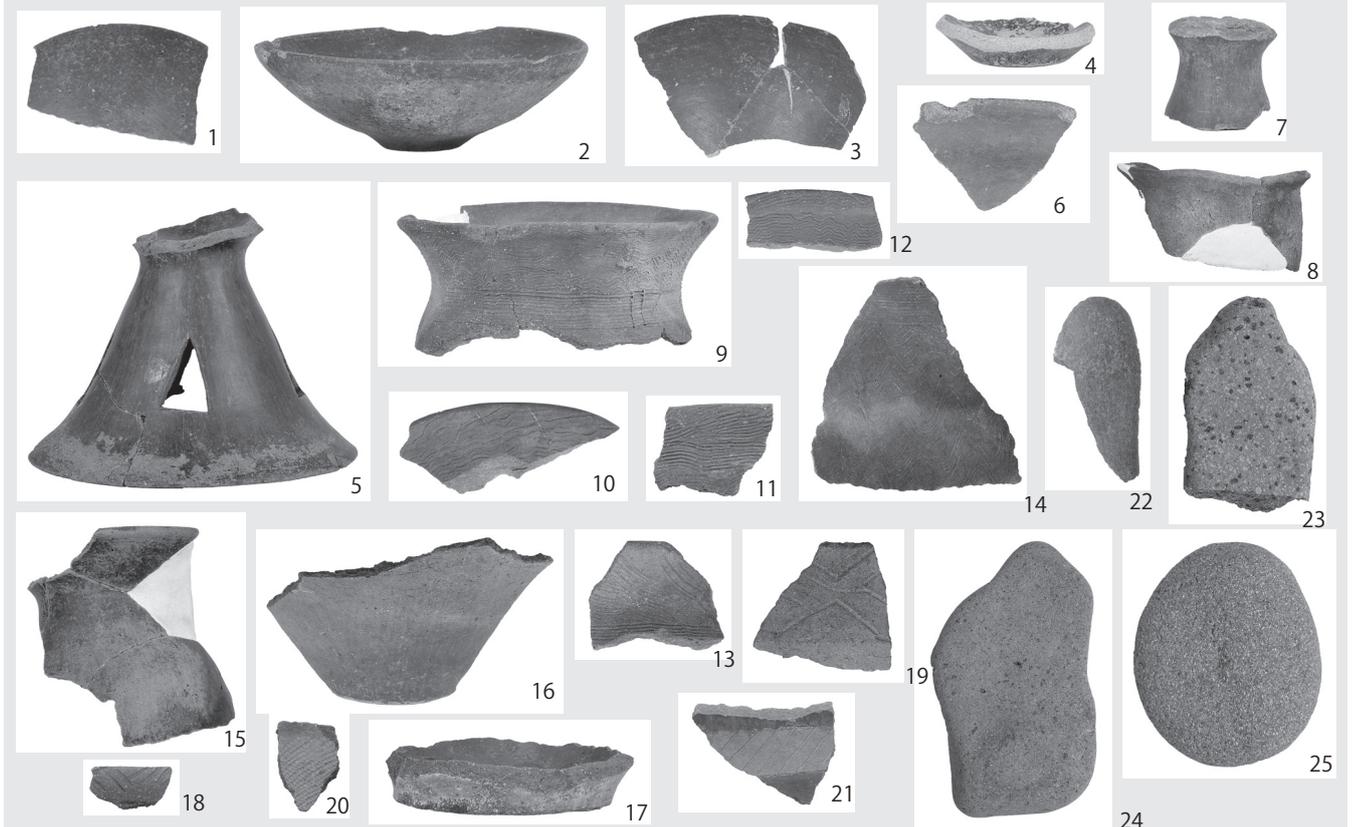


M 3号溝址出土遺物

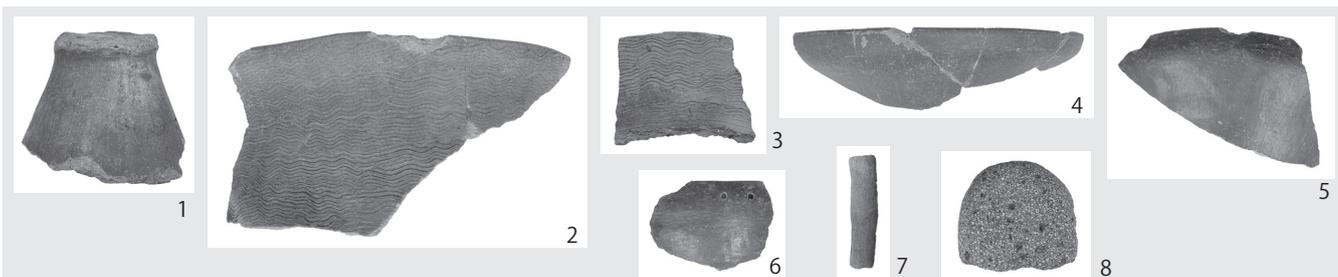


M 5号溝址出土遺物

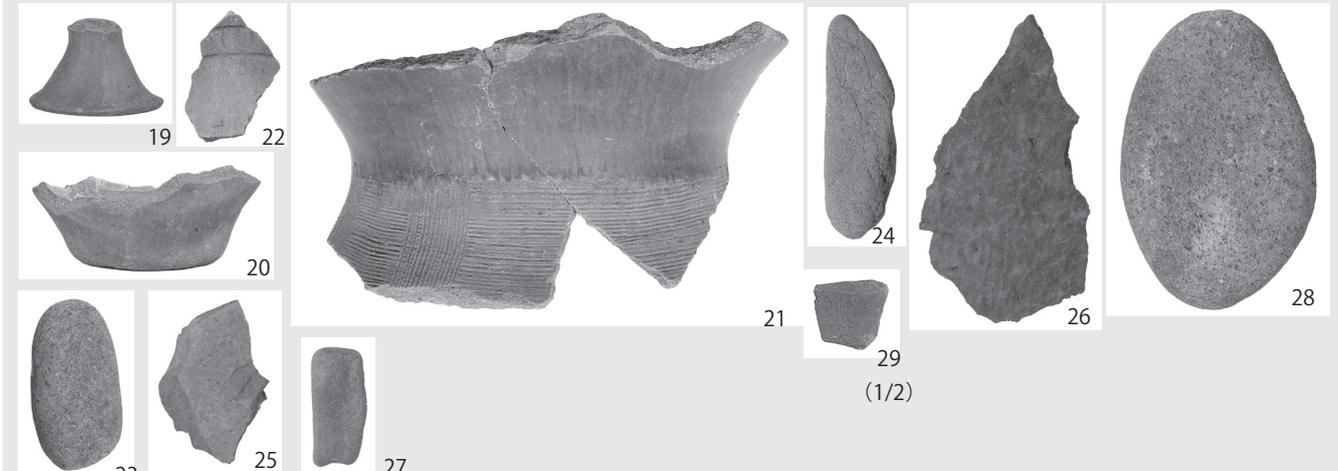
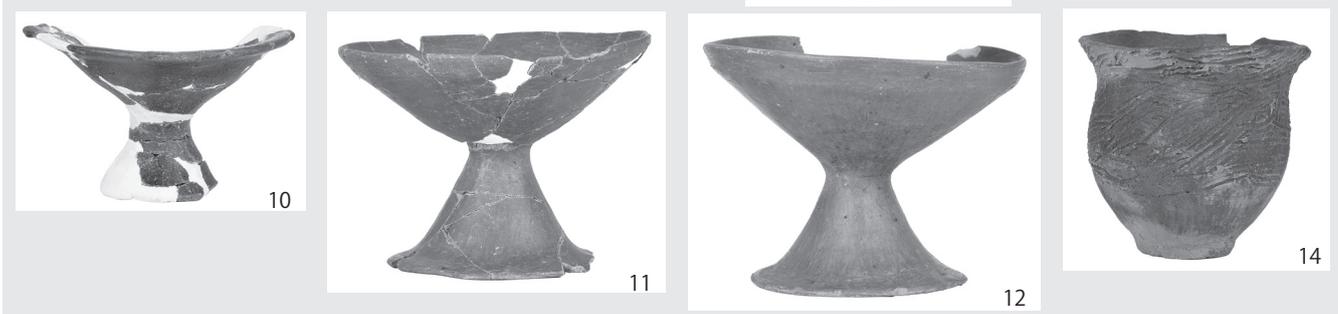
(1/2)



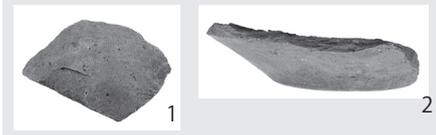
M 6号溝址出土遺物



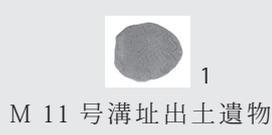
M 7 号沟址出土遺物



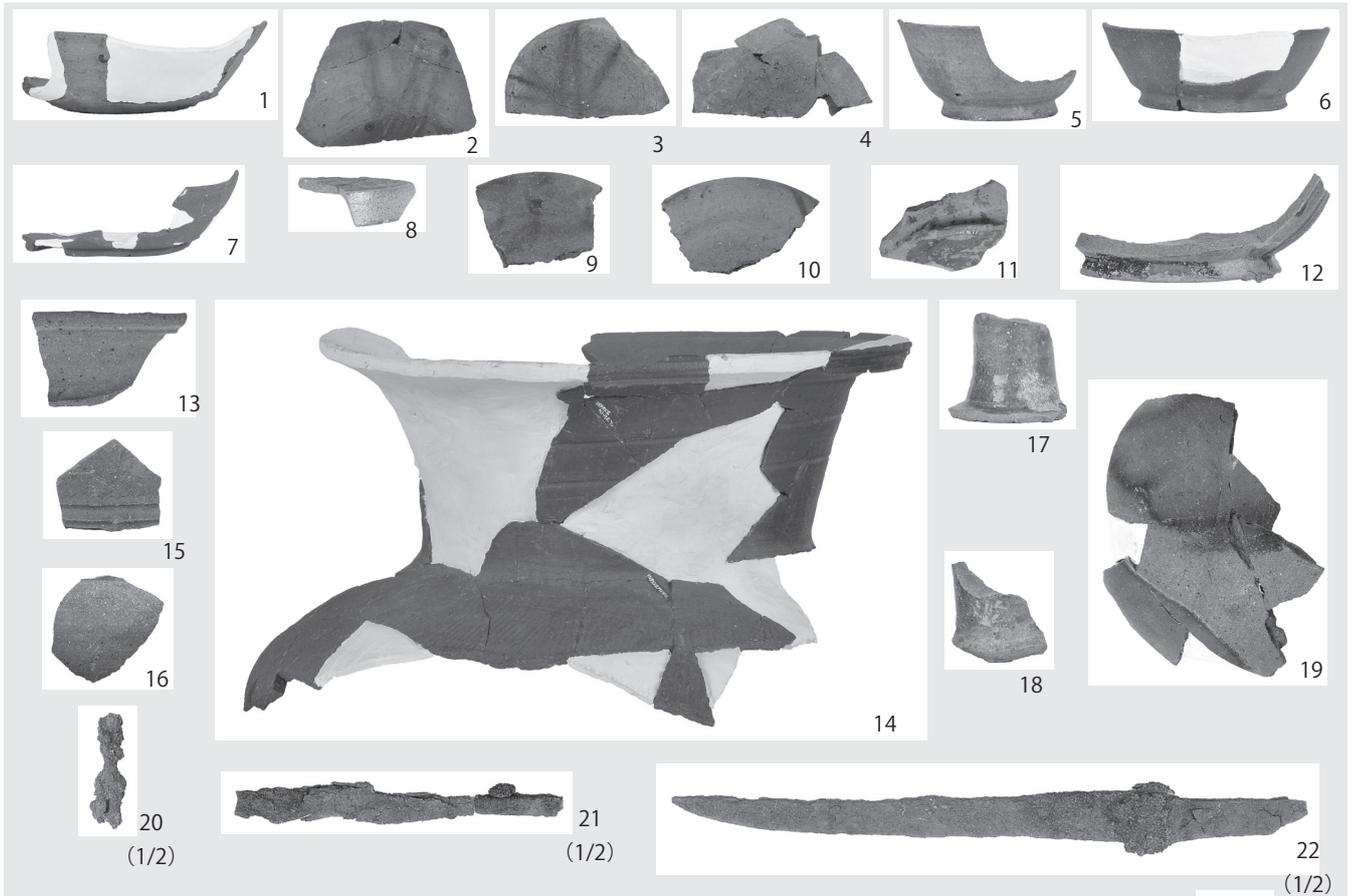
M 9 号沟址出土遺物



M 10 号沟址出土遺物



M 11 号沟址出土遺物

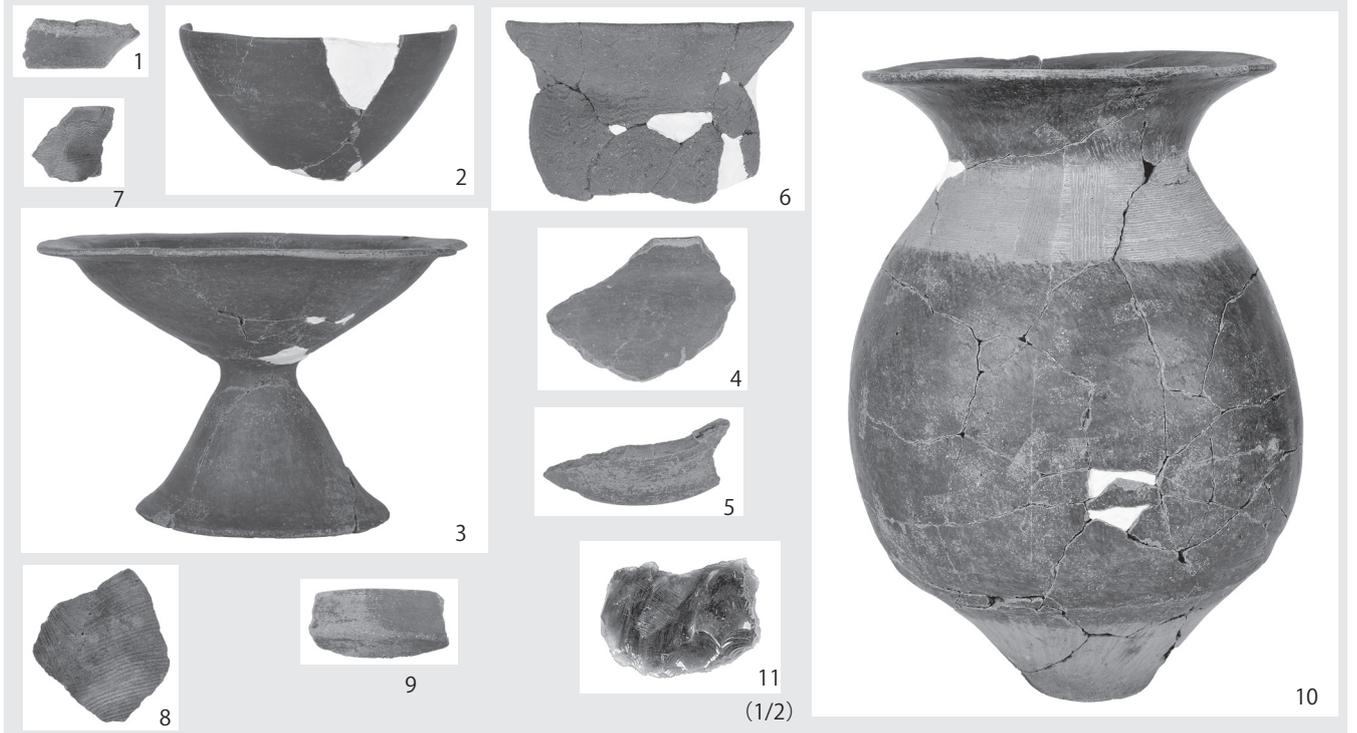


OT 1号古墳出土遺物

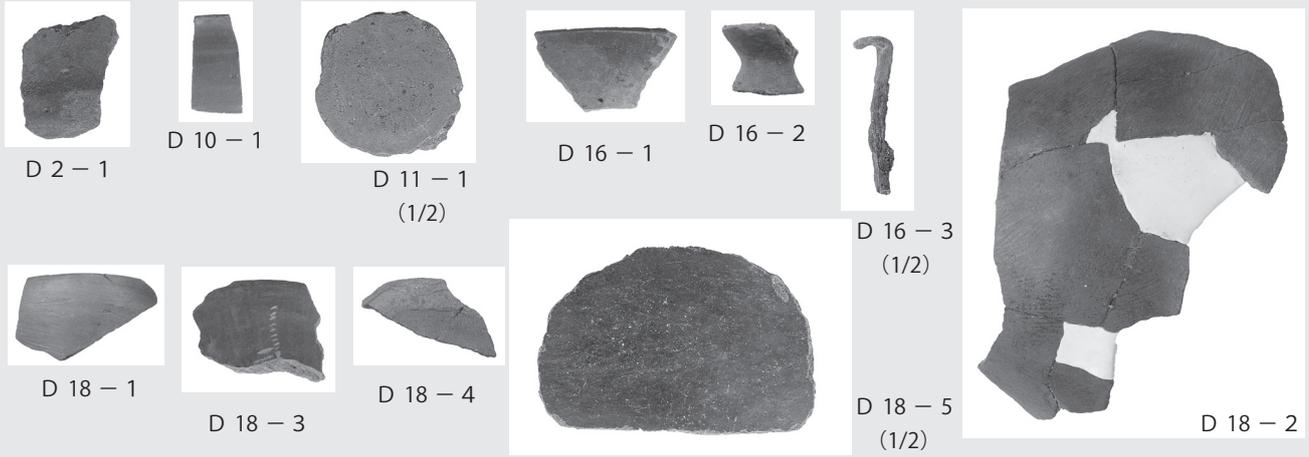


OT 2号周溝墓出土遺物

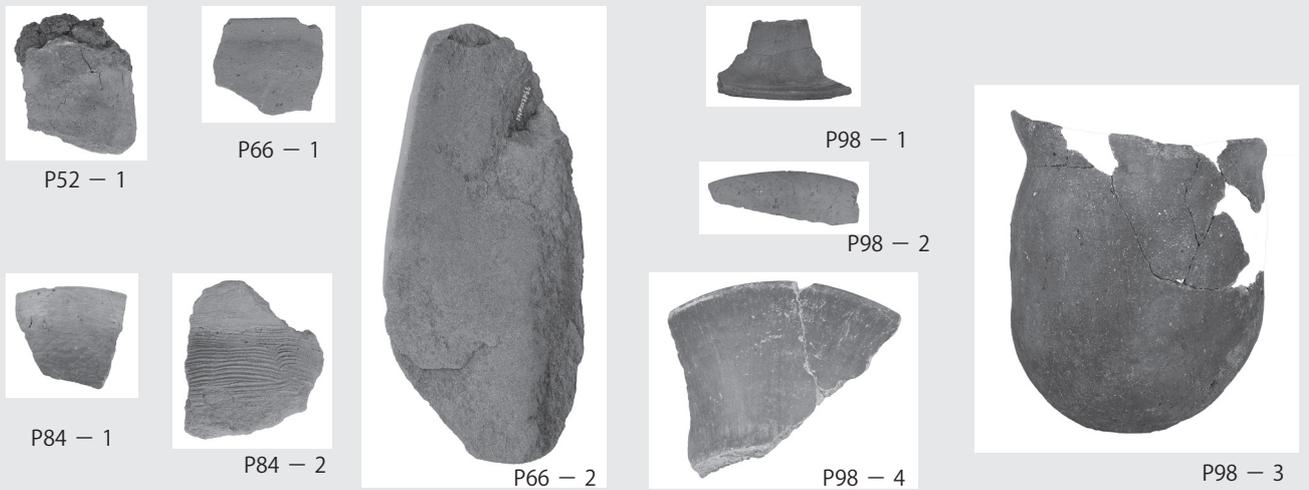
(原寸)



OT 3号周溝墓出土遺物



土坑出土遺物



ピット出土遺物



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いわむらだいせきぐん にしいっぽんやなぎいせき 22
書名	岩村田遺跡群 西一本柳遺跡XXII
副書名	—
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
巻次	第260集
編集者名	小林真寿
編集機関	佐久市教育委員会
所在地	〒385-0051 長野県佐久市中込 2913 TEL 0267-63-5321
発行年月日	2019年3月31日

ふりがな	ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
にしいっぽんやなぎいせき 22	ながのけんさくしいむらだあざなかいっぽんやなぎ 2275-1 ばんちほか	20217	52-13	36° 15'56"	138° 28'16"	2017年7月6日 ～ 2019年3月31日	1,525㎡	都市公園 整備事業
西一本柳遺跡XXII	長野県佐久市岩村田字中一本柳 2275-1 番地外							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西一本柳遺跡XXII	集落	弥生～中世	竪住居址 19 軒古墳 1 基・円形周溝墓 4 基 掘立柱建物址 3 棟・溝址 11 条・土坑 23 基・ピット 99 基	弥生土器・土師器・須恵器・石器石製品・磁器・鉄器・炭化物・人骨	—
要約	弥生時代後期の環濠と周溝墓群、古墳時代の石製模造品製作址を含む集落、新発見の終末期古墳の調査				

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第260集

岩村田遺跡群

西一本柳遺跡XXII

平成31年(2019)3月
 編集・発行 佐久市教育委員会
 〒385-8501 長野県佐久市中込 3056
 社会教育部 文化振興課文化財事務所
 〒385-0051 長野県佐久市中込 2913
 TEL 0267-63-5321
 印刷所 双葉印刷